

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集

# 棚返遺跡・今里遺跡

第二東名No.153地点・No.153-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-3

2008

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集

# 棚返遺跡・今里遺跡

第二東名No.153地点・No.153-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-3

2008

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

# 序

第二東名高速道路は、東名高速道路の混雑緩和を目的として建設された自動車専用道路である。本書は、第二東名高道路建設に伴い事前調査が実施された棚返遺跡（沼津工区No153地点）及び今里遺跡（No153-2地点）の報告書である。

棚返遺跡・今里遺跡が所在する裾野市は、富士山南東麓、箱根山西麓、愛鷹山東麓といった三方を山々に囲まれた風光明媚な土地である。市街を南北に流れる黄瀬川は、その本支流に五竜の滝、景ヶ島渓谷などの景勝地を形成している。第二東名高道路は、黄瀬川西側の愛鷹山麓をほぼ南北に延びており、急峻な谷やその周辺の尾根を分断している。第二東名高道路建設に伴う事前調査によって、この地域が縄文時代を中心に、狩り場あるいはキャンプサイト的な生活の場所として利用されていたことが明らかにされつつある。棚返遺跡では、縄文時代早～後期にわたる大型の土坑が検出されたほか、縄文時代中期の堅穴住居跡も発見された。土坑の機能は、動物を捕らえるための陷阱との説が有力であるが、貯蔵穴・墓壙などその他のいくつかの機能が推測されている。また、今里遺跡では縄文時代の集石土坑が検出されている。

堅穴住居や集石・焼土等の遺構と土坑との関係を有機的に関連づけることは困難であるが、火山活動が盛んであった頃、富士山に極めて近い台地上で、縄文時代の人々が生活の痕跡を残しているという事実が明らかにされた意義は大きい。

さて近年、様々な開発行為に伴い埋蔵文化財の発掘調査が急増し、数多くの遺跡が消滅してきた。この中で、記録保存という形で蓄積されていく膨大な資料が、埋蔵文化財の理解と保護のために十分に活用されていくことを切に願いたい。

最後になったが、調査ならびに本書の作成にあたっては、中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）・静岡県教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関各位に多大なる援助・協力をうけた。厚くお礼を申し上げる。またこの場をお借りして、現地調査・資料整理に参加した調査員・作業員の労をねぎらいたい。

平成20年9月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 清水 哲

# 例　　言

1. 本書は、静岡県裾野市今里字棚返699他に所在する棚返遺跡（第二東名No153地点）及び静岡県裾野市今里字スガネ沢891-2他に所在する今里遺跡（第二東名No153-2地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は平成14年度に実施した確認調査の結果を受け、平成14～16年度第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公団静岡建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成14年10月から平成16年7月まで現地調査を実施した。
3. 棚返遺跡・今里遺跡の確認調査・本調査および資料整理の期間は以下のとおりである。  
棚返遺跡（No153地点）

確認調査1 平成14年4月～5月  
　掘削作業委託：(株)齊藤組　測量業務委託：静岡人類史研究所  
本調査Ⅰ期 平成14年10月～平成15年3月  
　掘削作業委託：(株)齊藤組　測量業務委託：国際航業（株）  
本調査Ⅱ期 平成15年4月～平成15年10月  
　掘削作業委託：丸勇建設（株）　測量業務委託：国際航業（株）  
本調査Ⅲ期 平成16年4月～7月  
　掘削作業委託：山之内建設（株）　測量業務委託：国際航業（株）  
確認調査2 平成16年4月～5月  
　掘削作業委託：山之内建設（株）　測量業務委託：国際航業（株）  
本調査IV期 平成16年5月～7月  
　掘削作業委託：山之内建設（株）　測量業務委託：国際航業（株）  
資料整理・報告書作成 平成18年12月～平成20年6月

今里遺跡（No153-2地点）  
確認調査 平成14年11月  
　掘削作業委託：(株)齊藤組　測量業務委託：国際航業（株）

本調査 平成15年4月～5月  
　掘削作業委託：(株)丸勇建設　測量業務委託：国際航業（株）  
資料整理・報告書作成 平成18年12月～平成20年6月

4. 調査担当者は以下の通りである。  
平成14年度 棚返遺跡（確認調査・本調査Ⅰ）今里遺跡（確認調査）  
　主任調査研究員：前嶋秀張  
　調査研究員：鈴木秀樹　後藤正人  
平成15年度 棚返遺跡（本調査Ⅱ）今里遺跡（本調査）  
　主任調査研究員：前嶋秀張  
　調査研究員：後藤正人

平成16年度 横佐遺跡（確認調査Ⅱ、本調査Ⅲ・Ⅳ）

主任調査研究員：前嶋秀張

調査研究員：稻葉涉 田中弘幸

平成18年度（資料整理）

調査課係長：中鉢賛治

調査研究員：成田修一

平成19年度（資料整理）

東部調査二係長：笹原千賀子

調査研究員：壬生亮輔

平成20年度（資料整理）

東部総括係長：中鉢賛治

東部調査係長：笹原千賀子

調査研究員：壬生亮輔

5. 黒藤石の原産地分析は、独立行政法人沿津工業高等専門学校教授 望月明彦氏に、放射性炭素年代測定・出土炭化物の樹種同定は株式会社加速學研究所に依頼した。その分析結果は附録に収録した。

6. 作業の迅速化を図るため、石器実測図については実測図作成用写真撮影を国際航業株式会社に委託した。

7. 本書の執筆分担は以下の通りである。

第1章 及川 司

第Ⅲ章 4節2. 遺物-土器 当研究所技術員 佐々木富士子

その他 壬生亮輔

8. 整理作業では、池谷信之氏、小崎晋氏に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。

9. 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管する。

# 凡　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1. 調査区の方眼設定は、国家座標（日本測地系・平面直角座標WGS系）を基準に、  
棚返遺跡：(X, Y) = (-87100.0, 35470.0) = (A, 1)  
今里遺跡：(X, Y) = (-87250.0, 35430.0) = (A, 1)と設定した。
2. 出土遺物は通し番号を付して取り上げ、石器S、土器P、礫R、炭化物Cの略号を付した。本文中の4桁の遺物番号は、現場での取り上げ番号を使用した。
3. 石器の実測は、原則として第三角投影図法に従った。  
実測図中の指示記号及び表現は、以下の通りである。



4. 出土遺物の縮尺は原則として土器は1/3、石器は小型石器を4/5または1/2、中型石器を1/3、大型石器を1/5とし、それぞれスケールを付した。
5. 掘岡の縮尺は各図に示す通りである。
6. 本文中もしくは観察表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
7. 本文中の遺構・遺物に関する表記は以下の通りである。  
RG 磬　群 SB 住居跡 SF 土　坑 SY 集石遺構  
FP 焼土跡 FC 石器集中部 SX 炭　燒　窯　跡
8. 石器の石材分類は（有）考古石材研究所の柴田徹氏と山本薰氏による石材標準資料を用い、当研究会技術員　森鶴窓主夫が実施した。
9. 黒駄石の産地判別群は独立行政法人沼津工業高等専門学校　望月明彦氏の分類によるものである。試料の微細・風化・分析不可能を「分析不可」、分析しなかった試料を「未実施」とした。

黒駄石原産地判別群略号

長野	和田巖山群	WDTY	神奈川	新根焼石群	HNHJ
	和田土屋崎北群	WDTK	静岡	天城柏峰群	AGKT
	諏訪温泉群	SWHD	東京	神津島恩馳島群	KZOB

10. 本文中・挿図中の石材の略号は以下のとおりである。

番号	和名	英名	標準資料略号
1	閃輝岩	diorite	Di
2	玄武岩	basalt	Ba
3	玄武岩(多孔質)	vesicular basalt	VBa
4	ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAN
5	細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn
6	輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Fy)
7	安山岩(多孔質)	vesicular andesite	VAn
8	ディサイト	dacite	Da
9	流紋岩	rhyolite	Rhy
10	黒曜石	obsidian	Ob
11	水晶	rock crystal	RC
12	チャート	chert	Ch
13	角閃石片岩	amphibole schist	AS
14	綠色片岩	green schist	GS
15	灰質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
16	綠色凝灰岩	green tuff	GT
17	頁岩	shale	Sh
18	珪質頁岩	siliceous shale	SSh
19	硬質頁岩	hard shale	HS
20	珪質板岩	siliceous slate	SSI
21	砂岩(細粒)	fine-grained sandstone	FSS
22	砂岩(中粒)	medium-grained sandstone	MSS
23	砂岩(粗粒)	coarse-grained sandstone	CSS
24	麻レイ岩	gabbro	Ga
25	細粒麻レイ岩	fine-grained gabbro	FG
26	ホルンフェルス	hornfels	Hor

11. 琥珀の観察にあたり、赤化の状態は次表を用いて判別した。

記号	赤化の状態
A	非赤化完形礫
B	非赤化破壊礫
C	赤化完形礫
D	全赤化破壊礫
E	割れ面非赤化礫

12. 層位名の略号は、土層の説明とともに、「第III章2節」および「第IV章2節」に明示する。

ただし、「第III章2節」および「第IV章2節」に略号のない層位については、挿図・挿表内においてのみ、別途以下の略号を用いた。

略号	層名	標返還跡基本層序	今里遺跡基本層序
NSC	新潟スコリア層	第2層	第2層
SNZ	砂沢スコリアを含む層	第3層	第3層
SG	仙石スコリアを含む層	第4層	-
KGP	カワゴ平バミスを含む層	第5層	第4層

13. 第1図第二東名の路線と対象地点図・第8回鶴野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡図は、国土地理院発行1:25,000地形図「鶴野」を複写し加工・加筆した。

# 目 次

序  
例 言  
凡 例

## 第Ⅰ章 総 論

### 第1節 調査に至る経緯

1. 姫野市内における埋蔵文化財の取り扱いの経緯	1
--------------------------	---

### 第2節 姫野市内における調査の概要

1. 現地調査の体制	4
2. 確認調査	4
3. 本 調 査	5
4. 資料整理	5

### 第3節 各地点の概要

1. №147-2地点	5
2. №149-2地点	6
3. № 152 地点	6
4. № 155 地点	6

## 第Ⅱ章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8

## 第Ⅲ章 棚返遺跡 第二東名№153地点

### 第1節 調査の方法と経過

1. 調査の方法	9
2. 調査の経過	9
3. 資料整理	10

### 第2節 基本層序と土層の堆積状況

15

### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

1. 遺 墓	19
2. 遺 物	19

### 第4節 縄文時代の遺構と遺物

1. 遺 構	
(1) 積穴住居跡	25
(2) 土 坑	30
(3) 集 石	34
(4) 烧 土	34

2. 遺 物	
(1) 土 器	67
(2) 石 器	88
(3) 石器集中部	94
第5節 中世以降の遺構と遺物	
1. 土 坑	141
2. 窯 跡	141
第IV章 今里遺跡 第二東名No.153-2地点	
第1節 調査の方法と経過	
1. 調査の方法	147
2. 調査の経過	147
3. 資料整理	147
第2節 基本層序と土層の堆積状況	149
第3節 繩文時代の遺構と遺物	151
第V章 調査の成果とまとめ	154
附編 分 析	
分析1 出土黒墨石製石器产地推定分析	
独立行政法人 沼津工業高等専門学校 教授 望月明彦	159
分析2 出土土器放射性炭素年代測定	
株式会社 加速型分析研究所	162
分析3 出土炭化物樹種同定	
同 上	164

## 写 真 図 版 報告書抄録

## 挿図目次

総 論		第 35 図 土 塚 17 ..... 51
第 1 図 第二東名の路線と対象地点 ..... 3		第 36 図 土 坑 18 ..... 52
第 2 図 No147-2地点位置 ..... 5		第 37 図 土 塚 19 ..... 53
第 3 図 No149-2地点位置 ..... 6		第 38 図 土 塚 20 ..... 54
第 4 図 No 152 地点位置 ..... 6		第 39 図 土 坑 21 ..... 55
第 5 図 No 155 地点位置 ..... 6		第 40 図 土 坑 22 ..... 56
棚 返 遺 跡		第 41 図 上 坑 23 ..... 57
第 6 図 調査区及びグリッド配置 ..... 12		第 42 図 土 塚 24 ..... 58
第 7 図 テストピット配置 ..... 13		第 43 図 土 塚 25 ..... 59
第 8 図 裕野市内第二東名関連遺跡及び 主要縄文時代遺跡 ..... 14		第 44 図 土 坑 26 ..... 60
第 9 図 基本層序 ..... 17		第 45 図 土坑内出土遺物 1 ..... 62
第 10 図 土層堆積状況 ..... 18		第 46 図 土坑内出土遺物 2 ..... 63
第 11 図 旧石器時代出土遺物 ..... 20		第 47 図 集 石 ..... 64
第 12 図 旧石器時代遺物分布 ..... 21		第 48 図 燃 土 ..... 65
第 13 図 砥群及び礫分布 ..... 22		第 49 図 球石・焼土内出土遺物 ..... 66
第 14 図 磬 ..... 23		第 50 図 縄文時代土器平面分布 ..... 68
第 15 図 縄文時代遺物配置 ..... 26		第 51 図 縄文時代早期(第Ⅰ群)土器分布 ..... 69
第 16 図 1号住居跡 ..... 27		第 52 図 縄文時代前期(第Ⅱ群)土器分布 ..... 70
第 17 図 1号住居跡完掘状況 ..... 28		第 53 図 縄文時代中期(第Ⅲ群)土器分布 ..... 71
第 18 図 住居跡出土遺物 ..... 29		第 54 図 縄文時代後期(第Ⅳ群) ..... 晚期(第Ⅴ群)土器分布 ..... 72
第 19 図 土 塚 1 ..... 35		第 55 図 出土土器 1 (第Ⅰ群) ..... 73
第 20 図 土 坑 2 ..... 36		第 56 図 出土土器 2 (第Ⅰ群) ..... 74
第 21 図 土 坑 3 ..... 37		第 57 図 出土土器 3 (第Ⅰ群) ..... 75
第 22 図 土 坑 4 ..... 38		第 58 図 出土土器 4 (第Ⅱ群) ..... 77
第 23 図 土 坑 5 ..... 39		第 59 図 出土土器 5 (第Ⅱ群) ..... 78
第 24 図 土 坑 6 ..... 40		第 60 図 出土土器 6 (第Ⅲ群) ..... 80
第 25 図 土 坑 7 ..... 41		第 61 図 出土土器 7 (第Ⅲ群) ..... 81
第 26 図 土 坑 8 ..... 42		第 62 図 出土土器 8 (第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群) ..... 82
第 27 図 土 坑 9 ..... 43		第 63 図 剥片石器鑿削別分布 ..... 90
第 28 図 土 坑 10 ..... 44		第 64 図 剥片石器石材別分布 ..... 91
第 29 図 土 坑 11 ..... 45		第 65 図 磬石器器種別分布 ..... 95
第 30 図 土 坑 12 ..... 46		第 66 図 磬石器石材別分布 ..... 96
第 31 図 土 坑 13 ..... 47		第 67 図 磬石器種別及びOb分布 ..... 97
第 32 図 土 坑 14 ..... 48		第 68 図 打製石斧分布 ..... 99
第 33 図 土 坑 15 ..... 49		第 69 図 石器集中部石材別分布 1 ..... 99
第 34 図 土 坑 16 ..... 50		第 70 図 石器集中部石材別分布 2 ..... 100

第 71 図 石器集中部石材別分布 3	101	第 89 図 銀文時代 (18) 磨石・敲石 4	119
第 72 図 銀文時代 (1) 有舌尖頭器・ 尖頭器・ 石鏃 1	102	第 90 図 銀文時代 (19) 磨石・敲石 5	120
第 73 図 銀文時代 (2) 石鏃 2	103	第 91 図 銀文時代 (20) 磨石・敲石 6 磨石	121
第 74 図 銀文時代 (3) 石鏃 3 スクレイバー 1	104	第 92 図 銀文時代 (21) 磨器 1	122
第 75 図 銀文時代 (4) スクレイバー 2	105	第 93 図 銀文時代 (22) 磨器 2	123
第 76 図 銀文時代 (5) スクレイバー 3	106	第 94 図 銀文時代 (23) 石皿 1	124
第 77 図 銀文時代 (6) 楔形石器・ 石核 1	107	第 95 図 銀文時代 (24) 石皿 2	125
第 78 図 銀文時代 (7) 石核 2	108	第 96 図 銀文時代 (25) 合石	126
第 79 図 銀文時代 (8) 打製石斧 1	109	第 97 図 中世以降構造記述	142
第 80 図 銀文時代 (9) 打製石斧 2	110	第 98 図 中世以降土坑	143
第 81 図 銀文時代 (10) 打製石斧 3	111	第 99 図 炭焼窯 1	144
第 82 図 銀文時代 (11) 打製石斧 4	112	第 100 図 炭焼窯 2	145
第 83 図 銀文時代 (12) 打製石斧 5	113	第 101 図 炭焼窯 2 完掘状況	146
第 84 図 銀文時代 (13) 敲石 1	114	今里遺跡	
第 85 図 銀文時代 (14) 敲石 2	115	第 102 図 調査区及びグリッド配置	148
第 86 図 銀文時代 (15) 磨石・敲石 1	116	第 103 図 基本層序	149
第 87 図 銀文時代 (16) 磨石・敲石 2	117	第 104 図 テストピット配置	150
第 88 図 銀文時代 (17) 磨石・敲石 3	118	第 105 図 土層堆積状況	150
		第 106 図 遺構配置図及び遺物分布	152
		第 107 図 1号集石	152
		第 108 図 出土石器	153

## 挿表目次

総論	29
第 1 表 施工作業現地調査関係者一覧	2
第 2 表 調査実施期間	2
第 3 表 対象地点一覧	3
棚返遺跡	
第 4 表 作業工程	11
第 5 表 遺跡名一覧	14
第 6 表 旧石器石材・器種組成	20
第 7 表 碎片構成礫集計	23
第 8 表 旧石器時代石器観察資料	24
第 9 表 旧石器時代礫観察資料	24
第 10 表 住居跡	29
第 11 表 土坑一覧	61
第 12 表 集石・集石土坑一覧	66
第 13 表 焼土跡一覧	66
第 14 表 銀文土器観察資料	84
第 15 表 石器集中部組成	101
第 16 表 銀文時代石器観察資料	127
第 17 表 中世以降土坑一覧	144
今里遺跡	
第 18 表 作業工程	148
第 19 表 石器観察資料	153

# 図版目次

## 写真図版

### 棚返遺跡

- 図版1 愛鷹山遺跡景（東より）  
棚返遺跡遠景（南東より）第Ⅰ期調査  
図版2 棚返遺跡全景（合成）  
縄文時代遺構検出状況 休場層上面  
図版3 1号疊群  
旧石器時代 石 器  
図版4 1号住居跡出土状況  
1号住居跡石開い・炉検出状況  
1号住居跡掘方完掘状況  
図版5 10号土坑  
33号土坑  
48号土坑  
58号土坑  
60号土坑  
63・64号土坑  
図版6 70号土坑  
2号集石  
4号集石  
6号集石  
3号焼土  
4・5号焼土  
図版7 第Ⅰ群土器（1）  
図版8 第Ⅰ群土器（2）  
図版9 第Ⅰ群土器（3）  
図版10 第Ⅱ群土器（1）  
図版11 第Ⅱ群土器（2）

- 図版12 第Ⅲ群土器（1）・ミニチュア土器  
図版13 第Ⅲ群土器（2）  
図版14 第Ⅲ群土器（3）  
第Ⅲ群七器（4）  
図版15 第Ⅲ群土器（5）  
第IV・V群土器  
図版16 石 器 1（正面）  
図版17 石 器 1（裏面）  
図版18 石 器 2（正面）  
図版19 石 器 2（裏面）  
図版20 石 器 3（正面）  
図版21 石 器 3（裏面）  
図版22 石 器 4（正面）  
図版23 石 器 4（裏面）  
図版24 石 器 5  
図版25 石 器 6  
図版26 石 器 7  
中井以降 その他（焼）  
図版27 石 器 8  
**今里遺跡**  
図版28 今里遺跡本調査範囲全景  
1号集石  
図版29 1号集石完掘状況  
石 器  
**その他の**  
図版30 遺跡周辺河原疊状況1  
遺跡周辺河原疊状況2

# 第Ⅰ章 総 論

## 第1節 調査に至る経緯

### 1. 福野市内における埋蔵文化財の取り扱いの経緯

昭和62年東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として、道路審議会において、第二東名、第二名神高速道路の建設が建議された。

平成元年 第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る第二東名高速道路（以下、第二東名）が計画された。

この基本計画策定を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（以下、文化課）もこの協議に参加した。

平成3年 第二東名の基本計画については、文化財を含む環境調査等がおこなわれ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、9月24日、静岡県の長泉町から引佐町（現浜松市、以下同じ）に至る都市計画の決定が告示された。

平成4年 環境調査と並行して、埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社、以下同じ）は、2月17日付けで文化庁にこれを通知するとともに、5月11日付けで、日本道路公団東京第一建設局長（以下、建設局長）から静岡県教育委員会教育長宛（以下、県教育長）に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長（以下、事務所長）から県教育長宛に、「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けて県教育委員会は、9月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在について、当該市町教育委員会に照会し、当該教育委員会から回答を得た。

平成5年 県教育委員会はこの回答をもとに協議をおこない、結果を3月18日付けで、県教育長から事務所長宛に回答した。この時点で、調査対象箇所は136箇所、調査対象面積は1,453,518m<sup>2</sup>となっている。その後、長泉町～引佐町間（第12次区間）については、11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出了された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、文化課で、埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（以下、当研究所）に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査をおこなうための体制作りが課題となつた。

平成6年 文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたバーキングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町教育委員会に依頼。その結果、調査対象地は133箇所、調査対象面積は1,286,759m<sup>2</sup>となった。

一方、長泉町から御殿場駅門の13.4km（第13次区間）については、平成6年に埋蔵文化財の所在の有無に関する照会が出され、市町教育委員会によって踏査がおこなわれた。同区間については平成9年に施行命令が出てきている。

平成7年 路線の一部で境界杭が打設され、埋蔵文化財調査の開始に見通しが出でた。こうした中で、日本道路公団静岡建設所と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第

第1表 球野地区現地調査関係者一覧

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
所長	齊藤 忠									
副所長	山下 兼									
企画課長	伊藤友雄	伊藤友雄	山田透幸							
業務課長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
事務局次課 (110 次課)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
監視課長	伊藤友雄	伊藤友雄	山田透幸							
監視課長候補	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
施設課長	木本照理									
(H19 地勤課)	巡回車両課長									
	巡回車両課長候補									
	担当	巡回車両課長								
	会計係長	大庭 勤								
中央	佐藤謙謙									
調査研究部 (H19-調査監督)	第五研究部次長	佐野五士二	荒川 司	平野幸二	中嶋徳久	中嶋徳久	石川基久	石川基久	-	-
	資料課長	佐野五士二	荒川 司	平野幸二	中嶋徳久	中嶋徳久	石川基久	石川基久	-	-
	資料課長候補	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	周辺研究・調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	周辺研究・調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	調査研究三課長	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	調査研究四課長	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保健指導課長	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	事務課長	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	事務課長候補	-	-	-	-	-	-	-	-	-

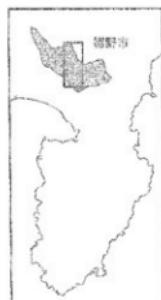
第2表 調査実施期間

地点名(No.)	道路名	勘定調査	本調査	本調査面積 (ha)
144	櫛道迷路	その1 平成13年10月～平成13年11月 その2 平成14年11月～平成15年3月	I期 II期 初期	平成13年10月～平成16年2月 平成16年4月～平成17年3月 平成17年5月～平成17年8月
			I期	平成14年4月～平成15年1月
CR-36	1・2区、 3・5・7区、 8区、 高内野山V道路	その1 平成14年1月～平成14年3月 その2 平成14年4月～平成14年6月		8380m <sup>2</sup>
上-3	高内野山V道路	その1 平成14年1月～平成14年3月 その2 平成15年2月	I期 II期	平成14年8月～平成16年3月 平成15年4月～平成15年7月
			III期	平成14年4月～平成14年3月
144-2	入ノ深谷道路	平成14年11月～平成14年12月	I期 II期 III期	平成14年4月～平成14年3月 平成14年4月～平成14年8月
144-3	内野山V道路	平成15年9月		3500m <sup>2</sup>
145	若宮道路	その1 平成14年9月～平成14年11月 その2 平成15年5月～平成15年7月	I期 II期	平成15年4月～平成15年2月 平成15年5月～平成16年5月
146	下ノ笠道路	平成15年4月～平成15年5月	I期 II期	平成16年4月～平成17年3月 平成15年6月～平成16年2月
147	櫛ヶ原道路	平成15年4月～平成15年5月	I期 II期	平成15年1月～平成15年7月 平成20年4月～櫛ヶ原
148	浦沢鹿路	平成14年4月～平成15年8月		未定
148-2	なし	平成18年4月～平成18年5月		1457m <sup>2</sup>
148-3	明山走跡	平成17年4月		280m <sup>2</sup>
149	上条瀬	平成16年4月・8月・9月	I期 II期 III期	平成16年2月～平成16年3月 平成16年4月～平成17年3月 平成16年4月～平成17年3月
150	大端ヶ口遺跡	平成15年4月 平成15年11月～平成16年1月	I期 II期 III期	平成15年12月～平成16年3月 平成16年4月～平成16年12月 平成15年4月～平成16年12月
150-2	櫛側道跡	平成15年9月		6155m <sup>2</sup>
151	大端ヶ口遺跡	平成15年4月・5月		3705m <sup>2</sup>
152	北ノ沢跡	平成14年11月～平成15年1月		-
153	櫛返跡	その1 平成14年4月～平成14年5月 その2 平成15年4月～平成16年6月	I期 II期 III期 IV期	平成14年10月～平成15年5月 平成15年4月～平成15年10月 平成16年4月～平成16年7月 平成16年5月～平成16年7月
153-2	今里遺跡	平成14年1月		230m <sup>2</sup>
154	空堀跡跡	その1 平成13年7月 その2 平成14年4月 その3 平成15年7月	I期	平成15年4月～平成15年10月 平成14年8月
155	曲久谷道路	平成13年7月		-



第3表 対象地点一覧

対象地点	対応する遺跡
No.144地点	塚原
CR-36	1・2区 富沢内野山山北 3・5・7区 富沢内野山山IV西 6区 富沢内野山V
+ - 3	富沢内野山I西
No.144-2地点	入ノ洞B
No.144-3地点	内野山V
No.145地点	老平
No.146地点	下ノ大塚
No.147地点	鍵ヶ尾
No.147-2地点	なし
No.148地点	細沢
No.148-2地点	なし
No.148-3地点	南山田東
No.149地点	葛山上塚
No.149-2地点	なし
No.150地点	葛山大塚ヶI
No.150-2地点	1区 葛山大塚ヶII 2区 藤畠
No.151地点	葛山大塚ヶII
No.152地点	なし
No.153地点	鍵返
No.153-2地点	今里
No.154地点	今里黄土窓通
No.155地点	曲久保



第1図 第二東名の路線と対象地点

二東名建設に係る埋蔵文化財の取り扱いを協議することとなり、12月13日に第1回会議がおこなわれた。

平成8年、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、建設局と県教育委員会は、9月24日付けで埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である当財団を加えた三者は、9月25日付けで第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることとなった。

確認調査の結果を受け、平成9年度に本格的に県内各地で発掘調査を開始した。これ以降、原則として第二東名の本線、サービスエリア、パーキングエリア、廃土処分場については、当財団が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については当該市町教育委員会が対応することとし、現在（平成20年）に至っている。

裾野市における第二東名調査区間は第13次区間に含まれ、本線部分20地点の遺跡の墳塚・確認調査がおこなわれているほか、工事用道路建設・廃土処分場に伴い2地点の確認調査がおこなわれた。この結果、平成13年から遺跡数にして17遺跡の本調査がおこなわれ、現在も進行中である。（表1・2参照）

## 第2節 裾野市内における調査の概要

### 1. 現地調査の体制

裾野地区的調査は、平成13年度から確認調査を実施し、本調査は同13年の薬師海道遺跡を皮切りに始められ、現在も部分的におこなわれている。

調査は、長泉町内に設けた事務所を基点として文化課の調査指導のもと文化財保護法第92条によっておこなった。調査体制は別紙に示すとおりであるが、広大な面積を短期間で調査を終了させるために測量作業や掘削作業を委託事業として外注した。

また、現地調査を優先しておこなっていく方針が出される中で、膨大な遺構・遺物を効率よく整理し混乱を回避するために、基礎的な整理作業（遺物洗浄・注記）を基礎整理棟にて一括しておこなうこととなった。

### 2. 確認調査

古墳、新富士の火山灰が厚く堆積する愛鷹山麓は、多いところで10以上の文化層が確認されることがある。文化層の枚数は調査の期間等に大きく影響を与えるため、確認調査において下層の状況を知ることは非常に重要である。また、裾野市の第二東名予定地付近は、下層の調査例が少なく、周囲の遺跡の状況から、予定地の内容を予想することが困難であるため、今回の調査においては、確認調査の重要度は更に高いた。

そのような中、確認調査の方法としては、調査区全体に10×10mグリッドを設定し、1グリッドに対して1箇所の試掘坑（3×3 m）を設定する全域のサンプリング方式をとり、原則として表土以外は人力で掘削し、遺構・遺物の状態を確認した。しかし、旧石器時代の包含層が深いため、場所によっては5×5 mのテストピットに大走りを設け、十分な安全対策をとった上で下層の調査を実施した例もある。また、トレンチを併用して調査をおこなった場合もある。その他、表土直下が溶岩流等によって失われている地点もあり踏査のみで終了した例もあった。

### 3. 本 調 査

高遠道路本線のみならず、工事用道路や工事用廃土処理場を含めた今回の発掘調査対象地は非常に広大なものとなった。このため、本来であれば同一遺跡内を一括して調査をおこなうことが最適であるが、用地交渉、工事の進捗状況に応じて調査を進めていく必要性が生じた。特に工事用道路や橋脚部分については早急に工事を進める必要性が高まったため、文化課の調整によって工事工程に合わせた工区を設定し、終了した時点で工事側へと引き渡していく方式をとった。よって、同一遺跡内であっても、複数期における調査が断続的におこなわれる結果となった。

このような中で、図面等の整合性を得るために、遺物や遺構については国家座標（日本測量系）を用いて測量をおこない、後日張り合わせる作業をおこなっている。また、遺跡の全景俯瞰写真においてもデジタルによる合成作業をおこなった。

### 4. 資 料 整 理

資料整理は、現地の調査がほぼ終了した平成17年度から、下ノ大庭遺跡、佛ヶ尾遺跡を皮切りに本格的に着手した。ただし、発掘調査から最大で6年を経過する遺跡も存在し、調査担当者が人事異動等によって当組織に在籍しないものが大半である。このため、遺構の検討などは、当時の担当者の所見を最大限生かしつつ遺物の情報等を合わせた上で、資料整理担当者の責任のもと再構成する作業を進めた。

また、この間国土地理院において国家座標を日本測量系から世界測地系への移行が進められたが、作業の混乱を避ける必要性から、当調査における報告は全て日本測量系に統一しておこなうこととする。

調査中は発掘地点名（No.）で遺跡を呼称してきたが、福野市教育委員会と文化課との協議の結果、地形、遺跡の内容等により新規に遺跡の範囲、あるいは名称の変更がおこなわれ、報告は変更後の遺跡名でおこなう。地点名と遺跡名の対応関係は表3のとおりである。

## 第3節 各地点の概要

ここでは確認調査のみで調査を終了した地点を一括して報告する。

#### 1. No.147-2地点

##### (1) 位置・立地と状況

本地点は千畝ニュータウン南東の谷底近くに位置し、南側約300mに佛ヶ尾遺跡が存在する。

##### (2) 調査方法と確認調査

教育委員会文化課及び本財団の2者にて踏査したが、遺構・遺物は確認できなかった。

##### (3) 結 果

協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく調査を完了した。



第2図 No.147-2地点位置

## 2. No.149-2地点

### (1) 位置・立地と状況

葛山城趾の南西約500mの谷部緩斜面に位置する。谷間は西側に深く入り込んでいる。

### (2) 調査方法と確認調査

調査区分を裾野市に委託し、裾野市及び教育委員会文化課・本隊団の3者にて踏査したが、遺構・遺物は確認できなかった。

### (3) 結 果

協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく調査を完了した。

## 3. No. 152 地点

### (1) 位置・立地と状況

御返遺跡の南約300m、段丘状の尾根に位置する。

### (2) 調査方法と確認調査

16箇所のテストピットを設定し調査をおこなった。東西の尾根上に旧石器・绳文時代の遺物が確認されたが、遺構は検出されず、遺物の分布も極めて散発的で遺構の存在を示す物ではなかった。また、休耕層より下位は搅乱が激しい上、南北の尾根は中部ローム層まで削平されていた。

### (3) 結 果

協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく調査を完了した。

## 4. No. 155 地点

### (1) 位置・立地と状況

愛煙山南東麓、佐野川付近の斜面に位置し遺跡の南には田湯沢裏山遺跡、尾尻遺跡が存在する。

### (2) 調査方法と確認調査

テストピットを5箇所、トレレンチを8箇所設定した。その結果、対象地域は二次堆積によって形成された谷であることが判明した。また、中世以降の円形土坑を1基検出したが、遺物は出土しなかった。

### (3) 結 果

協議の結果、本地点対象範囲内は本調査に移行することなく調査を完了した。



第3図 No.149-2地点位置



第4図 No. 152 地点位置



第5図 No. 155 地点位置

## 第Ⅱ章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境

愛鷹山麓は、静岡県東部、富士山の南～南東麓に接する場所に立地する。昨今の第二東名開通の発掘調査において、愛鷹山西麓～東麓にかけての丘陵上に、多くの縄文・旧石器の遺跡が確認されている。棚返遺跡・今里遺跡もそれらの遺跡の一つである。

愛鷹山は約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。この活動は古期・中期・新期Ⅰ・新期Ⅱ・最新期の5期に区分され、宝武岩質や凝灰角砾岩質と安山岩質の噴出物によって形成される。その後、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山麓が形成されている。中でも約8万年前に活動していた古富士火山及び約1万年前に活動していた新富士火山を供給源とする愛鷹ローム層は上・中・下の3層のローム層に分けられる。今までのところ、この上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されている。

現在の愛鷹山麓は複数の峰に分岐しており、主峰は愛鷹岳で標高1,187.5m、最高峰である越前岳は標高1,504mを測る。複数の峰より生ずる水系は、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流となる水系に合流する。南に面する広い丘陵地を擁し、南に駿河湾、南東に伊豆半島、東に箱根山麓を望む地形は、遺跡が主に営まれた採集・狩猟時代には最適な環境であったことが推察できる。本遺跡の存在する愛鷹山東麓も枝尾根が深く入り込み、旧石器時代及び縄文時代の遺跡の多くが、尾根上の平坦な場所を選ぶようなかたちで存在している。

棚返遺跡は、愛鷹山麓東側を南北に流下する黄瀬川支流、佐野川付近の今里集落南側、JR御殿場御野線岩波駅より西方向約3kmの愛鷹山東麓の丘陵上に位置し、今里遺跡は棚返遺跡に隣接する渡せ尾根上にある。

棚返遺跡の調査区は2区に分かれ、それぞれ東西に延びる標高約310mの尾根上の地形（I区）と標高約320mの佐野川による段丘状の地形（II区）に分かれている。（II区）の北側には、佐野川の河岸段丘上に位置する今里葉御海道遺跡（Na154地点）がある。

隣接する今里遺跡（Na153-2地点）との間には、佐野川の支流によってできた弱析谷が存在し、遺跡間の標高差は約10mである。いずれの遺跡も調査以前は山林であった。

## 第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する裾野市域は、愛鷹山東麓と猿根山西麓の枝尾根とその間に挟まれた大変緩やかな傾斜地によって形成されている。富士山・愛鷹山と猿根山とに挟まれた平野部が南北に走り、中世に入ると関東甲信越地方との交通の要所として活用され、地形の持つ重要性から各地に多くの城砦が設けられた。ここでは本遺跡の主要な遺構・遺物の検出層位である縄文時代を愛鷹山麓・裾野市域の主要遺跡を取り上げながら概観する。

現在、愛鷹山麓では縄文時代の遺跡が多數確認されているが、その遺跡数は縄文時代を通じて安定しているわけではない。遺跡数は、早期に増加し前期には一時減少する。中期には再び盛んを迎えるが後期から晩期にかけて再び減少する。

愛鷹山麓の草創期遺跡の多くは愛鷹山南麓に位置する沼津市に存在する。清水橋北遺跡、尾上イラウネ遺跡、住居跡が検出された葛原沢第Ⅳ遺跡などがその一例である。そのほか、土器は出土していないものの石器や漁具の検出状況から草創期の生活面が想定される遺跡も存在する。これまで裾野市域から草創期の土器の出土例がなかったが、富沢内野山Ⅰ西遺跡で草創期のものと考えられる土器片が出土している。

早期における遺跡数増加の傾向は、特に後半に顕著になる。前半の遺跡には駿豆地方独特の縄文と撫糸文を持つ土器が多く見られ、千福小杉平第二遺跡や老平遺跡などから撫糸文土器が出土している。また、丸山日遺跡、城ヶ尾遺跡などからは押型文土器が出土している。後半に入ると条痕文土器が多く見られ、胎土に繊維を混入させる手法が目立つ。愛鷹山麓では野島式や茅山上層・下層式土器が出土している。また、打越式土器や東海系の入海式、天神山式土器等も出土している。裾野市域の遺跡では上川遺跡、日向遺跡、内野山遺跡、佛ヶ尾遺跡、下ノ大塙遺跡などが挙げられる。

続く前期には、愛鷹山麓では沼津市清水柳北遺跡、同平沼吹上遺跡、長泉町鉢平遺跡など木島式土器を伴う遺跡が多く見られる。また後半には踏蹴式土器を伴う遺跡も多く見られ、裾野市域では大塙ヶ丘遺跡で踏蹴式の住居跡が確認されている他、細野沢遺跡、入ノ洞B遺跡などが挙げられる。

中期には再び遺跡数が増加する。中期前半の遺跡には長泉町柏原遺跡や上山地遺跡などがあり、五領ヶ台式、駿板式、東海系の北屋敷式等の土器が出土している。後半の遺跡には長泉町中峰遺跡、同根畑上遺跡、三島市押出山遺跡などがあり、これらの遺跡では曾利式の土器が主体となっている。裾野市域での遺跡数も多く、出土遺物の中でも一際異彩を放っているのが、中期の出土遺物である。尾畠遺跡出土の顔面把手付土器や翡翠の大珠、また翡翠の大珠が収められていたとされる大型土器、細山遺跡近辺で採取された香炉形土器など稀少な遺物が出土している。

後期、晩期になると愛鷹山麓の遺跡数は再び減少してゆく。これには、今からおよそ2,300年前のカワグチ・仙石火山砂礫噴出の影響があると考えられる。後期の遺跡は裾野市域でもわずかな遺物が散発的に出土しているのみであり、内野山Ⅰ遺跡、田場沢裏山遺跡の他、中里遺跡、下条遺跡、一色原遺跡が挙げられるが、資料は極めて少ない。また、裾野市域における晩期の明確な資料は、今のところ発見されていない。

裾野市域においては、これに続く弥生時代の遺跡数も少ない。カワグチ・仙石火山砂礫噴出等の影響で、農耕生活を営むには不適当であったと考えられる。

# 第三章 棚返遺跡 第二東名No.153地点

## 第1節 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

棚返遺跡（第二東名No.153地点）の調査対象面積は計約6,500m<sup>2</sup>に及び、調査区は南側の東西に延びる尾根状地形（I区）と、北側の段丘状地形（II区）に分かれている（図6）。

遺跡全体の把握と作業の効率化を図るために、国際標準座標第W系（X=-87100.0, Y=35470.0）上を原点とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。グリッドのX軸方向（南北方向）をアルファベット、Y軸方向（東西方向）をアラビア数字と設定した。

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削をおこない、本調査においては面的な掘削をおこなった。掘削は基本的に人力でおこなったものの、表土や埴輪・遺物が存在しない層位においては重機を用いた。また人力と重機を併用して掘削をおこなった場合もある。なお、掘削した土砂はベルトコンベアで上砂を集め、バックフォーとクローラーダンプを用いて排出した。

遺物の取り上げ・地形測量は島シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用い、光波測定器によつて実施した。遺物には層位別に上番=P、石器=S、瓦=R、炭化物=C等の略号と4桁の通し番号を付け、X・Y座標値と標高値（Z）を記録し取り上げた。地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、1mメッシュで測量した。ともにコンピューターデータとして保管している。個別遺構図は平面図・立面図等を縮尺1/20を基本として手実測により図化し、微細図は縮尺1/10で作成し保管している。

写真撮影は必要に応じて隨時おこなった。写真撮影には35mmの小型カメラ、およびプローニー6×7判の中型カメラ、三脚を使用した。フィルムは35mm（カラー、白黒、リバーサル）の3種類及びプローニー判（白黒、リバーサル）フィルムを使用した。また、全景写真を撮影するために適宜ローリングクワーを使用して高所から撮影した。また遺構面完掘時には適宜ラジコンヘリコプターを用いて空中写真撮影をおこなった。

### 2. 調査の経過

本調査は平成14年10月より平成16年7月までに4期に分けておこなわれた。なお、本調査Ⅲ期と並行して平成16年の4月からは確認調査2、5月からは本調査Ⅳ期がおこなわれた。

#### （1）確認調査

平成14年5月～6月 対象表面積6,500m<sup>2</sup> 実掘削面積443m<sup>2</sup>

テストピットを15ヶ所設定し確認調査をおこなった。その結果、調査対象範囲6,500m<sup>2</sup>の内、I区3,900m<sup>2</sup>とII区1400m<sup>2</sup>の範囲に遺構・遺物が密集して確認された。

主な遺構：炭焼窯跡、ピット群、土坑

主な遺物：縄文土器、打製石斧、礫

#### （2）本調査Ⅰ期

平成14年10月～平成15年3月 対象表面積2,200m<sup>2</sup> 実掘削面積2,200m<sup>2</sup>

10月より重機による表土除去をおこない11月より人力による平面検査をおこなう。新規スコリア層にて円形土坑が検出される。中間層を機械掘削した後にカワゴ平バミスを含む褐色土層を検査し、20基の大型土坑を検出した。最大のものは長径が約2.9mに及んだ。休場層直上にて住居跡1基を検出。12月～2月、遺構検出作業を継続し、I区北側及びII区東側を拡張した。その後、テストピットによる旧石

昔時代の調査を実施。休憩層上層より礫が数点出土し層間を抵觸したが、遺構・遺物は検出されなかつた。

主な遺構：炭焼窯跡、土坑、集石、集石土坑、堅穴住居跡、石壁集中部

主な遺物：縄文土器、石器（石皿、砕石類、打製石斧、石鏃、石核、スクレイパー、礫器）、漆

#### (3) 本調査Ⅱ期

平成16年4月～7月 対象面積500m<sup>2</sup> 実掘削面積500m<sup>2</sup>

4月中旬に調査を開始した。4月下旬より第1面の調査及び中間層の除去をおこなう。5月上旬、縄文遺構の空中撮影を実施。6月上旬より旧石器時代の調査開始。7月、調査区第I区より大型土坑多数検出。8月中旬よりテストピットにて旧石器時代の調査をおこなう。

主な遺構：土坑、集石、集石土坑

主な遺物：縄文土器、石器（石皿、磨石類、打製石斧、楔形石器）、礫

#### (4) 本調査Ⅲ期

平成16年4月～7月 対象面積500m<sup>2</sup> 実掘削面積500m<sup>2</sup>

4月、表土除去をおこない、5月より縄文時代の調査を開始。土坑検出。6月空中撮影実施。その後、旧石器時代をテストピットにて調査したが、遺構・遺物は検出されなかつた。

主な遺構：土坑、集石、集石土坑

主な遺物：縄文土器、石器（石皿、磨石類、打製石斧、楔形石器）、礫

#### (5) 破談調査2

平成16年4月～5月 対象面積2,451m<sup>2</sup> 実掘削面積80m<sup>2</sup>

4月より作業開始。重機による表土除去。人力によるテストピットの掘削。縄文時代の遺物が出土、調査区北側より旧石器時代の礫群が検出された。

主な遺構：礫群（旧石器時代）

主な遺物：漆

#### (6) 本調査Ⅳ期

平成16年5月～7月 対象面積1,718m<sup>2</sup> 実掘削面積1,718m<sup>2</sup>

5月より表土除去。縄文面より土流を多数検出。6月、ラジコンヘリによる空撮を実施。その後、旧石器時代をテストピットにて調査した。

主な遺構：土坑（縄文時代）、礫群（旧石器時代）

主な遺物：土器（縄文時代）、漆（縄文時代、旧石器時代）

### 3. 資料整理

資料整理・報告書作成は平成18年12月～平成20年5月にかけておこなった。出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器17点、礫101点、縄文時代の石器2,265点、礫3,189点、縄文時代早期以降の土器846点、炭化物50点、弥生時代以降の遺物は、礫1,152点、炭化物13点、動物遺体（歯）1点であった。それらをまとめると出土遺物総点数は7,634点であった。

石器、土器、礫は洗浄の後、塵次遺物番号の注記作業をおこなった。ホルンフェルス製の製品については薬品処理（PARALOID B-72、ワッカーOH-100）によって遅延劣化措置を施した。

次に石器、礫の石材分類や層位ごとの分類をおこない、あわせて接合作業もおこなつた。石器は調整・加工の施されているものを中心にして実測図を作成した。石器実測については、礫石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、石器実測図作成用写真撮影業務を国泰軒業株式会社に委託した。また黒曜石製石器については、67点を抽出の上、独立行政法人沼津工業高等専門学校教授 望月

明彦氏に依頼し、産地推定分析をおこなった。抽出の基準は、縄文時代の石器については調整・加工のあるものを中心に、旧石器時代に関しては全てを分析の対象とした。

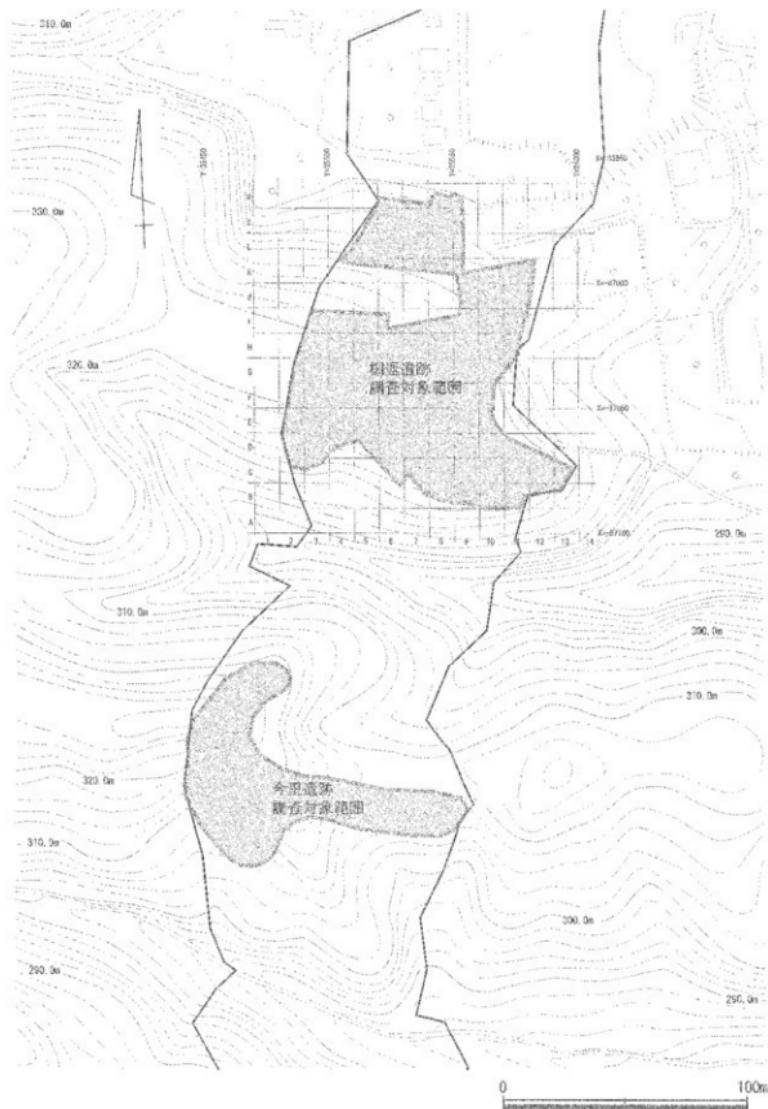
土器は型式分類をおこなった後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測をおこなった。また、残存状態が良好な1個体とミニチュア土器1個体に関しては復元を試みた。

また、出土した炭化物の年代測定をおこなった。測定業務は株式会社加速器分析研究所に委託し、<sup>14</sup>C年代測定(AMS法)を用いた。

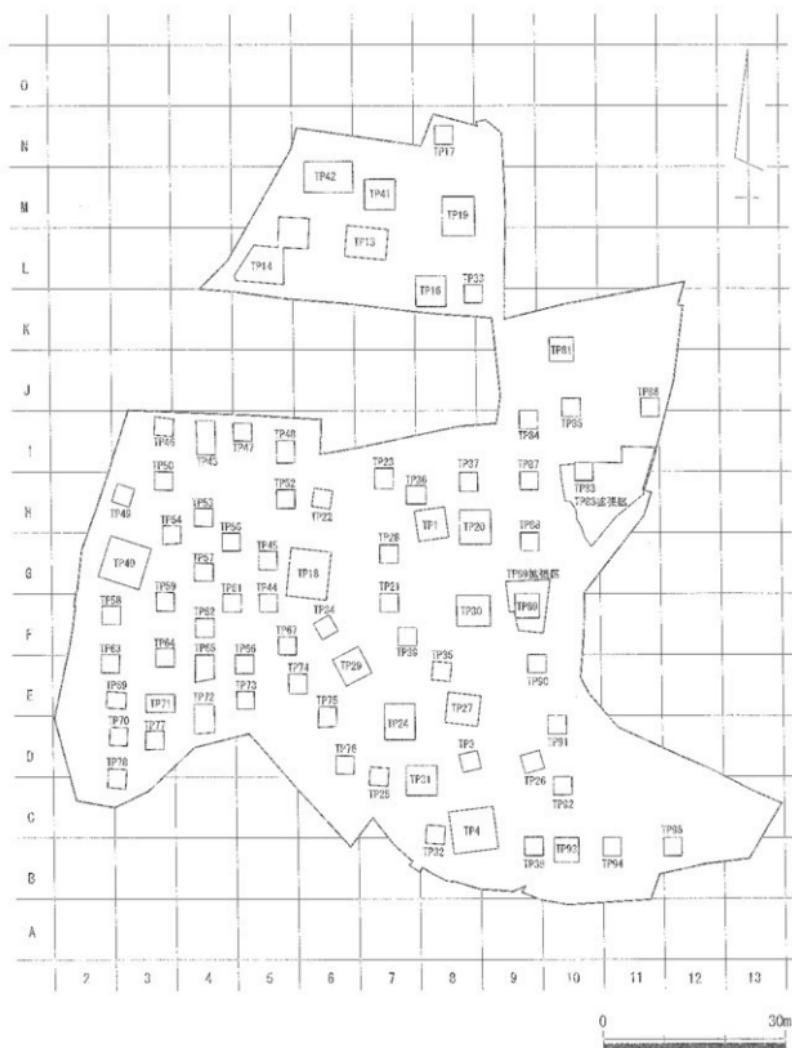
報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成をおこない、整理成表を踏まえて本文を執筆した。遺構図面に関しては、手取り実測図とシステムデータを統合した「遺構カード」を作成した。また、調査現場で用いた光波測定機の記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集をおこなった。

#### 第4章 作業工程

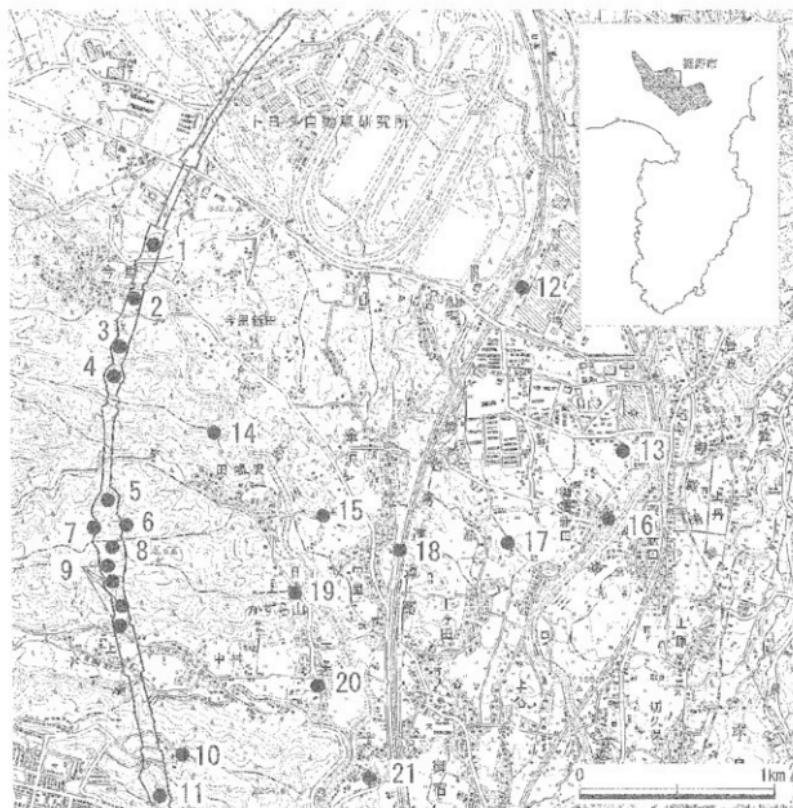
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
現地調査	確認調査1 5月～6月  本調査Ⅰ期 10月～3月	 本調査Ⅱ期 4月～10月	確認調査2 4月～5月  本調査Ⅲ期 4月～7月  本調査Ⅳ期 5月～7月			
資料整理				12月～3月	4月～3月	4月～5月



第6図 調査区及びグリッド配布



第7図 テストピット配置



第8図 福野市内第二東名簡通跡及び主要縄文時代遺跡

第5表 遺跡名一覧

番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代	番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代
1	久須保遺跡	草原期:早期	朱櫻吉	12	上川遺跡	○	○ ○ ○
2	今里至御布道遺跡		朱櫻色	13	六反田遺跡		○
3	櫛溝遺跡 (No.162)	○	○ ○ ○ ○ ○	14	田嶋沢裏山遺跡	○	○ ○ ○
4	今里遺跡 (No.153-2)	時期不明		15	柳島遺跡	○	○ ○
5	慈山八幡ヶ丘遺跡	朱櫻吉		16	御雷新田遺跡		○
6	慈山大塚ヶ丘遺跡	朱櫻色		17	坂下遺跡		○
7	慈山遺跡	朱櫻吉		18	中根遺跡		○
8	慈山大塚ヶ丘遺跡	朱櫻吉		19	一色原遺跡		○ ○ ○
9	慈山1・2・3遺跡	朱櫻吉		20	卜朱遺跡	○	○ ○ ○
10	南山里東遺跡	朱櫻吉		21	日向島東遺跡		時期不明
11	御前遺跡	○ ○ ○					○

\*1~12は第二東名建設に伴う鹿城文化財実査報告書

## 第2節 基本層序と土層の堆積状況

愛鷹山南麓には愛鷹ロームが堆積しており、愛鷹ローム固体研究グループによる火山灰層序学的区分に準拠して考古学的基本層序が定義されている。この基本上層はスコリア礫・軽石礫・ガラス質火山灰層を根拠に定義されたものであり、御返遺跡の基本層序は、愛鷹山麓の考古学的基本層序（以下、愛鷹基本層序）とほぼ一致するが、埋没腐植土の発色が悪く、色調が薄い。これは桃沢川以北の愛鷹山東麓に立地する遺跡に共通する特徴である。また休場層は北に向かって厚くなる（愛鷹ローム開拓グループ 1969）という指摘通り、最大で約3mの層厚を測る。第16・17層のニセローム層には広域火山灰である始良・丹沢バミスが認められ、他の層位においても富士起源の地域火山灰の肉眼観察が可能である。29層に分層が可能であり、各層位は以下の通りである（図9）。

- 第1層 黒色上層 縮まりなし 粘性あり
- 第2層 褐色土層 縮まりあり 粘性あり 黄褐色スコリア（径1～5mm）を少し含む。ザラザラ感が強い。
- 第3層 黒褐色上層 縮まりあり 粘性あり 径1～10mmの砂浜スコリア層。上部は細粒で、下部は粗粒である。
- 第4層 オリーブ褐色土層 縮まりあり 粘性あり 青黒色の角張った仙石スコリア（径10mm前後）を多量に含む。縄文時代包含層の中では最も縮まりが強い。
- 第5層 暗褐色土層 縮まりあり 粘性あり 径1mm以下の白色バミスを多量に含む。橙色スコリア（径2～3mm程度）を多く含み、仙石ラビリ（径5～10mm）を極少量含む。カーボン粒子が多く含まれる。混入物多い。
- 第6層 にぶい黄褐色上層 縮まりあり 粘性あり 橙色スコリアと黒色スコリア（径1～2mm）を極少量含む。混入物の少ない層である。
- 第7層 暗褐色土層 縮まりあり 粘性あり 橙色スコリア（径1～2mm）を少し含み、黒色スコリア（径1～2mm）を極少量含む。
- 第8層 褐色土層 縮まりあり 粘性あり FBとYLの中間的な層、またはスコリアの投入が少なく、YLJに比べ色調はやや暗色。縄文時代と考えられる遺物を若干含む。
- 第9層 黄褐色土層 縮まりあり 粘性あり 赤褐色スコリア（径1～2mm）を少量含み、黒色スコリア（径1～2mm）を極少量含む。
- 第10層 暗赤褐色土層 縮まりあり 粘性あり 赤褐色スコリア（径1～5mm）を多量に含む。スコリアブロックの連続である。
- 第11層 黄褐色土層 縮まりあり 粘性あり 橙色スコリア（径1～2mm）を多く含み、黒色スコリア（径1～2mm）を少量含む。YLslが散在している。
- 第12層 暗オリーブ色土層 縮まりあり 粘性あり 黒色（乾燥すると黄白色）スコリア（径1～2mm）を多量に含む。スコリアブロックの連続である。
- 第13層 褐色土層 縮まりあり 粘性あり 赤色スコリアと黒色スコリア（径2～3mm）を多く含む。
- 第14層 黄褐色土層 縮まり強い 粘性なし 赤色スコリア（径3～5mm）を多量に含み、黒色スコリア（径5～7mm）を多く含む。YL以上と比較して硬質が増す。

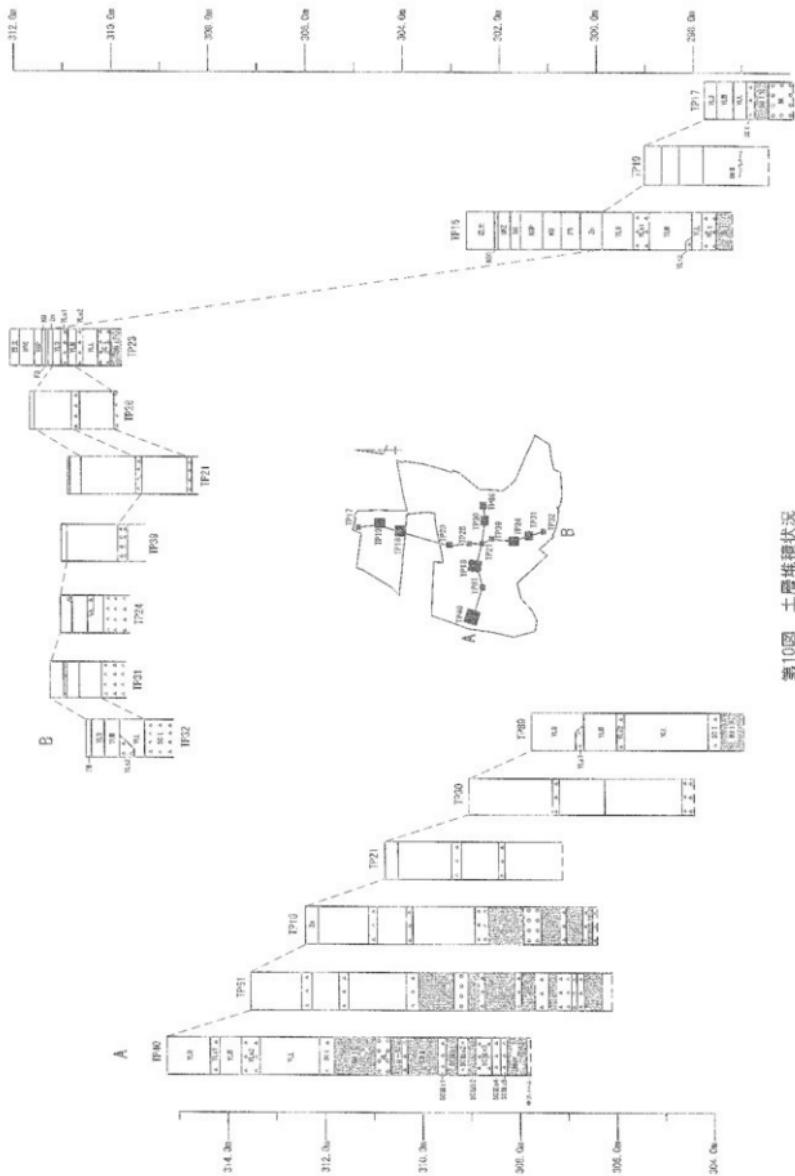
- 第15層 黄褐色土層 繖まり強い 粘性あり 赤色スコリア（径3～5mm）を多く含み、黒色スコリア（径5～7mm）を少量含む。黒色の発達に乏しい。
- 第16層 明黄褐色土層 繖まりあり 粘性なし 黄黒色スコリア（径3～4mm）層。
- 第17層 明黄褐色土層 繖まり強い 粘性あり 黒色スコリア（径3～4mm）を少量含み、赤色スコリア（径1～2mm）を極少量含む。ローム質。
- 第18層 黄褐色土層 繖まり強い 粘性あり 橙色スコリアと黒色スコリア（径5mm前後）を少量含む。黒色の発達に乏しい。
- 第19層 黄褐色土層 繖まり強い 粘性あり 橙色スコリア（径5mm前後）を多量に含み、黒色スコリア（径5mm前後）を少し含む。
- 第20層 褐色土層 繖まり強い 粘性あり 橙色スコリア（径2～3mm）を少量含む。黒色の発達に乏しい。
- 第21層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 橙色スコリアと黒色スコリア（径2～3mm）を多く含む。
- 第22層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 橙色スコリアと黒色スコリア（径2～3mm）を少し含む。黒色はなく、21層に比べスコリア量が減る。
- 第23層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 黒色スコリア（径4～5mm）を多く含み、赤色スコリア（径1～2mm）を少し含む。
- 第24層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 赤色スコリア（径1～2mm）を多く含む。分層が難しい場所が多い。
- 第25層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 赤色スコリア（径1～2mm）を多く含む。やや暗色。
- 第26層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 黒色スコリア（径5～10mm）を多量に含む。スコリアブロックの発達が著しい。
- 第27層 オリーブ褐色土層 繖まり強い 粘性あり 赤褐色スコリア（径2～3mm）を少量含む。
- 第28層 褐色土層 繖まり強い 粘性あり 赤褐色スコリアと黒色スコリア（径1～2mm）を極少量含む。黒色の発達に乏しい。
- 第29層 赤褐色土層・灰黄褐色土層 繖まり非常に強い 粘性強い 赤褐色スコリア（径1～3mm）を多量に含む。スコリアは数層の薄い帶状に広がる。

		層名	色調
0m		1 基色土(表土)	7.5YR2/2
	◆	2 棕色土	7.5YR4/4
1m	◆	3 褐褐色土	10YR5/1
	△△△△△△△	4 オリーブ褐色土	2.5Y4/4
	◆	5 鹽化色土	10YR2/4
2m	◆	6 にぶい黄褐色土	10YR4/8
	◆	7 灰褐色土	10YR3/4
	◆	8 黄褐色土	10YH4/8
3m	◆	9 黄褐色土	10YR4/8
	◆	10 灰赤褐色土	2.5YR3/8
	◆	11 黄褐色土	10YR4/4
4m	◆	12 鹽オリーブ色土	5Y4/3
	◆	13 棕色土	10YR4/6
	◆	14 黄褐色土	10YR9/6
5m	◆	15 灰褐色土	2.5Y5/4
	◆	16 朝黃褐色土	5Y4/4
	◆	17 朝黃褐色土	5Y7/8
6m	◆	18 黄褐色土	10YR5/6
	◆	19 黄褐色土	10YR8/6
	◆	20 棕色土	10YR4/6
7m	◆	21 オリーブ褐色土	2.5Y4/5
	◆	22 オリーブ褐色土	2.5Y4/5
	◆	23 オリーブ褐色土	2.5Y4/6
8m	◆	24 オリーブ褐色土	2.5Y4/6
	◆	25 オリーブ褐色土	2.5Y4/6
	◆	26 オリーブ褐色土	2.5Y4/6
	◆	27 オリーブ褐色土	2.5Y4/6
9m	◆	28 棕色土	10YR4/6 BSIV~BSVの混土
	◆	29 非褐色土 ・灰黃褐色土	5YR4/6 中部ローム

◆ 產物・遺跡検出層位

第9図 基本層序

第10图 土层堆模状况



### 第3節 旧石器時代の遺構と遺物

#### 1. 遺 構

##### (1) 磚 群 (第13・14図)

旧石器時代の包含層（体場層以下）からは石器13点・礫101点計114点の遺物が出土した。特に礫が集中して検出された地点を便宜的に礫群とした。礫群は3ヶ所検出された。

##### 1号 磚 群

H-10～H-11グリッド内でニセローム層から検出した。南北2.2m、東西5.0mの範囲に9点の礫が傾斜に添うように散漫に出土している。石材は輝石安山岩7点、安山岩（多孔質）1点、玄武岩1点である。2点は赤化が確認され、内1点はタール状の黒色付着物が確認されている。総重量は1,770g（平均重量196.6g）である。

##### 2号 磚 群

E-2グリッド内で、第Ⅰスコリア層から検出した。南北0.7m、東西0.7mの範囲に11点の礫が傾斜に添うように集中して出土している。石材は輝石安山岩5点、玄武岩3点、玄武岩（多孔質）3点である。4点は赤化が確認されている。総重量は440g（平均重量40.0g）である。

##### 3号 磚 群

C-7・8～D-7・8グリッド内で、第Ⅰスコリア層から検出した。南北4.1m、東西2.4mの範囲に9点の礫が傾斜に添うように散漫に出土している。石材は6点が玄武岩、3点が輝石安山岩である。6点は赤化が確認されている。総重量は810g（平均重量90.0g）である。

#### 2. 遺 物

##### (1) 石 器 (第11図)

旧石器時代の包含層（体場層以下）から出土した石器は13点である。内訳は、礫1点、石刃1点、剥片3点、礫石器7点、嵌入石材1点である。遺物量も少なく、他の愛媛山麓の遺跡同様遺物の上下動がみられたため、文化層・石器製作時期について言及できなかった。

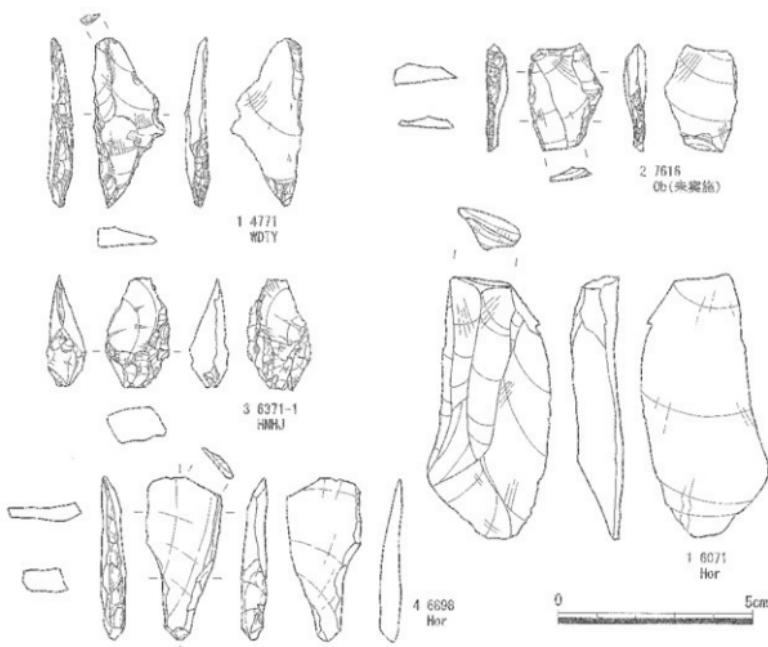
ナイフ形石器は4点出土しているが、縄文時代の包含層と考えられる富士土層から2点、栗色土層から1点、表層が1点となっている。

##### ナイフ形石器 (第11図1～4)

ナイフ形石器は4点出土している。1～3は黒曜石製である。1・2は石刃を素材とした二側縁加工のナイフ形石器で、主要剥離面打点部を先端としている。リングの方向から、主要剥離面の打点部を断つようにプランティングを施していると考えられる。いずれも器体中央が張り出しており、左側縁部は基部から先端にかけて、右側縁部は張り出し部分までプランティングを施している。1は主要剥離面の基部側に平坦剥離をおこない形状を整えており、先端部は折損している。2の基部は折損し、先端部は欠損している。3は肉厚な横長剥片を素材とする一側縁加工のナイフ形石器である。右側縁部から基部にかけてプランティングを施している。産地同定の結果、1は和田鷹山群、3は箱根烟窓群となってい。2は产地同定をおこなっていないが、肉眼鑑定から信州系の黒曜石だと推定される。4はホルンフェルス製の横長剥片を用いた切出形石器である。右側縁部中央から基部にかけては主要剥離面側から、左側縁部は表面からプランティングを施している。右側縁部のプランティングは主要剥離面の打点及びバブルを断つように施されている。器体先端部は折損している。

石 刃 (第11図 1)

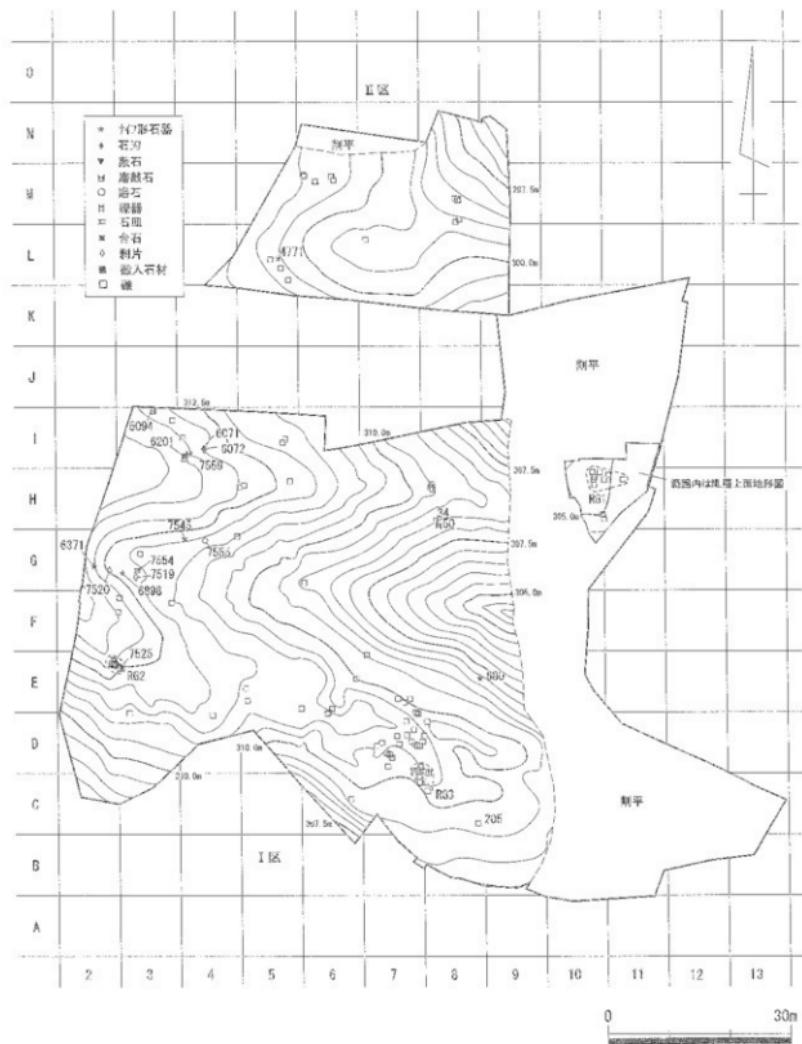
ホルンフェルス製の肉厚で大型の石刃が、休場層中位から1点出土している。



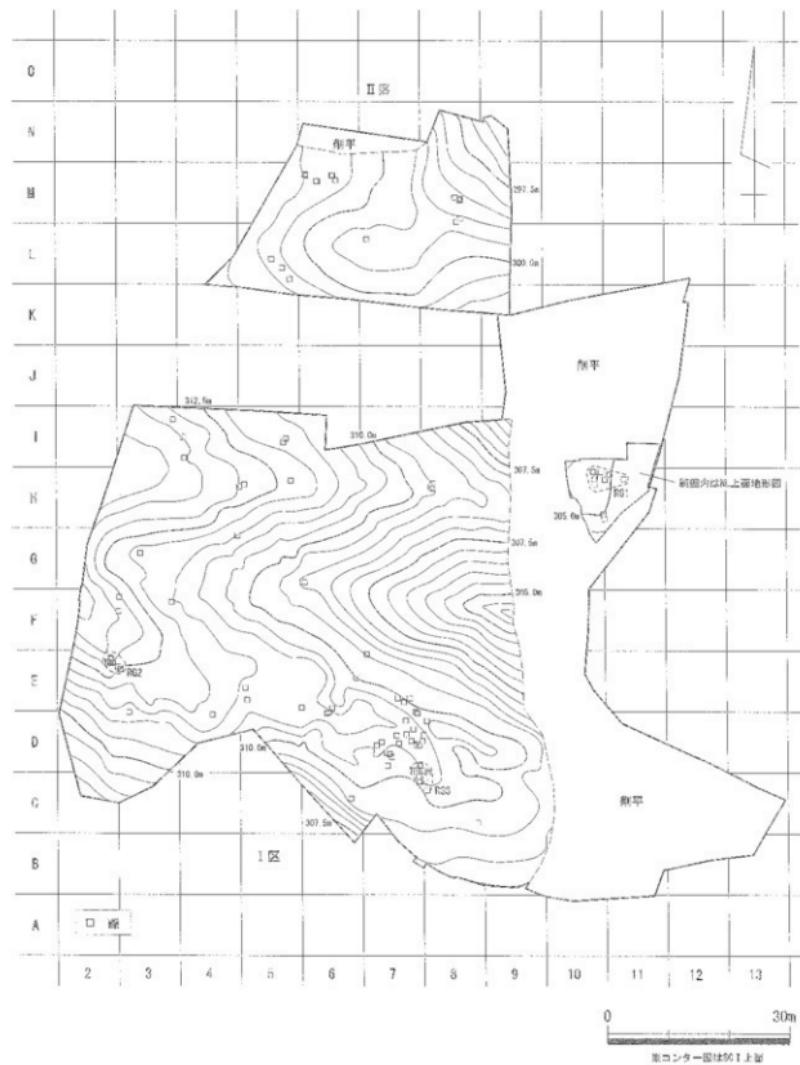
第11図 旧石器時代出土遺物

第6表 旧石器石材・器種組成

O5		ナイフ形石器	石刃	断口	断面	磨擦石	敲打石	破壊器	石皿	台石	調片	合計
	HNU	1										1
	SWHD											2
	WDTY	1										1
	产地同定未実施	1										1
	Hor	1	1									3
	An(Py)			1	2				1			4
	Ba			1	1	1	1					4
	合計	4	1	1	3	1	1	1	1	1	3	16



第12図 拙石器時代遺物分布



第13図 硬群及び礫分布

## 1号砾群 (RG1)



## 2号砾群 (RG2)



## 3号砾群 (RG3)



第7表 砾群構成礫集計

砾群名	個数(点数)	赤化(点数)
1号砾群	29	2
2号砾群	11	4
3号砾群	9	6

第14図 砾 群



## 第4節 縄文時代の遺構と遺物

### 1. 遺構

ここでは、縄文時代の遺構を一括して報告する。

検出した遺構は、竪穴住居跡1基、土坑107基、集石遺構6基、焼土5基であった。竪穴住居跡は、調査区第1区の丘陵北端部緩斜面に位置し、その他の遺構は住居跡南側から南東側に伸びる尾根筋と調査区第1区の東側・北側の緩斜面上から検出した。

なお遺物に関しては、遺構内より出土した土器・Tool類は全点を図化、出土状況と共に報告し、甕片類・炭化物は、遺構図上に検出位置と遺物番号を、礫は遺構図上に検出位置のみを記した。なお、石器集中部に関しては木節では扱わず、第2節遺物編に記載した。

#### (1) 竪穴住居跡（第16図～17図）

縄文時代中期の遺構と考えられる竪穴住居跡1基を、調査区第1区丘陵北端部の緩斜面（H-7・8グリッド）から検出した。

住居跡の平面形態は長軸を北北西～南南東とする橢円形をしている。長軸5.72m、短軸4.62m、残存する壁の高さは最高0.36mで、標高の高い西側から東側に向かって若干低くなる。柱穴と考えられる小穴は6基、長軸を挟むように2列各3基がほぼ並行に並ぶ。柱穴6の上面からは柱穴を部分的にふさぐ形で石皿3624が出土している。

覆土はカワゴ平バミスを含む暗褐色土と、炭化物を含む暗褐色土の2層で構成され、標準土層第9層（YLU）を掘り込む形で検出された。ただし、第1層は被浸層の可能性がある。床面は、混土が遺構の底にへりつくように検出されていること、他の覆土に粘性が見られないこと、石窯い炉の検出面であることから、粘性のある黄褐色土（第16図覆土3）の上面であると考えられる。

石窯い炉は住居跡の中央北寄りに位置する。平面形態は一边が0.4mの方形で深さ0.1mを測る。北側の炉石が欠損しており、その影響からか炭化物を含み黒色化した土が主に炉の北側に広がっている。

炉石3点はいずれも輝石安山岩である。被熱は弱いが、炉石上部～内側にスス状の黒色付着物が認められる。炉内焼土も残存しており、珪の使用が確認された。

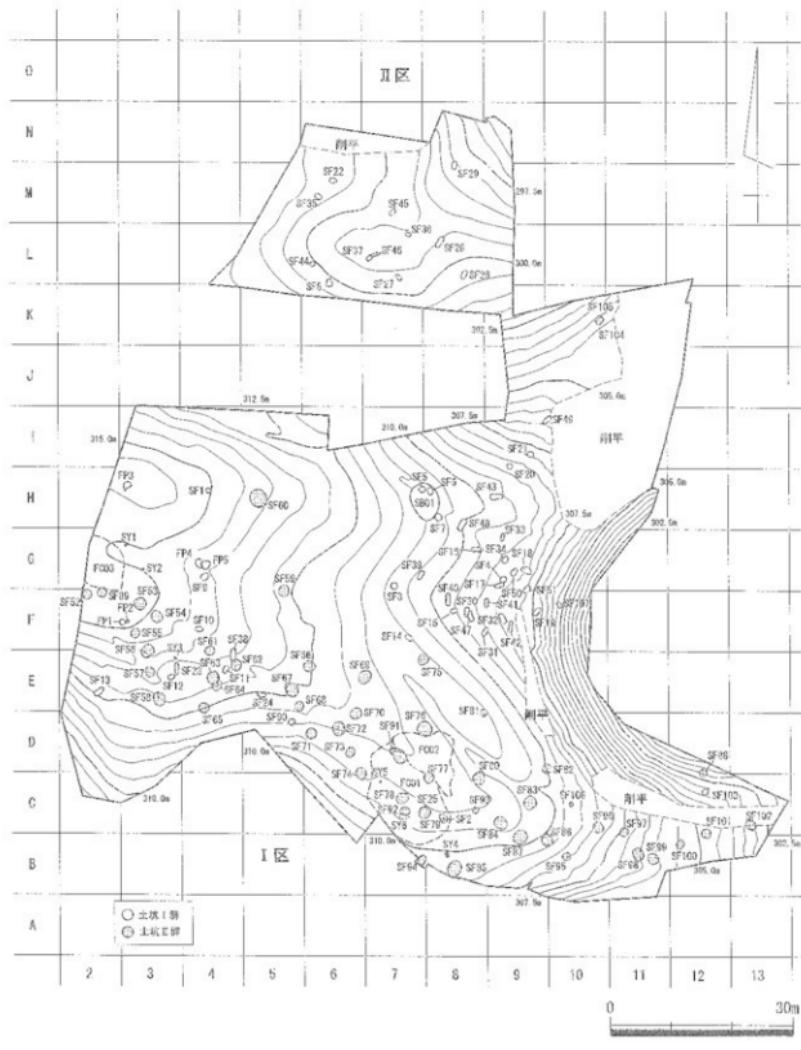
遺構内遺物は17点が出土した。内訳は土器片2点、打製石斧3点、礫石器2点、甕片2点、礫5点である。

土器は床面直上から藤内式の浅鉢97が1個体出土した。遺構外との接合関係は認められなかった。

打製石斧は3点出土した。接合関係を第16図に示す。

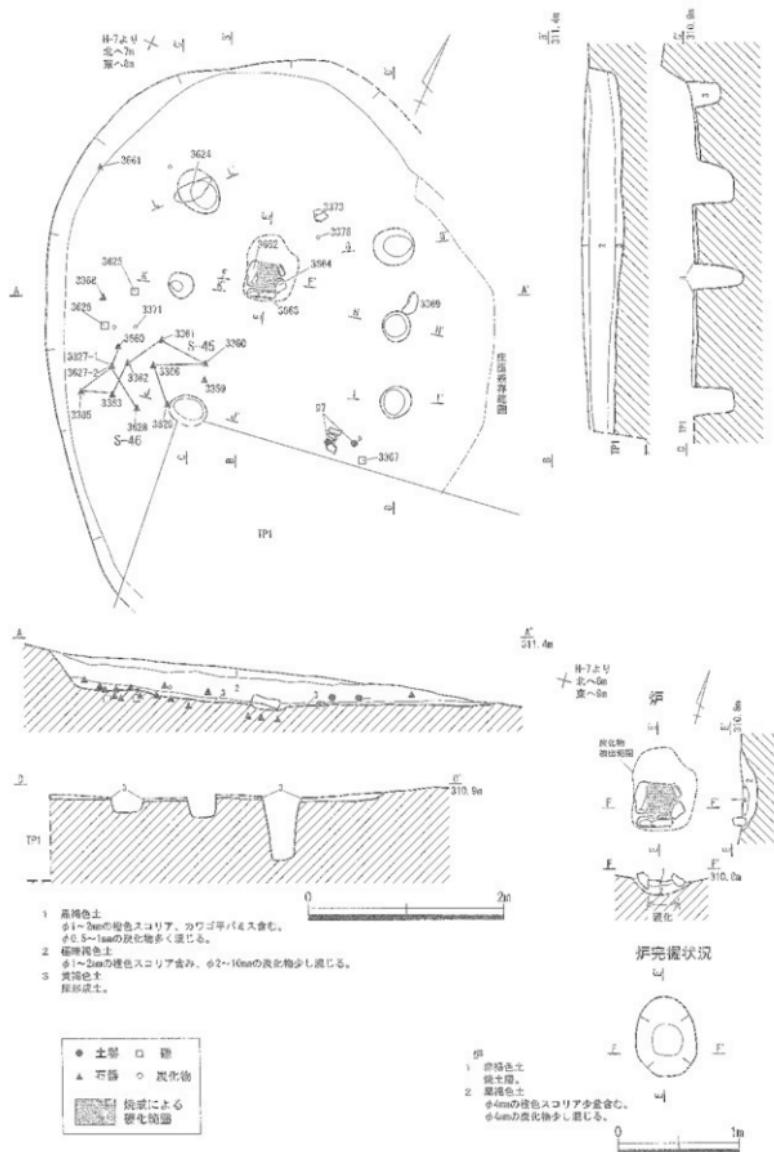
礫石器は2点出土した。台石3624については、石材が他の炉石3点と同じであること、形状が炉石3662に類似している点から、欠損している炉石の可能性がある。しかし、黒色付着物がなく被熱も判断できなかった点、磨痕・敲打痕が確認された点から台石として扱った。同様に台石3369についても炉石の可能性があるが、黒色付着物がなく、被熱も確認できなかつた点、磨痕・敲打痕が確認された点から台石として扱つた。また、3369は何らかの作業台として使用された可能性と共に磨擦石のような使われ方をしていた可能性がある。甕片は2点出土した。3359は鈍粒安山岩、3661は黒曜石である。

また、住居跡床面直上より出土した炭化物2点を（株）加速器分析研究所に<sup>14</sup>C年代測定及び樹齢同定を依頼した。結果を附録分析2に掲載する。歴年較正年代値は、3376：4,352±37yrBP、3371：4,564±39yrBPの値を示した。



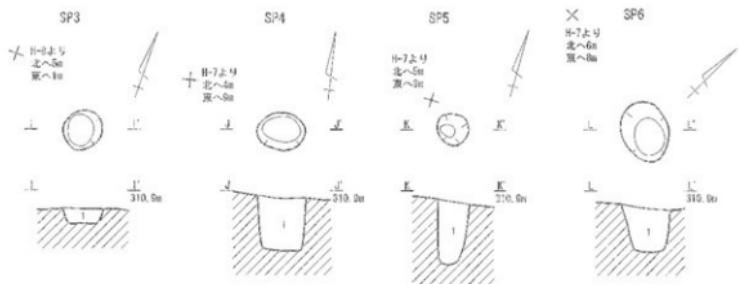
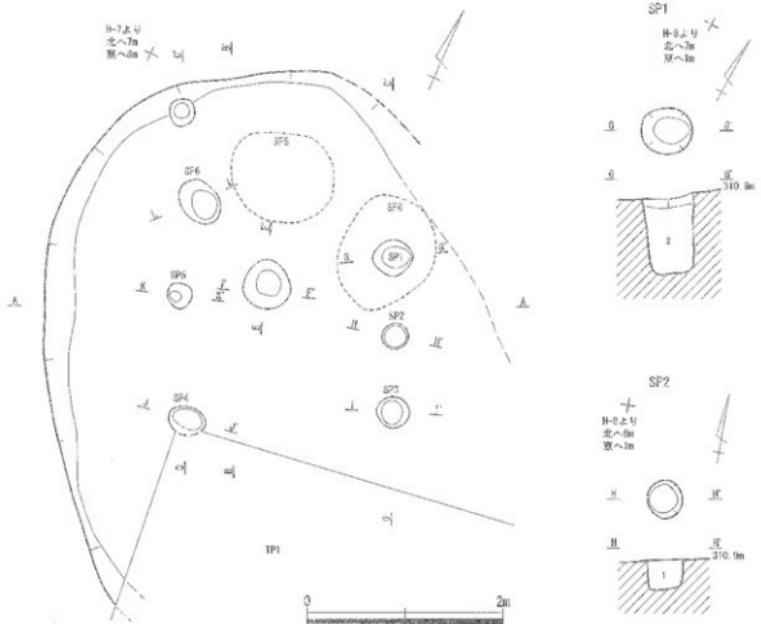
第15図 挿文時代遺構配盤

## 1号住居跡 (SB1)



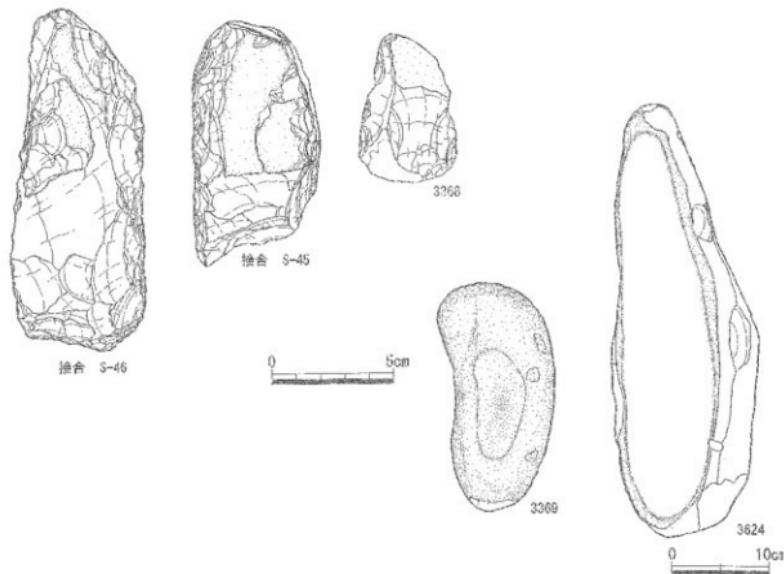
第16図 1号住居跡

SB1掘方完掘状況



1 黒褐色土  
2 淡褐色土  
3 灰褐色土  
1層と同質であるが、やや細い色調。

第17図 1号住居跡完掘状況



第18図 住居跡出土遺物

第10表 住 居 駄

建物 番号	地区	検出区域 (グリッド)	検出 層位	平面 形態	主軸 方位	新旧關係	長軸 (m)	短軸 (m)	最大深 (cm)	穿孔 穴数	炉・窯 形態	出土遺物
1号 住居 区	I	H-7・8	YIJU 層	長辺 円形	北北 西	S345より古 S348より新	(5.72)	(4.52)	(0.90)	(6)	楕円形 石組	土器2点、石器20点、礫3点 炭化物4点 計29点

## (2) 土 坑 (第19図～44図)

調査の結果、縄文時代の遺構と考えられる土坑は107基検出された。その多くが調査区第I区西端より南東に伸びる枝尾根上(以下尾根A)、及び調査区第I区東側の谷へ続く緩斜面(以下斜面B)から検出されている。そのほか、調査区第II区の斜面(以下谷C)からも検出された。

土坑の形状は、底面が長方形～複円形のものと円形のものがあり、更に遺構内に小穴を持つものと持たないものに分類できる。また、自然堆積によって埋没したと考えられるものと、人為的に埋め戻された可能性があるものに分類できる。

遺物は46基の土坑より主器10点、石器19点、礫111点、計140点が出土している。個々の遺物については後述する。

遺構の構築時期については、覆土・検出状況の情報のみで詳細な時期特定は不可能であり、遺物が出土した土坑についても、他の土坑と同様に判断材料に乏しく時期の特定には至らなかった。

ここでは、カワゴ平パミスを含む暗褐色土(以下第5層)の掘り込みの有無にて時期を大別、底部の形状・覆土により小洞し、遺物の出土状況を含めて報告する。ただし、検出面が低かったことから判然としないものの、形状・立地および覆土の状況から第5層を掘り込む形で検出された一群に関わる時期の遺構と推測されるものについてはII群に分類し、一括して報告する。ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

### I群 第5層より下層にて検出されたもの

- a類 底部の形状：円形
- b類 底部の形状：長方形～複円形 覆土多層
- c類 底部の形状：長方形～複円形 覆土単層
- d類 底部の形状：複円～長方形 小穴が検出されたもの

### II群 第5層を掘り込む形で検出されたもの

- a類 底部の形状：円形～複円形
- b類 底部の形状：円形～複円形 小穴が検出されたもの
- c類 底部の形状：円形～複円形

検出面が低かったことから判然としないが、形状・立地および覆土の状況から第5層を掘り込む形で検出された一群に関わる時期の遺構と考えられるもの。

- d類 底部の形状：不定形・不詳

検出面が低かったことから判然としないが、立地および覆土の状況から第5層を掘り込む形で検出された…群に関わる時期の遺構と考えられるもの。

### I群 第5層より下層にて検出されたもの(第19図～27図)

第I群に分類される土坑は49基検出された。これらの土坑は斜面Bと谷Cから検出され、カワゴ平パミスを含む層に被覆されている点、ローム層が覆土に含まれていない点から縄文時代早期～中期に属する可能性がある。形状は多様であり、以下、底部の形状・覆土の状況により5類に分類し報告する。

#### a類 底部の形状：円形(第19～20図)

1～8号土坑がこれに該当する。

2号土坑の覆土中より磨石1点・磨石1点・礫2点が出土している。覆土は单層で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

4号土坑の覆土中より石皿1点が出土している。覆土最上層からの出土であるが、重量から考えると流れ込みとは判断し難く、土坑の埋没過程で土坑内に破棄された遺物の可能性が考えられる。

5・6号土坑は住居跡内から検出された。住居跡との切り合い関係から構築時期は、6号土坑は住居

構築以前、5号土坑は住居構築以後であると考えられる。

b類 底部の形状：長方形～楕円形 覆土多層（第20～22図）

9～22号土坑がこれに該当する。

12号土坑の覆土中より黒縞石製の剥片1点が出土しているが、覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

13号土坑の覆土中より土器2点が出土している。2は捺条文が施され、39は条痕文が施されている。

2は早期中葉、39は早期中葉の遺物であると考えられる。土器2点は覆土最下層から出土しており遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

18号土坑の覆土中より土器1点・礫1点が出土している。57は縞文が施されており、前期中葉の遺物と考えられる。遺物は覆土上層から出土しており流れ込みだと考えられる。

c類 底部の形状：長方形～楕円形（第22図）

1群 c類は、人為的に埋め戻された可能性がある。また墓壙の可能性がある。

23～34号土坑がこれに該当する。

23号土坑の覆土中より土器1点・礫1点が出土している。28は茅山上層式の土器と考えられ、早期後葉の遺物と考えられる。覆土は単層で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

28号土坑の覆土中より礫2点が出土している。覆土は単層で礫2点は遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

d類 底部の形状：橢円～長方形 小穴が検出されたもの（第24～27図）

小穴1基（35～37号土坑）、2基（38～46号土坑）、3基（47号土坑）、4基（48号土坑）、がこれに該当する。

40号土坑の覆土中より礫1点が出土している。覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

42号土坑の覆土中より磨石1点が出土している。覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

43号土坑の覆土中より礫1点が出土している。覆土は単層で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

47号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は遺構内小穴からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

e類 底部の形状：不定形 a～e類に属きないもの（第27～28図）

49～51号土坑がこれに該当する。

51号土坑の覆土中より礫1点が出土している。覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

II群 第5層を掘り込む形で検出されたもの（第28図～44図）

第II群に分類される土坑は58基検出された。これらの土坑は縞文時代後期以降に属する可能性があり、主に尾根Aに添うように幅10m～30m長さ約120mの範囲で検出された。検出状況から、尾根筋に添つて更に上下に広がって分布している可能性がある。

以下、形状及び覆土の状況により4類に分類し報告する。

a類 底部の形状：円形～楕円形（第28～40図）

52～87号土坑がこれに該当する。

52号土坑の覆土中より甕器1点・礫5点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

53号土坑の覆土中より石皿1点・礫3点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

54号土坑の覆土中より礫4点・炭化物1点が出土している。炭化物は土坑内下層から出土しており、遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。炭化物4098は(株) 加速器分析研究所にて<sup>14</sup>C年代測定依頼した。結果を附録分析2に掲載する。暦年較正年代値は2,860±40yrBPという結果を得ている。

55号土坑の覆土中より磨石1点・石皿1点・礫3点が出土している。礫1点は覆土最下層からの出土であるため遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。それ以外の遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

56号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

58号土坑の覆土中より石皿1点・礫5点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

59号土坑の覆土中より礫4点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

60号土坑の覆土中より土器1点・石皿1点・礫1点が出土している。P4902は擦糸文が施されており、早期の遺物と考えられるが、小片のため詳細は不明である。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

61号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

63号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

64号土坑の覆土中より黒磨石製の剥片1点・礫5点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

66号土坑の覆土中より土器1点・石皿1点・礫1点が出土している。1は擦糸文が施されており、早期前半の遺物と考えられる。遺物は覆土中層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

67号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

69号土坑の覆土中より土器1点・礫3点が出土している。I38は、遺構外E-7グリッド出土の土器2点と接合している。土器は後期の遺物と考えられる。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

70号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

72号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

73号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土最下層からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

74号土坑の覆土中より打製石斧1点・磨削石1点・礫2点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

75号土坑の覆土中より礫1点が出土している。

76号土坑の覆土上中より土器3点・楔形石器1点・黒磨石製の剥片7点・磨削石1点・礫7点が出土している。56は清水ノ上II式斜行の土器と考えられ、遺構外D-7グリッド及び78号土坑出土の土器と接合している。前期前半の遺物と考えられる。114は縹内式の土器の底部と考えられ遺構外D-7グリッド出土の土器と接合している。P1145は小片のため詳細不明だが、出土状況から前期以降の遺物と考えられる。

遺物は全て覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

77号土坑の覆土中より、ホルンフェルス製の剝片1点が出土している。遺物は覆土最下層からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

78号土坑の覆土中より土器1点・黒縞石の剝片3点・礫5点が出土している。56は清水ノ上II式併行の土器と考えられ遺構外D-7グリッド及び76号土坑出土の土器と接合している。前期前半の遺物と考えられるが、遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

79号土坑の覆土中より黒縞石型の剝片2点・礫2点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

80号土坑の覆土中より礫2点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

81号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土中層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

84号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

85号土坑の覆土中より礫4点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

87号土坑の覆土中より石皿1点・礫3点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

b類 底部の形状：円形～梢円形 小穴が検出されたもの（第40図）

88号土坑がこれに該当する。

c類 底部の形状：円形～梢円形（第40～44図）

検出面が低かったことから判然としないが、形状・立地および覆土の状況から第5層を掘り込む形で検出された一群に関わる時期の遺構と考えられるもので、89～103号土坑がこれに該当する。これらの土坑はII-a類と覆土・形状および覆土が似通っており、II-a類土坑群の一部であると推測される。

II群c類に分類した土坑のうち103号土坑はII群b類に、それ以外の土坑はII群a類に該当すると考えられる。

89号土坑の覆土中より磨礫石3点・石皿1点・礫4点が出土している。4573磨礫石・4947磨礫石・4962石皿及び礫1点は覆土最下層からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。他の遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

91号土坑の覆土中よりホルンフェルス盤の剝片1点・黒縞石型の剝片2点・磨礫石1点・礫16点が出土している。1840剝片及び礫5点は覆土最下層からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。上記以外の遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

92号土坑の覆土中より打製石斧1点・磨礫石1点・礫5点が出土している。遺物は覆土中・上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

94号土坑の覆土中より黒縞石型のスクレイバー1点が出土している。遺物は覆土最下層からの出土で遺構の構築時期に関わる資料の可能性がある。

97号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土上層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

101号土坑の覆土中より礫1点が出土している。遺物は覆土中層からの出土のため流れ込みだと考えられる。

103号土坑内からは小穴が1基検出されている。II群から小穴が検出された土坑は、近接した位置か

ら検出された**107**頸の88号土坑のみである。

d 頸 底部の形状：不定形・不詳（第44図）

検出面が低かったことから判然としないが、立地および覆土の状況から第5層を掘り込む形で検出された一群に属する時期の遺構と考えられるもので104～107号土坑がこれに該当する。

104・105・107号土坑については削平により上部が失われていると考えられる。また、切り合いにより105号土坑が104号土坑より古い時期の土坑であり、105号土坑の覆土に仙石スコリアが多く含まれていることから、本來の掘り込み面は高かったと判断した。

106号土坑についても、覆土に仙石スコリアを多く含んでいる。

(3) 集 石（第47図）

集石遺構は6基、全てが調査区第1区西端より南東に伸びる尾根筋の比較的平坦な場所から検出された。

6号集石のみが土坑を伴っている。覆土には炭化物粒が含まれているが、明確な焼土は確認できず、火を焚いた痕跡も見あたらない。1～5号集石において検出された礫は平面的に検出され、レベル差はなく土坑も伴わない。遺物は3号集石より土器1点が出土している。29は茅山上層式土器と考えられる。

(4) 焼 土（第48図）

焼土は5基、集石遺構と同じく調査区第1区西端より南東に伸びる尾根筋の比較的平坦な場所から検出された。焼土は焼土粒を含む焼り込みを持つものを分類した。竪穴住居跡等他の遺構との直接的な関連は認められず単独で検出されている。以下、平面形態により2群に分類した。

I群 平面形態が円形のもの（1・2号焼土）

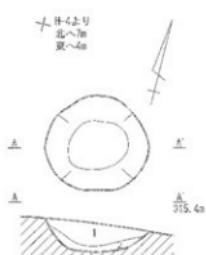
II群 椭円形を呈するもの（3～5号焼土）

明確な焼土層を持つものは1・2号焼土2基のみである。1号焼土より検出された炭化物5014は（株）加速器分析研究所による<sup>14</sup>C年代測定法により曆年較正年代値は8,077±48yrBPという結果を得ているが、遺構覆土がKUまたはFB相当層であることから、焼土形成以前の炭化物が混入していたと考えられる。

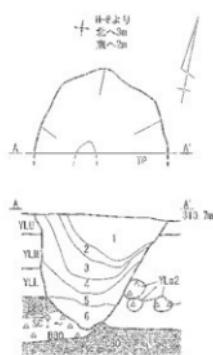
3号焼土より土器片2点、礫1点が出土している。58・P3918は諸磯式土器と考えられる。同一個体の可能性があるが接合関係は認められなかった。

5号焼土より検出された炭化物6111は（株）加速器分析研究所による<sup>14</sup>C年代測定法により、曆年較正年代値は3,810±38yrBPという結果を得ており、縄文時代中期の遺構であると考えられる。

1号土坑 (SF1)

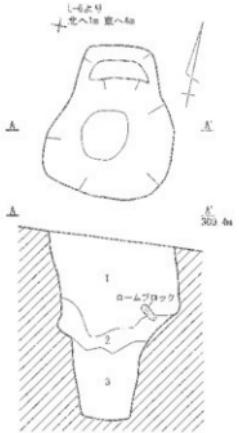


7号土坑 (SF7)



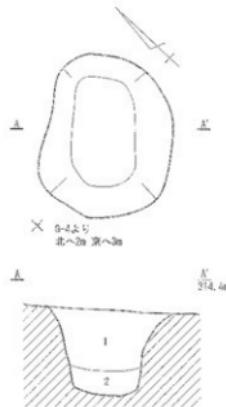
- 黄褐色土  
φ2~3mの褐色スコリア含む。
- 黄褐色土。
- 黄褐色土  
炭化物少混じる。  
約7mのローム層少混じる。
- 黄褐色土  
スコア痕は僅とんど含まれず。
- 褐色土。
- 褐色土  
φ2~3mの褐色スコリア少含む。
- 褐色土  
φ2~3mの黒色スコリア多く含む。

8号土坑 (SF8)



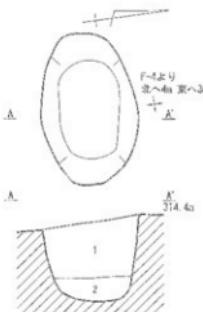
- 褐色土  
φ2~4mの褐色スコリア少含む。  
φ1~2mの炭化物少混じる。
- 褐色土  
φ2~3mの褐色スコリア少含み。  
φ1~2mの炭化物少混じる。
- 褐色土  
φ2~5mの褐色スコリア少含み。  
φ1~2mの炭化物少混じる。

9号土坑 (SF9)



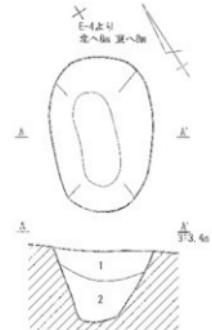
- 黄褐色土  
φ2~4mの褐色スコリア少含む。
- オリーブ褐色土  
φ2~10mの緑色ローム多く混じる。

10号土坑 (SF10)



- にぶい炭化土  
褐色スコリア少含む。
- にぶい炭化土  
褐色スコリア少少含む。  
φ2~4mの褐色ローム少混じる。

11号土坑 (SF11)



- 褐色土  
φ1~2mの灰を少混じる。  
褐色ローム少混じる。
- 褐色土  
φ1~2mの炭化物少混じる。  
褐色ローム少混じる。

12号土坑 (SF12)



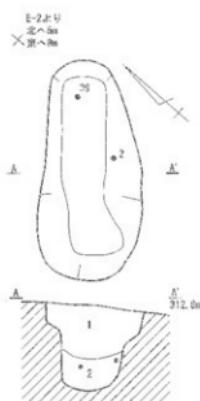
- 褐色土  
φ1~2mの炭化物少混じる。  
φ2~5mの褐色ローム少少含む。
- 褐色土  
φ1~2mの褐色土少混じる。  
褐色ローム少混じる。

▲ 石器



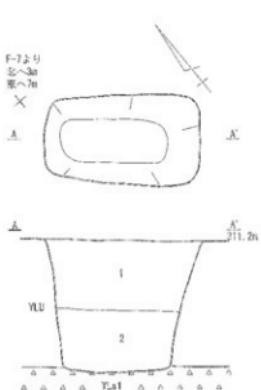
第20図 土 坑 2

13号土坑 (SF13)



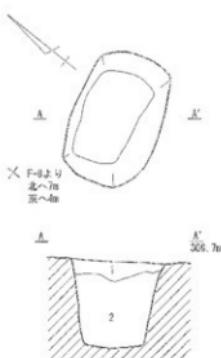
- 1 黄褐色土  
φ2~4cmの褐色スコリア多量に含む。
- 2 黄褐色土  
1層に褐色ロームが多く混じる。

14号土坑 (SF14)



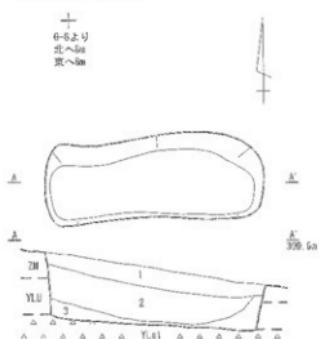
- 1 淡褐色土  
褐色スコリア少量含む。  
φ3~4cmの炭化物多く混じる。
- 2 淡褐色土  
褐色スコリア少しあみ。  
φ1cmの炭化物少量混じる。

15号土坑 (SF15)



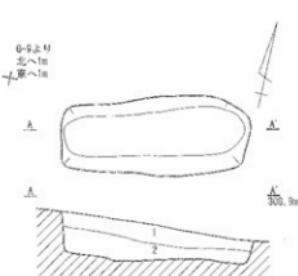
- 1 灰褐色土  
φ2~3cmの褐色スコリア少量含む。
- 2 灰褐色土  
φ3~4cmの褐色スコリア少量含む。  
上部はφ3cmの灰褐色土ブロック埋せる。  
下部はやや緑色。

16号土坑 (SF16)



- 1 淡褐色土  
φ1cmの褐色スコリア含み、カワゴ平バスク多量に含む。炭化物混じる。
- 2 黄褐色土  
1層より混入物少ない。
- 3 黄褐色土  
φ1cmの褐色スコリア、炭化物少しある。

17号土坑 (SF17)



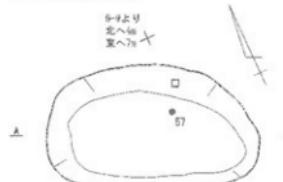
- 1 淡褐色土  
褐色スコリア少しあり、カワゴ平バスク多量に含む。  
φ1cmの炭化物多く混じる。
- 2 淡褐色土  
φ1~3cmの褐色スコリア少しある。

● 土壠



第21図 土 坑 3

18号土坑 (SF18)



1. 棕褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少含む。  
2. 黄褐色土  
φ4mmの褐色スコリア含む。



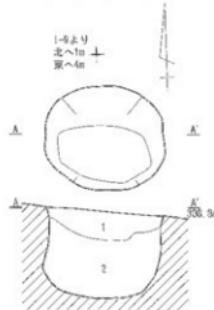
1. 黑褐色土  
φ2~10mmの褐色スコリア多く含む。  
2. 灰黄褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア含む。

19号土坑 (SF19)



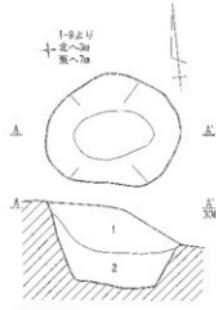
30.4m

20号土坑 (SF20)



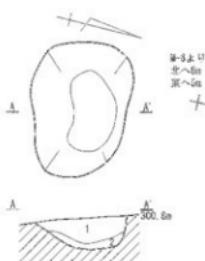
1. 黑褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少含む。  
2. 灰黄褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア含む。

21号土坑 (SF21)



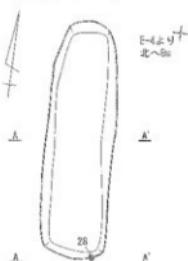
1. 棕褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア多く含む。  
2. 灰黄褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少含む。

22号土坑 (SF22)



1. 黑褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少含み、  
φ1mmの鉄化物多量に混じる。  
2. 棕褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少含み、  
φ1~2mmの鉄化物少量混じる。

23号土坑 (SF23)



1. 黄褐色土  
カーボナリマス、φ1~3mmの  
褐色スコリア多量に含む。  
φ1mmの鉄化物極少混じる。

24号土坑 (SF24)

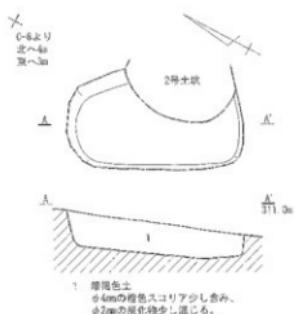


1. 棕褐色土  
φ1mmの鉄化物少量混じる。  
φ3mmの褐色ローム极少混じる。  
下層はやや褐色。



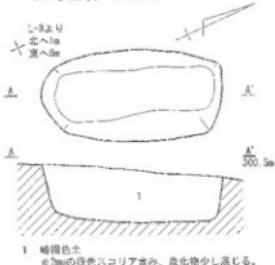
第22図 土坑 4

## 25号土坑 (SF25)

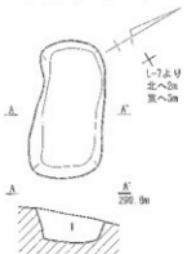


## 26号土坑 (SF26)

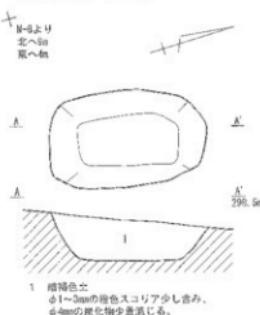
## 26号土坑 (SF26)



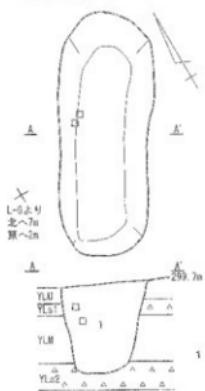
## 27号土坑 (SF27)



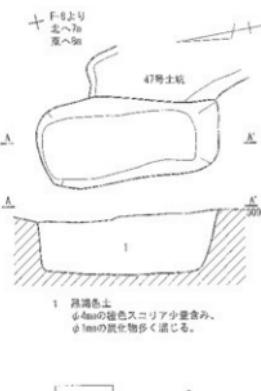
## 29号土坑 (SF29)



## 28号土坑 (SF28)

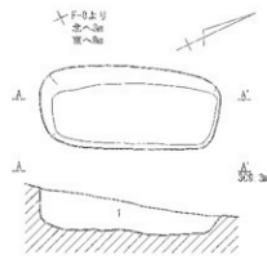


## 30号土坑 (SF30)



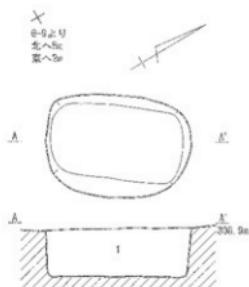
第23図 土坑 5

31号土坑 (SF31)



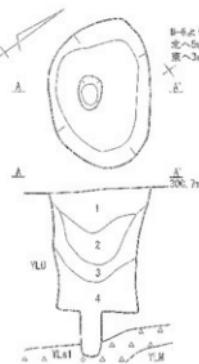
1 黄褐色土  
φ4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1mmの炭化物少量混じる。

34号土坑 (SF34)



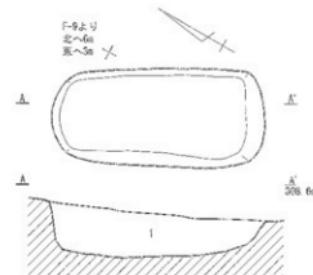
1 褐褐色土  
φ2~3mmの褐色スコリア少しあり。  
下部はやや暗色。

35号土坑 (SF35)



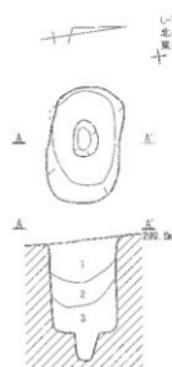
- 1 黄褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1mmの炭化物少量混じる。
- 2 暗褐色土  
φ2~3mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~3mmの炭化物少しある。
- 3 褐褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ2mmの炭化物少しある。
- 4 黑褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ2mmの炭化物少量混じる。

32号土坑 (SF32)



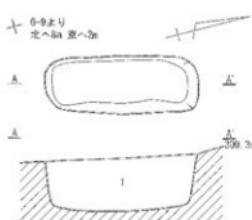
1 黑褐色土  
φ2mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1mmの炭化物多量に混じる。

36号土坑 (SF36)



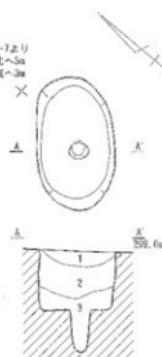
- 1 褐褐色土  
φ3~5mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~2mmの炭化物少量混じる。
- 2 灰褐色土  
φ2~5mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1mmの炭化物少量混じる。
- 3 黑褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~4mmの炭化物少量混じる。

33号土坑 (SF33)



1 にふい黄褐色土  
φ2~3mmの褐色スコリ少しある。

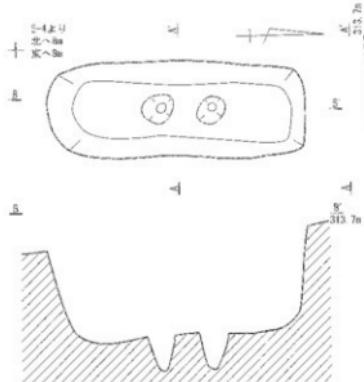
37号土坑 (SF37)



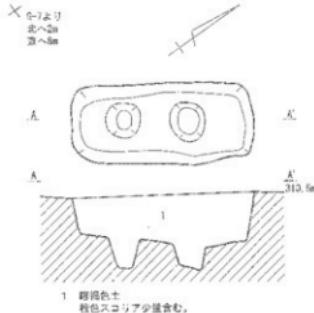
- 1 黑褐色土  
φ2mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~2mmの炭化物少量混じる。
- 2 にふい黄褐色土  
φ2~5mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~2mmの炭化物少量混じる。
- 3 褐褐色土  
φ2~4mmの褐色スコリア少しあり、  
φ1~2mmの炭化物少量混じる。

第24図 土 坑 6

38号土坑 (SF38)

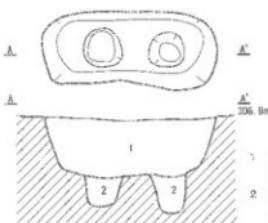


39号土坑 (SF39)

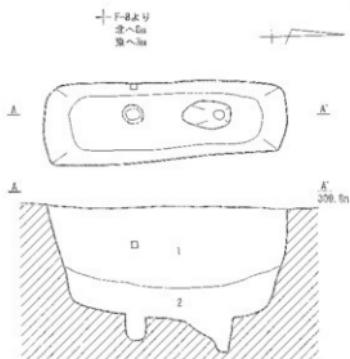


41号土坑 (SF41)

+ F-8より  
北へ3m  
東へ3m

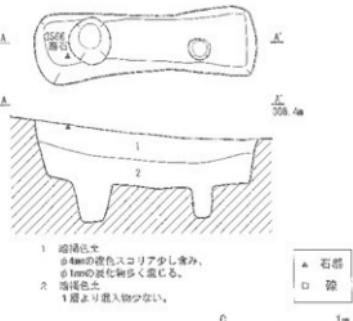


40号土坑 (SF40)



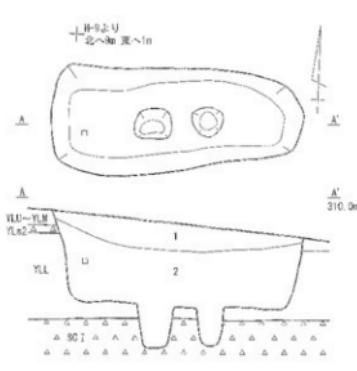
42号土坑 (SF42)

+ F-9より  
北へ3m  
東へ3m



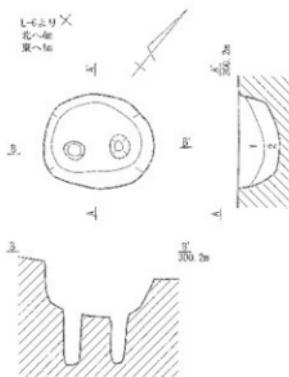
第25図 土 坑 7

43号土坑 (SF43)



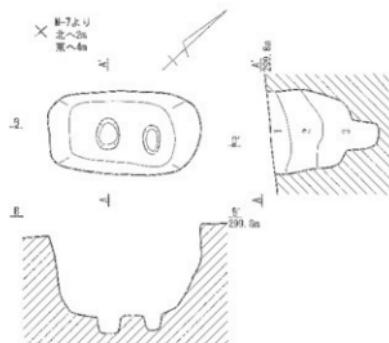
- 1 にぶい黄褐色土  
カワゴギバミス多量に含み、 $\phi 2\sim3$ mmの褐色スコリアが多く含む。  
 $\phi 2\sim6$ mmの炭化物少量混じる。
- 2 褐色土  
 $\phi 2\sim3$ mmの褐色スコリア少し含む。

44号土坑 (SF44)



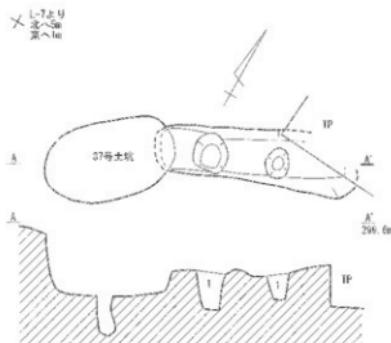
- 1 褐褐色土  
 $\phi 2\sim6$ mmの褐色スコリア少量含み、 $\phi 1\sim2$ mmの炭化物少し混じる。
- 2 にぶい黄褐色土  
 $\phi 2\sim6$ mmの褐色スコリア少し含み、 $\phi 1\sim2$ mmの炭化物少し混じる。

45号土坑 (SF45)



- 1 にぶい褐褐色土  
 $\phi 2\sim6$ mmの褐色スコリア少含み、 $\phi 1\sim2$ mmの炭化物少しある。
- 2 にぶい褐褐色土  
 $\phi 2\sim6$ mmの褐色スコリア少し含み、 $\phi 1\sim2$ mmの炭化物少しある。
- 3 暗褐色土  
 $\phi 1\sim3$ mmの炭化物少量混じる。 $\phi 4\sim20$ mmの褐色土ブロックが断続的に混じる。

46号土坑 (SF46)

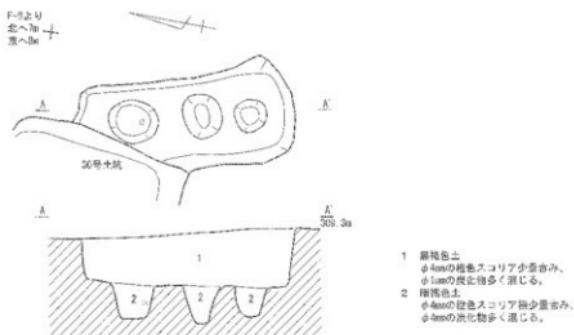


- 1 褐褐色土  
 $\phi 2\sim4$ mmの褐色スコリア少量含み、 $\phi 1\sim2$ mmの炭化物少量混じる。

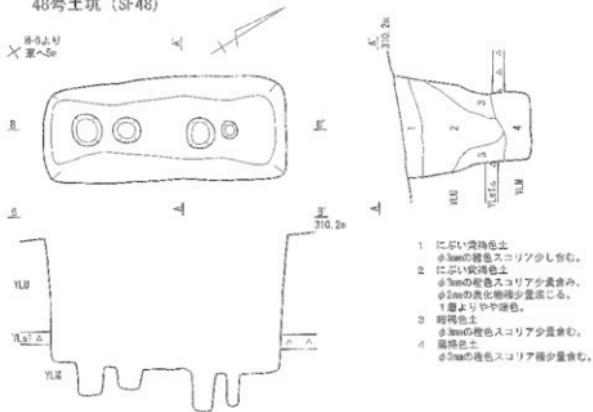


第26図 土 坑 8

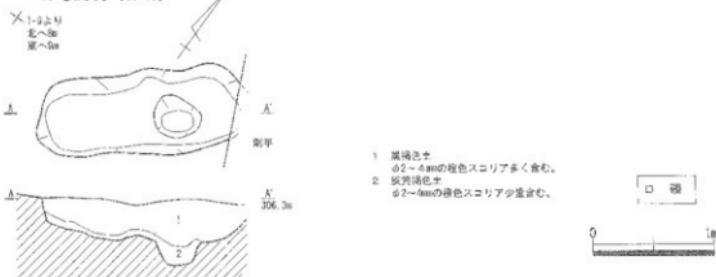
## 47号土坑 (SF47)



## 48号土坑 (SF48)

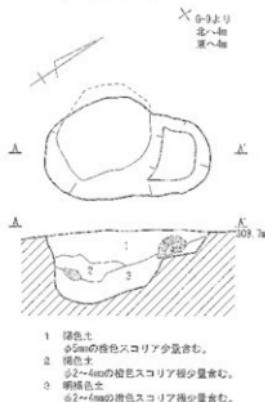


## 49号土坑 (SF49)

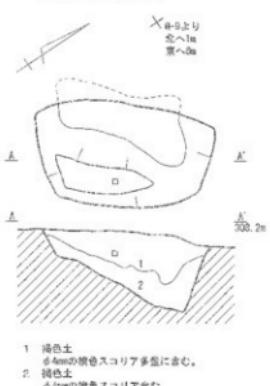


第27図 土坑 9

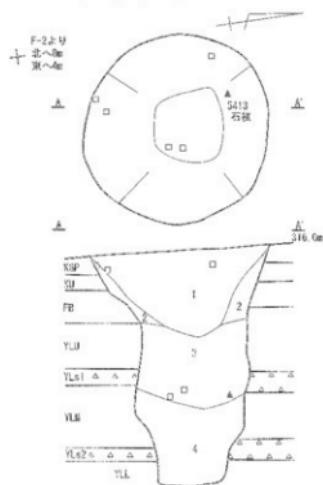
50号土坑 (SF50)



51号土坑 (SF51)



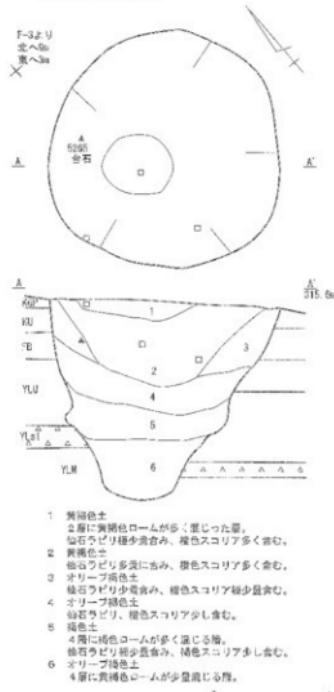
52号土坑 (SF52)



- 1 黄褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア多く含む。  
2 にじいろ褐色土  
仙石ラビリ微量含む。褐色ローム少し混じる。  
3 にじいろ褐色土  
仙石ラビリ、褐色スコリア少し含む。  
4 にじいろ褐色土  
5層に褐色ロームが漸じる層。仙石ラビリ少含む。

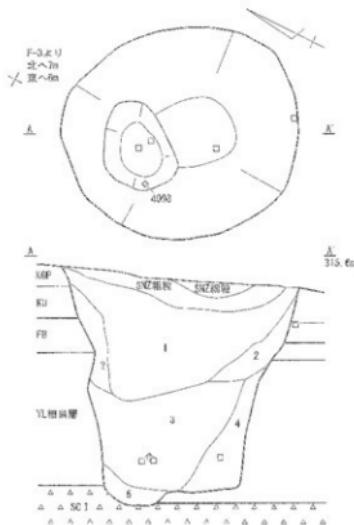


53号土坑 (SF53)



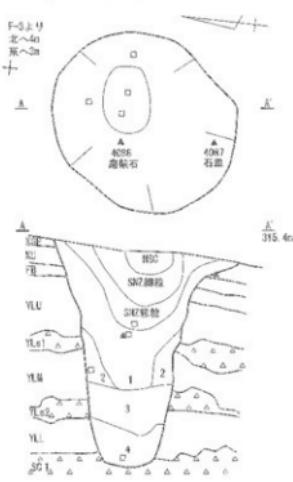
第28図 土坑 10

## 54号土坑 (SF54)

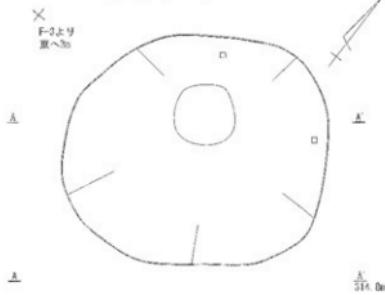


- 1 黄褐色土  
砂岩ラビリ多く含む。  
砂岩スコリア少含む。
- 2 オリーブ褐色土  
砂岩ラビリ少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
砂岩ラビリ少し含む。
- 4 オリーブ褐色土  
砂岩ラビリ少含む。
- 5 オリーブ褐色土  
4層に白色ローム粒が混じった層。

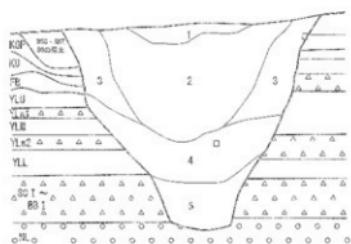
## 55号土坑 (SF55)



## 56号土坑 (SF56)



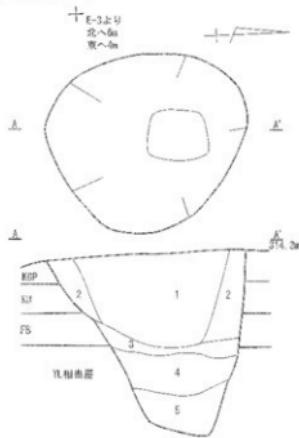
- 1 黄褐色土  
仙石ラビリ多く含み、褐色スコリア少含む。
- 2 黄褐色土  
仙石ラビリ少含み、褐色スコリア少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含み、褐色スコリア少含む。
- 4 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含む。
- 5 オリーブ褐色土  
4層に白色ローム粒が混じた層。仙石ラビリ少含む。



0 1m

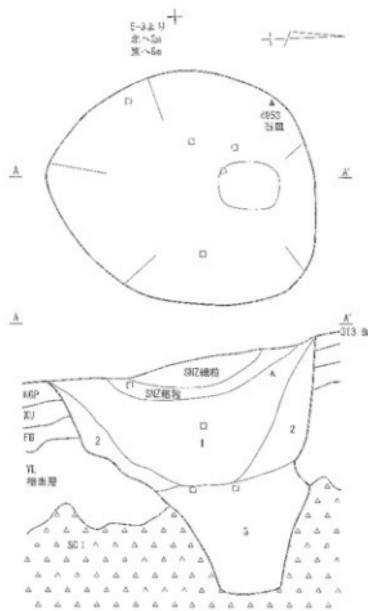
第29図 土坑 11

57号土坑 (SF57)



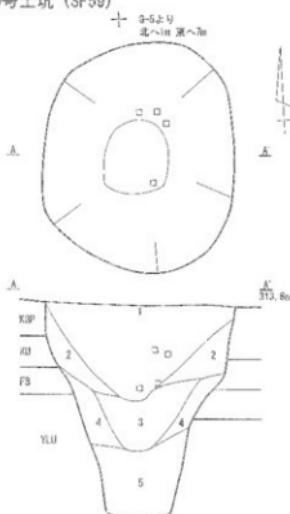
- 1 黄褐色土  
砂石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少量含む。
- 2 黄褐色土  
1層よりやや暗色。砂石ラビリ極少量含み、褐色スコリア多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土  
砂石ラビリ、ムヅガ等が層状に堆積する。  
褐色スコリア少し含む。
- 4 にぶい黄褐色土  
砂石ラビリ、褐色スコリア強少量含む。
- 5 にほい黄褐色土  
4層と同様であるがやや暗色。

58号土坑 (SF58)



- 1 黄褐色土  
砂石ラビリ多量含み、褐色スコリア少し含む。
- 2 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ少量含む。
- 3 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ少量含む。

59号土坑 (SF59)

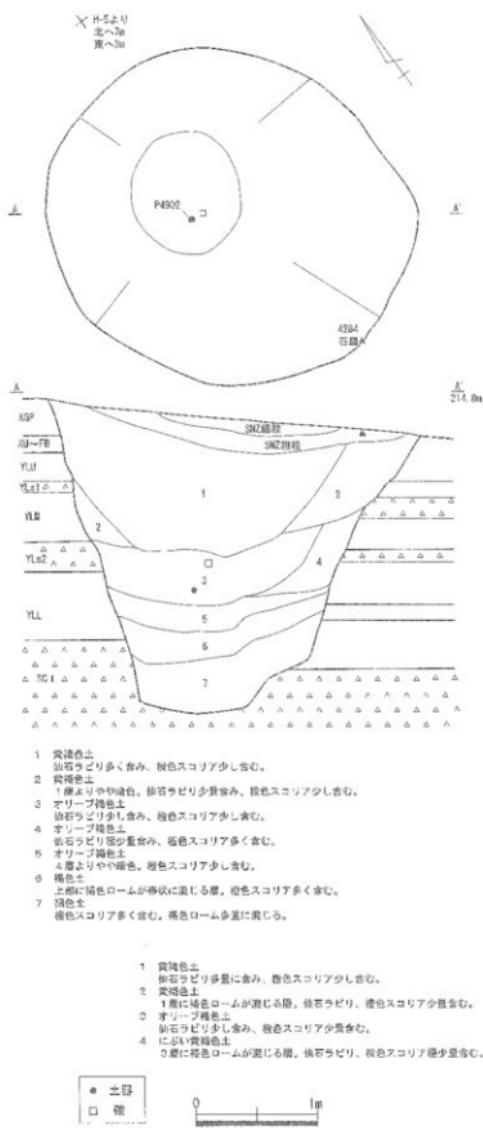


- 1 黄褐色土  
砂石ラビリ多量含み、褐色スコリア少し含む。
- 2 黄褐色土  
1層よりやや暗色。砂石ラビリ少量含み、褐色スコリア少しある。
- 3 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ多く含み、褐色スコリア少しある。
- 4 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ、褐色スコリア少し含む。
- 5 オリーブ褐色土  
3層よりやや暗色。砂石ラビリ少量含み、褐色スコリア少し含む。

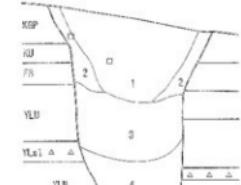
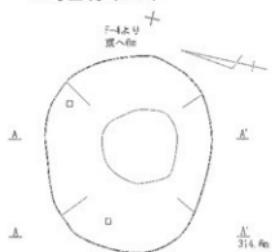


第30図 土 坑 12

## 60号土坑 (SF60)



## 61号土坑 (SF61)



1 黄褐色土 (Yellow-brown soil)

砂岩ラビリ多量に含み、褐色スコリア少し含む。

2 鉄褐色土 (Iron-brown soil)

1層より少含む。砂岩ラビリ少含み、褐色スコリア少く含む。

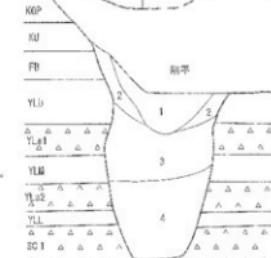
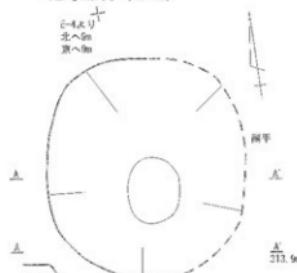
3 オリーブ褐色土 (Olive-brown soil)

砂岩ラビリ少含み、褐色スコリア少含む。

4 オリーブ褐色土 (Olive-brown soil)

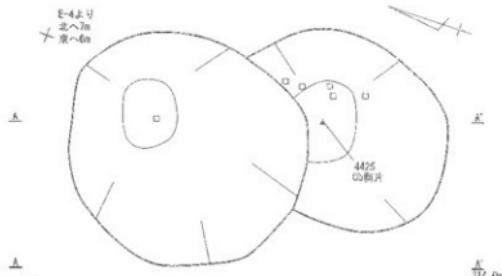
砂岩ラビリ少含み、褐色スコリア少含む。

## 62号土坑 (SF62)

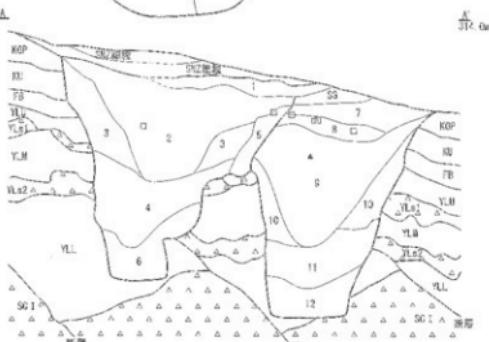


第31図 土坑 13

63号土坑 (SF63)

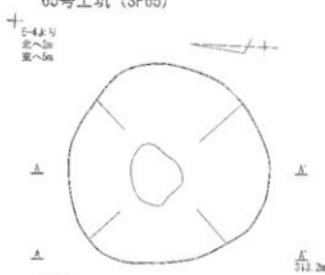


64号土坑 (SF64)

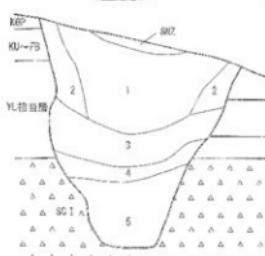


- 1 に赤い鉄色土  
仙石ラビリ。褐色スコリア少しあむ。  
ロームが多く混じる。
- 2 黄褐色土
- 3 黄褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少しあむ。
- 4 オリーブ褐色土  
2層より下や褐色薄い。仙石ラビリ多く含む。
- 5 褐褐色土  
仙石ラビリ多く含み、褐色スコリア少しあむ。
- 6 褐褐色土  
仙石ラビリ少しあむ。
- 7 褐褐色土  
褐色のロームを混じる。
- 8 に赤い鉄色土  
褐色ロームが含むを占める層。  
褐色スコリア少しあむ。
- 9 黄褐色土
- 10 仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア多く含む。
- 11 に赤い鉄色土  
仙石ラビリ少しあむ、褐色スコリア少しあむ。  
褐色ローム少しあむ。
- 12 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少しあむ。  
硬質の褐色のロームを少しあむ。

65号土坑 (SF65)



- 1 褐褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少しあむ。
- 2 に赤い鉄色土  
仙石ラビリ、褐色スコリア少しあむ。褐色ローム少しあむ。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少しあむ、褐色スコリア少しあむ。
- 4 に赤い鉄色土  
仙石ラビリ少しあむ、褐色スコリア少しあむ。褐色ローム多く混じる。
- 5 に赤い鉄色土  
仙石ラビリ少しあむ。

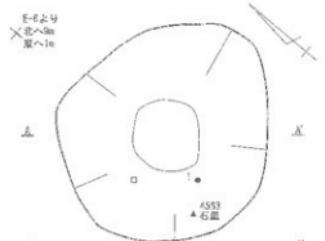


▲ 石器  
□ 強

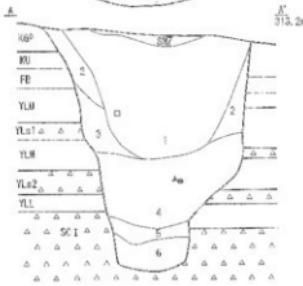
0 1m

第32図 土坑 14

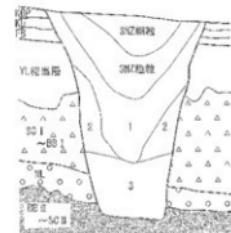
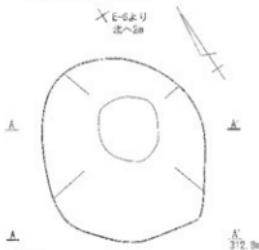
## 66号土坑 (SF66)



- 1 黄褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少しある。
- 2 黄褐色土  
1層に褐色ロームが混じる様。仙石ラビリ、褐色スコリア少量含む。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少しあり、褐色スコリア少量含む。
- 4 オリーブ褐色土  
1層に褐色ローム、仙石ラビリ少しあり、褐色スコリア少量含む。
- 5 褐色土  
褐色スコリア多く含む。褐色ローム多量に混じる。
- 6 にぶい褐色土  
4層に褐色ロームや褐色、仙石ラビリ少量含む。  
褐色スコリア少しある。

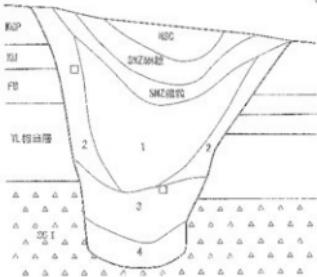
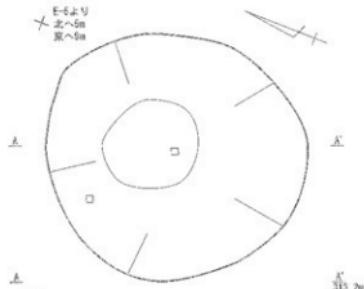


## 68号土坑 (SF68)

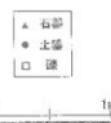


- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少量含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少量含む。褐色ローム少し混じる。
- 3 にぶい褐色土  
仙石ラビリ極少量含む。褐色の褐色ローム多く混じる。

## 67号土坑 (SF67)



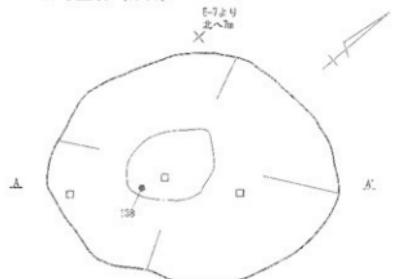
- 1 黄褐色土  
仙石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少量含む。
- 2 財褐色土  
仙石ラビリ極少量含む。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ、褐色スコリア少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土  
褐色スコリア多く含む。褐色ローム多く混じる。



0 1m

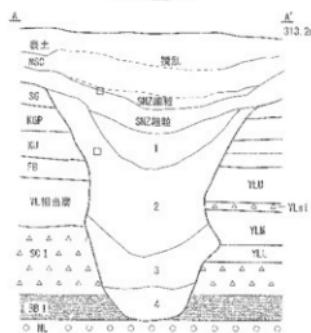
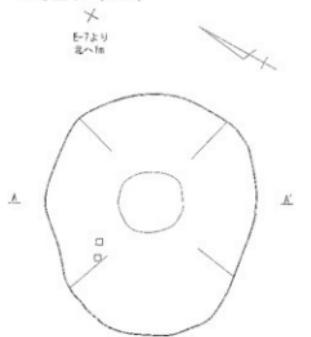
第33図 土坑 15

68号土坑 (SF69)

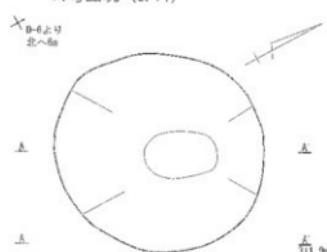


- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少々含む。
- 2 褐色土  
仙石ラビリ少々含み、カワゴモバミス少し含む。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少々含み、黄褐色ーム能少し混じる。
- 4 オリーブ褐色土  
褐色スコリア少々含み、褐色ローム能多く混じる。

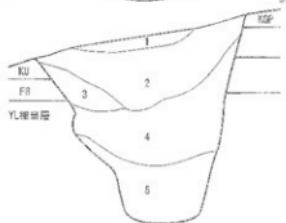
70号土坑 (SF70)



71号土坑 (SF71)

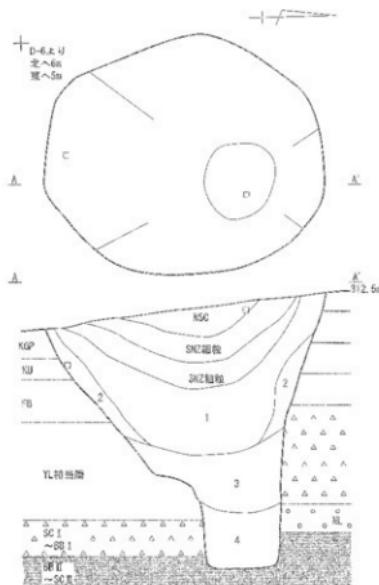


- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少々含む。
- 2 オリーブ褐色土  
1層より褐色。仙石ラビリ少し含む。
- 3 オリーブ褐色土  
2層より黄や褐色。少し弱い。
- 4 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少々含む。褐更のローム混じる。

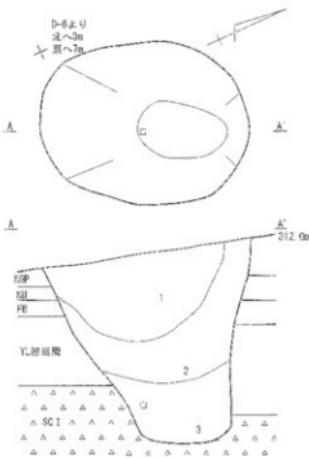


第34図 土 坑 16

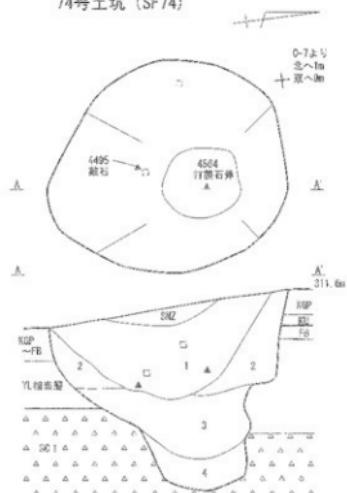
72号土坑 (SF72)



73号土坑 (SF73)



74号土坑 (SF74)

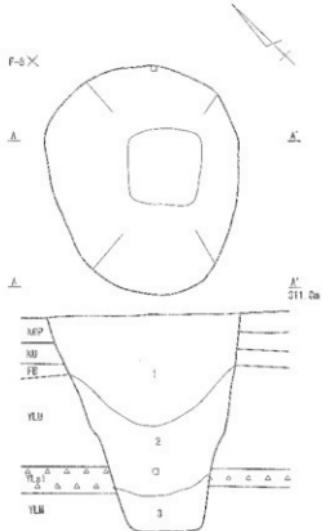


- 1 黄褐色土  
砂石ラビリ多量に含み、褐色スコリア少し含む。  
2 オーリーブ褐色土  
砂石ラビリ少量含み、褐色スコリア少し含む。  
3 にじむ灰色土  
2層に褐色ロームが混じる層。砂石ラビリ、褐色スコリア少量含む。



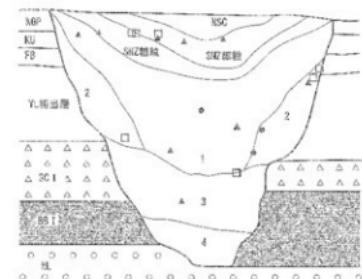
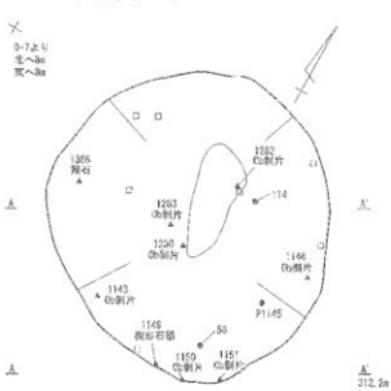
第35図 土 坑 17

75号土坑 (SF75)



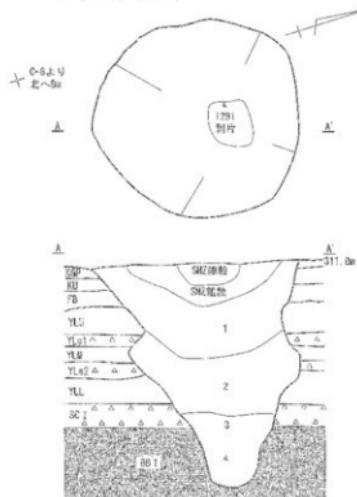
- 1 オリーブ褐色土  
後壁スコリア少少含み、仙石ラビリ含む。
- 2 オリーブ褐色土  
褐色スコリア少し含み、仙石ラビリ少少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ極少含む。

76号土坑 (SF76)



- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含む。
- 2 ナチュラル褐色土  
褐色スコリア少少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
1層と隣接するが、仙石ラビリ少少含む。
- 4 オリーブ褐色土  
油色スコリア少少含む、黄色ローム少少し混じる。

77号土坑 (SF77)

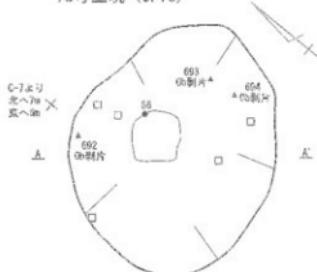


- 1 オリーブ褐色土  
褐色スコリア少少含み、仙石ラビリ多く含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
2層より上はやや緑色。



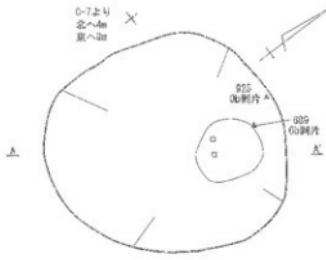
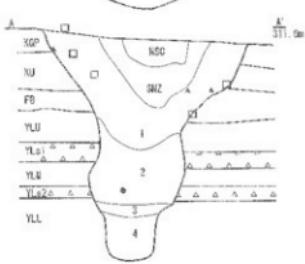
第36図 土 坑 18

78号土坑 (SF78)

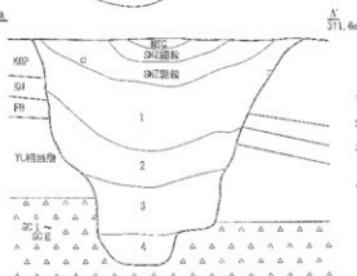


- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含む。
- 2 オリーブ褐色土  
褐色スコリア少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
褐色スコリア少含む。  
黄褐色ローラー鉢の底に漂じる。
- 4 ブラウン褐色土  
根冠より暗色でやししまり薄い。  
褐色スコリア少含む。

79号土坑 (SF79)



80号土坑 (SF80)



- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ極少含み、褐色スコリア少含む。

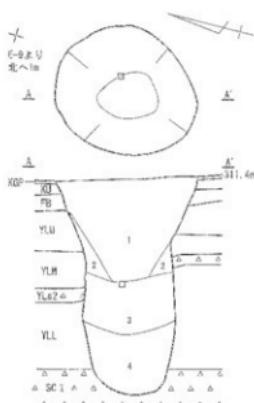
- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
褐色スコリア多く含み、褐色スコリア少含む。  
青白ローラー鉢の底に漂じる。実褐色鉢が強いた。
- 4 オリーブ褐色土  
3層より黄色ローラー鉢の底じりが少なく、褐色が強い。  
褐色スコリア少含む。



0 10m

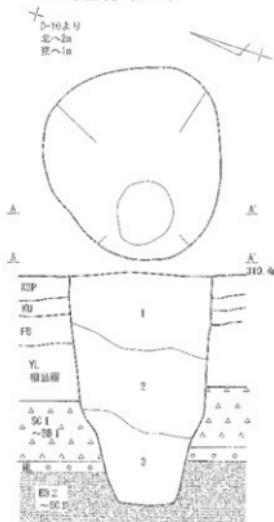
第37図 土坑 19

81号土坑 (SF81)



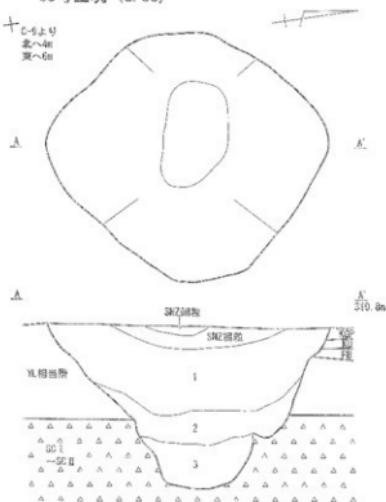
- 1 オリーブ褐色土  
緑色スコリア少し含み、仙石ラビリ多く含む。
- 2 オリーブ褐色土  
1層ごりや少里色。緑色スコリア少し含み、  
仙石ラビリ少里色。
- 3 褐色オリーブ褐色土  
緑色スコリア少里含み、油石ラビリ少し含む。
- 4 オリーブ褐色土  
緑色スコリア少里含み、緑色スコリア少し含む。  
鐵質の褐色ローム地少し混じる。

82号土坑 (SF82)



- 1 オリーブ褐色土  
緑色スコリア少里含み、仙石ラビリ多く含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少里含む。
- 3 オリーブ褐色土  
緑色スコリア少し含み、後質のローム地少し混じる。

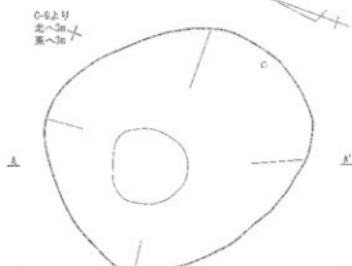
83号土坑 (SF83)



- 1 黒褐色土  
仙石ラビリ多く含む。
- 2 黒褐色土  
緑色スコリア少里含み、仙石ラビリ少し含む。
- 3 にじい黒褐色土  
緑色スコリア少里含む。

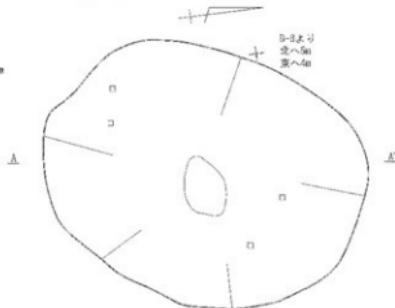
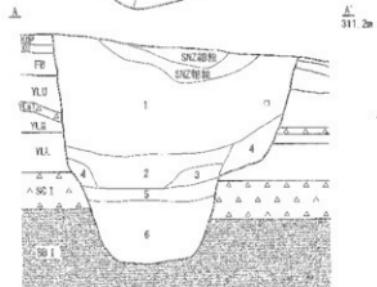
第38図 土 坑 20

84号土坑 (SF84)

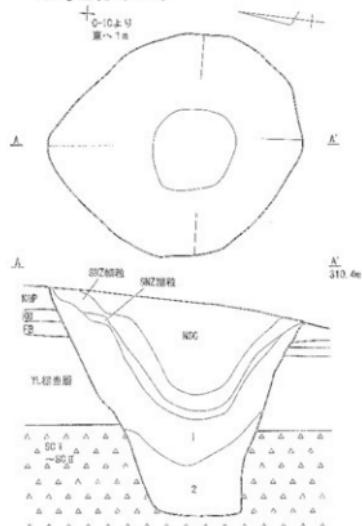


- 1 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ含む。
- 2 にぶい黄褐色土  
砂石ラビリ少しまず。
- 3 オリーブ褐色土  
褐色スコア少しまず。
- 4 黄褐色土  
褐色スコア少しまず含み。  
黄色ローム很多く混じる。
- 5 褐色土  
褐色スコア少しまず含み。  
にぶい黄色ローム很多く混じる。
- 6 オリーブ褐色土  
入物が少なく、透き。

85号土坑 (SF85)



86号土坑 (SF86)

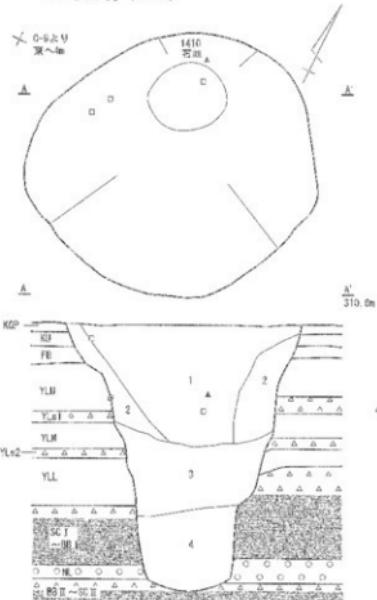


- 1 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ少しまず含む。
- 2 オリーブ褐色土  
褐色スコア少しまず含み。砂石ラビリ少しまず。
- 3 オリーブ褐色土  
砂石ラビリ很少しまみ。硬質のローム很多く混じる。

□ 標

第39図 土坑 21

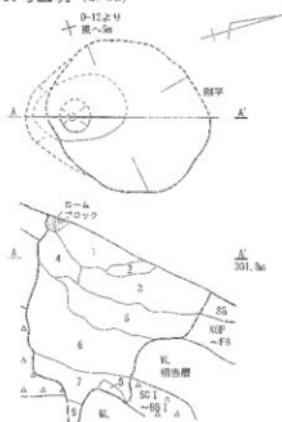
87号土坑 (SF87)



- 1 オリーブ褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 2 黄褐色土  
1号ドリヤやや暗色。暗色スコリア少く含む。  
砂岩コリニア少く含む。
- 3 黄オリーブ褐色土  
砂岩コリニア少く含む。暗色強い。
- 4 オリーブ褐色土  
砂岩コリニアア、暗色スコリア少く含む。  
砂岩の黄色ローム微混じる。

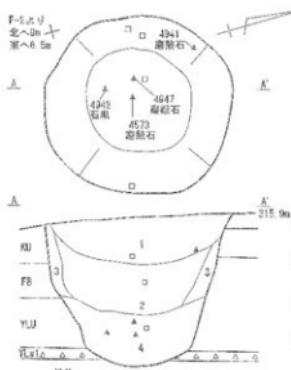
88号土坑 (SF88)

88号土坑 (SF88)



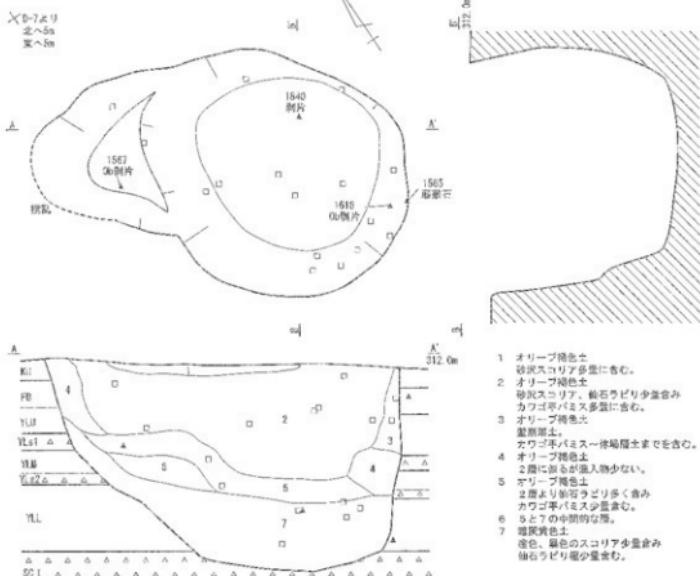
- 1 オリーブ褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.2~5mmの赤褐色ローム微混じる。
- 2 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 3 オリーブ褐色土  
砂岩コリニア多く含む。0.2~5mmの赤褐色ローム少く混じる。
- 4 オリーブ褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.2~5mmの赤褐色ローム多く混じる。
- 5 褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.10~50mmの赤褐色ロームブロック混じる。  
0.2~5mmの赤褐色ローム微少し混じる。
- 6 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 7 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.2~5mmの赤褐色ローム少く混じる。
- 8 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.2~10mmの赤褐色ローム混じる。
- 9 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。0.2~3mmの黄褐色ローム微混じる。

90号土坑 (SF90)

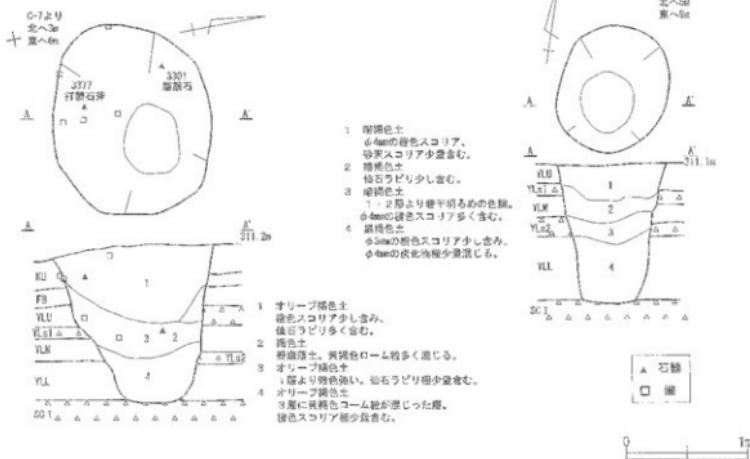


- 1 黄褐色土  
砂岩コリニア多く含み、  
砂岩コリニア少く含む。
- 2 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含み、  
砂岩スコリア少く含む。
- 3 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 4 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。  
暗色スコリア少く含む。
- 5 オリーブ褐色土  
砂岩コリニア少く含む。  
暗色スコリア少く含む。
- 6 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 7 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。
- 8 黄褐色土  
砂岩コリニア少く含む。

## 91号土坑 (SF91)

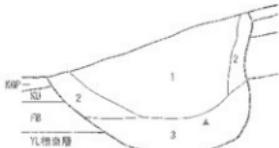
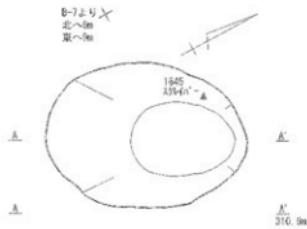


## 92号土坑 (SF92)



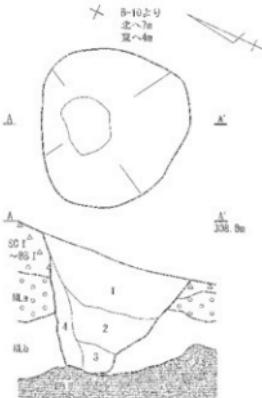
第41図 土坑 23

94号土坑 (SF94)



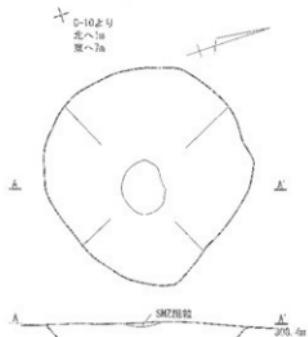
- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含み、褐色スコリア少含む。
- 2 オリーブ褐色土  
褐色スコリア、仙石ラビリ少含む。
- 3 オリーブ褐色土  
褐色スコリア、仙石ラビリ少含む。

95号土坑 (SF95)



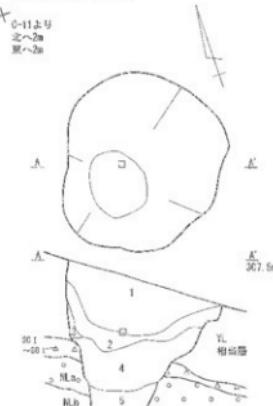
- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少し含み、#5mmのロームブロック少し混じる。
- 3 オリーブ褐色土  
#10~20mmのロームブロック混じる。
- 4 オリーブ褐色土  
#30~50mmのロームブロック多く混じる。

96号土坑 (SF96)



- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含み、褐色スコリア少含む。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少含む。

97号土坑 (SF97)



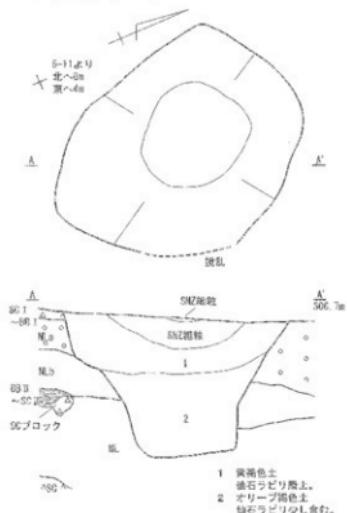
- 1 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ多く含み、#5mmのロームブロック多く混じる。
- 2 オリーブ褐色土  
仙石ラビリ少し含み、#5~10mmのロームブロック少し混じる。
- 3 オリーブ褐色土  
#20~30mmのロームブロック混じる。
- 4 灰色褐色土  
#50~100mmのロームブロック多く混じる。
- 5 塗抹褐色土  
#20~30mmのロームブロック多く混じる。



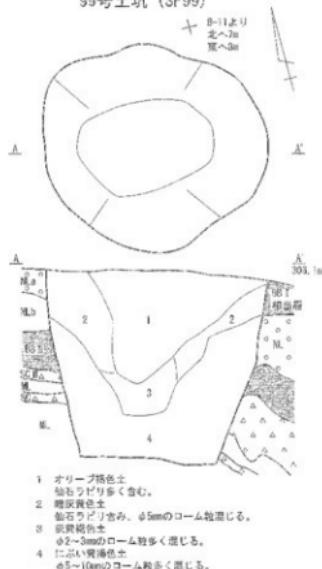
0 1m

第42図 土坑 24

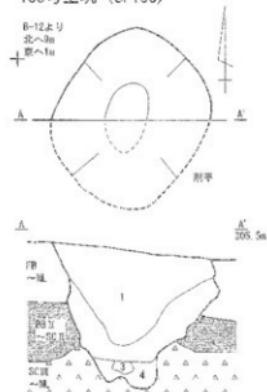
98号土坑 (SF98)



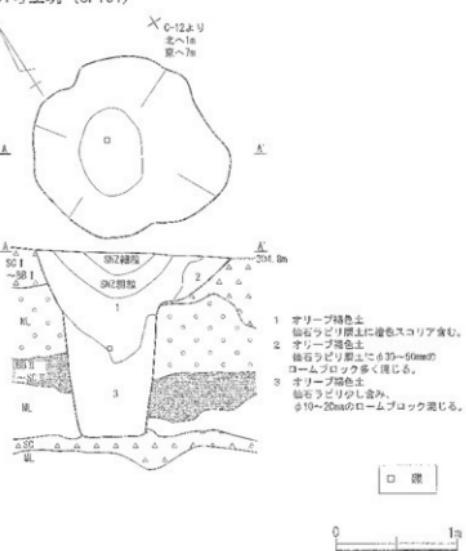
99号土坑 (SF99)



100号土坑 (SF100)

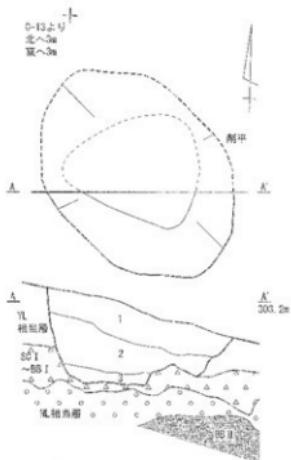


101号土坑 (SF101)

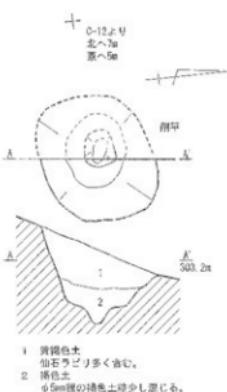


第43図 土 坑 25

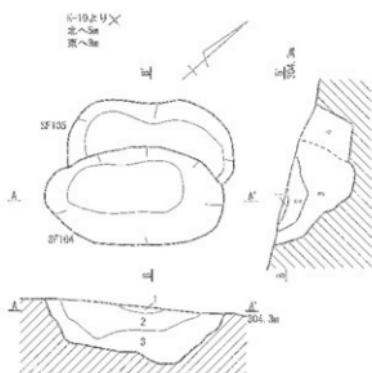
102号土坑 (SF102)



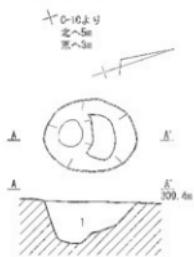
103号土坑 (SF103)



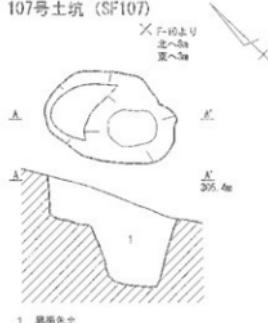
104・105号土坑 (SF104・105)



106号土坑 (SF106)

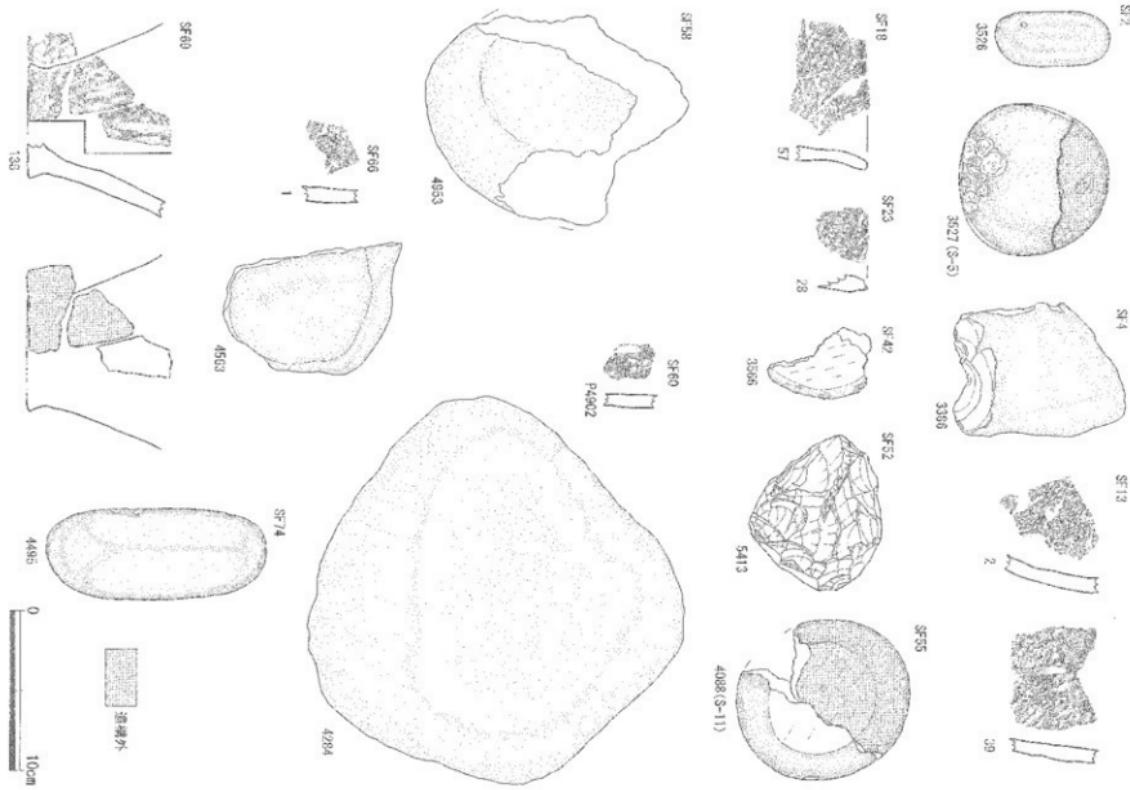


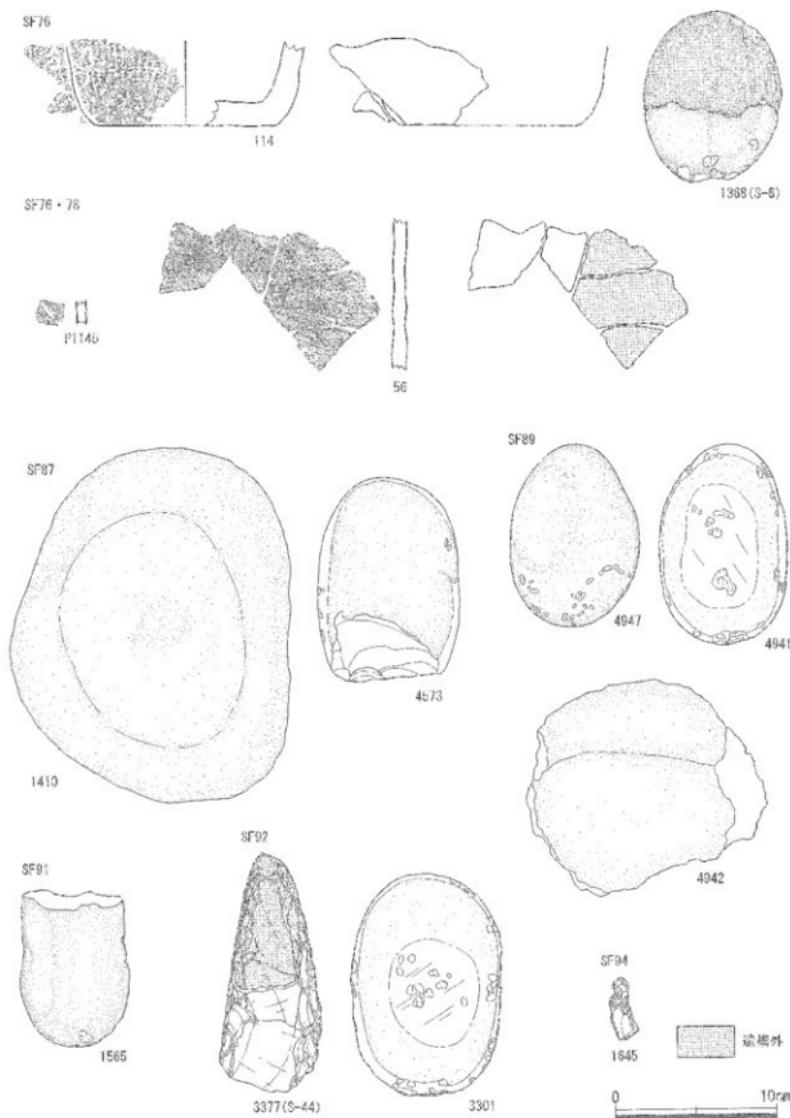
107号土坑 (SF107)





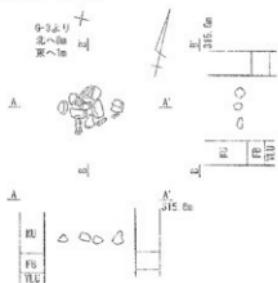
第45圖 土坑內出土遺物 1





第46图 土坑内出土遗物 2

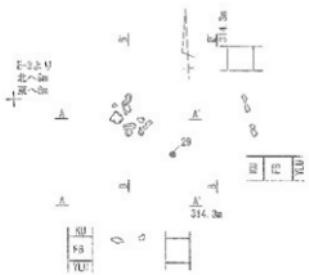
1号集石 (SY1)



2号集石 (SY2)



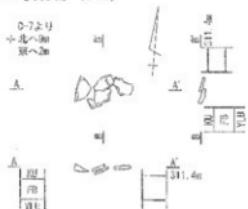
3号集石 (SY3)



4号集石 (SY4)

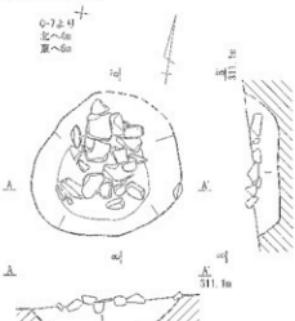


5号集石 (SY5)



0 2m

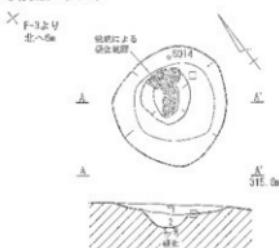
6号集石 (SY6)



1 にぼい黄褐色土  
中2cmの褐色スコリア層少數含み。  
下部は約1~2mmの炭化物を含む。

第47図 集 石

## 1号焼土 (FP1)



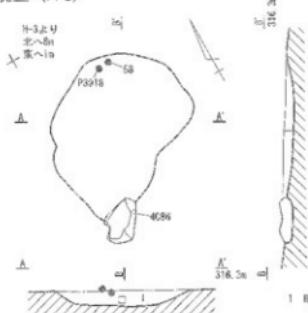
1. 細緻赤土  
δ1~2mmの白色化、δ4mmの粘土層少しある。
2. 赤色土  
褐色燒土層。

## 2号焼土 (FP2)



1. にじみ赤褐色土  
δ2~4mmの液化物少しあり、δ6mmの焼土層多くある。
2. 棕褐色土  
しきりあり。粘性あり。  
δ2~4mmの液化物少しあり、δ6mmの焼土層少しある。  
中央部はδ5mmの斑状多くある。

## 3号焼土 (FP3)

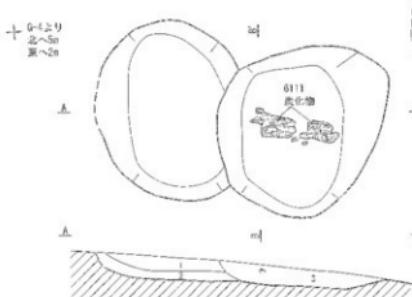


1. 細緻赤土  
δ2~5mmの褐色スコリア多く含み、δ1~2mmの白色JES少しある。  
δ2mmの液化物少しある。

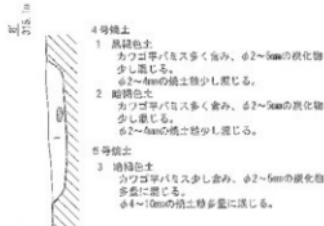
## 3号焼土完掘状況



## 4号焼土 (FP4)



## 5号焼土 (FP5)



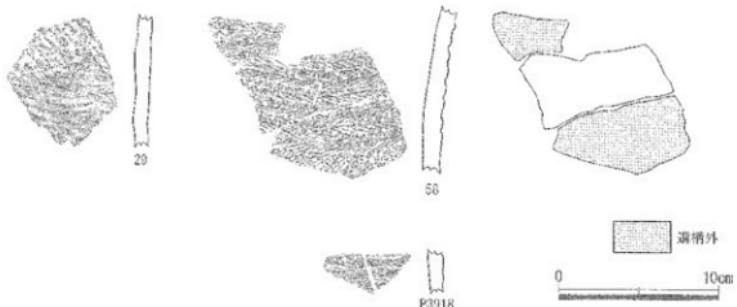
1. 黒褐色土  
カブゴサバカリス多く含み、δ2~5mmの液化物少しある。
2. 褐褐色土  
カブゴサバカリス多く含み、δ2~5mmの液化物少しある。

3. 棕褐色土  
カブゴサバカリス少しあり、δ2~5mmの液化物多量に混じる。  
δ4~7mmの焼土層多量に混じる。

● 土器 □ 磁  
▲ 石器 ○ 腐化物  
■ 鉄筋による 硬化範囲

0 2m

第48図 焼 土



第49図 石器・焼土内出土遺物

第12表 石器・集石土坑一覧

遺構 番号	地区	検出区域 (グリッド)	検出 層位	形成時期	平面形態	主軸方位	新旧 関係	覆土	長幅 (m)	深幅 (m)	最大深 (cm)	出土 遺物	備考
1号集石	I 区	G-3	KU層	縄文時代 前期～中期	—	—	—	—	—	—	—	碎29点 計28点	
2号集石	I 区	G-3	KU層	縄文時代 前期～中期	—	—	—	—	—	—	—	碎23点 計23点	
3号集石	I 区	E-3	FB層	縄文時代 早期	—	—	—	—	—	—	—	上端1点 碎1点 計12点	
4号集石	I 区	B-8	KU層	縄文時代 前期～中期	—	—	—	—	—	—	—	碎28点 計28点	
5号集石	I 区	C-7	KU層	縄文時代 前期～中期	—	—	—	—	—	—	—	碎6点 計6点	
6号集石	I 区	C-7	KU層	縄文時代 前期～中期	橢円形 北東	SF24 より古	暗褐色土	2.62	2.22	55	—	碎27点 計27点	漆塗石土坑

第13表 烧土跡一覧

遺構 番号	地区	検出区域 (グリッド)	検出 層位	平面形態	主軸方位	新旧 関係	覆土	長幅 (m)	深幅 (m)	最大深 (cm)	出土 遺物	備考
1号焼土	I 区	F-3	FB層	円形	北東	FP2 より新	KU又は FB	1.00	0.96	20	炭化物 1点 礫1点 計2点	
2号焼土	I 区	F-3	FE層	円形	北	FP1 より古	KU又は FB	0.50	(0.48)	17	—	※FP1に隣接 して検出した。 焼出型はFP1 より早くFP1 使用期には埋 没していたと 考えられる。
3号焼土	I 区	H-3	KGP 層	橢円形	北東	—	KGP層	1.56	1.12	10	土器2点 礫1点 計3点	
4号焼土	I 区	G-4	KU層	橢円形	北北西	—	KGP層	1.50	(1.06)	24	—	
5号焼土	I 区	G-4	KU層	橢円形	北東	—	KGP層	1.40	(1.36)	24	炭化物 1点 計1点	

## 2. 遺物

ここでは、縄文時代の遺物を一括して報告する。

出土した遺物は、土器846点、石器2,266点、計3,112点であった。

### (1) 土器 (第55図~62図)

土器は縄文時代早期~後期・晚期のものが846点出土した。このうち300点、141個体を報告する。

出土状況は、中期に位置づけられる一群はカワゴ平バミス包含層に集中しているが、早期・前期については窯土黒土層、栗色土層、カワゴ平バミス包含層からほぼ同じ割合で出土しており、層位的な出土傾向はとらえることはできない。しかし平面分布では早期は調査区南西部、前期は南東部、中期は北部に集中している。

また遺構出土の土器は第Ⅲ章、第3節遺構でも扱ったが、点数が少ないこともあり便宜上この項で再掲し、時期ごとにまとめて報告する。分類は以下のとおり。

#### 第Ⅰ群 早期

A類：撫糸文土器	F類：茅山上層式土器
B類：押型文土器	G類：無文土器
C類：田戸下層式及び田戸上層式併行土器	H類：早期不明
D類：鶴ヶ島台式土器	
E類：茅山下層式土器	

#### 第Ⅱ群 前期

A類：清水ノ上Ⅱ式土器併行
B類：諸磯式土器
C類：東海系土器

#### 第Ⅲ群 中期

A類：五領ヶ台式土器	D類：井戸尻式土器
B類：新道式土器	E類：加曾利E式土器・加曾利E式上層併行
C類：藤内式土器	F類：中期縄文上層

#### 第Ⅳ群 後期

#### 第Ⅴ群 晩期

#### 第Ⅰ群 早期 (第51図~55図~57図)

早期の土器は西端から南東に伸びる尾根Aと尾根A南側の斜面に集中して出土している。

##### A類 撫糸文土器

2点とも遺構覆土からの出土である。1は番面の残存状態が悪く原体の詳細は不明。2はRの撫糸原体を縦方向に転がしている。

##### B類 押型文土器

1種 山形文 3点出土している。3と4はそれぞれ縦方向に密接に施文されている。5は横方向に密接に施文した後、口縁部外面にヘラ状工具によるキザミが施される。

2種 押型文原体吳種併用タイプ 20点が出土した。そのうち19点はほぼ集中して出土しており胎土、盤壁は厚さも同じことから同一個体と考え推定復元図を作成した。別の1点は出土地点が離れており胎土も若干違いがあることから別個体とした。6は2種類の原体を用い横方向に施文している。小波状に近い山型の押型文とユニオンジャックを縦にしたように見える特殊な原体を用いた押型文を縦位に交互に施す。口縁部はヘラ状工具によるキザミが施されている。7は6と同様の押型文であろうと思われるが、6よりも堅めであり内面もていねいにナデられている。



第60図 縄文時代土器平面分布



第51図 縄文時代早期（第I群）土器分布



第52図 繩文時代前期（第II群）土器分布

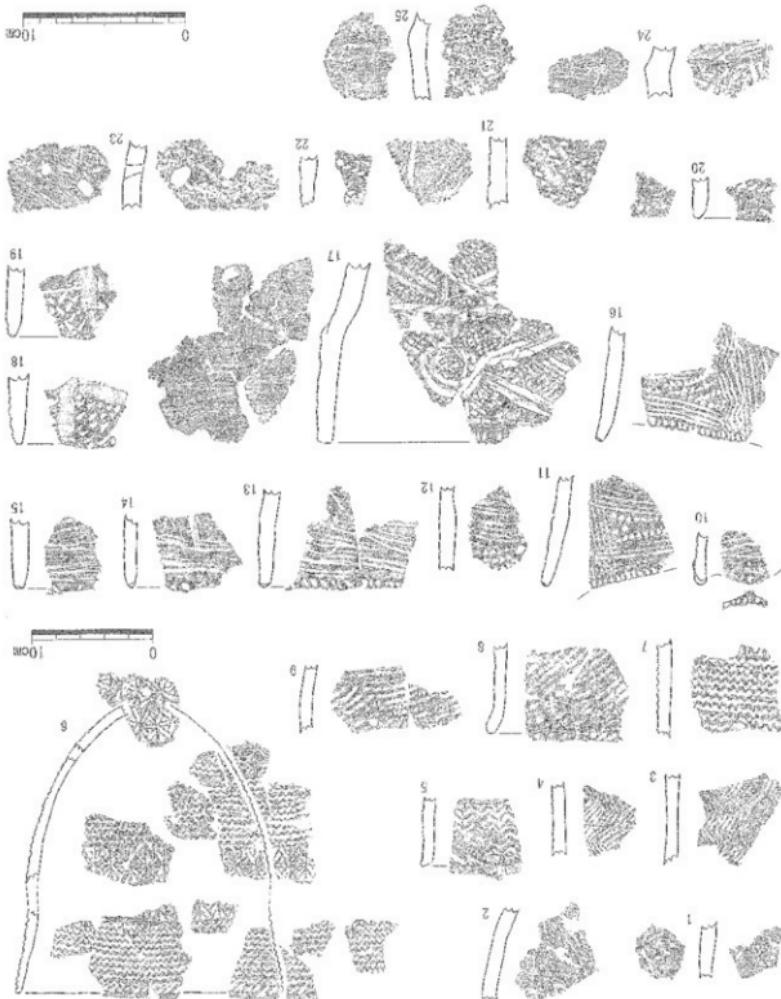


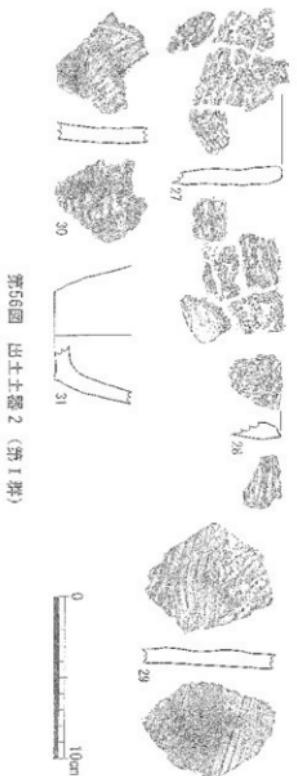
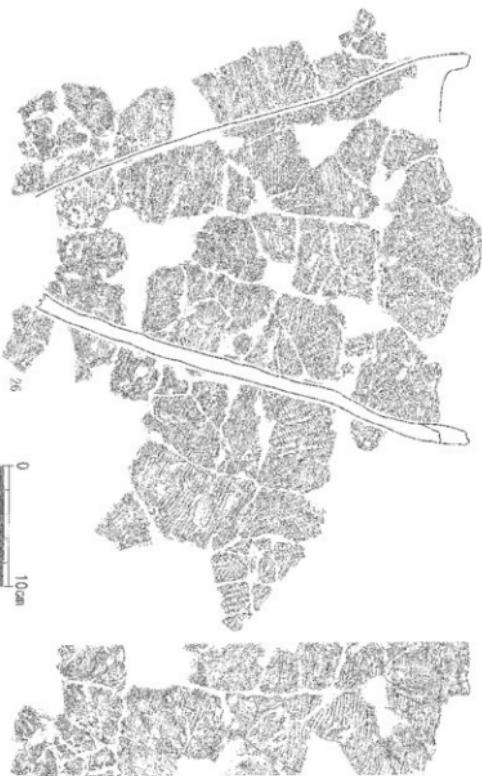
第53図 縄文時代中期（第三群）土器分布



第54図 縄文時代後期（第IV群）・晩期（第V群）土器分布

第55圖 出土土器 I (器 I 雜)





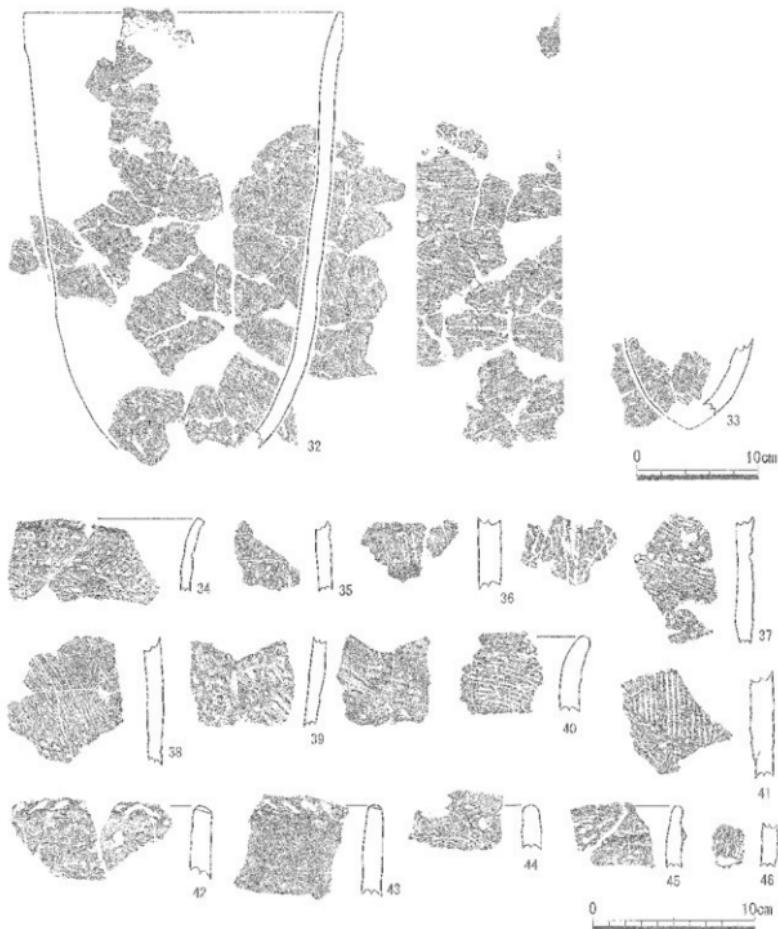
第56図 出土土器2 (第I群)

3種 1種、2種に併行する幾文土器 8はLRの幾文原体を縱方向に縮がしている。口脣部に浅いキザミが施される。9はLRの幾文原体を横方向に縮がしていると考えられる。

C類

田戸下唇式～田戸上唇式併行土器  
出土層位はばらつきがあるが、出土位置はE-3、F-4グリッドと近接している。田戸下唇式と田戸下唇式～田戸上唇式に併行すると思われる上器を本類とした。

1種 田戸下唇式 10は小範片だが較大1線とおもわれる。11縁部にH形の貼付文を有し、11唇部内面には細かなキザミを施す。外面部は細かい沈線文様のなかに其般版様文がある。詰上に織紋模様は含まれず田戸下唇式とした。1点のみの出土である。



第57圖 出土土器 3 (第1群)

2種 文様構成は田戸下層式に類似するが胎土に繊維痕は含まれることから田戸上層式への移行期に併行すると考えられる土器をここにまとめた。11・12は沈線と刺突、13～15は沈線と口唇部にキザミを施す。器壁の厚さは0.8～1.0cmを測る。胎土は石英と雲母を多く含む。16は文様構成及び胎土は11～15に類似するが、縦方向の集合沈線に曲線を用いていることから全く別の型式とも考えられる。

#### D類 鶴ヶ島台式土器

17～19は鶴ヶ島台式土器の口縁部である。17は角頭状の口唇部を持ち押圧による浅いキザミが施される。太い沈線で幾何学的に区画した中を半截竹管状の工具により押引きで充填する。口縁部と胴部の境に段を持つ。18・19は浅い幅広の凹線で区画され、丸棒状の工具による押引きで充填する。19は口唇部にキザミを施す。

#### E類 茅山下層式土器

凹線、刺突列、段部等の要素を持つものを茅山下層式土器としてまとめた。20は口縁部内外面に刺突を施す。21・22は凹線を施すことによって隆起する部分に刺突を加えている。23は口縁部付近と考えられ、貫通した補修孔と未貫通の孔がみられる。24・25は段部の破片である。24は段より上に太い沈線と押引きで施され、焼成は20～22が硬質であり23～25は軟質である。胎土は繊維痕を多く含み、20～22は雲母、石英を含む。23・24は石英、赤色粒子を含む。

#### F類 茅山上層式土器

内外面条痕調整が施され頬部、段部の観察されないものを、茅山上層式土器としてまとめた。26は底部を欠失しているものの口縁部から底部付近まで1/2強接合、復元できた。口径復元径31.8cm、残存高36.6cm、器壁は厚さ1.1cmを測る。口唇部は角頭状を呈し、口縁部は接合できなかった同一個体のものも合わせると複数の台状突起を有する可能性がある。文様は条痕調整後、口唇部外側に細かなキザミ、口縁部から胴部上半にRLの籠文を横位に施す。内面は条痕調整。26～28の胎土は1～7mmの赤色粒子、繊維痕を多く含む。軟質である。29・30は内外面、条痕調整を施す。31は底部である。26～28に比較して29～31は胎土に繊維痕は多くなく、雲母を含む。

#### G類 無文土器

32は口縁部の残存は僅かであり、底部も欠失しているが胴部が1/3残存していたため復元実測をした。口径復元径25.8cm、残存高35.6cm、器壁は厚さ1.3cmを測る。内面は条痕調整、外面は擦痕が残る。胎土は繊維痕を多く含む。33は無文の底部で胎土には繊維痕が含まれる。器壁は厚さ1.3cmを測る。32・33共に色調は赤褐色で厚手である。砲弾形の底部を持つことから早中期業、打越併行と考えられる。

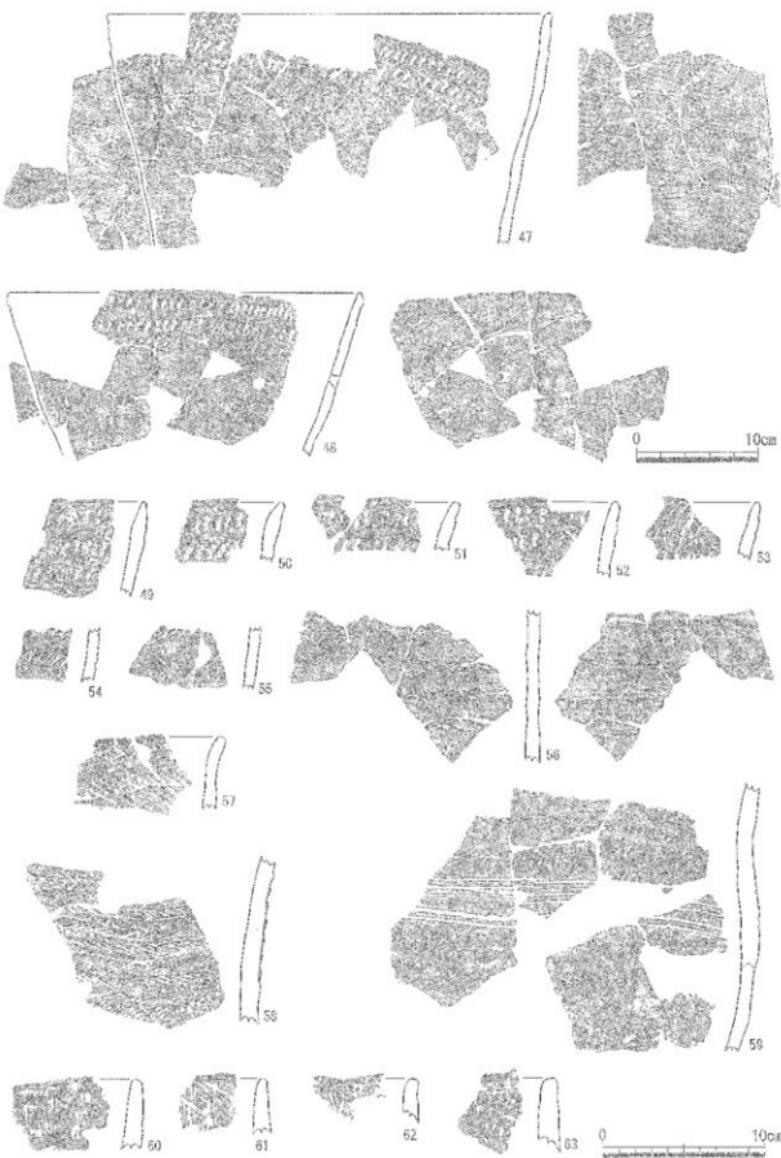
#### H類 早期不明

早期と考えられるが帰属先の不明な土器をここにまとめた。それぞれの特徴別に分類した。

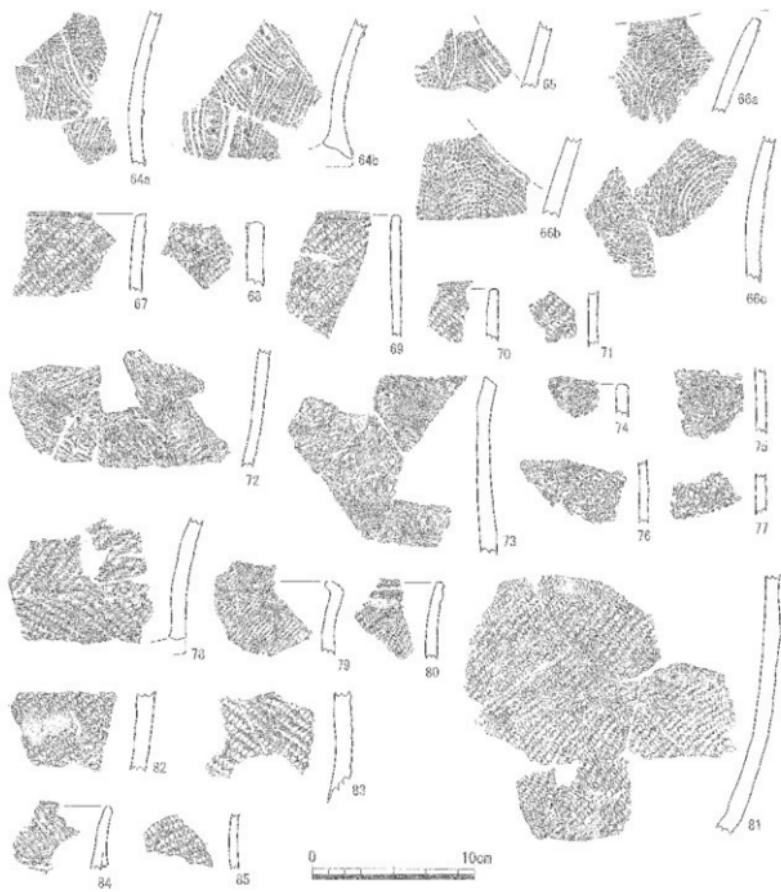
1種 沈線を有する土器 34～36は沈線により施文された土器である。34は外反する口縁部に銳利な施文具を用いて矢羽状に沈線を施した後、その上部と沈線の交差する部分に角棒状の施文具を用いて刺突する。口唇部にも沈線と同一の施文具によるとと思われるキザミがある。内面は条痕調整が観察される。胎土には繊維痕は極僅かしか含まれず密である。本遺跡からは1点のみの出土で類似のもの、同一個体と思われる破片の検出もなかった為、時期、型式の特定はできなかったが、田戸上層～子母口式土器に伴う可能性がある。36は2本1組の平行沈線を内外面に縱位に施す。器壁は1.4cmと厚い。

2種 条痕を有する土器 37～41は条痕調整または、条痕文の施された上層である。37・38は条痕調整後、刺突列を施文する。41は貝殻による条痕を縦方向に施す。

3種 口縁部のみ残存 42・43は口唇部に深く明瞭なキザミを施す。42は施文の方向を途中で変えている。44にキザミは見られない。3点共外面は無文で、器壁は厚い。45は円頭状口唇部と茎部をもつ口縁部である。46は薄い茎部に細かいキザミを加える。2点共、残存状態が不良のため詳細は不明だが薄手で胎土、



第58圖 出土土器 4 (第II群)



第59圖 出土土器 5 (第Ⅱ群)

色調より東海系の土器と考えられる。鐵錫痕を少量含む。

#### 第Ⅱ群 前 期（第52図・58図・59図）

##### A類 滅水ノ上II式土器併行

前期前半の土器で滅水ノ上II式土器に併行すると考えられる土器を本類とした。文様構成は滅水ノ上II式土器であるが器壁は厚い。胎土は白色粒子が多く含まれ粗く、存地のものである。いわゆる東海系の土器とは異なる。出土状況は本類としたもの全てが1区南側の尾根上、C・D-7・8グリッドで出土している。47～52は口縁部に3列の刺突穴を施す。施文具を刺突した後、左に引いている。47と48の口徑復元径はそれぞれ36.5cm、28.9cmを測る。56は無文部分である。53～55はヘラ状の施文具を器面に直角に刺突している。器壁は厚さ0.6～0.9cmである。

57は外反する口縁部で胎土は緻密である。RLの縄文原体を横に転がす。岡山～黒浜式土器に併行すると考えられる。1点のみの出土であるため帰属時期の便宜上ここに掲載した。

##### B類 諸磯式土器

諸磯式土器は、1種諸磯b式と2種諸磯c式とに分類し、1種、2種に併行すると考えられる純文土器を3種とした。層位的なまとまりはないが2種、3種については1区の尾根上からその北東緩斜面にかけて出土している。

1種 諸磯b式土器 浮線文、平行沈線を有するものを諸磯b式とした。58はRLの縄文を地文とし横位に浮線文を巡らせ、その上にヘラ状の施文具を用いて斜め方向に刺突を加える。59は地文ではなく、半截竹管状の施文具の内側をもじりて平行沈線を3列横位に施す。60～63は口縁部破片で半截竹管状の施文具の内側を用いて縱方向に刺突、横位に施文する。60～62は胎土に雲母を多く含む。

2種 諸磯c式土器 集合沈線と円形貼付け文を有するものを諸磯c式とした。64は底部に接する腹部である。半截竹管と思われる施文具で押引きと沈線により施文、2個1組の円形貼付け文を付加する。65・66は外側に大きく開く波状L字縁を持つ深鉢と考えられる。半截竹管状の施文具による細かな押引き文で、器面全体を覆う。2個1組、1個1組の円形貼付け文を付加する。

3種 1種、2種に併行すると考えられる縄文上巻 67～71はLRの縄文原体を横方向に転がしている。72は無節しの縄文原体を縦、横に転がし現状としている。73はRLの縄文原体を横に転がしている。74～77は縄文原体の押圧の可能性もある。正窓は疎らで不明瞭である。78は底部に接する測部でLRとRLの縄文を羽状に施す。79は口唇部を内側に稍曲させる口唇部で全面に無節しの縄文を横に転がす。80はLRの縄文と横位の沈線を施す。81～83は器壁は厚さ1.0cmと厚手である。

##### C類 東海系土器

前期土器のなかで東海系と考えられるものを本類とした。2点共、硬質で器壁は薄く0.5～0.7cmである。縄文が施文される。84は小破片のため全体は不明だが、口縁部は口唇部下、3.6cmのところで折り返したような形状を呈する。

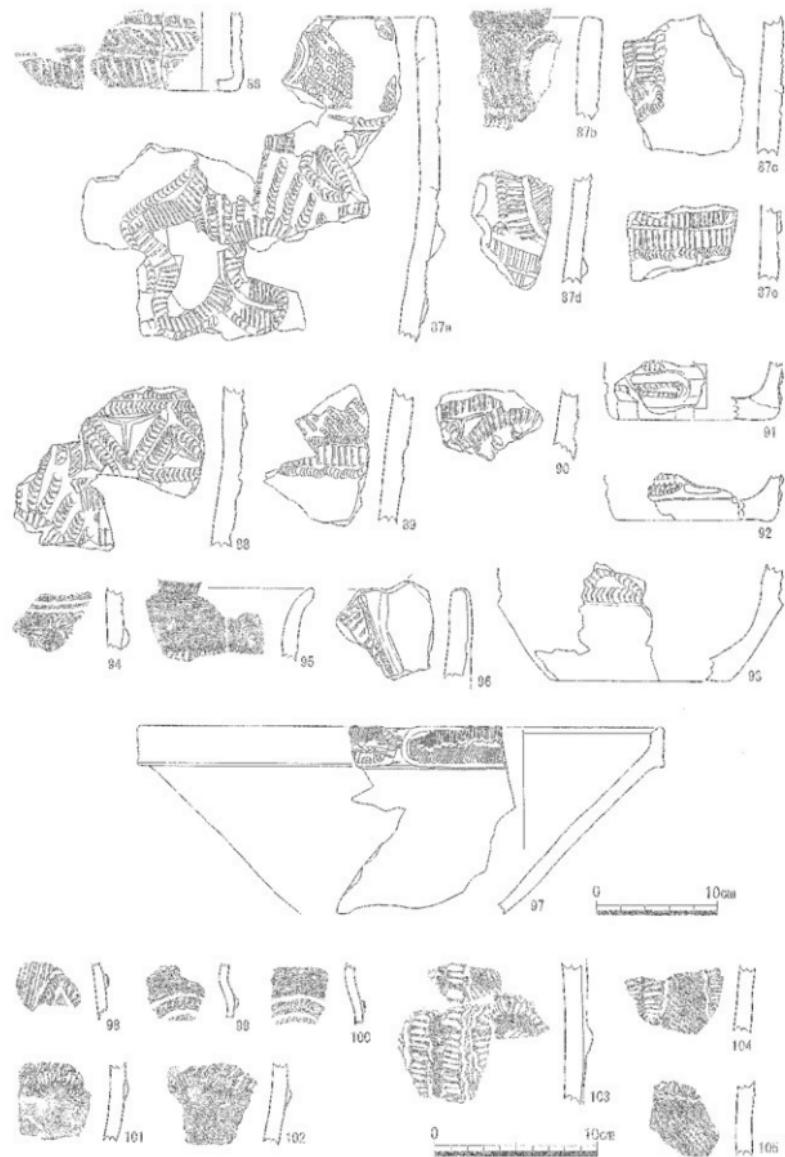
#### 第Ⅲ群 中 期（第53図・60図・61図）

縄文時代中期の土器は、中期初頭から後葉までの土器が出土した。中心となるのは中期中葉、新道式土器、腹内式土器、井戸尻式土器である。しかし、その全てが破片資料であるため分類は文様構成によりおこなった。分類基準は次のとおりである。

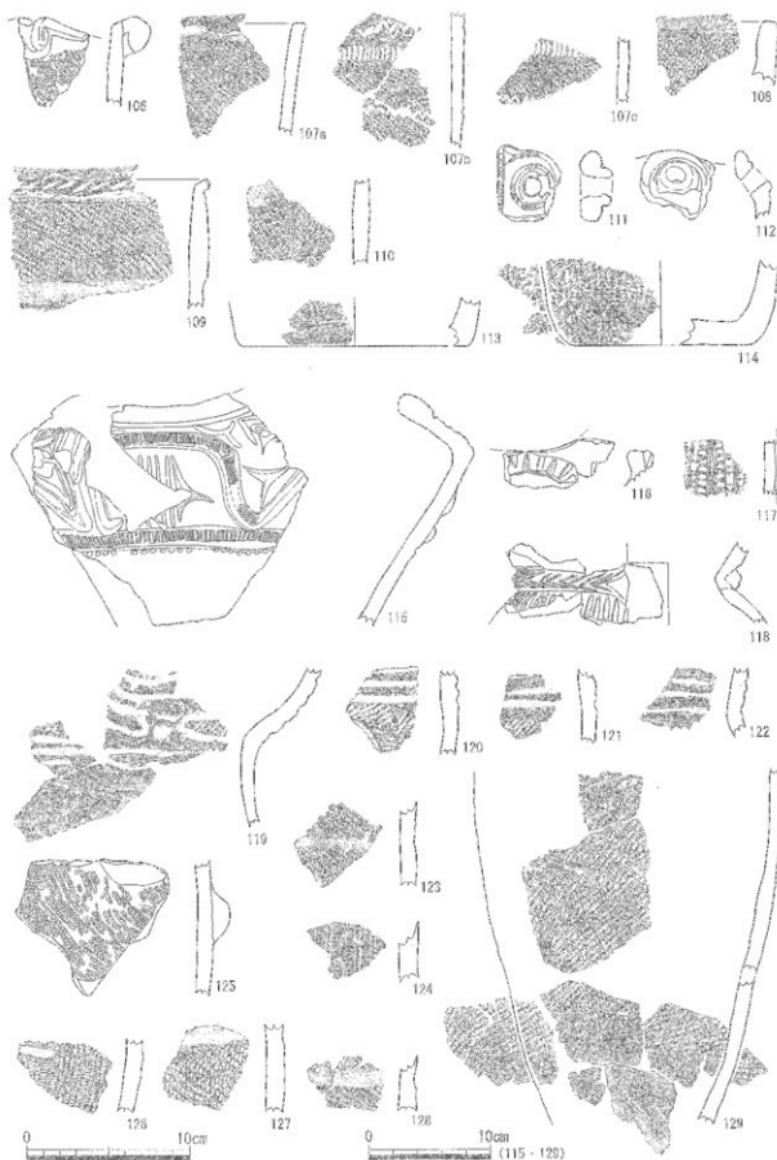
新道式土器：重三角文、三叉文、整帶脇にキャタピラ文、三角押文を用いる。

腹内式土器：整帶脇にキザミを施す。整帶脇にキャタピラ文、波状沈線を用いる。地文に縄文を多く用いる。

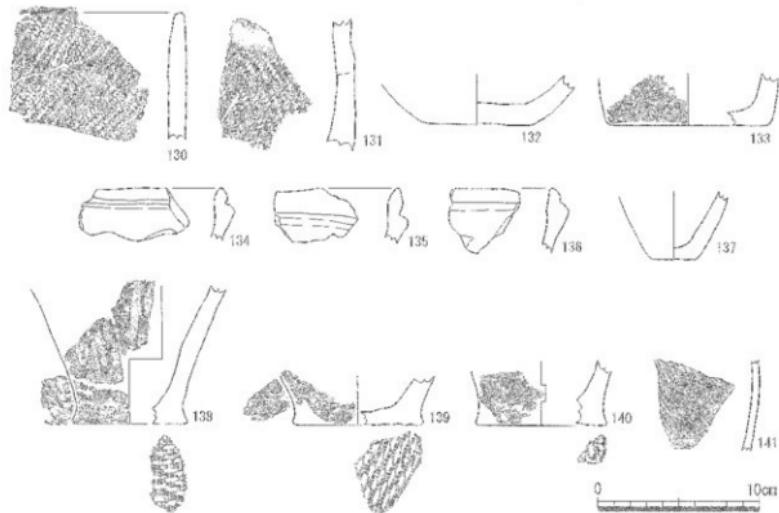
井戸尻式土器：「く」の字に屈曲する口縁部。整帶脇にキザミ及び交互刺突文。整帶脇に沈線を用いる。



第60圖 出土土器 6 (第三群)



第61圖 出土土器 7 (第五群)



第62図 出土土器8(第III・IV・V群)

#### A類 五領ヶ台式土器

86は筒型を呈するミニチュア土器である。横位の沈線で区画し斜位の沈線で充填する。1点のみの出土である。

#### B類 新道式土器

87は角頭状のU唇部を持ち口縁部はRLの縞文原体を横方向に転がし地文とする。脣部の文様帶は並行するキャタピラ文を施し三角押文を並走させる。三角押文による形状不明の区間に三叉文を充填し、空白部分には縱方向の三角押文列を施す。88は三角押文で脣を押さえた隆起による重三角文で区画、三叉文で充填する。89はキャタピラ文の脇を三角押文による波状沈線を並走させる。90はキャタピラ文の空白部分に三角押文と三叉文を施す。91～93は底部破片である。91・92は陸帶による楕円形の区画の中を三角押文で充填する。陸帶上部はキャタピラ文である。95は薄く外反する口唇部を持ち、口縁部に幅広の無文帯を設ける。その下位に横位のキャタピラ文を施す。96は垂下する陸帶を持ち、その片面にのみ三角押文と爪形文を施す。

#### C類 藤内式土器

中期の土器はII区西側に集中しているが、藤内式と考えられる一群はカワゴ平バミス包含層のI区、C～F・H-8グリッド、II区、M・N-5・6グリッドと南北にほぼ同じ標高で分布している。

97は浅鉢である。直立する口縁部を楕円形の陸帶で区画する。キャタピラ文と波状沈線で充填する。内外面共丁寧にナデされている。竪穴住居跡からの出土である。98～100はキザミを施した扁平な陸帶を持つ。98は条線を地文とする。100は陸帶による区画を条線で充填すると考えられる。101・102は同一個体の可能性がある。断面三角形の弧を描く陸帶を連続して横位に配し、その上部を角押し文で押さえる。斜行する沈線が施されている。103～110は縞文を地文とする。103は垂下する陸帶をキャタピラ文で押さえラフな波状沈線を並走させる。106は渦巻状の把手を持つ口縁部である。107は横方向にキ

ヤタビラ文と波状沈線を施す。キタビラ文の上下をなでて縄文を磨消している。108は平線の円筒型深鉢と考えられる。109は口唇部を外側に屈曲させて斜位のキザミを施す。直下に沈線を巡らせる。口縁部に縄文帯を設け浅い幅広の沈線を施す。硬質で内面も横方向に磨かれている。111は環状把手である。壺状隆脊の脇を三角押文で押さえる。周囲にキザミを施し、正面に角押文を施すと考えられる。112は内湾し、円孔のある口縁部である。113・114は縄文を地文とする底部である。

#### D類 井戸尻式土器

115は内側に屈曲する口縁部。口唇部は厚く肥厚させる。キザミを持つ縄帯を巡らせ脇を沈線で押さえ。下位に円形の刺突穴を施す。上位に隆帯を蛇行させ区画する。沈線による捲き文、三叉文で充填する。隆帯は扁平な部分と断面が三角形の部分があり、扁平な部分にキザミを施す。口係復元径26.8cm、最大径37.8cmを測る。116は交互刺突を施した断面方形の隆帯のある口縁部である。117はキザミのある継位の隆帯の脇を三角押文で押さえる。118は頸部に矢羽状にキザミを施した縄帯を巡らせ下位に沈線文を施す。

#### E類 加曾利E式土器

中期後半の加曾利E式土器と考えられるものをここにまとめた。出土点数が少なく小破片の為、詳細な時期については言及できない。

1種 加曾利E式土器 119は縄文を地文とした口縁部。沈線で施文、区画する。区画内の縄文を残し、他は磨消す。120～122は縄文を地文とし、沈線文を施す。胎上は黄色味を帯びる。

2種 加曾利E式土器併行 123は縄文の地文に磨消しを施す。

3種 曽利式土器 124は条縄を地文とする。小破片で詳細は不明である。

#### F類 中期縄文土器

中期と考えられるが、帰属の不明な縄文土器をここにまとめた。125は直径約3.0cmの半球状の粘土を貼り付けR.Lの縄文原体を横方向に転がす。磨消しによる円文が施されていると思われる。128はR.Lの縄文原体を横方向に転がした後、糸に沿って沈線を施す。磨消しがおこなわれている。

#### 第IV群 後一期 (第54図・62図)

後期と考えられる土器をここにまとめた。出土点数は他の時期に比較して非常に少ない。134～136は無文の浅鉢である。口縁部の断面形態は「く」の字状を呈する。134・135は1本の沈線を巡らせる。137は深鉢の底部で無文である。138～140は粗製土器の底部である。脇部は外側に開きながら立ち上がる。底面は縄代旗が練習される。

#### 第V群 晩一期 (第54図・62図)

141は条痕文土器である。内外面墨褐色を呈し、器壁は0.5cmと薄く堅緻である。縄文時代晩期と考えたが、1点のみの出土であり他に類似のものも出土していない。

第14表 繩文土器類聚資料

番号	グリッド	層位	時期	分類 新-舊-舊	文様・特徴等	色調	表面 内面	胎土	出典
1	E-006	SF02 (陸上)	早周	I-A	縄文土器。	7.5YR5/4 7.5YR3/3	ない青白 黒褐色	真石、石英、黑色粒子、青閃石、白色 片岩	有
2	E-002	CF03 (陸上)	早周	I-A	縄文土器。	3YR6/4 3YR6/4	ない青褐色 ない青褐色	真石、石英、黑色粒子、青閃石、黑色 粒子、白色片岩	有
3	H-002	KU	早周	I-B-I	後院南塗山形背腹文。	7.5YR4/4 7.5YR4/4	褐色 褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、黑色 粒子、角閃石	有
4	H-002	KU	早周	I-B-I	後院南塗山形背腹文。	7.5YR4/4 7.5YR4/4	褐色 褐色	真石、石英、白色片岩、青閃石、黑色 粒子	有
5	H-003	KU	早周	I-B-I	後院南塗山形背腹文。口縁部にキザミ。	7.5YR3/2 7.5YR3/2	黒褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、綠石	有
6	D-005 D-006 D-007 E-005 F-006	KGP KU FB	早周	I-B-2	高輪御用押模文。口縁部にキザミ。	7.5YR7/2 7.5YR7/2	明褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子、白色粒子、灰色粒子	有
7	G-005	FB	早周	I-B-2	高輪御用押模文。	7.5YR7/2 7.5YR7/2	明褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、黑色 粒子	有
8	II-008	FB	早周	I-B-3	口縁文。	7.5YR6/1 7.5YR6/4	褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子	有
9	G-008	FB	早周	I-B-3	口縁文。	7.5YR6/3 7.5YR2/2	ない青褐色 黒褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子	有
10	E-003	FB	早周	I-C-1	II部に斜付文。斜拂ト目線模様文。	5YR5/6 5YR5/6	側面褐色 明赤褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、斜 石	有
11	E-003	KGP	早周	I-C-2	II部にキザミ。斜拂、斜線の島巣状跡+斜拂。	5YR5/6 5YR5/6	側面褐色 明赤褐色	真石、石英、斜石、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子	有
12	H-033	FB	早周	I-C-2	斜拂の無孔花型+斜拂。	2.5YR5/0 2.5YR5/0	斜拂褐色 明赤褐色	斜石、角閃石?、石英、真石、斜石	有
13	F-003 F-004	KGP FB	早周	I-C-2	口唇部にキザミ。斜拂の2本1組の尤脱。	2.5YR5/0 2.5YR5/0	斜拂褐色 明赤褐色	真石、石英、白色片岩、斜石、真石	有
14	F-003	KGP	早周	I-C-2	口唇部にキザミ。斜拂の島巣状模様。	2.5YR5/0 2.5YR5/0	斜拂褐色 明赤褐色	真石、石英、斜石、白色片岩、斜石、真石	有
15	F-004	KU	早周	I-C-2	口唇部にキザミ。斜拂の島巣状模様。	2.5YR4/4 2.5YR4/4	斜拂褐色 明赤褐色	真石、石英、斜石、白色片岩、斜石、真石	有
16	E-004 H-004	KU	早周	I-C-2	口唇部にキザミ。斜拂、斜線の4本1組の島巣状模様。	5YR6/0 5YR4/4	ない青褐色 ない青褐色	真石、石英、斜石、白色片岩、斜石、黑色 粒子	有
17	G-002 G-002	KGP FB	早周	I-D	斜拂で斜拂、斜引込み、洗顔で丸轆。	7.5YR7/6 7.5YR6/6	褐色 褐色	真石、石英、灰褐色、白色片岩、灰褐色 粒子、黑色粒子、黑色粒子	有
18	F-002	KGP	早周	I-D	四隅で斜拂、斜引込みで丸轆。	5YR6/6 5YR6/6	褐色 褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子	有
19	F-002	KU	早周	I-D	四隅で斜拂、斜引込みで丸轆。	5YR6/6 5YR6/6	褐色 褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子	有
20	F-002	KGP	早周	I-E	口端部内外面に斜拂。	10YR5/6 10YR5/6	斜拂褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、斜 石	有
21	F-002	SG	早周	I-E	斜拂斜溝+斜拂。	10YR5/6 10YR5/6	斜拂褐色 ない青褐色	真石、石英、斜石、白色片岩、黑色 粒子	有
22	L-005	KGP	早周	I-E	斜拂斜溝+斜拂。	10YR5/6 10YR5/6	ない青褐色 ない青褐色	真石、石英、斜石、真石、白色片岩	有
23	D-002	FB	早周	I-F	補修孔有、内側底面溝窓。	10YR5/6 10YR5/6	ない青褐色 ない青褐色	黑色粒子、真石、石英、斜石	有
24	G-003	KGP	早周	I-F	設置、洗顔+斜引き。	5YR6/6 5YR7/4	褐色 ない青褐色	真石、真石、黑色粒子、斜石、白色 粒子	有
25	G-002	KU	早周	I-F	設置。	7.5YR7/6 7.5YR4/2	褐色 褐色	真石、石英、白色片岩	有
26	D-003 E-003 E-004 F-004	KGP KU FB	早周	I-F	口縁部右斜拂起。上半部の縄文文様。下半部と内 面に底面調整。口径約元底31.8cm。	5YR6/6 5YR7/6	褐色 褐色	真石、石英、白色粒子、白色片岩、斜 石、斜石、黑色粒子	有
27	D-005	FB	早周	I-F	口縫文。	7.5YR3/3 7.5YR7/6	褐色 褐色	石英、真石、斜石、白色粒子、黑色 粒子	有
28	E-003	SF03 (陸上)	早周	I-F	口縫文。	7.5YR4/2 7.5YR4/2	褐色 褐色	真石、石英、黑色粒子、黑色粒子	有
29	E-003	SF03	早周	I-F	内外面、条幅調製。	5YR4/4 5YR4/4	ない青褐色 ない青褐色	真石、石英、黑色粒子、斜石、角閃石、 黑雲母	有
30	I-003	FB	早周	I-F	内外面、条幅調製。	5YR5/6 5YR5/6	斜拂褐色 斜拂褐色	真石、石英、斜石、白色粒子、黑色 粒子	有
31	H-003	FB	早周	I-F	斜拂斜溝深5.4cm。	5YR5/4 5YR5/4	ない青褐色 明赤褐色	真石、石英、角閃石、斜石、黑色 粒子	有
32	G-002 H-002	KU FB	早周	I-G	縄文土器。口縫底元径25.8cm。	5YR5/6 5YR5/4	褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子、白色片岩、斜石、角閃石、黑 色粒子	有
33	G-002	KU FB	早周	I-G	縄文土器。	5YR5/4 5YR5/4	ない青褐色 ない青褐色	真石、石英、白色片岩、黑色粒子、青 色粒子、斜石、白色片岩、黑色粒子	有
34	D-007	KGP	早周	I-H-I	洗顔の洗顔+斜拂。外縁に厚く斜付。	5YR5/4 5YR5/6	ない青褐色 明褐色	白色片岩、石英、斜石	有?

序号 番号	グリッド	階級	時期	分類 基準	文様・特徴等	色調	外因 鉱物	粘土	地層性	
35	H-007	KGP	早朝	I-H-1	洗詰で直面、縦内形の割れで実現。	5SYR4/6 5SYR5/6	にない赤褐色 にない赤褐色	黄土、石英、白色岩片、赤色粒子、輝石、 角閃石	無	
36	B-007	KGP	早朝	I-H-1	内外面、複数の平行沈殿。	SYR5/6 SYR6/6	にない赤褐色 にない赤褐色	黄石、石英、白色岩片、薄色藍子	有	
37	G-006	ZB	早朝	I-H-2	外壁、赤鉄鉱+鉄銹斑。	SYE5/6 SYE6/6	赤色斑点 赤色斑点	黄石、石英、赤色粒子、白色岩片、黑 色粒子、藍子	有	
38	D-008	ZN	早朝	I-H-2	外壁、赤鉄鉱+鉄銹斑。	7.5SYR2/4 7.5SYR2/6	にない赤褐色 赤色	黄石、石英、白色岩片、赤色粒子、黑 色粒子、藍子	有	
39	E-002	SF13 (直上)	早朝	I-H-2	内外面、赤鉄鉱斑。	SYR5/4 SYR6/6	にない赤褐色 にない赤褐色	黄土、石英、黑色粒子、輝石、藍子	有	
40	G-007	KU	早朝	I-H-2	外壁、赤鉄の無い赤鉄鉱斑。	7.5YR4/4 7.5YR5/6	褐色 にない赤褐色	黄土、石英、白色岩片、藍色斑点	有	
41	B-007	KU	早朝	I-H-2	底盤の付着痕斑。	7.5YR4/4 7.5YR5/6	褐色 にない赤褐色	黄石、石英、白色岩片、黑色粒子、輝 石	有	
42	G-002	KU	早朝	I-H-3	無文+墨口鉛錠、口唇部にヘラ状工具によるキザミ。	7.5YR4/6 7.5YR5/6	にない褐色 黒褐色	黄土、石英、黑色粒子、黑色液化 土	有	
43	G-002	KU	早朝	I-H-3	無文+墨口鉛錠、口唇部にヘラ状工具によるキザミ。	SYE5/6 SYE6/6	にない赤褐色 黑色斑点	黄土、石英、白色岩片、輝石、薄色藍子、 黑色粒子	有	
44	B-007	KU	早朝	I-H-3	前文上部直面。	7.5YR3/3 7.5YR4/3	褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、輝石、黑色液化 土	有	
45	G-002	KU	早朝	I-H-3	東側系上部。	10YR5/6 10YR6/6	にない褐色 褐色	黄石、石英、白色岩片、黑色粒子、輝 石	有	
46	G-002	KU	早朝	I-H-3	東側系下部。	10YR7/8 10YR8/8	にない褐色 褐色	黄土、石英、赤色粒子、蓝色斑点、沙 粒	有	
47	C-007	KGP D-007 D-008 KU FB	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。口徑倒丸形約5cm。	5YR5/2 5YR6/6	褐色 褐色	黄土、石英、黑色粒子、黑色液化、角 閃石、輝石	無	
48	D-007	KGP	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。口徑倒丸形約8.9cm。	SYR5/6 SYR6/6	褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、輝石、角閃石	無	
49	D-007	KU	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。	SYR5/1 SYR6/1	褐色 褐色	黄石、石英、白色岩片、輝石、黑色液化 土	無	
50	D-007	KGP	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。	SYE4/6 SYE6/6	にない赤褐色 黑色	黄土、石英、白色岩片、輝石、黑色粒子、 角閃石	無	
51	D-007	KGP D-008	KU	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。	SYE5/2 SYE6/6	褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、輝石、角閃石	無
52	D-007	KGP	前期	II-A	横段に3列の剥離斜。	SYR4/6 SYR5/6	褐色 褐色	黄石、石英、白色岩片、輝石、黑色液化 土	無	
53	D-007	FB	前期	II-A	ヘラ状の工具を基盤に直角に剥離。	SYE5/6 SYF6/6	にない赤褐色 黑色	透光、石英、黑色粒子、赤色粒子、白 色岩片	無	
54	D-008	FB	前期	II-A	ヘラ状の工具を基盤に直角に剥離。	SYR4/3 SYR5/6	にない赤褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、黑色粒子、白 色岩片	無	
55	D-008	FB	前期	II-A	ヘラ状の工具を基盤に直角に剥離。	SYE5/3 SYR6/6	褐色 褐色	黄石、石英、白色岩片、黑色粒子	無	
56	C-007 (直上) D-007 D-008 (直上) KU	前段	II-A	剥離強化。	7.5YR4/4 7.5YR5/6	褐色 にない褐色	黄石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、 黑色粒子	無		
57	G-009	FB	前期	II-A	RLの剥離。	10YR2/2 10YR3/2	褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、黑色粒子	無	
58	F-003	KGP (直上) KGP KU	前段	II-B-1	RLの縱文+底面。浮躁火上に剥離。	7.5YR5/6 7.5YR6/6	にない褐色 にない褐色	黄土、石英、白色岩片、輝石、黑色粒子、 黑色粒子、黃鐵	無	
59	G-002 G-003	KGP KU	前段	II-B-1	地文なし。2本1組の平行沈殿を3列横位に施丸。	5YR5/6 5YR6/6	褐色 褐色	黄土、石英、白色岩片、黑色粒子、黑 色粒子、輝石	無	
60	C-006	FB	前段	II-B-1	地文なし。半板状岩による剥離。	7.5YR3/3 7.5YR5/6	褐色 褐色	黄石、石英、雲母、黑色粒子、輝石	無	
61	不明	KU	前段	II-B-1	地文なし。半板状岩による剥離。	SYR9/4 SYR10/4	にない赤褐色 にない褐色	黄石、石英、雲母、黑色粒子、輝石	無	
62	C-007	KGP	前段	II-B-1	地文なし。半板状岩による剥離。	7.5YR3/4 7.5YR5/4	褐色 褐色	黄石、石英、雲母	無	
63	G-002	FB	前段	II-B-1	地文なし。半板状岩による剥離。	7.5YR3/3 7.5YR5/2	褐色 褐色	黄石、石英、雲母、輝石、白色岩片	無	
64	H-007 H-008	KGP KU	前段	II-B-2	半板状岩による結合洗練+押引き、2箇1組の円形剥離 取り付。	5YR4/6 5YR4/6	褐色 にない赤褐色	黄石、石英、雲母、黑色粒子、黑色粒子、 角閃石、白色岩片	無	
65	E-007	KU	前段	II-B-2	同心剥離と押引き。円形剥離付。	5YR5/4 5YR6/4	褐色 褐色	黄石、石英、雲母、白色岩片、黑色粒子、 角閃石	無	
66	H-007	KGP KU	前段	II-B-2	半板状岩による押引きで縁部を埋める。2箇1組の円 形剥離取り付。	SYR3/6 SYR4/6	褐色 褐色	黄石、石英、雲母、白色岩片、黑色粒子、 輝石、白色岩片	無	
67	M-008	FB	前段	II-B-2	LXの露文。	SYR2/3 SYR3/6	褐色 褐色	黄石、石英、雲母、白色岩片、黑色粒子、 角閃石	無	
68	E-006	KU	前段	II-B-3	LXの露文。	7.5YR5/6 7.5YR6/6	褐色 褐色	黑色粒子、黄土、石英、輝石、雲母、 黑色粒子、黑色粒子	無	
69	H-008	KU	前段	II-B-3	LXの露文。	7.5YR4/3 7.5YR4/6	褐色 褐色	黄石、石英、白色岩片、雲母、輝石、 黑色粒子、黑色粒子	無	

登録番号	グリッド	層位	帶名	分带 日-英-福	文書・特徴等	色調	外觀 外觀	地名	測量法
70 H-609	KU	南期	II-B-3	L丸の認文。	SYR3/2 SYR4/4	暗赤褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、白色岩片 片岩	無	
71 G-609	FB	南期	II-B-3	L Rの認文。	SYT4/4 SYT4/5	に古い赤褐色 赤褐色	長石、石英、白色岩片、碧玉、輝石、黑 色粒子	無	
72 D-606	SG KU FB	南期	II-B-3	無字し只の櫛文加体を前方方に軸がし、羽状にする。	SYT4/5 SYT5/5	暗褐色 明赤褐色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子、赤 色岩片、輝石	無	
73 F-002 F-003	KGP	南期	II-B-3	R Lの認文。	SYR4/4 SYR4/5	に古い赤褐色 赤褐色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子、輝石、黑 色粒子	無	
74 F-002	FB	南期	II-C-3	R Lの西文辨序を斜方方に軸がす？	SYR4/4 SYR4/5	に古い赤褐色 赤褐色	長石、石英、輝石、白色岩片、銀色證子、黑 色粒子、碧玉	無	
75 F-009	KU	南期	II-B-3	認文の押印か？墨模せない。	SYT4/5 SYT5/5	に古い褐色 赤褐色	蛋白巣巣、銀色證子、長石、石英、黑 色粒子、輝石	有	
76 S-008	FB	南期	II-B-3	認文の押印か？墨模せない。	SYT5/5 SYT5/6	に古い褐色 赤褐色	白色岩片、黑色粒子、具石、石英、砂 粒	有	
77 D-005	SG	南期	II-B-3	認文の押印か？墨模せない。	SYT5/5 SYT5/6	に古い褐色 赤褐色	真石、石英、黑色粒子、砂粒	有	
78 I-001	SG	南期	II-B-3	LRとRLの經文辨序を傾方向に軸がし、羽状にする。	SYT5/4 SYT5/5	海色 海風色	長石、石英、輝石、碧玉、黑色粒子、赤 色岩片	有	
79 E-002	FB	南期	II-B-3	無字の記文。	SYT4/4 SYT5/5	に古い褐色 赤褐色	長石、石英、白色岩片、輝石、碧玉、黑 色粒子	無	
80 C-005	FB	南期	II-B-3	外側、口跡部直下に北向。L Rの認文。	SYT5/3 SYT5/4	暗褐色 暗褐色	光石、石英、白色岩片、黑色粒子、赤 色粒子、輝石	無	
D-005 S-006 F-003	KU FB	南期	II-B-3	LRの認文。	SYT5/6/4 SYT5/5/6	に古い褐色 褐色	長石、石英、白色岩片、輝石、黑色粒子	無	
82 D-005	KGP	南期	II-B-3	LRの認文。	SYT5/2/3 SYT5/4	暗褐色 褐色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子、赤 色粒子	無	
83 F-002	KU	南期	II-B-3	KLの認文。欽丸。	SYT5/3 SYT5/5	暗褐色 海風色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子、赤 色粒子、輝石	無	
84 F-008	KGP	南期	II-C	赤荷赤十周。RLの認文。渡賀。	10YRG3/3 10YR5/4	に古い褐色 に古い黃褐色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子	無	
85 G-007	FB	南期	II-C	赤荷赤十周。LRの認文。渡賀。	7.5YR4/3 7.5YR4/4	褐色 褐色	長石、石英、黑色、輝石	無	
86 M-696	KGP	中期	III-A	ミニチュア。横位状態で弧曲、羽状状態で先端。	SYT5/6 SYT5/1	褐色 鐵褐色	長石、石英、黑色粒子、黑色粒子、輝石、赤 色岩片、砂粒	無	
M-005 M-006	SG KGP	中期	III-B	口跡部に經文。鉢行するヨリカビラ文とそれに沿った三 角辨文と二叉文。口跡行元径18.8cm。	SYT5/5 SYT5/6	に古い褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、黑色粒子、輝石、白 色岩片、黑色粒子、砂粒	無	
88 M-005	KGP	中期	III-B	三角辨文による直三角向。三叉文で先端。	10YR7/4 10YR5/4	に古い黃褐色 に古い黃褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色粒子	無	
89 I-005	KGP	中期	III-B	RLの認文。ヨリカビラ文と二叉辨文。	SYT5/5 SYT5/6	暗褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色粒子	無	
90 M-005	KGP	中期	III-B	ヨリカビラ文と二叉辨文と三叉文。	SYT5/3/2 SYT5/4/1	深褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、黑色 岩片	無	
91 M-006	KGP	中期	III-B	體帶で階形部に区间。三直辨文で先端。底座徑元徑 10.0cm。	SYT4/4 SYT4/4	に古い褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂粒、砂砾	無	
92 M-006	KGP	中期	III-B	神符で横凹形に区间。三直辨文で先端。鉢行狀元徑 9.5cm。	SYT4/3 SYT4/3	に古い褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、砂母	無	
93 I-005	KGP	中期	III-B	帽狀の直角辨文で直角形に区间。底座徑元徑12.2cm。	SYT5/5/4 SYT5/5/4	に古い褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
94 M-005	KGP	中期	III-B	山形に燃る階帶と三角辨文+鐵狀の底座。	SYT4/4 SYT4/4	に古い褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片	無	
M-005 N-005	KGP	小崎	III-B	外反し、開けた形部。楕圓のヨリカビラ文。	SYT5/6 SYT5/6	に古い褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色粒子、砂母	無	
96 M-006	KGP	中期	III-B	地下する階帶とその片側に山角辨文と爪形文。	SYT4/4 SYT5/5	に古い褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、黑色岩 片	無	
97 H-008	SBR	中期	III-C	山形。口跡部に横凹形の認文。ヨリカビラ文と直角 辨文で横凹形に区间。10YR5/4/11YR5/4/12cm。	SYT4/4 SYT4/4	に古い褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
98 D-006	KU	中期	III-C	キザミを持つ階帶。	SYT4/6 SYT4/6	褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
99 D-008	KGP	中期	III-C	キザミを持つ階帶。	SYT4/4 SYT4/4	に古い褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
100 C-008	KGP	中期	III-C	キザミを持つ階帶。	SYT4/2 SYT5/4	暗褐色 に古い褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石	無	
101 M-006	KGP	小崎	III-C	階帶+直角辨文+鉈狀沈澱。	SYT5/6 SYT5/6	褐色 褐色	長石、石英、白色岩片、輝石、黑色粒子	無	
102 M-005	KGP	中期	III-C	階帶+直角辨文+鉈狀沈澱。	SYT5/6 SYT4/4	暗褐色 に古い褐色	長石、石英、白色岩片、輝石、黑色粒子	無	
M-005 M-006	KGP	中期	III-C	認文を地文とする。突起を持つ底座の階帶+ヨリカ ビラ文+階帶の鉈狀沈澱。	SYT5/6 SYT5/6	暗褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
104 M-005	KGP	中期	III-C	認文を地文とする。底座の階帶+ヨリカビラ文+鉈狀 沈澱。	SYT5/6 SYT5/6	褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片、砂母	無	
105 N-005	FB	中期	III-C	認文を地文とする。押引き文と鉈狀沈澱。	SYT5/6 SYT5/6	暗褐色 褐色	長石、石英、白色岩片、黑色粒子	無	
M-005	KGP	中期	III-C	告出状の把手を持つ。RLの認文底座を斜方方に巻がす。	SYT5/5 SYT5/5	褐色 褐色	長石、石英、黑色粒子、輝石、角閃石、黑 色岩片	無	

図版 番号	グリッド	部位	時期	分類 第-和-通	文様・特徴等	色調	表面 状況	施土	地表
107	L-005 M-005 M-005	KGP 中期	III-C	RLの跡文を地文。口輪部底面に浅く軽度の沈線。キタビヒ文字と波状模様。	SYR16/4 SYR16/4	にぼい褐色 にぼい褐色	真石、石英、黑色粒子、白色粒子、角閃石、 鈍石、白色粒子、輝石	無	無
108	L-005	KGP 中期	IV-C	角網状のU部部。RLの残文を地文。	SYV15/3 SYV15/3	にぼい黄褐色 にぼい黄褐色	長石、石英、黑色粒子、白色粒子、角 閃石	無	無
109	M-005	KGP 中期	III-C	口輪部に倒錐のきず。その底面に供述焼鉢。RLの残文を地文とし、浅く軽度の沈線。	SYT16/4 SYT16/4	にぼい褐色 にぼい褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
110	M-005	SG 中期	III-C	RLの縁と胸腰しか?	SYT16/4 SYT16/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
111	M-005	KGP 中期	III-C	円孔。三井字と回頭を持った倒錐形残渣とキサミ。	SYT16/4 SYT16/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
112	F-007	KGP 中期	III-C	円孔のあとU跡線。環状の痕跡とU部に平滑面に沈線。	SYT16/4 SYT16/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
113	M-005	KGP 小期	III-C	RLの跡文を斜方向に転がす。底面焼元径11.8cm。	2.5SYR14 2.5SYR14	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
114	D-007 D-008 (E-007) KL	中期	III-C	RLの焼文。底面焼元径11.2cm。	7.5SYR14 7.5SYR14	褐色 にぼい褐色	長石、石英、白色碎片、黑色粒子、輝石、 黑色粒子	無	無
115	L-005 L-005 M-005	KGP 小期	III-D	内輪に沿って走るU痕線。キサミを持ち出すと野原の焼文及び軽度の凹凸を呈する。殆ど完全に消して、内輪の難窓孔。逆行する斜面の凹凸部分に残存する跡文を残す。(文) 繰文。施墨文を残す。	SYR16/4 SYR16/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、褐色、黑色碎片、黑色粒子、辉 石、白色碎片、象牙粒子	無	無
116	L-005 L-005	KGP KL 中期	III-D	口輪部。クリア突出のある断面形状の後帯。	SYR16/5 SYR16/5	明赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
117	I-009	EB 中期	III-D	キサミのある裏段の断面下と肩跡文。	SYT16/6 SYT16/6	明赤褐色 褐色	白色碎片、黑色粒子、輝石	無	無
118	G-002 H-003	SG KU 山地	III-D	周縁部に倒錐形のキサミを残した種差を送らせる。その上部に波状文。	SYV14/3 SYV14/3	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、白色片岩、黑色粒子、赤 色粒子、辉石	無	無
119	H-005	KGP KU 中期	III-E	口輪部は西文を地文とし、浅く逆行する焼文で遮蔽する。	SYV14/4 SYV14/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	長石、石英、白色片岩、黑色粒子、輝石、 黑色粒子	無	無
120	H-005	KGP 中期	III-E	J系の焼文を地文とする。沈筒文を施す。	SYT15/5 SYT15/5	明赤褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
121	H-005	KGP 中期	III-E	LRの焼文を地文とする。沈筒文を施す。	SYV14/6 SYV14/6	明赤褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
122	H-005	KGP 中期	III-E	焼文を施す。	SYT14/4 SYT14/4	にぼい赤褐色 にぼい赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
123	M-006	KGP 中期	III-E	RLの焼文を地文とする。沈筒文により壊滅して施す。	SYV14/1 SYT15/5	黒褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩	無	無
124	C-007	IP 中期	III-E	施墨文を施す。	7.5SYR14 7.5SYR14	にぼい褐色 にぼい褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
125	N-005	KGP 中期	II-E	RLの焼文。半球状の點付け文と円形(?)の施墨。	SYV14/2 SYV14/2	赤褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔、白色碎片	無	無
126	N-006	KGP 小期	II-E	RLの脚元部を裏面に転がす。	SYT16/6 SYT16/6	明赤褐色 にぼい赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
127	M-005	KGP 中期	II-F	RLの焼文。粘土の沈緑を施す。	SYT15/5 SYT14/2	明赤褐色 灰褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔、白色碎片、辉石	無	無
128	N-006	KGP 中期	II-F	RLの裏面全体を裏面方に転がし、その末に崩れて洗削を施す。屈筋によって区別する。	SYV14/3 SYV14/3	沿筋 網目状	长石、石英、白色片岩、黑色粒子	無	無
129	L-007 M-006 M-007	KGP 中期	III-F	J系の焼文が裏面全体を裏面方に転がす。脚下部では斜方間に転がす。	SYT15/6 SYT15/6 SYT15/6	明赤褐色 黑色 にぼい赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔、白色碎片、辉石	無	無
130	M-007	KGP 中期	III-F	RLの焼文。	SYT16/6 SYT16/6	沿筋 網目状	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
131	M-005	KGP 中期	III-F	RLの焼文。	SYT16/6 SYT16/6	白色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
132	I-003	KGP KU 中期	III-F	透跡の底部、鉢文。	SYV14/2 SYV14/2	沿筋 網目状	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
133	N-006	KGP 中期	III-F	底面、無文。	SYV14/6 SYV14/6	赤褐色 にぼい赤褐色	长石、石英、黑色粒子、角閃石、赤色 粒子	無	無
134	H-005	KGP 細期	IV	洗削。口輪部に1本の洗削を施させる。	SYT14/6 SYT14/6	赤褐色 赤褐色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無
135	I-005	SG 後期	IV	洗削。口輪部に1本の洗削を施させる。	SYT15/5 SYT15/5	にぼい褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、辉石、黑色 粒子	無	無
136	P-007	KGP 後期	IV	洗削。口輪部に1本の洗削を施させる。	SYV16/6 SYV16/6	赤褐色 明赤褐色	长石、石英、白色片岩、辉石、黑色 粒子	無	無
137	L-008	SG 後期	IV	底面。無文。底径深元径2.7cm。	2.5SYR15/6 2.5SYR15/6	明赤褐色 褐色	长石、石英、黑色粒子、辉石	無	無
138	E-007 (F-007) KL	後期	IV	倒壁上部。底面、調代板。底面焼元径7.0cm。	7.5SYT14/4 7.5SYR15/5	赤褐色 にぼい褐色	长石、黑色粒子、黑色粒子、角 閃石、白色粒子、辉石	無	無
139	N-007	KGP 後期	IV	粗質土器。底面、調代板。底径深元径7.8cm。	7.5SYR15/5 7.5SYR14/4	にぼい褐色 灰褐色	长石、石英、黑色粒子、黑色粒子、角 閃石、白色粒子、辉石	無	無
140	E-007	KGP 後期	IV	粗質土器。底面、調代板。底径深元径7.8cm。	7.5SYR15/5 7.5SYR15/5	にぼい褐色 灰褐色	长石、石英、黑色粒子、黑色粒子、角 閃石、白色粒子、辉石	無	無
141	I-008	NSC 後期	V	柔軟文。硬質、浮手。	2.5SYR2/1 2.5SYR3/1	褐色 黑色	长石、石英、白色片岩、黑色粒子、穿 孔	無	無

## (2) 石 器 (第72図～96図)

縄文時代の石器は2,264点出土し、剥片石器126点108個体、礫石器116点109個体を図示した。遺物は栗色土層、富士黒土層を中心に斬移層から表土まで出土している。石器の様相と出土土器から縄文時代草創期～後期の遺物であると考えられるが時期は明確ではないため、以下器種別に分類し報告する。

### 有舌尖頭器（第72図1）

有舌尖頭器は1点出土している。ホルンフェルス製で、風化が激しくリングの方向及び稜線は判然としない。舌部は折損している。

### 尖 頭 器（第72図1・2）

尖頭器は2点出土している。1は黒曜石製である。肉厚な両面加工の尖頭器の先端部で、断面は凸レンズ型で裏面左側縁部の剥離により器体の形状がねじれているように見える。中央から折損し全体の形状は不明である。廃地同定の結果、神津島恩馳群となっている。器体の形状と黒曜石の同定結果から縄文時代草創期押田瀬文土器群に併行する尖頭器の可能性がある。類例の出土は芝川町大塚遺跡が代表的である。2は細粒安山岩製で、大型の板状横長剥片を横位に用いている。素材面を多く残し、縁辺部に加工を施している。左側縁部中央に加工がされていない部分があり、未製品である可能性がある。右側縁部中央は破損により大きく抉れ、基部も折損している。また、他の細粒安山岩製の剥片石器は全て打製石斧であるため、打製石斧に関連した資料の可能性がある。

### 石 繖（第72図1～74図44）

石繖は48点47個体出土し、そのうち45点44個体を図示した。ガラス質黒色安山岩製1点、チャート製1点、流紋岩製1点、それ以外は全て黒曜石製である。1～23は部分的に欠損等があるものの形態分類が可能であり、基部形態により細分を試みた。ここでは下部の基準に従って分類・図示した。なお、分類不可能と判断した欠損品24～30及び未製品31～44は末尾に図示した。

#### I類 2本の脚部を持つもの (1～19)

- a 基部の加工がU字状のもの
- b 基部の加工がV字状のもの

#### II類 基部が直線に近いもの (20～22)

- a 側縁が直線的なもの
- b 側縁が基部の幅より張り出すもの

#### III類 脚部を持たないもの (23)

##### I類 2本の脚部を持つもの

###### I類-a 基部の加工がU字状のもの (1～14)

14点が該当する。1・4～6・8・9・11の7点は基部の両端まで凹状の加工が及んでいる。7～10・13・14はI類-aの中でも脚部を長く作り出している。13・14は器長に対し器幅が広い。2・3・12は脚部をよく作り出している。なお、9は裏面側の加工が少なく素材剥片の反りが残る。

###### I類-b 基部の加工がV字状のもの (15～19)

5点が該当する。

##### II類 基部が直線に近いもの

###### II類-a 側縁の形状が直線的なもの (20・21)

2点が該当する。

###### II類-b 側縁が脚部の幅より張り出すもの (22)

1点が該当する。素材剥片の反りが残り、先端部は欠損している。

##### III類 基部が凸状に加工されているもの (23)

I点が該当する。I・II類の石鐵と比較し、小型の石鐵である。

欠損品（形状不明）（24～30）

未製品（31～44）

周縁部からの加工が粗く素材の一部を残すため未製品とした。37は断面形が他の製品に比べ厚手で器形も整っていない。平面形態がI類に近いもの39・43・44、II類に近いもの31・33・35・38・40～42、III類に近いもの37に分類可能である。

スクレイパー（第74図1～76図16）

スクレイパーは30点28個体出土している。そのうち、16点を図示した。黒曜石製14点、ガラス質黒色安山岩製8点、珪質頁岩製2点、硬質細粒凝灰岩製1点、ホルンフェルス製1点、チャート製1点である。図示した資料は加工形状により細分を試み、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

I類 主に素材の片面から加工を施し、刃部を作り出しているもの（1～5）

II類 主に素材の両面から加工を施し、刃部を作り出しているもの（6～11）

III類 素材の縁辺を抉るように加工し、刃部を作り出しているもの（12～16）

I類 主に素材の片面から加工を施し、刃部を作り出しているもの（1～5）

5点が該当する。1・3は珪質頁岩製、2・4・5はガラス質黒色安山岩製である。1・2は素材の比較的薄い部分を加工し、1は下端部に2は側縁部に刃部を作り出している。3～5は主に素材に厚みのある部分を加工し、3・4は右側縁部に5は左側縁部に刃部を作り出している。また、3・4は主要剥離面の打点部を断ち器形を整えている。3は左下端部の折損部に加工を施していると考えられる。

II類 主に素材の両面から加工を施し、刃部を作り出しているもの（6～11）

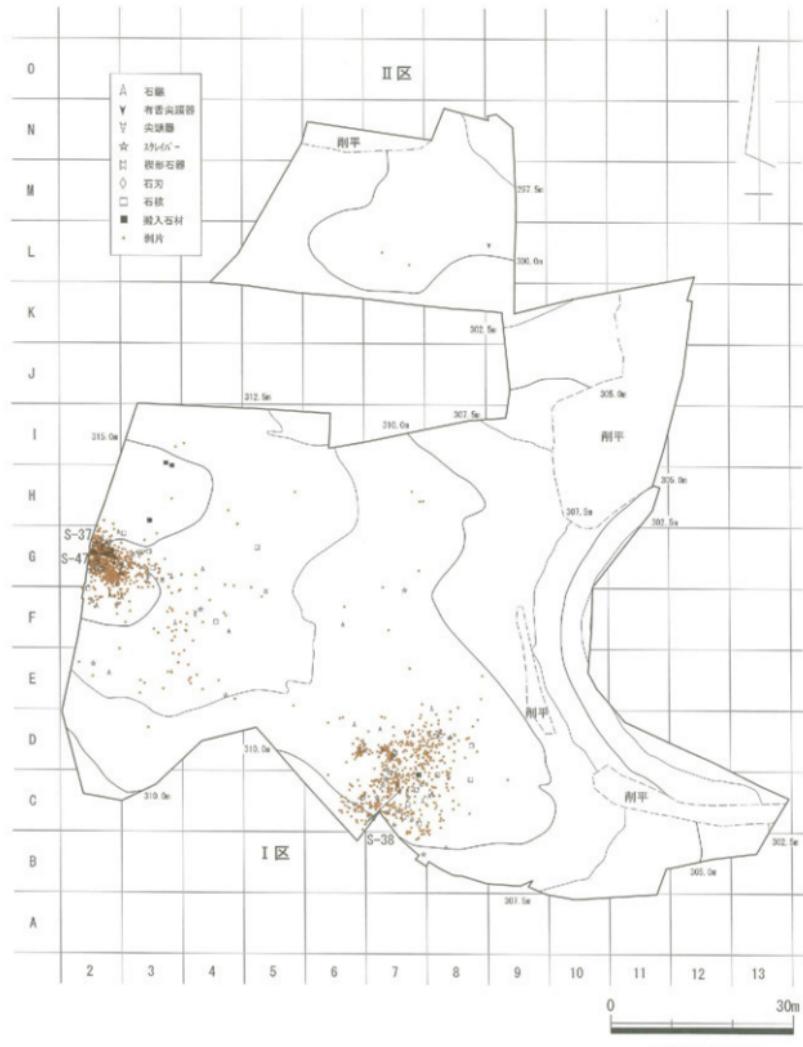
6点が該当する。6・7は黒曜石製で、産地同定をおこなっていないが、肉眼鑑定から6は神津島系または信州系の黒曜石、7は伊豆箱根系の黒曜石だと推定される。8・9はガラス質黒色安山岩製、10はホルンフェルス製、11は硬質細粒凝灰岩製である。6～8は素材の比較的薄い部分を加工し、6・8は下端部に、7は右側縁部に刃部を作り出している。9～11は主に素材に厚みのある部分を加工し、9・10は左側縁部に、11は上端部を除く周縁部に刃部を作り出している。6・7は産地同定をおこなっていないが、肉眼鑑定から6は神津島系または信州系、7は伊豆箱根系の黒曜石だと推定される。

III類 素材の縁辺を抉るように加工し、刃部を作り出しているもの（12～16）

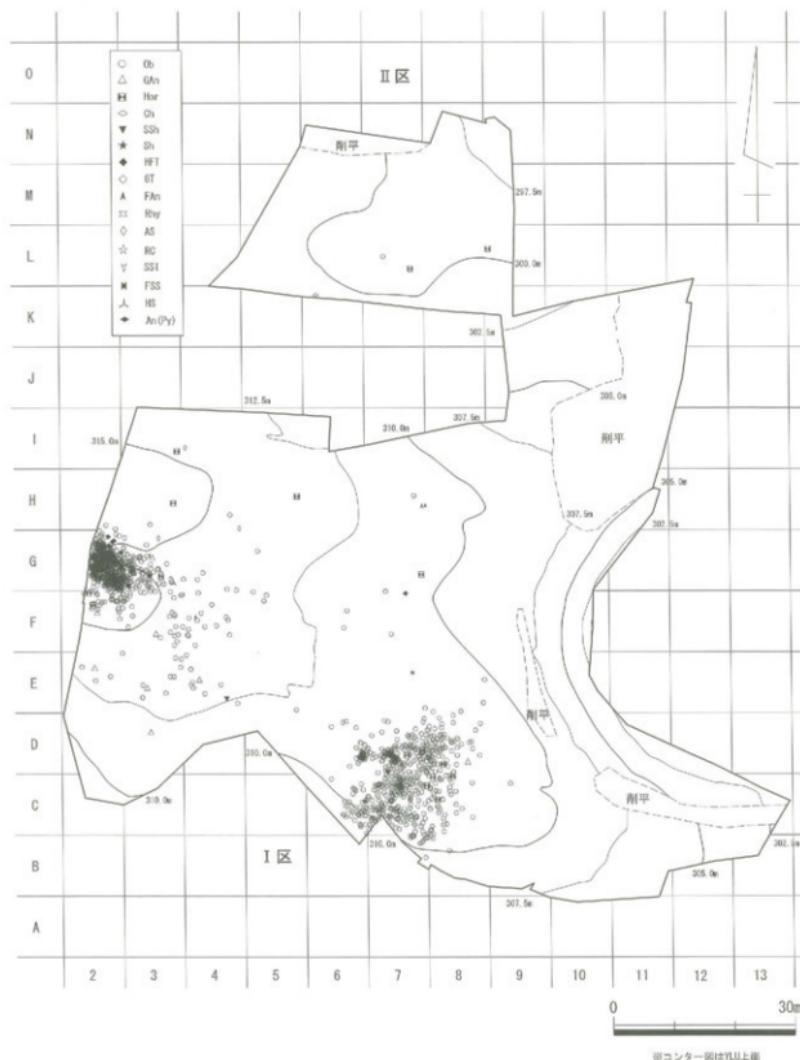
5点が該当する。12～15は黒曜石製である。12は裏面から加工を施し抉りを作り出している。左側縁部は表裏両面から加工を施している。右側縁部にも加工が施してあり他の用途を持っていた可能性もある。13は左側縁部全体と下端部に細かな加工を施し、左側縁上部に両面から加工を施し抉りを作り出している。14は両側縁部に抉りを作り出している。右側縁部は表裏両面から加工、左側縁部は裏面から加工している。抉り部分が左右対称に施され断面が凸レンズ状に加工されていること、下端部が折損によって失われており形状は不明であることから、他の用途を持っていた可能性がある。15は左側縁部に裏面より剥離をおこない、明確な抉りを作り出している。上端部を折損、下端部を欠損しており器形形状は不明である。産地同定の結果、12は天城柏崎群、14は諏訪星ヶ台群となっている。13・15は産地同定をおこなっていないが、肉眼鑑定から、いずれも信州系の黒曜石だと推定される。16は硬質細粒凝灰岩製で下端部裏面から剥離をおこない抉りを作り出している。他の黒曜石製の製品と異なり、素材剥片の薄い部分に抉りを作り出しており、他の用途を持っていた可能性がある。

楔形石器（第77図1～7）

楔形石器は7点が出土しており、素材は全て黒曜石の厚手の剥片である。上端部と下端部につぶれたような細かなひび割れが見られ、そこから対向方向の剥離痕が残ることから衝撃痕であると考え楔形石器とした。3は左側面部に微細な加工が見られるためスクレイパーとして使用されていた可能性もある。



第63図 剥片石器器種別分布



第64図 剥片石器石材別分布

石材は全て黒曜石製、産地同定の結果2・4・6は諏訪星ヶ台群、5は神津島恩馳群、7は天城柏峠群、1は推定不可、3は産地同定未実施となっている。肉眼鑑定から1は信州系、3は神津島系または信州系の黒曜石だと推定される。

#### 石 核（第77図1～78図10）

石核は29点出土している。そのうち10点を図示した。石材は黒曜石製25点、硬質細粒凝灰岩製2点、ホルンフェルス製1点、細粒安山岩製1点となっている。黒曜石製の石核1～8は厚みはあるが比較的平坦で小さい素材を用いている。特に1・3・4は自然面を多く残し、元々小さな石材を素材としていたことがうかがえる。7は剥片を素材とした石核だと考えられる。石核1～8は平坦面や節理面、自然面を打面として打面調整や頭部調整をせず不特定の方向から打撃を加えている。目的とする剥片形状は不定形であり用途についても不明である。9・10は拳大の碟の比較的扁平な碟の碟面より打撃を加え剥離をおこなっている。

#### 打製石斧・関連資料（第79図1～83図28）

石斧は48点31個体出土している。使用石材は細粒安山岩製7点、緑色凝灰岩製7点、頁岩製6点、ホルンフェルス製4点、角閃岩片岩製2点、珪質粘板岩製1点、粗粒砂岩製1点、細粒砂岩製1点、緑色片岩製1点、輝石安山岩製1点となっている。このうち24点を図示した。加工は縁辺部のみで胴部には自然面や素材の剥離面を残すものが多い。1～17は部分的な欠損等があるものの形態分類が可能であり、平面形態により、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

なお、分類不可能と判断した欠損品19～23及び未製品24と共に関連資料25～28を末尾に図示した。

I類 短冊型：長方形に近い形状で、刃部と基部の幅が近似しているもの（1～9）

II類 搢 型：台形に近い形状で、刃部が基部に比べ張り出しているもの（10～16）

III類 草鞋型：楕円形に近い形状で、曲線的な刃部・基部を持つもの（17）

#### I類 短冊型（1～9）

9点が該当する。1は大型の打製石斧で周縁部に加工を施しており、側縁部には着柄痕と見られる稜線のつぶれが観察できる。刃部裏面側に磨痕があり、一部刃部を磨いている打製石斧であるか使用による摩耗痕の可能性がある。刃部には使用痕と考えられる複数の剥離が見られる。2は器体中央部から折損している。先端は板状に剥離し器体が薄くなっているが、意図的な剥離とは考え難く、右側縁部に未加工の部分を残すことから未製品の可能性がある。3・4・7には、側縁部に着柄痕と見られる稜線のつぶれが観察できる。刃部には使用痕と考えられる複数の剥離が見られる。5・6は刃部の稜線がつぶれ丸みを帯びている。6は左側縁部が折損している。8・9は器体を大きく折損するものの残存部の形態からI類とした。

#### II類 搢 型

7点が該当する。10は、表面の周縁部に加工を施すものの裏面にはほとんど加工が見られないため、裏面加工の際に欠損した未製品である可能性がある。11は円碟面をそのまま活かし周縁部に加工を施し器形を整えている。側縁部には稜線のつぶれが観察できる。13は剥片の周縁部にのみ加工を施し器形を整えており、側縁部に稜線のつぶれが観察できる。また刃部を折損している。12・14は側縁部に稜線のつぶれが観察できる。12は基部を折損している。15は小型の打製石斧である。風化のため刃部表面にリシングが判然としない面がある。16は基部を折損した後、折れ面を再度加工したと考えられる。

#### III類 草鞋型（17）

1点が該当する。17は縁辺部に加工を施し刃部を丸く形成している。他の打製石斧と形状が異なることから他の用途に使用されていた可能性もある。基部は折損している。

#### 欠損品（18～24）

18~21は基部、22は胴部、23は刃部の一部であると考えられる。24は縁辺部まで礫面が残っているため、製作途中に欠損し放棄された可能性が考えられる。いずれも大半を折損しているため形状は不明である。

#### 未製品 (25)

25は刃部及び側縁部に加工を施すものの基部は未加工のままで打点部も大きく膨らみ器体も大きく反っている。

#### 関連資料 (26~28)

26は石材・加工から打製石斧関連資料としたが、他の製品に比べ小型であるため、別の目的のために製作された可能性がある。28はホルンフェルス製の剥片の左側縁部に微細な剥離痕が見られる。石材と形状から打製石斧未製品としたが、スクレイパーとして使用された可能性もある。

27は側縁部に加工痕があるが、形状も整っていないため打製石斧調整剥片だと考えられる。

#### 敲石・磨石・凹石 (第84図1~91図74)

敲石は53点52個体、磨石・敲石 (凹石1点を含む) 196点、磨石127点、合計375点が出土している。このうち敲石30点、磨石・敲石41点、磨石2点を図示した。石材は375点中47%が輝石安山岩製、次いで玄武岩製が29%、多孔質玄武岩製が7%、ディサイト製が5パーセント弱で上記の石材で90%弱を占める。図示した遺物に関しては敲打痕・磨面の部位により細分を試み、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

##### I類 敲石 (1~29)

- a 棒状の礫の端部に敲打痕を有するもの。(1~15)
- b 棒状の礫の胴部・端部に敲打痕を有するもの。(16~24)
- c 卵形・扁平な礫の不特定の箇所に敲打痕を有するもの。(25~29)

なお、27については平坦部の表裏に深い敲打痕を有するため、凹石と分類できるが、不特定の箇所に敲打痕を有するため I-c 類に分類した。

##### II類 磨石・敲石併用 (30~72)

- a 棒状の礫の胴部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの。(30~40)
- b 不定形の礫の胴部・端部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの。(41~42)
- c 扁平な礫の平坦部に磨面、不特定の箇所に敲打痕を有するもの。(43~50)
- d 扁平な礫の平坦部・周縁部に磨面・敲打痕を有するもの。(51~58)
- e 扁平な礫の平坦部に磨面、周縁部に磨面・敲打痕を有するもの。(59~63)
- f 扁平な礫の周縁部に磨面・敲打痕を有するもの。(64~72)

##### III類 磨石 (73~74)

- a 扁平な礫の平坦部に磨面を有するもの。(73~74)

#### 礫 器 (第92図1~93図12)

礫器は19点出土している。石材は13点が輝石安山岩製、6点が玄武岩製で、いずれも比較的平坦な礫を使用している。15点を図示した。8以外は全て片面から剥離を施し刃部を作り出している。1~3は刃部の対極に敲打痕がある。10・11は両極に剥離痕がある。8は表裏両面より剥離があり、石材が玄武岩であるため石核とはせず礫器と判断した。2・3・5は磨面があり石皿等別の用途があった可能性がある。

#### 石皿・台石 (第94図1~96図23)

石皿・台石には、重量2.0kg以上で手持ち使用に適さないと判断した礫石器を分類した。ただし、磨痕により明確に凹面部が形成される礫に関しては、小型であっても磨石とせず石皿として扱った。石材は輝石安山岩を用いているものが非常に多く全体の7割以上を占めた。

石皿・台石は149点（石皿135点・台石14点）出土し、そのうち24点を図示した。欠損等があるものの形態分類が可能であり、平面形態により、ここでは下記の基準に従って分類・図示した。

I類 石皿 碠の比較的平坦な面に磨痕が認められるもの（1～20）

II類 台石 碠の比較的平坦な面に主に敲打痕が認められるもの（21～23）

#### I類 石皿（第94図1～第95図20）

1～3・10～12・14は磨痕により極端に凹みがあり、磨りの方向がある程度一定だったと考えられる。4・5・7～9・13・15・18は磨痕により中央部ないしは一定の箇所が皿状に凹んでいる。6・15・17・19・20は明確な凹みはないが、平坦面に磨り面を持つ。13・20に関しては砾器として使用された可能性もある。7・12・14・18は攪乱からの出土であり、7・12は黒色付着物がある。9・10～15・17～20は欠損品である。

#### II類 台石（第96図21～23）

1は平坦面の比較的中心部分に敲打痕が残る。裏面に磨面を持つため石皿として使用された可能性がある。2・3は住居跡内から出土し、石臼い炉の炉石の可能性があるが、黒色付着物がなく被熱も判断できなかった点、敲打痕及び磨痕が確認できる点から台石とした。2は断面が三角形であり、平坦面を地に付けておいた場合、天を向く稜線の一部に剥離痕が見られるため、台石打法のような用いられた方をした可能性もある。3は平坦部に磨痕と敲打痕、端部に敲打痕が認められるため、何らかの作業台として使用された可能性と共に磨礫石のような使われ方をしていた可能性もある。

### （3）石器集中部（第69図～71図）

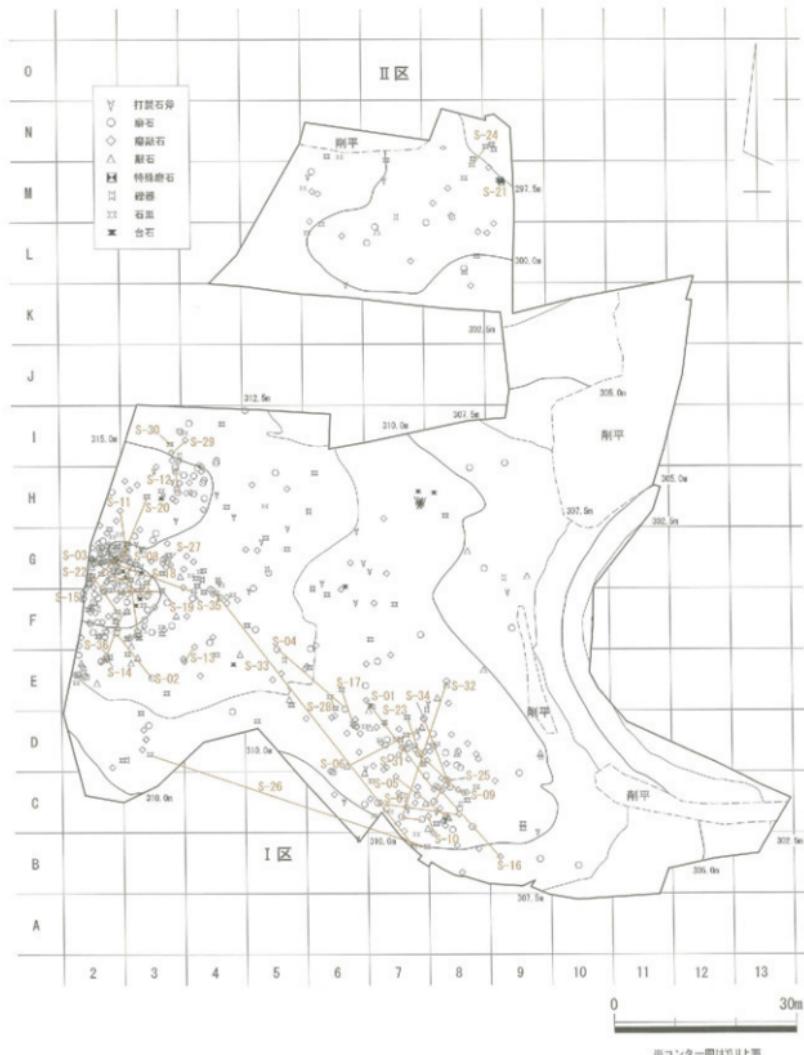
石器が集中して出土した地点を便宜的に石器集中部とした。いずれの集中部も黒曜石製の剥片が大部分を占め、微細な剥片が多数出土していること、石鎌や小さな石核が出土していることから黒曜石製の石器を作っていたと考えられる。なお、石器集中部は67図に示すとおり砾石器の出土地点と重なる形で分布している。また、50図に示すように石器集中部1・2の周辺からは主に前期の土器が、集中部3の周辺からは主に早期の土器が出土している。

#### 石器集中部1（第69図・第15表）

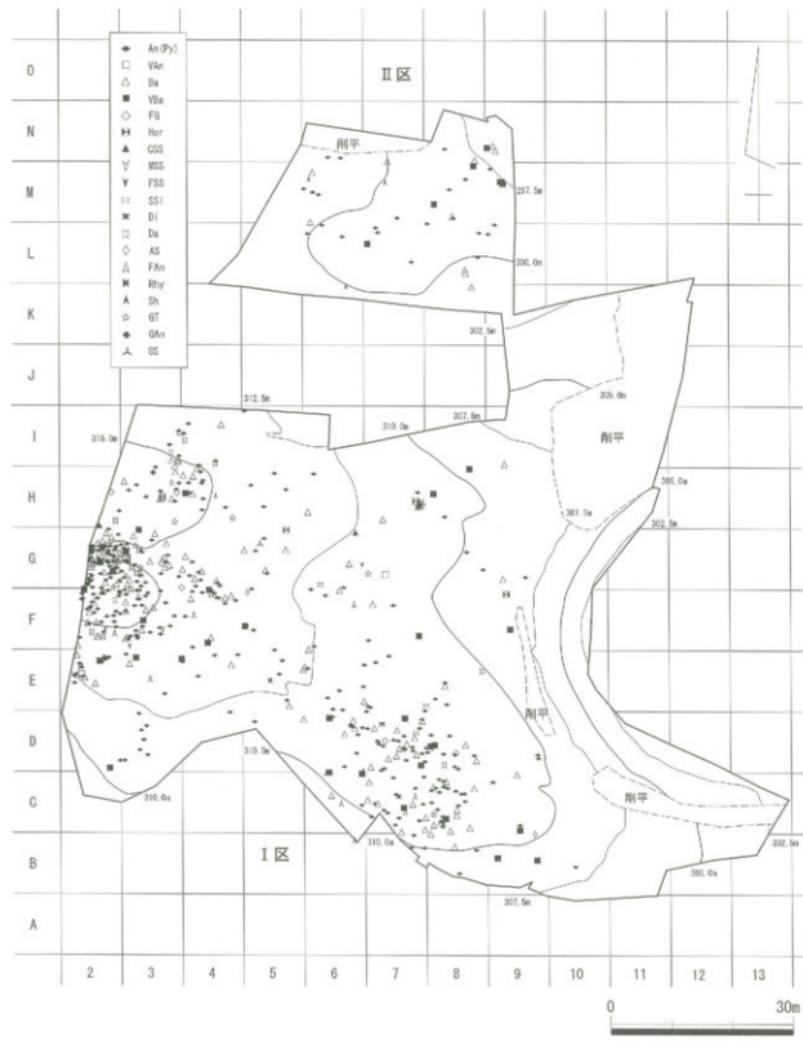
調査区第I区南側のB-7・8、C-7・8、D-7グリッドにまたがって確認され、長軸16.5m短軸110.6mの範囲に黒曜石286点、珪質頁岩1点、緑色凝灰岩1点が密集した形で分布する。標高311.3mを中心に約1.4mのレベル差が生じている。出土層位は富士黒土層が中心である。北東から南西にかけて傾斜しており、それに沿って遺物が検出されている。石器群は石鎌6点、スクレイバー4点、楔形石器1点、石核4点、打製石斧1点、剥片類271点の合計288点である。石器集中部1の黒曜石産地同定は9点の実施で、箱根烟宿群・天城柏崎群・神津島恩馳群・諏訪星ヶ台群の石材が使用されている。結果を第15表に示す。重量0.1g以下の100点の剥片を除き、出土した黒曜石の総重量は158.5g（平均重量0.92g）であった。

#### 石器集中部2（第70図・第15表）

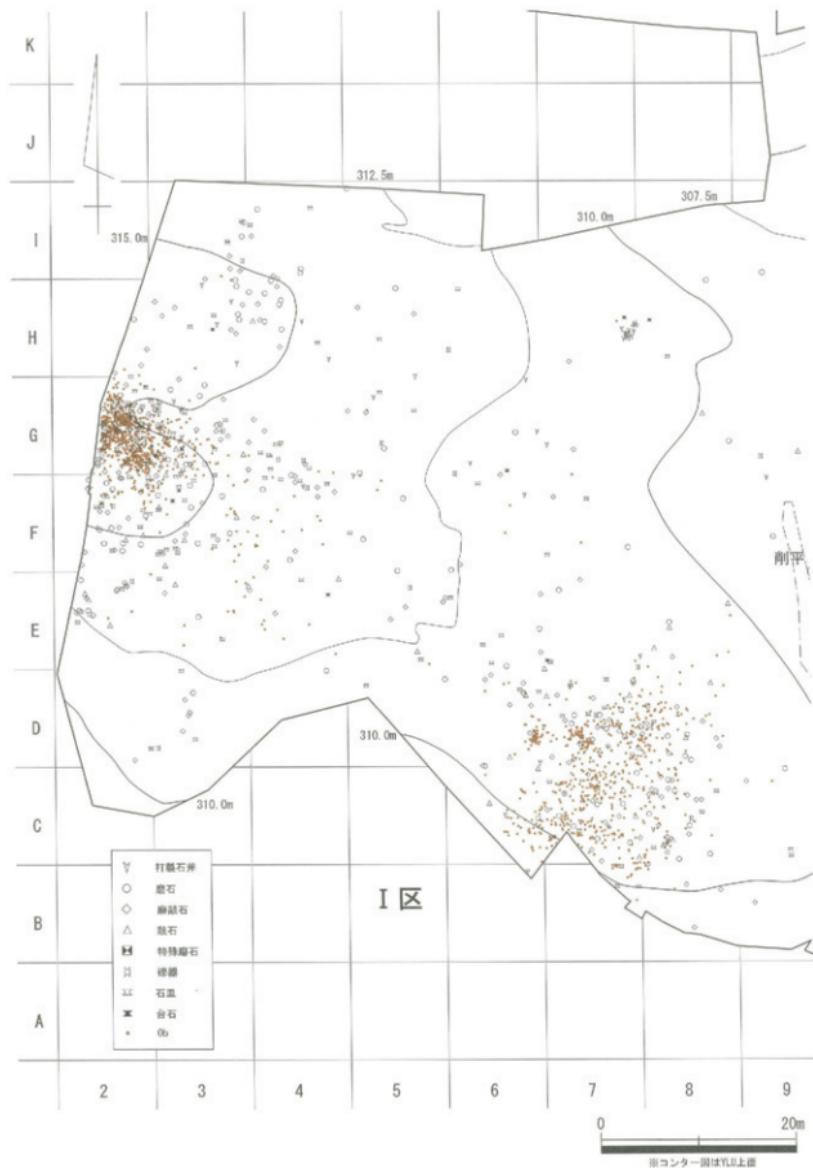
調査区第I区南側のC-8、D-7・8グリッドにまたがって確認され、長軸11.4m短軸8.9mの範囲に黒曜石108点、ホルンフェルス2点、珪質粘板岩1点が密集した形で分布する。標高311.7mを中心によく0.8mのレベル差が生じている。出土層位は栗色土層が中心である。北西から南東にかけて傾斜しており、それにそって遺物が検出されている。石器群は石鎌1点、スクレイバー1点、石核3点、剥片類106点の合計111点である。黒曜石産地同定は一部のみの実施で、天城柏崎群・神津島恩馳群の石材が使用されている。結果を第15表に示す。重量0.1g以下の32点の剥片を除き、出土した黒曜石の総重量は74g（平均重量0.95g）であった。



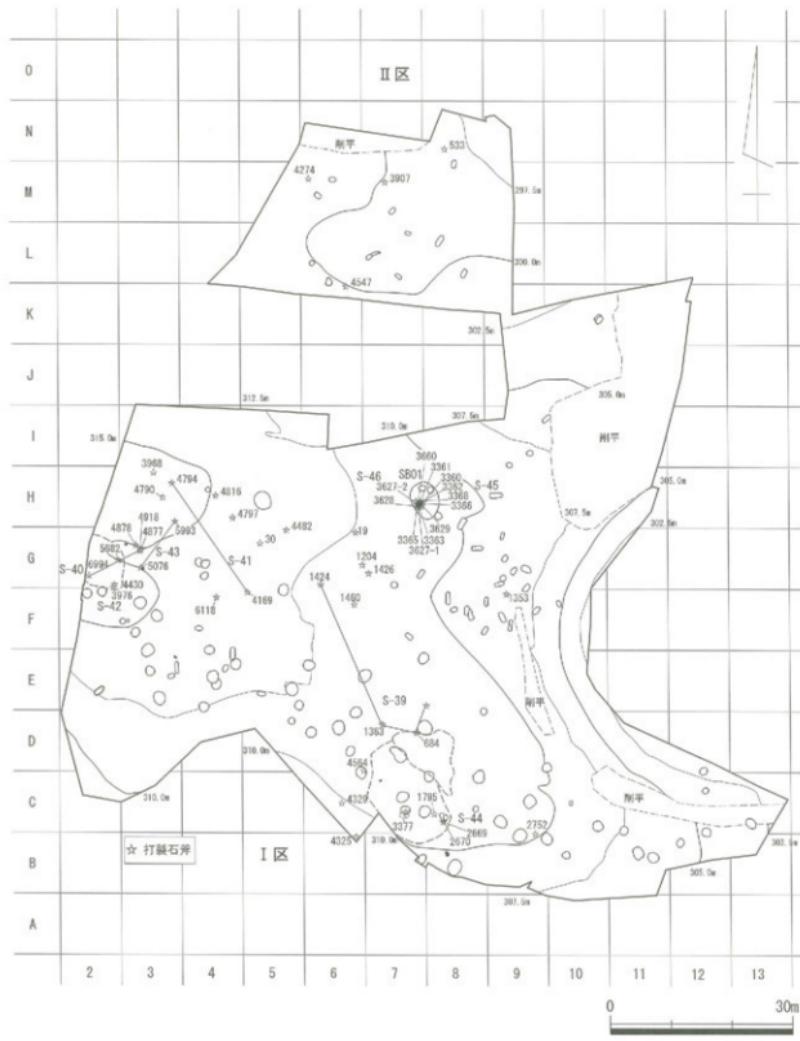
第65図 磷石器種別分布



第66図 積石器石材別分布



第67図 碓石器器種別及びOb分布

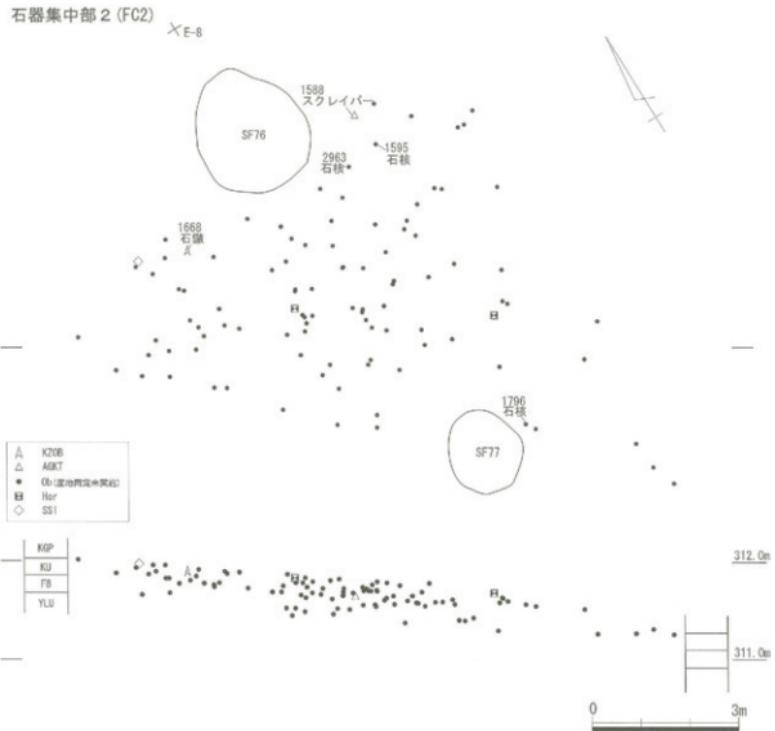


第68図 打製石斧分布

石器集中部 1 (FC1)



第69図 石器集中部石材別分布 1

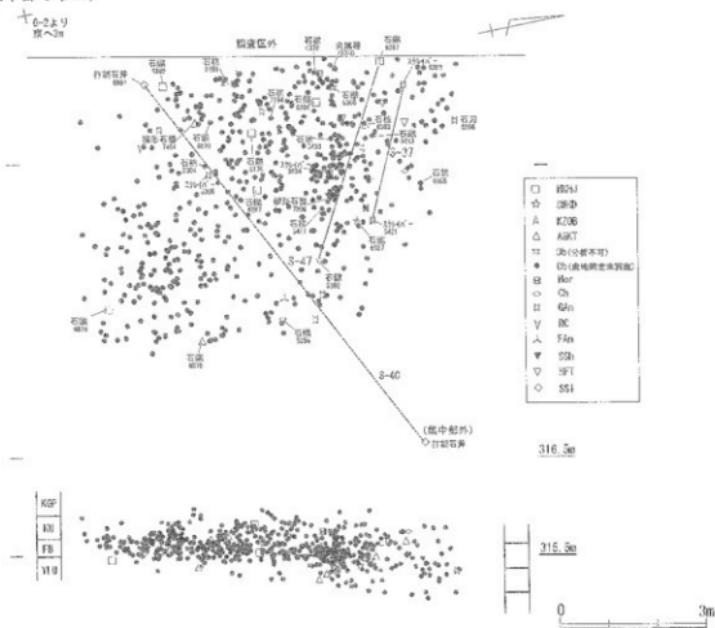


第70図 石器集中部石材別分布 2

### 石器集中部 3（第71図・第16表）

調査区第I区西端のG-2・3グリッドにかけて確認され、長軸9.2m短軸6.6mの範囲に黒曜石592点、ガラス質黒色安山岩12点、硬質細粒凝灰岩3点、水晶2点、珪質頁岩2点、チャート1点、細粒安山岩1点、ホルンフェルス1点、珪質粘板岩1点が密集した形で分布する。標高315.6mを中心にして約1.0mのレベル差が生じている。出土層位は栗色土層を中心とする。南西から北東にかけて傾斜しており、それにそって遺物が検出されている。石器群は尖頭器1点、石鎌12点、スクレイパー4点、楔形石器3点、石核8点、打製石斧未製品1点、石刃1点、剥片類584点の合計614点である。黒曜石産地同定は17点のみの実施で、箱根畠宿群・天城柏崎群・神津島恩馳群・諏訪星ヶ台群の黒曜石が使用されている。結果を16表に示す。重量0.1g以下の244点の剥片を除き、出土した黒曜石の総重量は278g（平均重量0.75g）であった。

## 石器集中部3 (FC3)



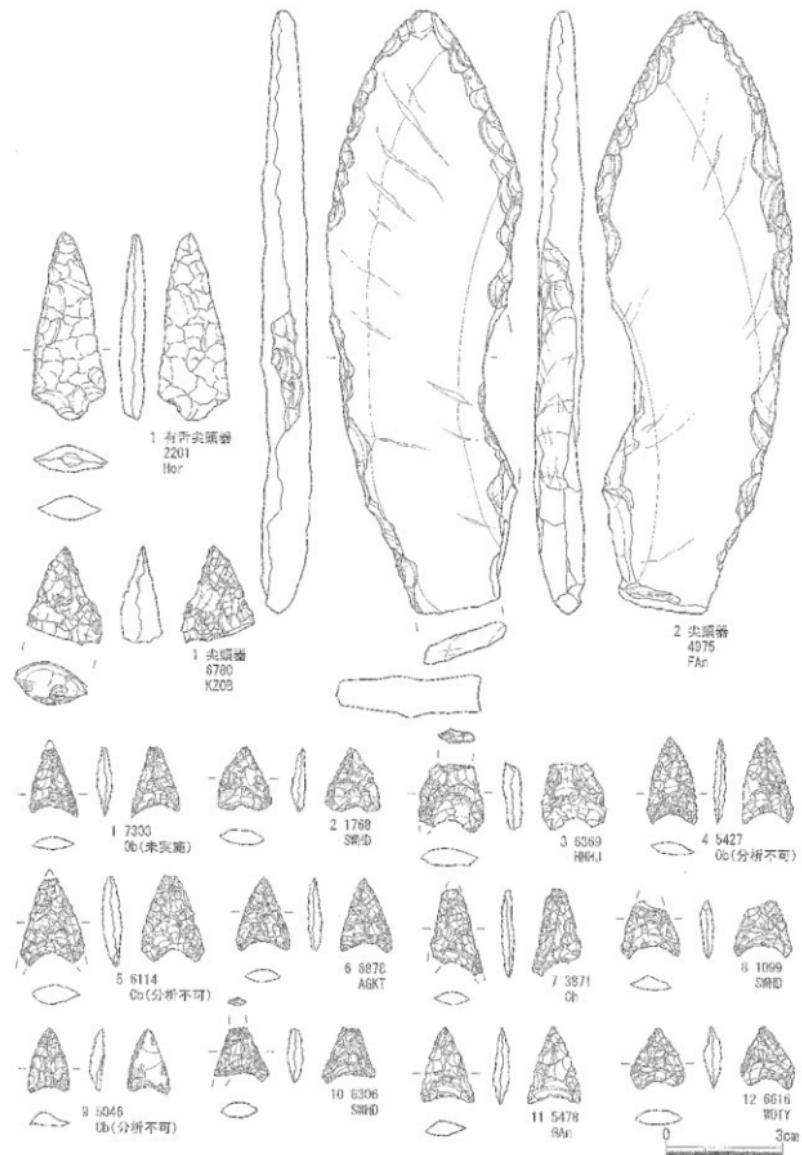
第71図 石器集中部石材別分布 3

第15表 石器集中部組成

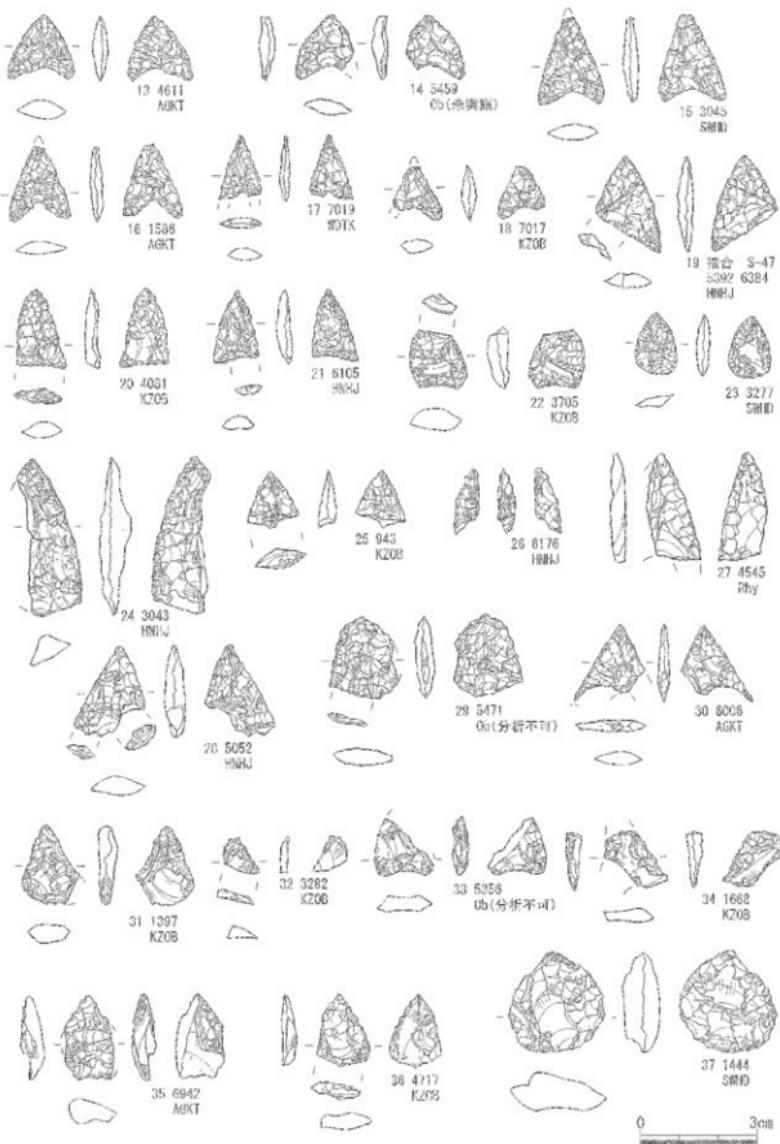
集中部1		集中部3													
	石器	スクリューバイ	複形石器	石板	打削石片	剥片類	合計		石器	スクリューバイ	複形石器	石板	打削石片	剥片類	合計
06	HNHJ	1					1		HNHJ	6					6
	AGKT				1		1		AGKT	1	1	2			4
	KZOB	1							KZOB	1					1
	SWHD	3			1	1		5	SWHD	2		1			3
	分析不可等				1			1	分析不可等	2					2
	産地同定未実施	1	2		2		271	277	産地同定未実施	1	1	6			557
SSh	1						1							1	
GT					1		1		GT						1
合計	6	4	2	4	1	271	288	合計	6	4	2	4	3	8	64

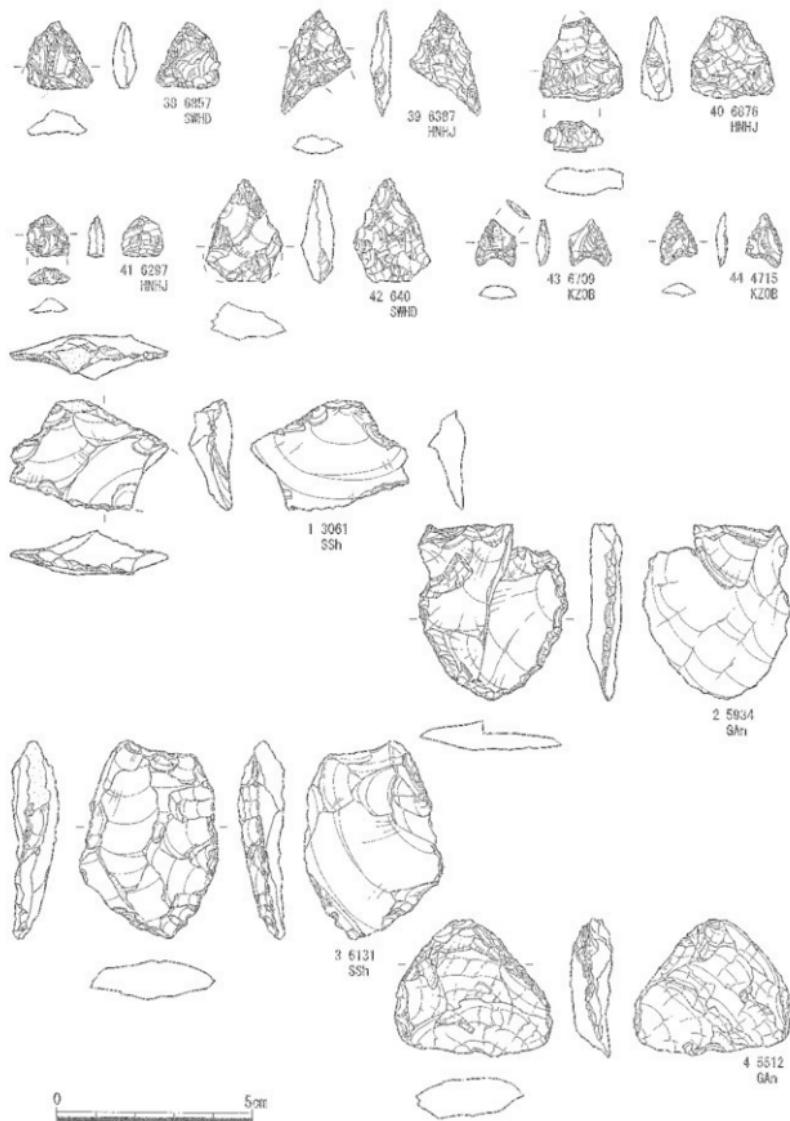
集中部2		集中部3													
	石器	スクリューバイ	複形石器	石板	剥片類	合計		石器	スクリューバイ	複形石器	石板	打削石片	剥片類	合計	
06	AGKT	1					1		HNHJ	6					6
	KZOB	1					1		AGKT	1	1	2			4
	産地同定未実施				3	103	196		KZOB	1					1
	Hor					2	2		SWHD	2					3
	SSI					1	1		分析不可等	2					2
	合計	1	1	3	106	111		合計	6	4	2	4	3	8	64



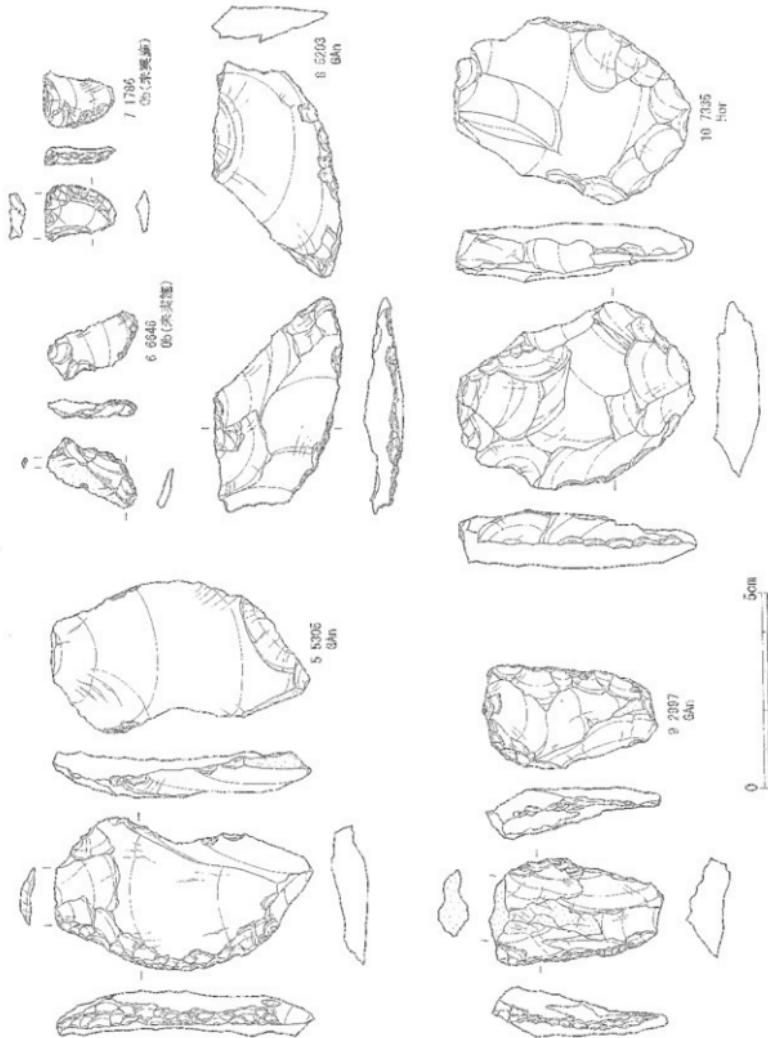
第72図 縄文時代（1）有舌尖頭器、尖頭器、石器 1



第73図 繩文時代（2）石器2

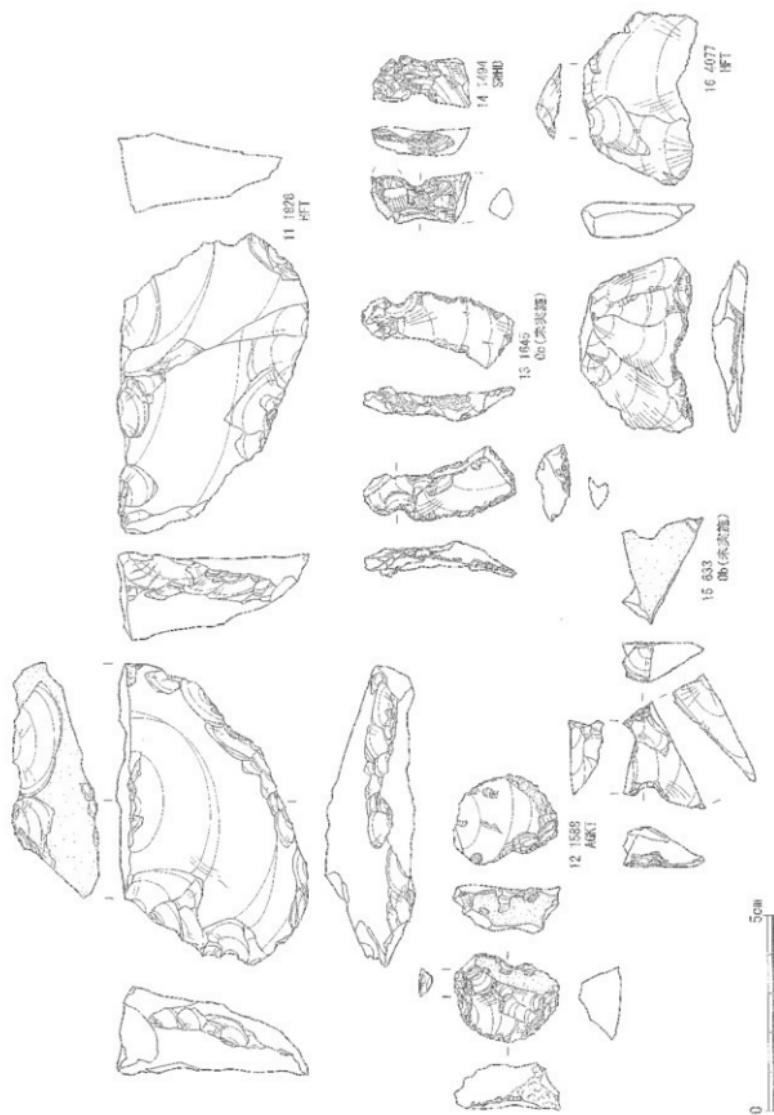


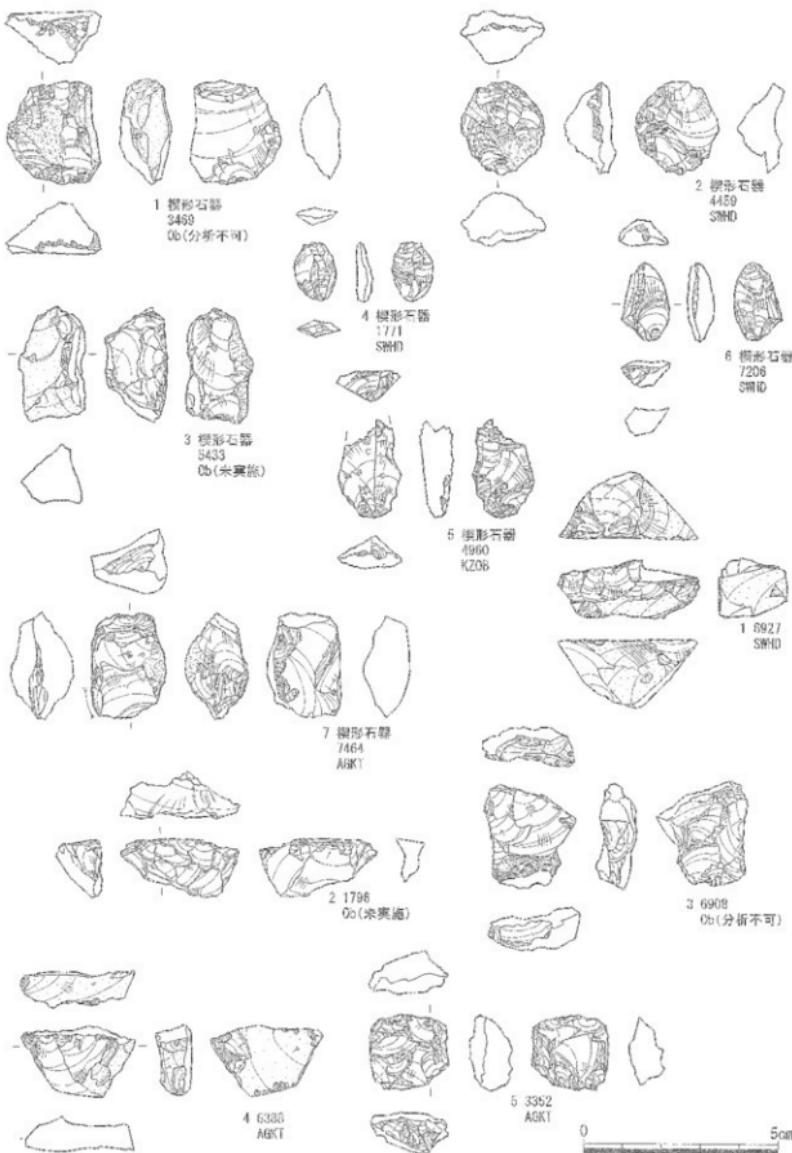
第74図 縄文時代（3）石器3・スクレイパー1



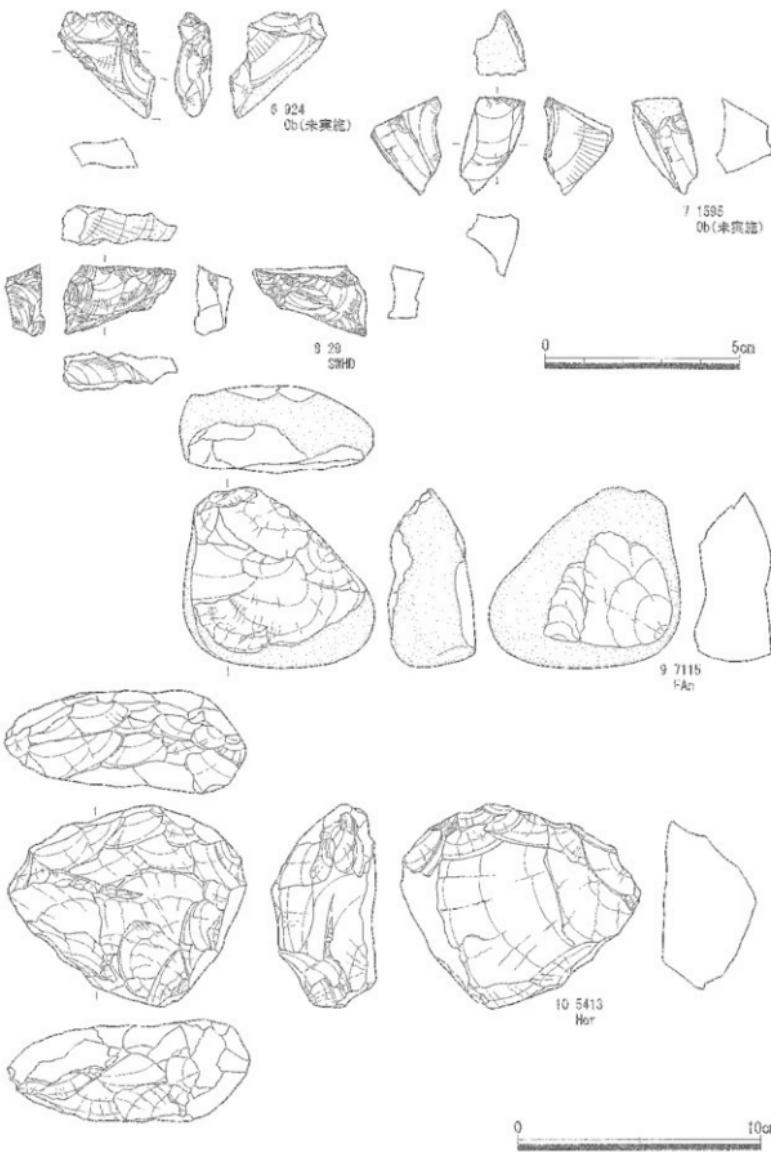
第75圖 銀文時代（4）スクレイバー2

第76圖 縱文時代（5）スクレイバー—3

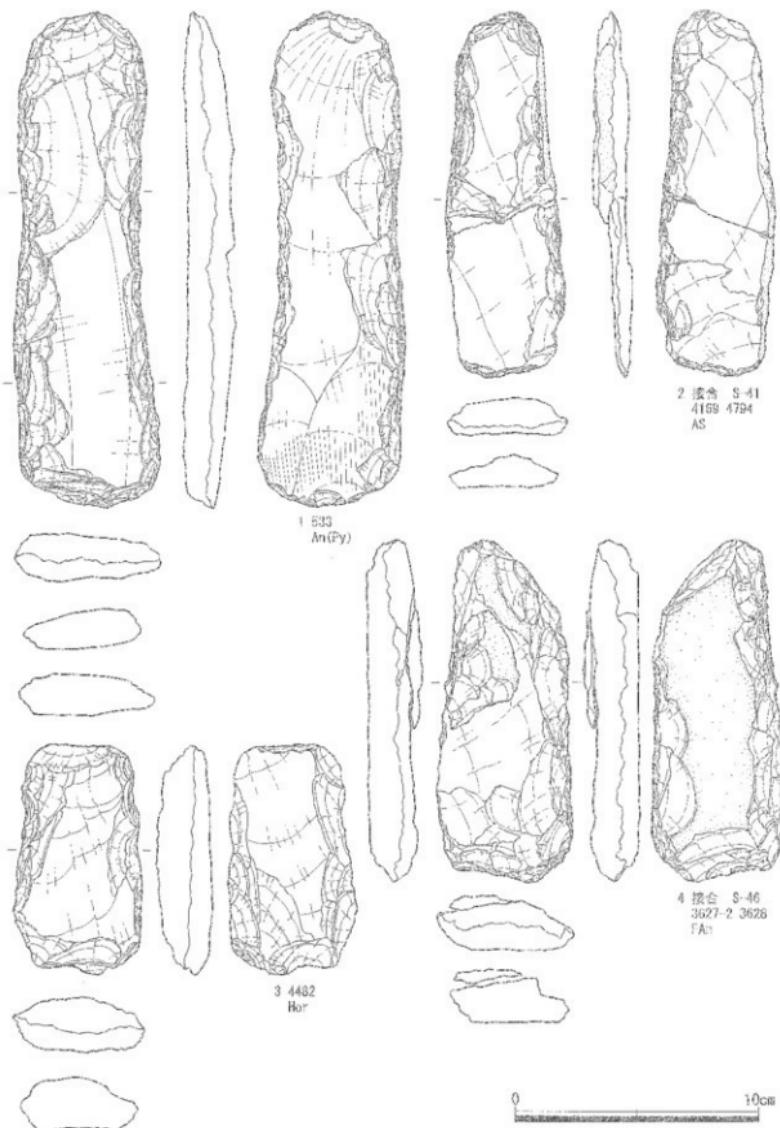




第77圖 繩文時代（6）楔形石器・石核 I

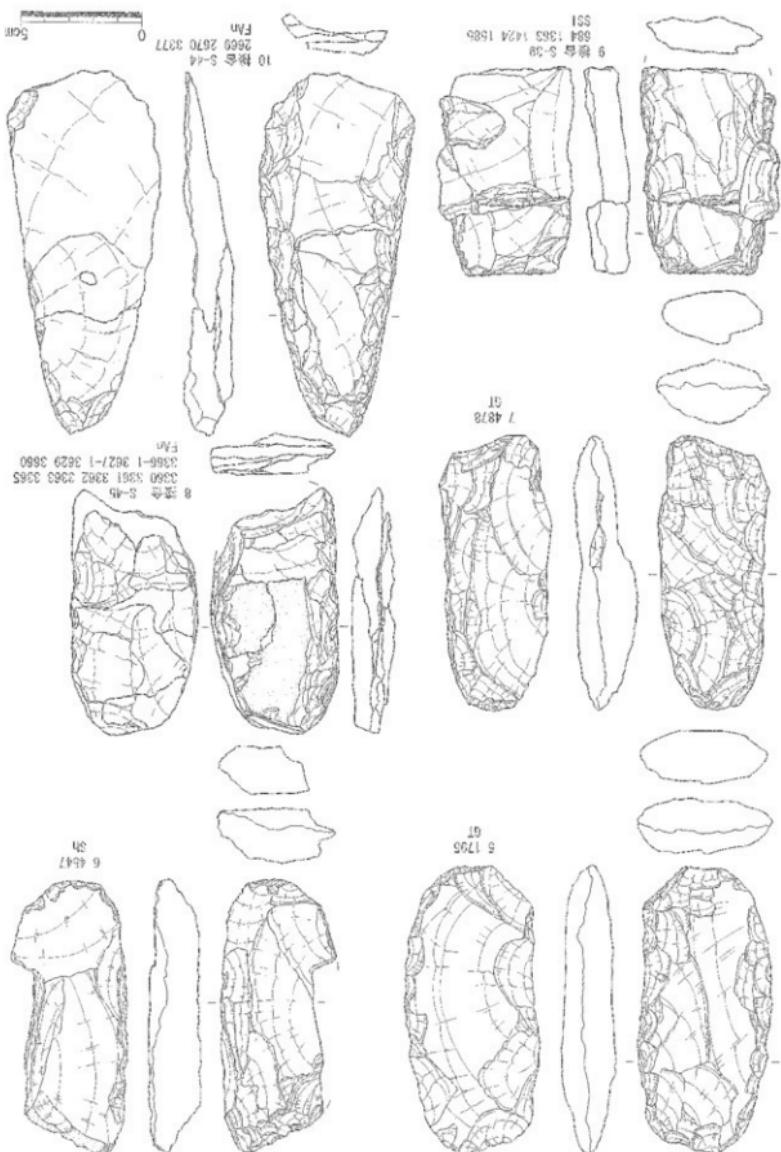


第78図 繩文時代（7）石核2



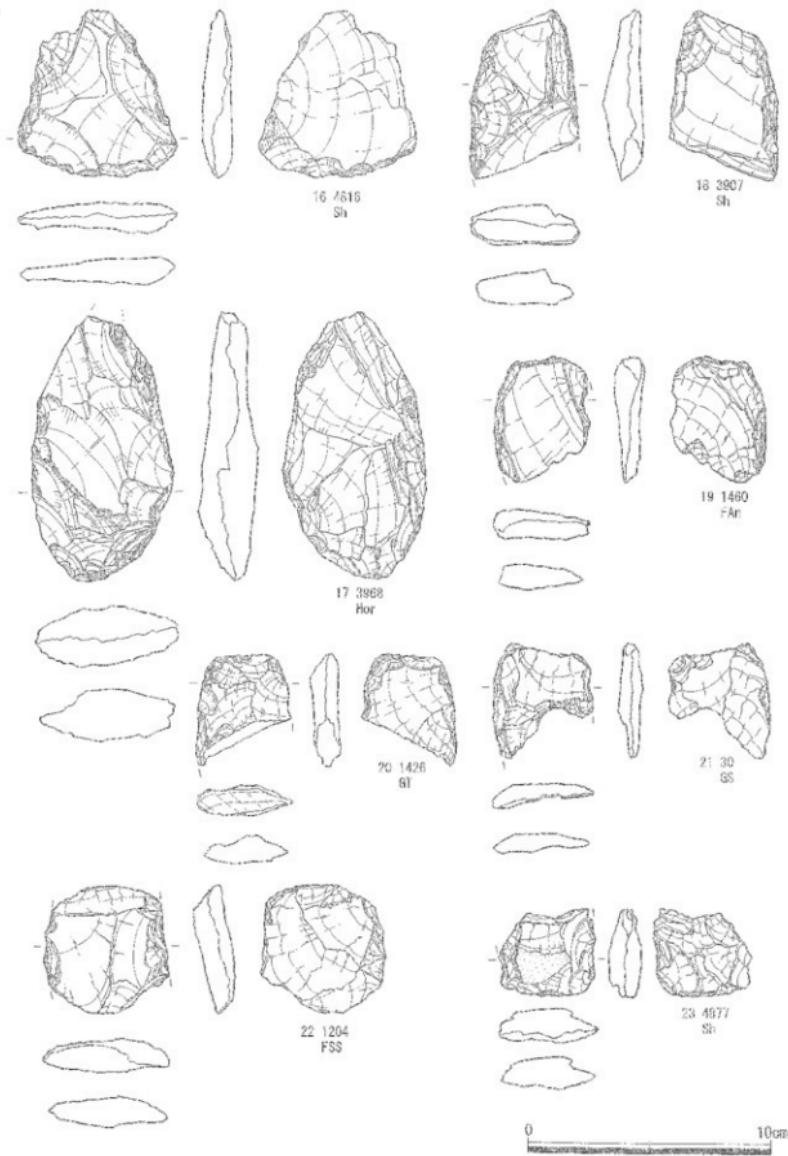
第79圖 繩文時代（8）打製石斧1

图30 四川绵竹 (9) 打制石器2

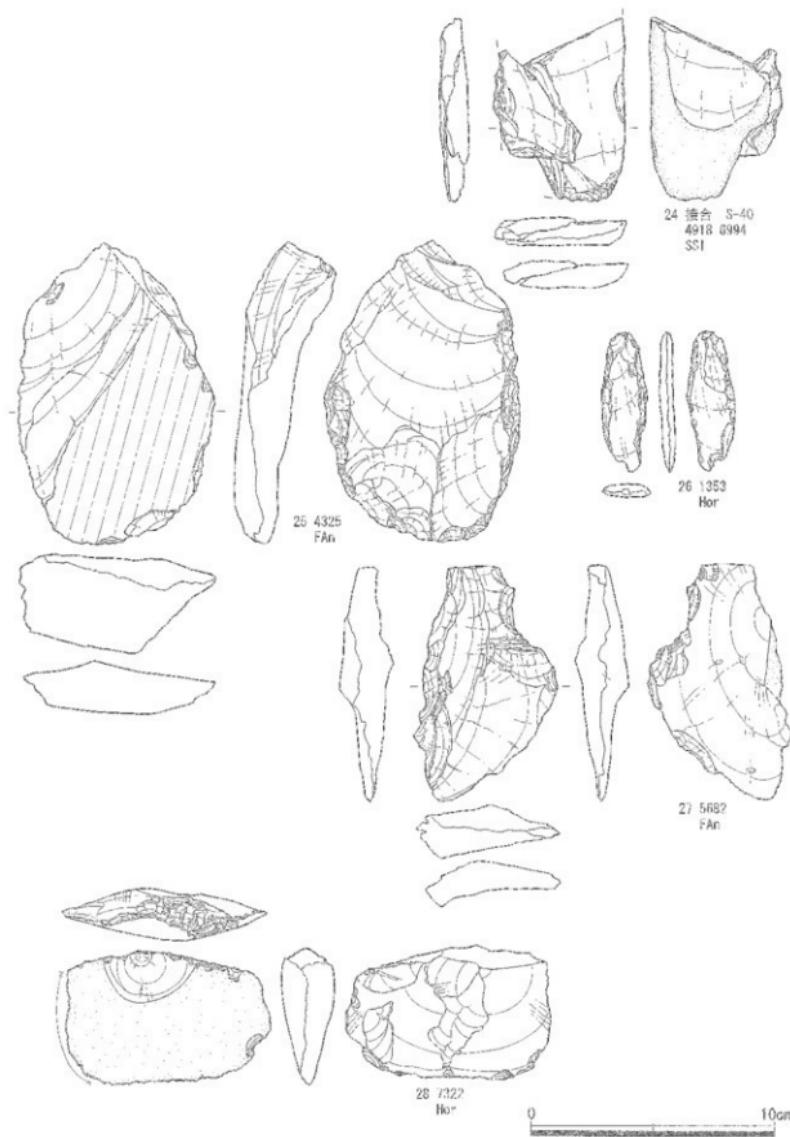




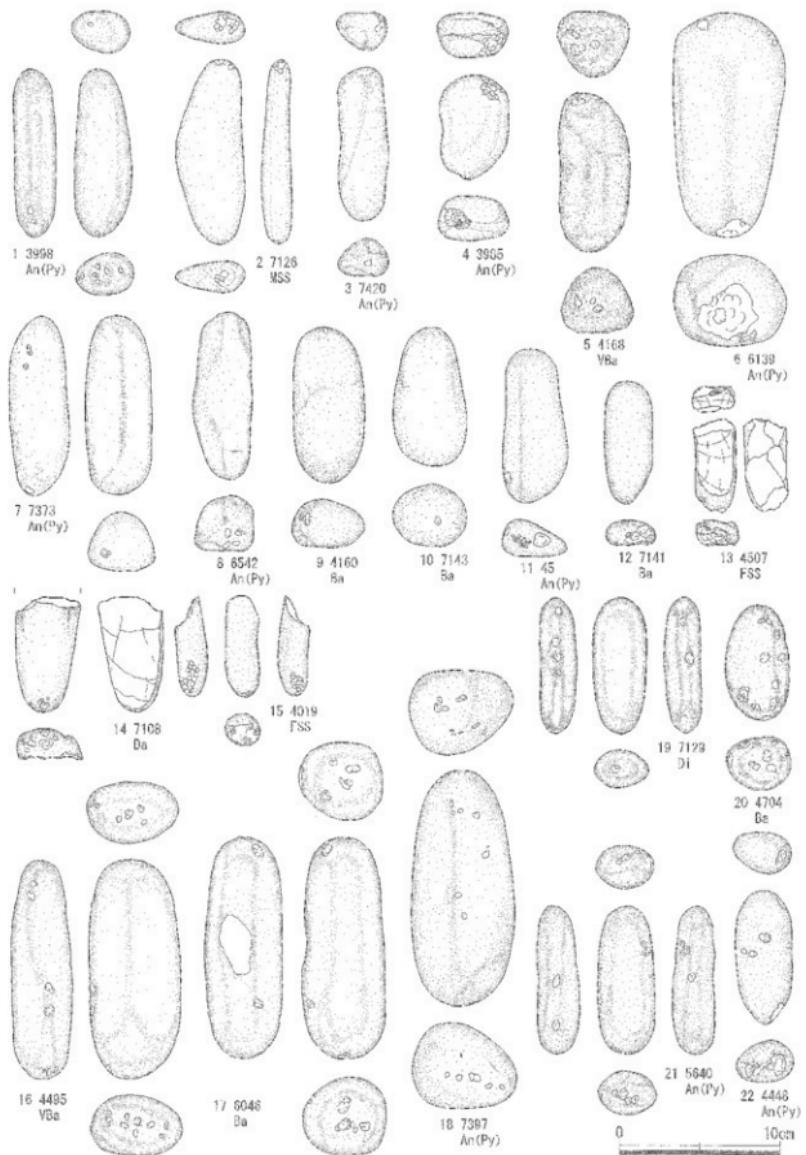
第81図 繪文時代(10) 打製石斧3



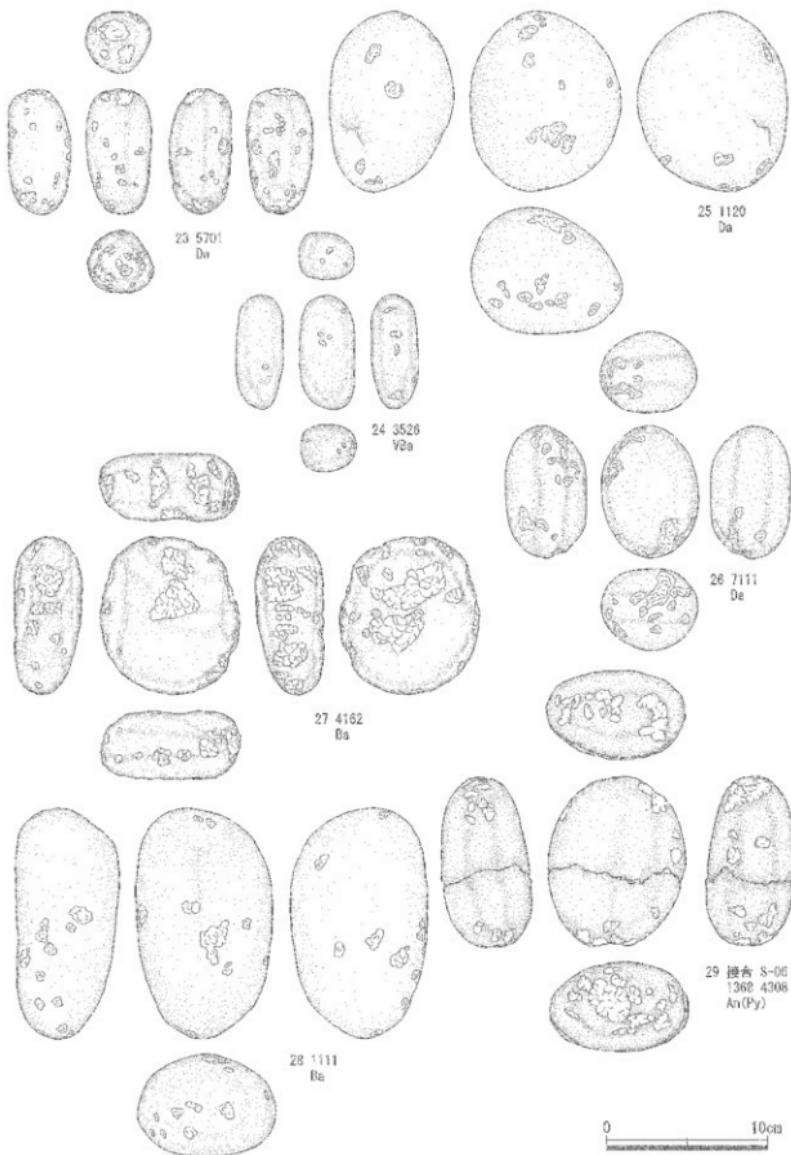
第82図 縄文時代（II）打製石斧 4



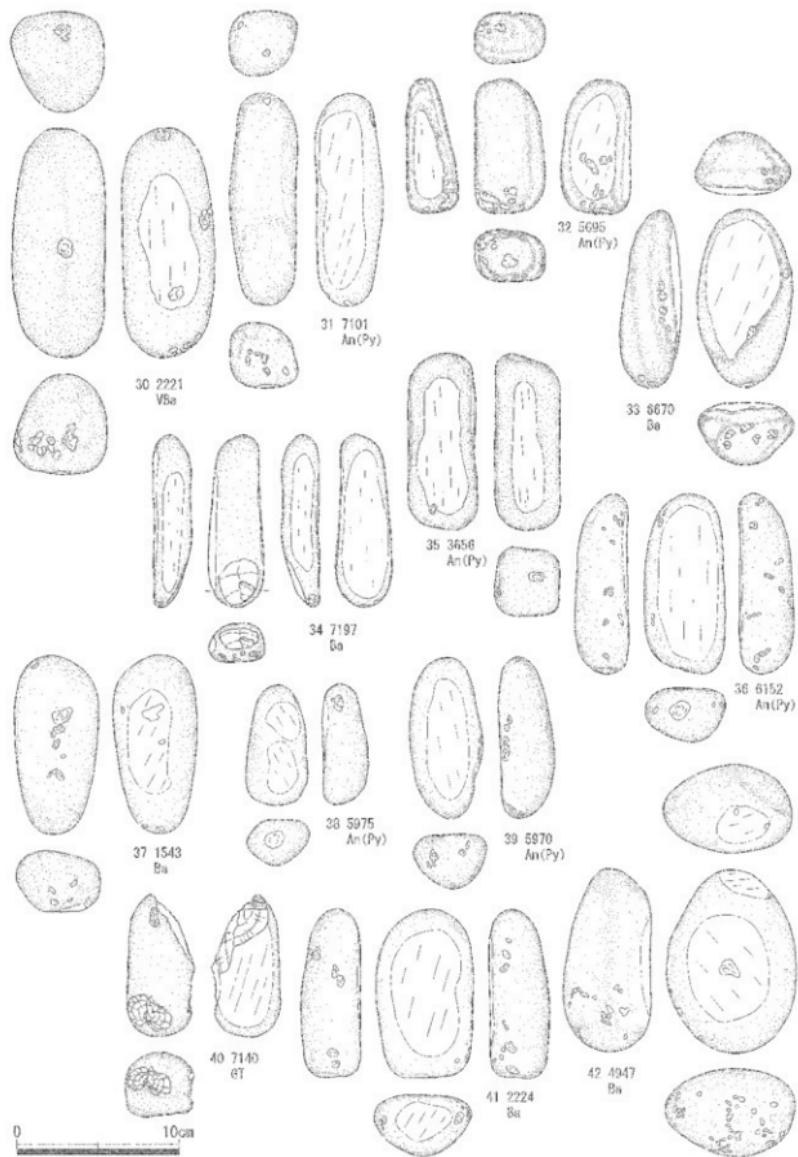
第83圖 繩文時代(12) 打壓石斧 5



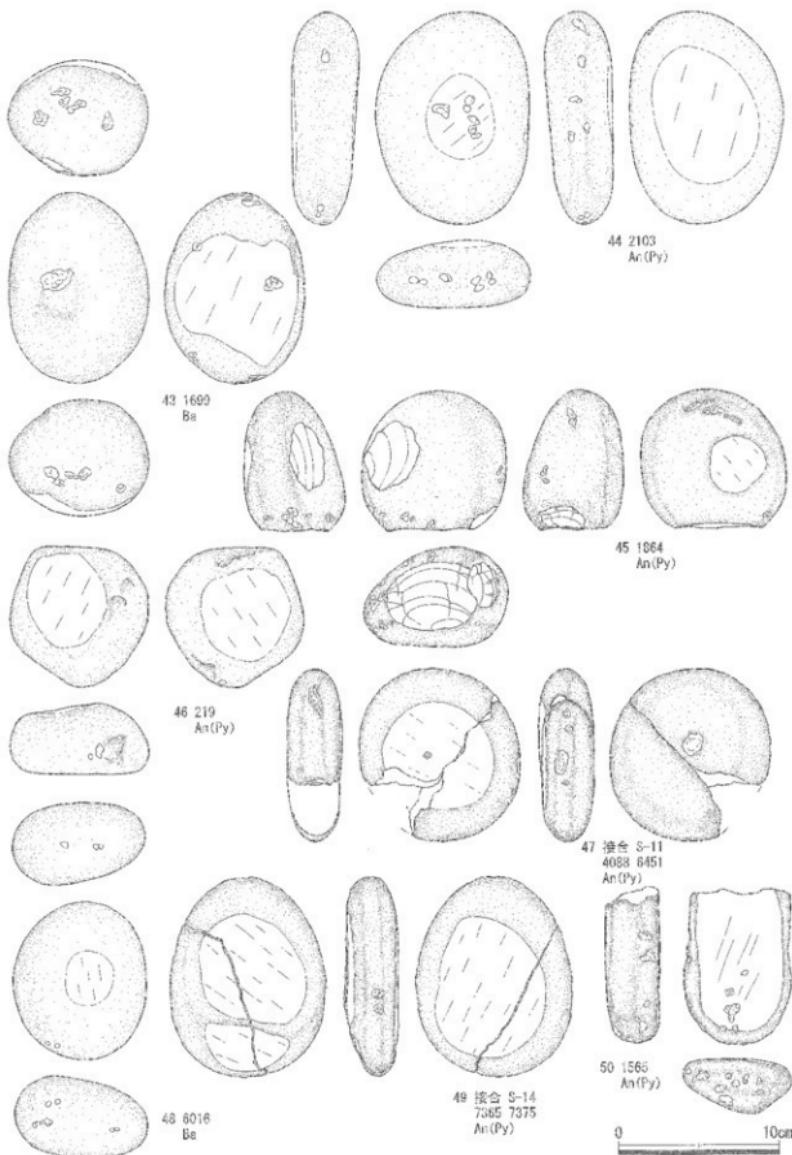
第84図 縄文時代 (13) 敷石 1



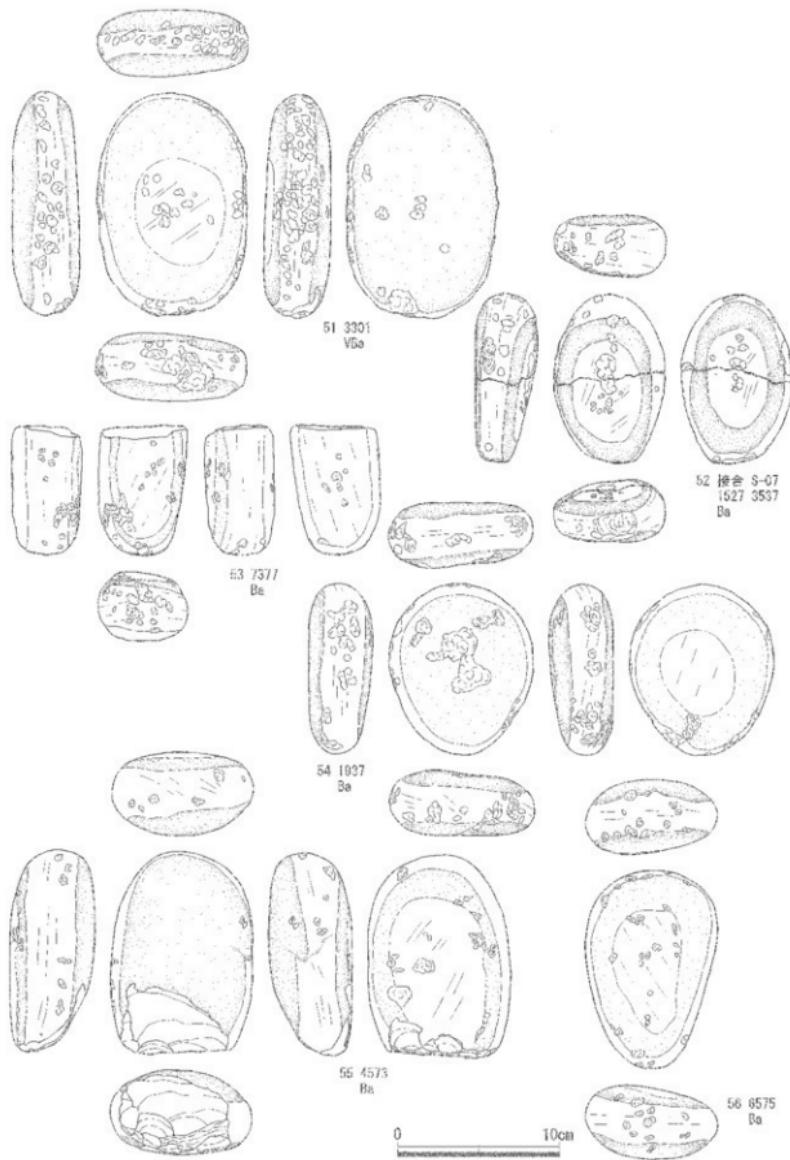
第85圖 繪文時代 (14) 磚石 2



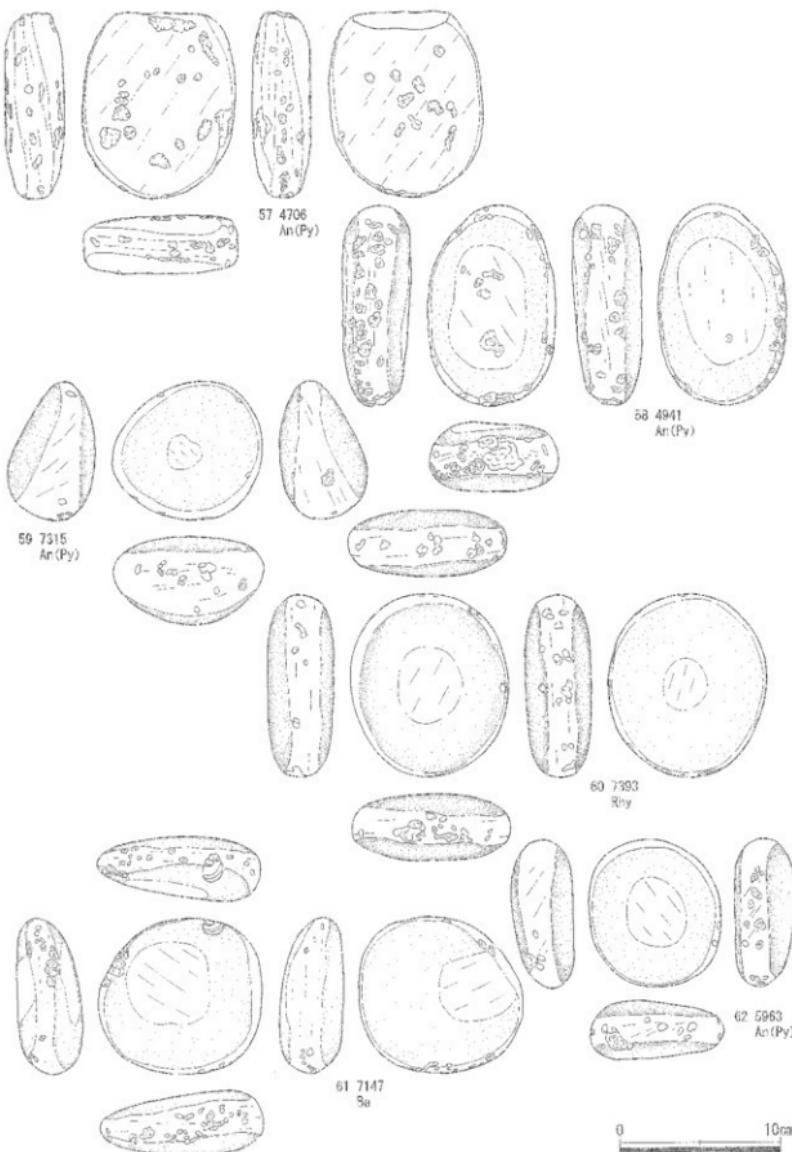
第86図 繩文時代(15)磨石・敲石1



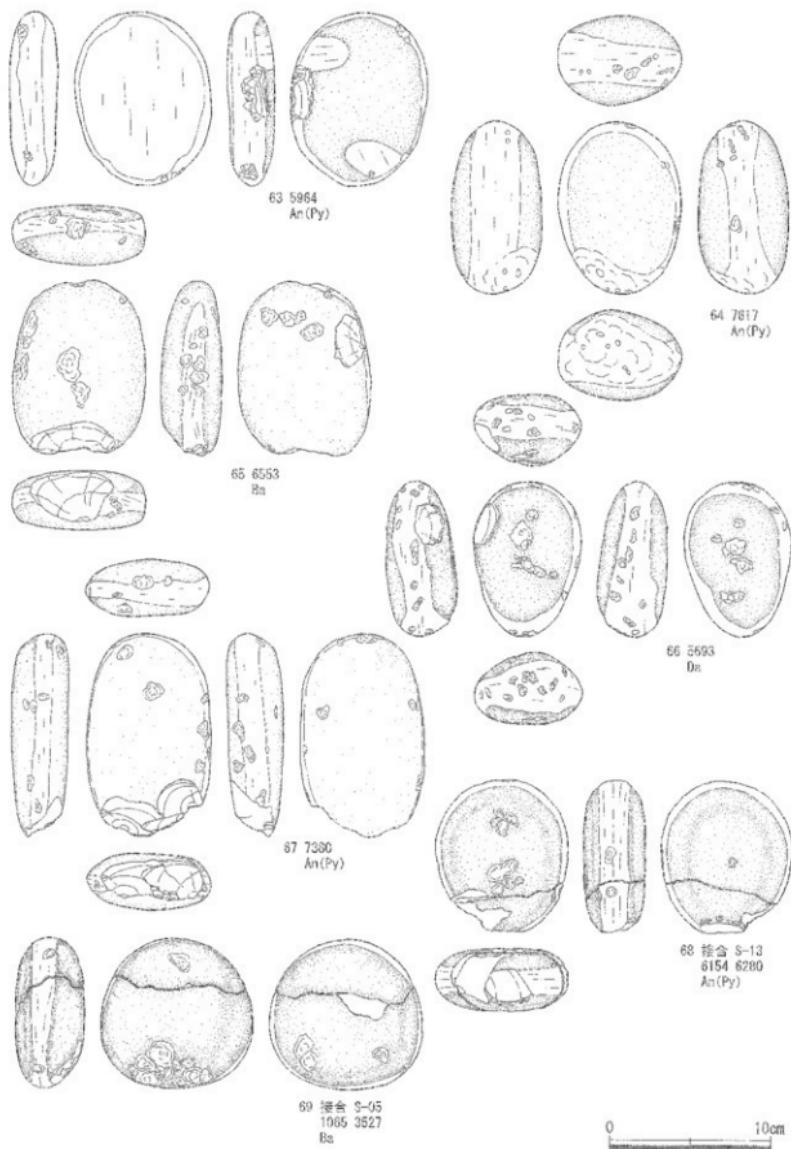
第87図 鋏文時代 (16) 磨石・敷石 2



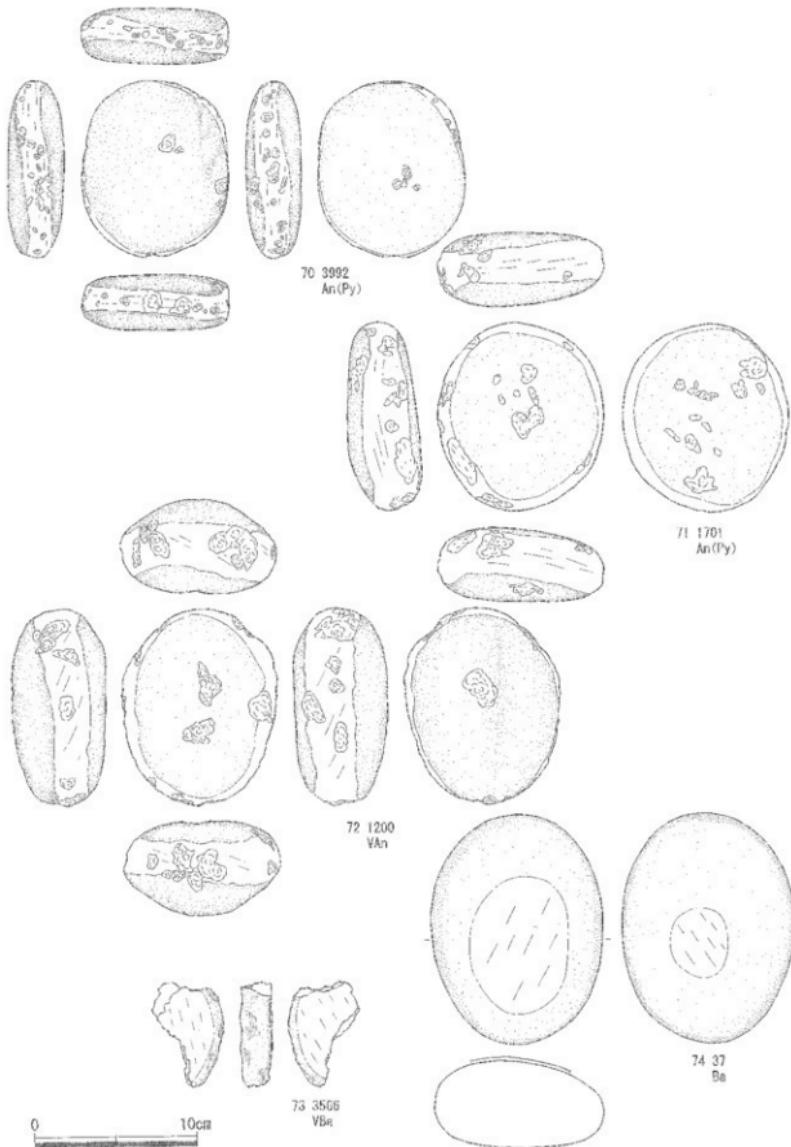
第88図 繩文時代 (17) 磨石・敲石 3



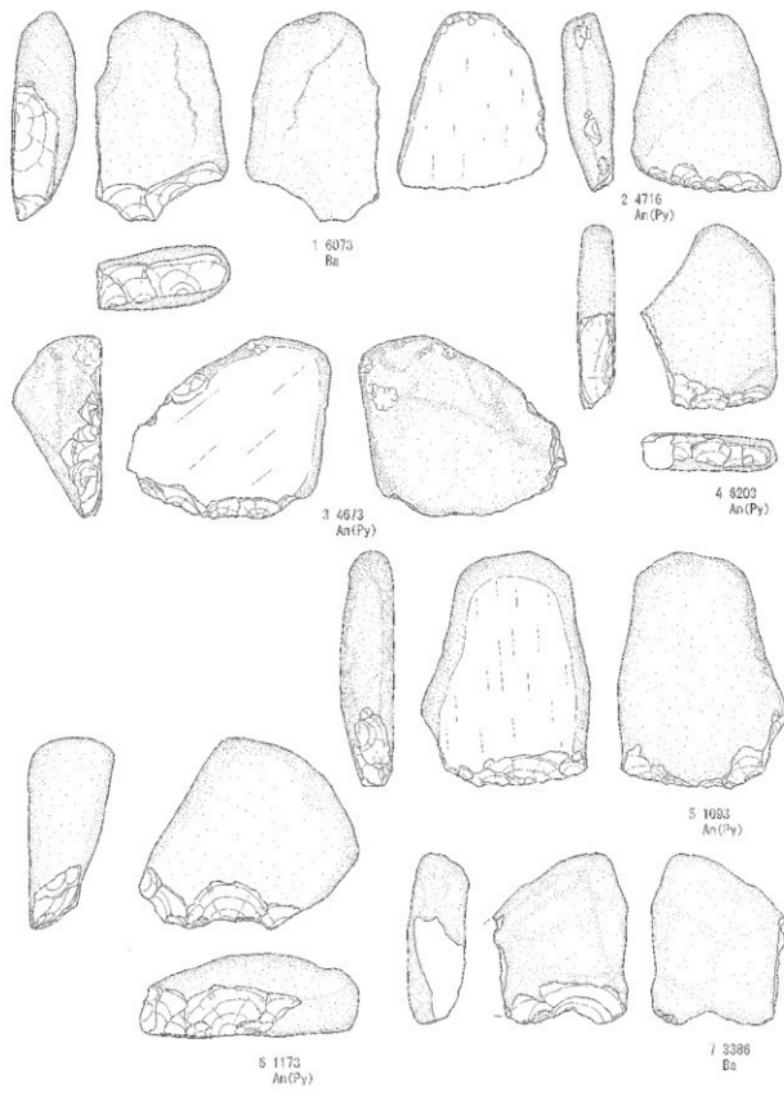
第89圖 韓文時代(18) 鐵石・敲石4



第90図 繩文時代 (19) 磨石・敲石 5

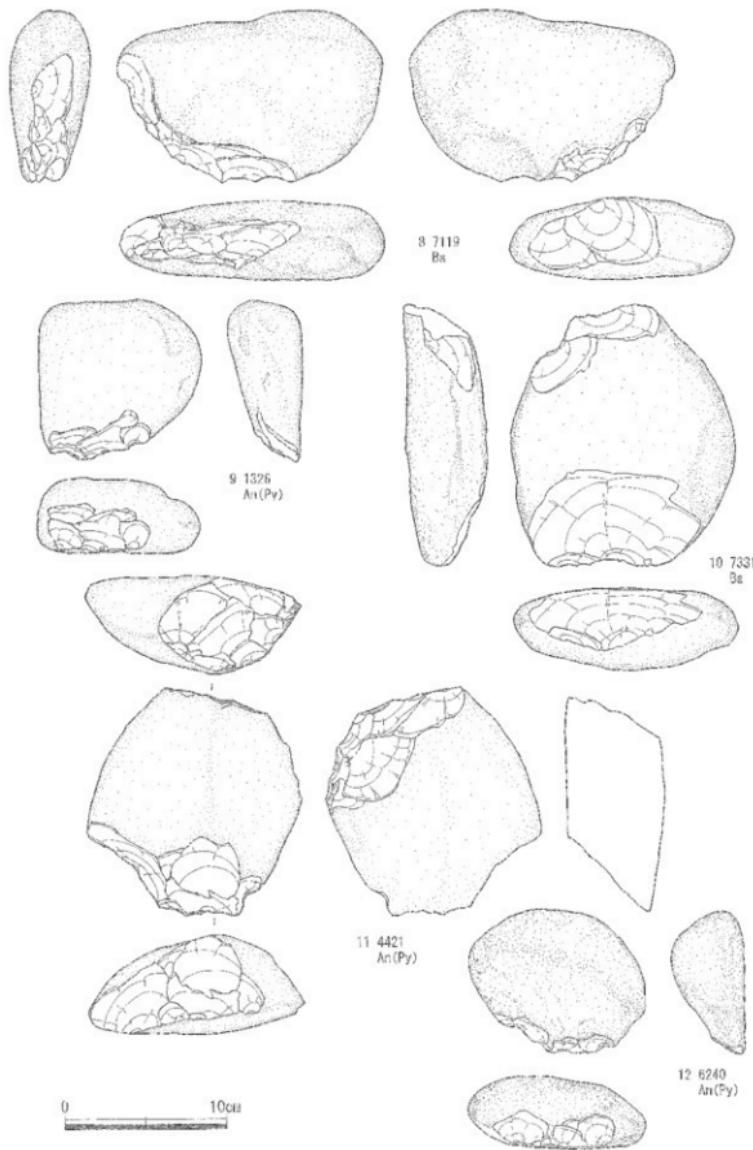


第91図 繪文時代（20）磨石・敲石 6・磨石

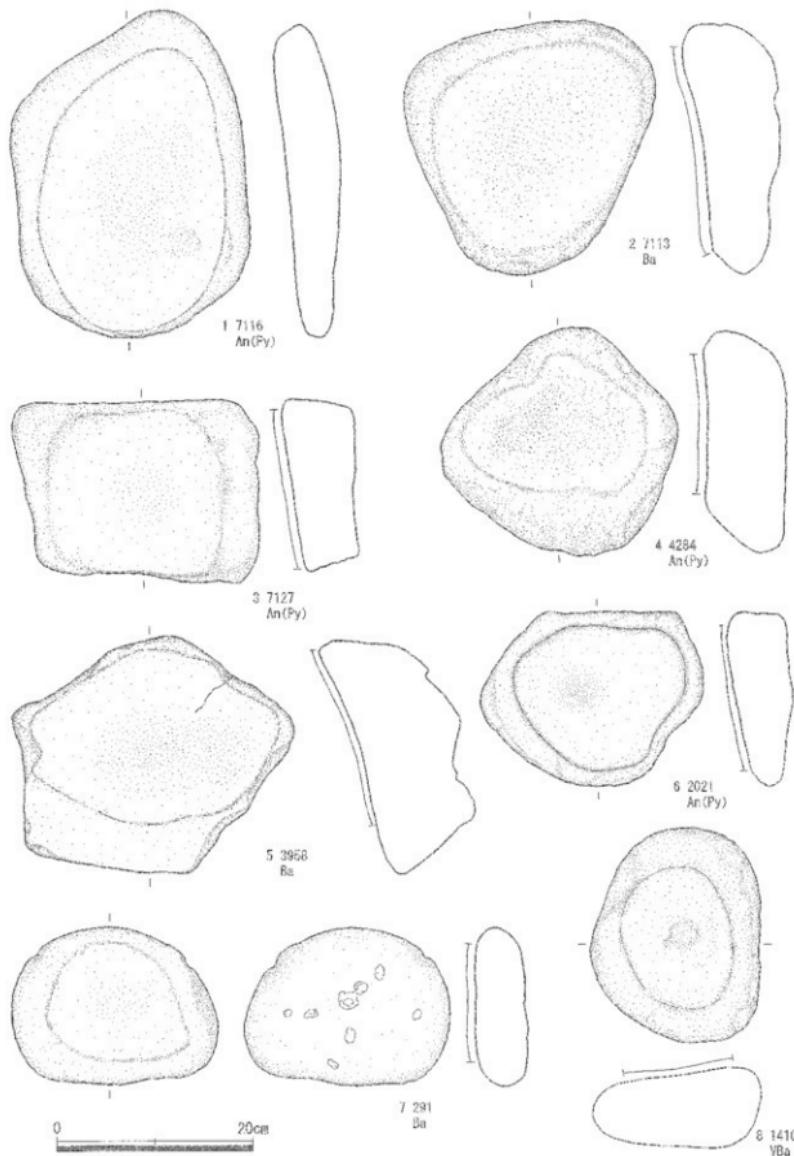


0 10cm

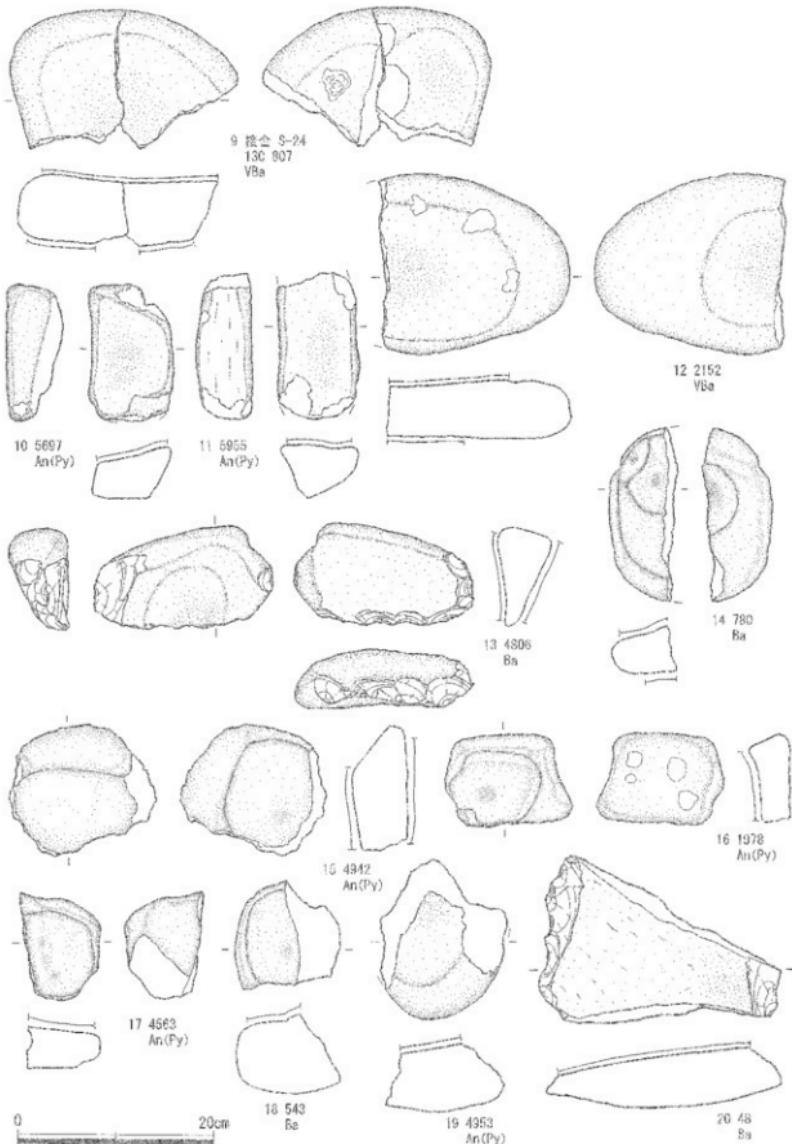
第92図 縄文時代（21）器



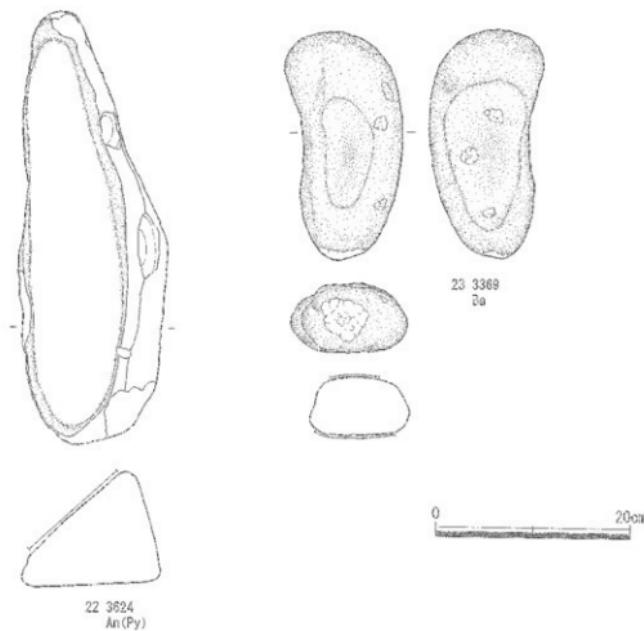
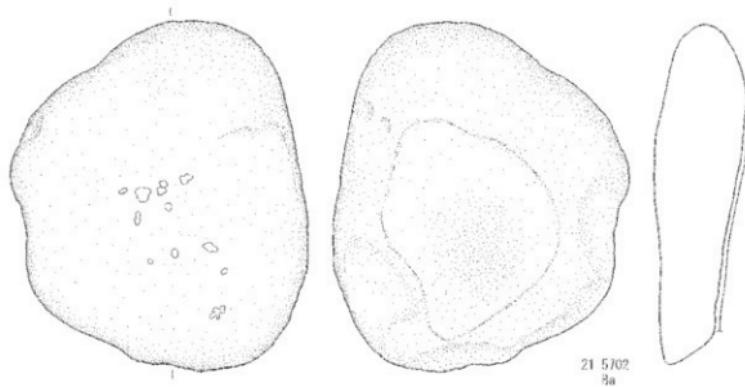
第93圖 繩文時代 (22) 確器 2



第94図 猪文時代 (23) 石皿 1



第95図 繩文時代(24)石皿2



第96図 純文時代（25）台石





























## 第5節 中世以降の遺構と遺物

ここでは中世以降の遺構と遺物を一括して報告する。検出した遺構は土坑8基、窯跡2基であった。

### 1. 土 坑（第98図）

検出した遺構は、土坑8基であった。遺構の製作時期については、覆土・検出状況の情報のみでは判断材料に乏しく時期の特定には至らなかったが、覆土の状況より中世以降の遺構であると判断した。ここでは土坑底部の形状により大別し、土坑に埋まる時期の遺物と推測されるものについては遺物の出土状況を含めて報告する。分類基準は以下の通りである。

I群 底部の形状が長方形で小穴が検出されたもの（108・109）

II群 底部の形状が円形のもの（110～115）

III群 底部の形状が長方形で小穴が検出されたもの（第97図・98図）

I群に分類される土坑は2基検出された。これらの土坑は調査区第II区の斜面から検出された。2基ともカワゴ平バミスを含む層からの検出で平面形状および覆土の堆積状況も類似しているが、同一時期のものであるかは不明である。108号土坑内西側壁面付近より馬の歯と推定される遺物が出土しているが、分析をおこなっていないため詳細は不明である。

II群 底部の形状が円形のもの（第97図・98図）

II群に分類される土坑は6基検出された。いずれも直徑1.0m程度で深さは0.2～0.47m、赤褐色・黄褐色スコリアを含む層から検出された。規則的な配列は認められず、覆土からの遺物出土もないため詳細は不明であり、時期の特定には至らなかった。

### 2. 窯 跡（第99図～101図）

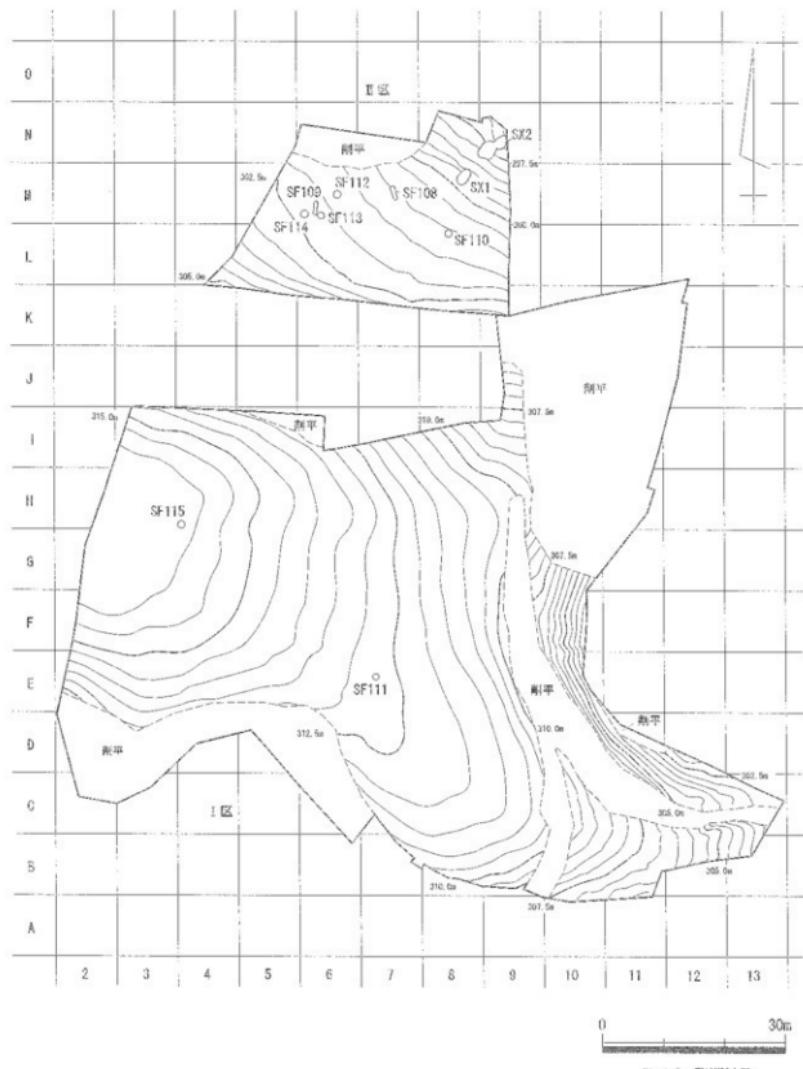
調査区北端部より窯跡が2基検出された。いずれの窯も地形は北東側に下がる傾斜で傾道を南西側に設け、焚き口は北東側に設けられており、北東から南西に向かって上昇する風を利用したことが推測できる。傾道があることからも、天井が存在していたと考えられるが、いずれの窯跡でも残存していない。便換面および床面は砾の石組みと白色の粘土で形成されており、湿気を避け強度を高くするために、焚き口から窯内部にかけて礫を使用したと推測される。窯内部から木炭片が出土しており、煙道部には多量の炭化物歯も観察され焼土も発達している。形状より近現代の炭焼き窯であると考えられる。

#### (1) S×1

調査区M-8グリッドに位置し、完掘時の長軸は北東～南西で約3.1m、短軸は最大約1.8m、深さは約0.9mの梢円形を呈している。遺構中央部に長軸を挟むようにして、柱穴または梁を渡したような畠込みが残る。敷石部分を窯の内部と考えた場合、奥行きは約2.2m、幅は最大約1.1mであったと考えられる。覆土第6層が炭化物を含まない白色粘土層と疊による石組みにより形成されていることから、側壁であったと考えられる。

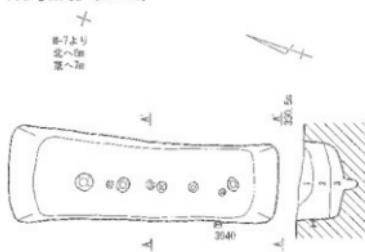
#### (2) S×2

調査区N-8・9グリッドに位置し、完掘時の長軸は北東～南西で約3.5m、短軸は最大約2.7m、深さは約0.9mの梢円形を呈している。焚き口の左側縁から約1.2mにわたって窯が一列に配置されている。敷石部分を窯の内部と考えた場合、奥行きは約2.4m、幅は最大約1.4mであったと考えられる。覆土第3・7層が炭化物を含まない白色粘土層と疊による石組みにより形成されていることから壁面であったと考えられる。第3層は崩落した天井の可能性も考えられるが、詳細は不明である。



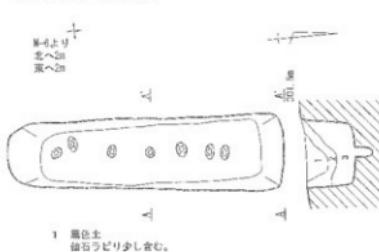
第97図 中世以降の古木配置

## 108号土坑 (SF108)



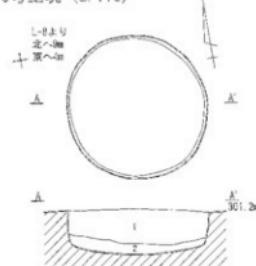
- 1 黄褐色土  
灰白色土少しある。
- 2 灰白色土  
約4~5cmの褐色土ブロック多量に混じる。
- 3 黑褐色土  
約4~5cmの褐色土少しある。

## 109号土坑 (SF109)



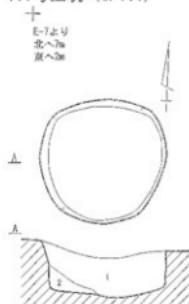
- 1 黄褐色土  
砂石ラビア少し含む。
- 2 灰白色土  
約4~5cmの褐色土ブロック多量に混じる。
- 3 黑褐色土  
約4~5cmの褐色土少しある。

## 110号土坑 (SF110)



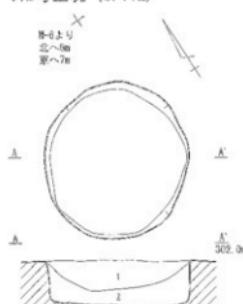
- 1 黄褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。
- 2 黑褐色土  
1層より薄く、約1~2cmの褐色スコリア少しある。

## 111号土坑 (SF111)



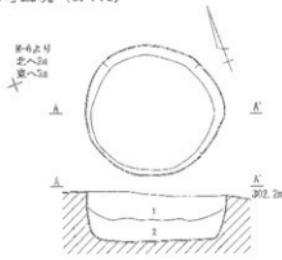
- 1 黄褐色土  
約2~3cmの褐色スコリア多く含む。
- 2 黑褐色土  
1層より薄く、底まで強い、褐色シルト少しある。

## 112号土坑 (SF112)



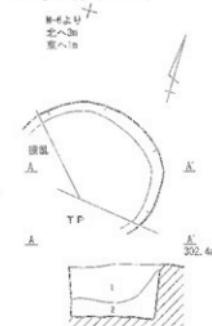
- 1 黄褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。
- 2 黑褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。

## 113号土坑 (SF113)



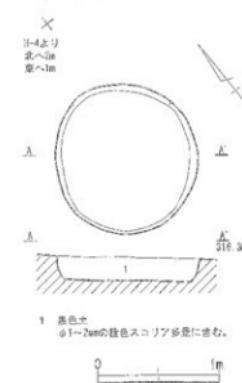
- 1 黄褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。
- 2 黑褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。

## 114号土坑 (SF114)



- 1 黄褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。
- 2 黑褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。

## 115号土坑 (SF115)



- 1 黄褐色土  
約1~2mの褐色スコリア多量に含む。
- 2 黑褐色土  
約1m以下の褐色スコリア少量含む。

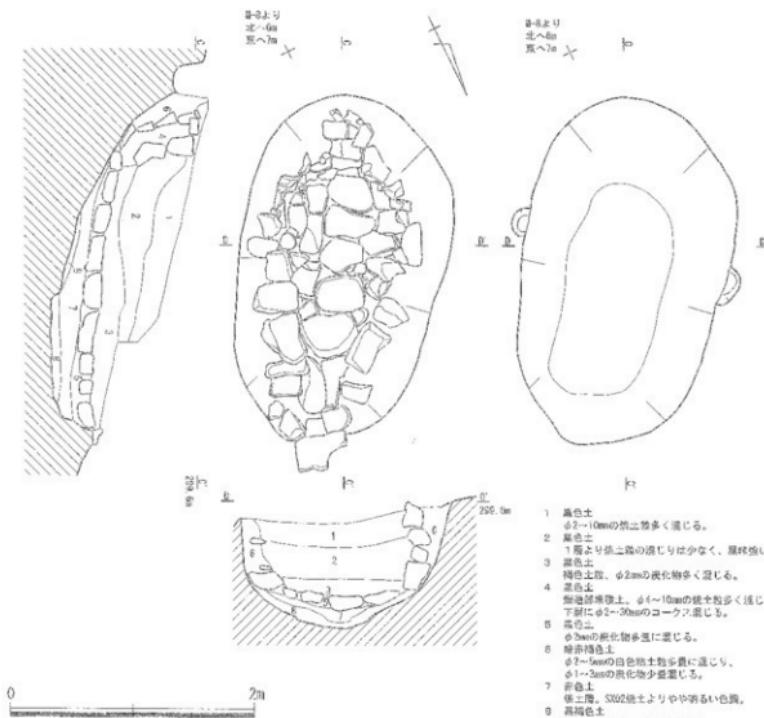
第98図 中世以降土坑

第17表 中世以降土坑一覧

造営番号	揭露図版	検出区域 (グリッド)	検出層位	覆土	長軸(m)	短軸(m)	最大深(m)	小穴数
SF108	第98図	M-7	KGP	黒色土	2.20	0.65	0.52	8
SF109	第98図	M-6	KGP	黒色土	2.26	0.58	0.45	7
SF110	第98図	L-8	NSC	黒色土	1.18	1.15	0.37	
SF111	第98図	E-7	NSC	黒色土	1.05	1.00	0.47	
SF112	第98図	M-6	NSC	黒色土	1.28	1.20	0.40	
SF113	第98図	M-6	NSC	黒色土	1.14	1.08	0.42	
SF114	第98図	M-6	NSC	黒色土	1.22	(0.76)	0.44	
SF115	第98図	H-4	NSC	黒色土	1.22	1.18	0.22	

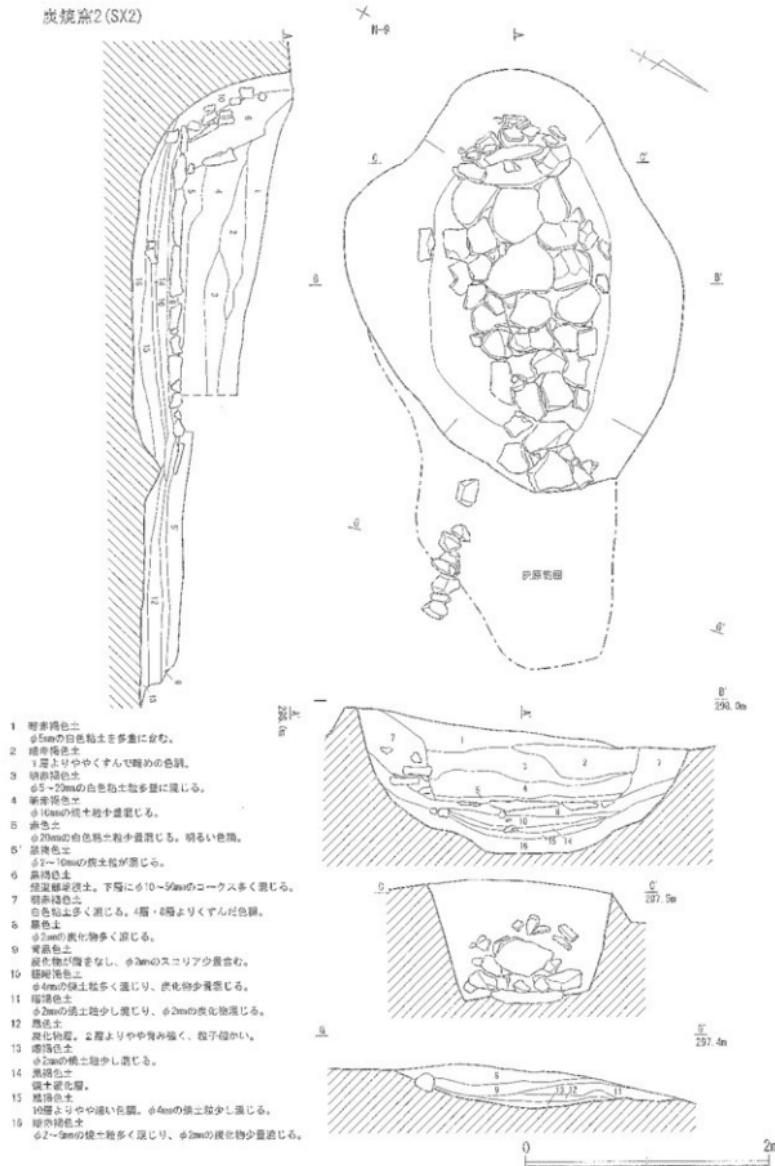
炭焼窯1(SX1)

炭焼窯1(SX1)実掘状況



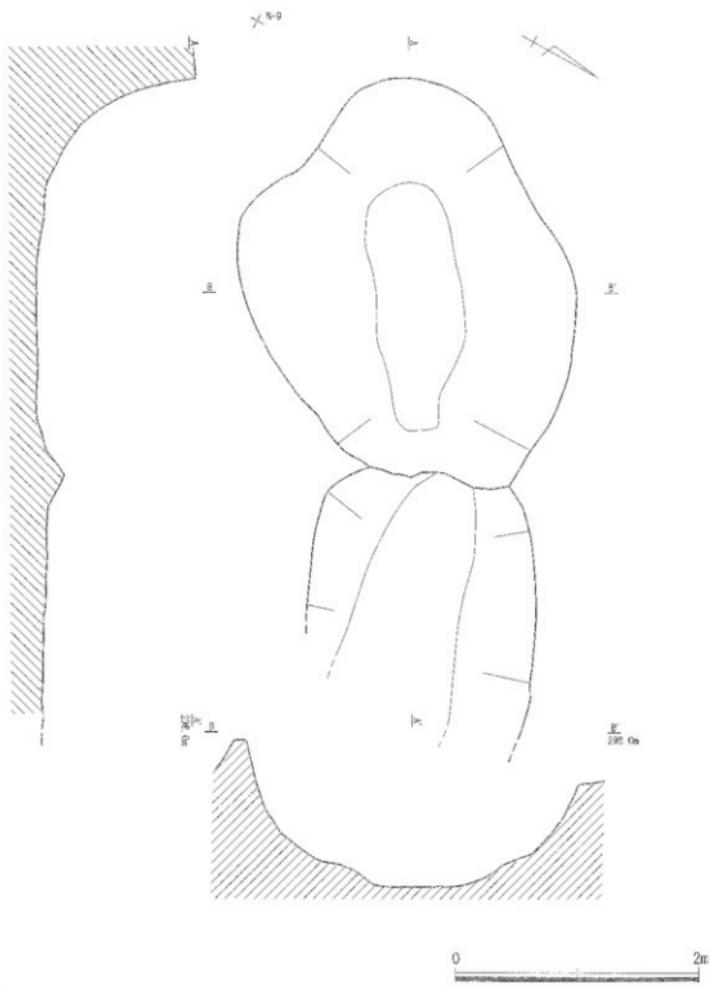
第99図 炭焼窯 1

## 炭焼窯2(SX2)



第100図 炭焼窯2

炭烧窑2(SX2) 完掘状况



第101图 炭烧窑2 完掘状况

# 第IV章 今里遺跡 第二東名No.153-2地点

## 第1節 調査の方法と経過

### 1. 酬査の方法

今里遺跡（第二東名No.153-2地点）の調査対象面積は計約3,500m<sup>2</sup>である。（図102）遺跡全体の把握と作業の効率化を図るために、国家標準座標第Ⅳ区系（X=-87250.0, Y=35430.0）上を原点とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。グリッドのX軸方向（南北方向）をアルファベット、Y軸方向（東西方向）をアラビア数字と設定した。

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削をおこない、本調査においては面的な掘削をおこなった。掘削は基本的に人力でおこなったものの、表土や遺構・遺物が存在しない層位においては重機を用いた。

遺物の取り上げ・地形測量は輸送技術コンサルの「遺跡管理システム」を用い、光波測定器によつて実施した。遺物には層位別に石墨=S、礫=R等の略号と3桁の通し番号を付け、X・Y座標値と標高値（Z）を記録し取り上げた。地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、1mメッシュで測量した。ともにコンピューターデータとして保管している。個別遺構図は平面図・立面図等を縮尺1/20を基本として手実測により図化し、微細図は縮尺1/10で作成し保管している。

写真撮影は必要に応じて臨時おこなった。写真撮影には35mmの小型カメラ、およびプローニー6×7判の中型カメラ、三脚を使用した。フィルムは35mm（カラー、白黒、リバーサル）の3種類及びプローニー判（白黒、リバーサル）フィルムを使用した。

### 2. 調査の経過

確認調査は、平成14年11月、本調査は平成15年4月～5月におこなわれた。

#### （1）確認調査

平成14年11月 対象表面積3,500m<sup>2</sup> 実掘削面積36m<sup>2</sup>

当初、テストピットを3ヶ所設定し確認調査を開始した。その後1カ所のテストピットを追加した。その結果、調査対象範囲3,500m<sup>2</sup>の内、163m<sup>2</sup>の範囲に縄文時代の遺物包含層が確認された。

主な遺物：礫

#### （2）本 調 査

平成15年4月～5月 対象表面積200m<sup>2</sup> 実掘削面積200m<sup>2</sup>

4月中旬表土除去、人力による平面精査をおこなう。カワゴ平バミスを含む暗褐色土層にて集石土坑を検出し、5月初旬調査を終了した。

主な遺構：集石土坑

主な遺物：石墨（石墨、石匙、石核）、礫

### 3. 資料整理

資料整理・報告書作成は平成18年12月～平成20年5月にかけて棚返遺跡の資料整理と並行しておこなった。出土遺物の内訳は、縄文時代の石器13点、礫137点、合計150点であった。

石墨、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業をした上で石器の分類・接合作業をおこなった。石器は調整・加工の施されているものを実測した。石器実測については、棚返遺跡の石墨と併せ、石器

実測図作成用写真撮影業務を国際航業株式会社に委託した。黒曜石製石器についても、柵返遺跡の石器と併せて、独立行政法人沼津工業高等専門学校教授 望月明彦氏に依頼し、产地推定分析をおこなった。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表作成、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成をおこない、整理成果を踏まえて本文を執筆した。また、調査現場で用いた光波測定機の記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集をおこなった。

第18表 作業工程

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
現地調査	確認調査 11月	本調査 4月～5月				
資料整理				12月～3月	4月～3月	4月～5月



第102図 調査区及びグリッド配置

## 第2節 基本層序と土層の堆積状況

### 1. 基本層序

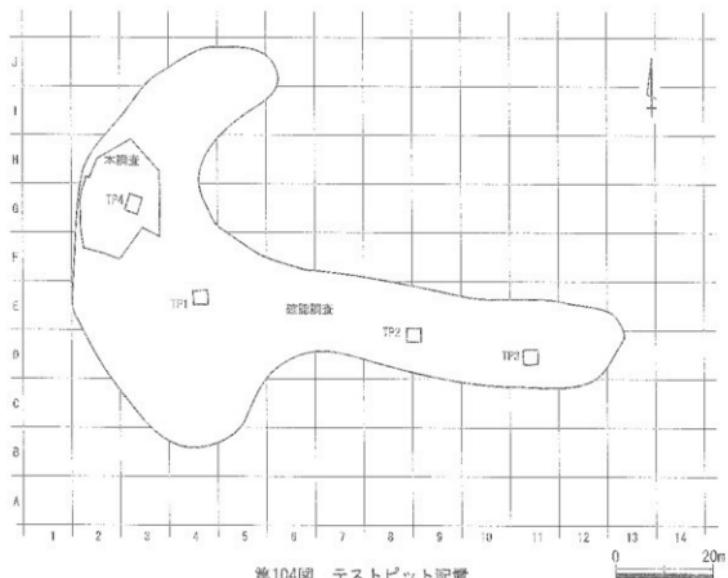
愛鷹山南面には愛鷹ロームが堆積しており、愛鷹ローム固体研究グループによる火山灰層序学的区分に準拠して考古学的基本層序が定義されている。今里遺跡の基本層序は、愛鷹基本層序とほぼ一致すると考えられるが、休場層以下の層が地震等によって大きく擾乱されていた。(図103)。

- 第1層 表 土 細まりあり 黏性なし 根茎類を多く含み黄褐色ローム(径15mm)が散在する。  
 第2層 褐色土層 細まりあり 黏性なし 橙色スコリアと黒色ラビリ(径5~10mm)を多量に含む。  
 第3層 褐色土層 細まりあり 黏性なし 橙色スコリアと黒色ラビリ(径5~10mm)を多量に含む。  
 砂沢スコリア粒子を含む。  
 第4層 オリーブ褐色土層 細まりあり 黏性あり 橙色スコリア(径2~3mm)を多く含む。黒色ラビリ(径5~10mm)を少量含む。  
 第5層 暗褐色土層 細まりあり 黏性あり 黒色スコリアと橙色スコリア(径1~2mm)を少量含む。  
 第6層 にぶい黄褐色土層 細まりあり 黏性あり 黑色スコリアと橙色スコリア(径1~2mm)を極少量含む。  
 第7層 暗褐色土層 細まりあり 黏性あり 赤色スコリアと暗色スコリア(径3~5mm)を少量含む。  
 第8層 褐色土層 細まりあり 黏性なし 黑色スコリア(径3~7mm)を多量に含む。赤色スコリア(径2~3mm)を多く含む。  
 第9層 黄褐色土層 細まりあり 黏性なし 黑色スコリア(径3~4mm)を多く含む。赤色スコリア(径1~2mm)を少し含む。黑色上があまり発達していない。  
 第10層 晴赤褐色土層 細まりあり 黏性あり 黑色スコリア(径3~5mm)と赤色スコリア(径1~2mm)を多く含む。A Tが部分的に散布している。

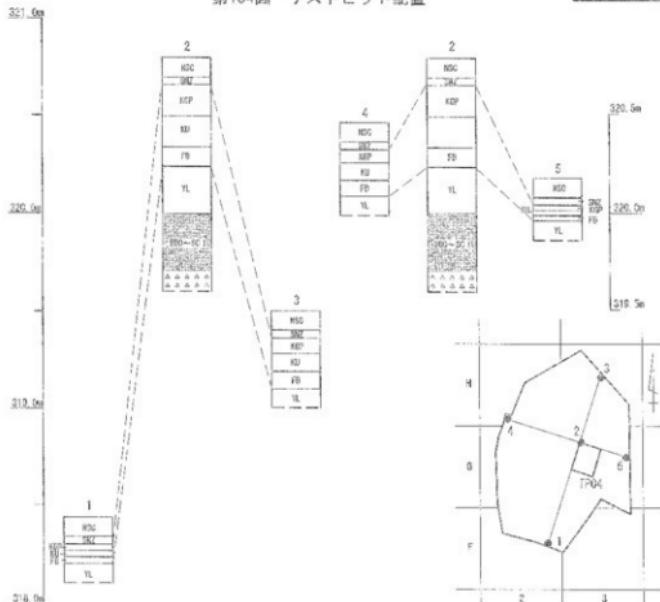
層名	色調
1 (表土)	10YR2/4
2 褐色土	7.5YR4/3
3 暗褐色土	7.5YR4/3
4 オリーブ褐色土	7.5YR3/4
5 暗褐色土	10YR4/3
6 にぶい褐色土	10YR2/4
7 暗褐色土	10YR5/6
8 褐色土	7.5YR4/4
9 黄褐色土	10YR3/4
10 假苔褐色土	10YR6/6

● 蔓物・苔類検出屢数

第103図 基本層序



第104図 テストピット配置



第105図 土層堆積状況

### 第3節 繩文時代の遺構と遺物

#### 1. 遺構

ここでは、検出遺構を一括して報告する。検出された遺構は集石1基のみであった。検出層位はカワゴ平バミスを含む暗褐色土層であり、縄文時代の遺構であると考えられるが、時期の特定には至らなかった。

##### (1) 集石 (第107図)

集石遺構は1基、尾根筋の比較的平坦な場所から検出された。

1号集石は土坑を伴い石皿1点を含む59点の礫で構成されている。周辺は0.45mを測る。検出された礫は南北1.3m東西0.8mの範囲から密集成して検出され上下差は0.25mある。礫の分布・土坑の形状から平面形状は橢円形を呈すると予測されるが、遺構の約半分が調査区外にになると考えられ、全体の形状は判然としない。全ての礫に被熱による赤化が確認されており、12点の礫にはスス状またはタール状の黒色付着物が確認されている。覆土は第2層が炭化物を多量に含む黒褐色土で、第3～5層も炭化物粒・被熱焼土粒を含んでいる。遺構内から出土した石皿144は遺構外の遺物28と接合している。

#### 2. 遺物

ここでは、出土遺物を一括して報告する。

出土した遺物は、石器7点、礫142点の計149点で出土層位より縄文時代の遺物だと考えられる。遺物はカワゴ平バミスを含む暗褐色土層を中心に富士黒土層から表土まで出土している。以下器種別に分類し報告する。

なお、テストピット4のB BIV層より礫が1点出土しているが、地盤等による擾乱の可能性もあり遺物であるかどうかは不明である。

##### (1) 石器 (第108図)

縄文時代の石器は6点出土した。時期は明確ではない。以下器種別に報告する。

##### 石器 (第108図1～2)

黒漆石製の石器が2点出土している。産地同定の結果、1は天城柏崎群、2は諏訪足ヶ台群となっている。いずれも2本の脚部を持つ。1は全般的に加工が粗く器長に対し番幅が広い。右脚部を折損している。2は側脚部を押圧剥離により鋸齒状に加工されている。器体は右半分と左脚部の先端を折損している。

##### 石器 (第108図1)

ガラス質黒色安山岩製の石器が1点出土している。1は横長の石器で、刃部は裏面から、つまみ部分は表裏両面から加工を施し形状を整えている。器体右側縁部を折損しており全體形状は不明である。

##### 鉱石・磨石 (第108図1・2)

鉱石1点、磨石1点が出土している。2点共に輝石安山岩製で、1は棒状の礫の端部に敲打痕を有する。2は卵型の礫の比較的平坦な面に磨痕を有する。

##### 石皿 (第108図1)

石皿には、重量2.0kg以上で手持ち使用に適さないと判断した礫石盤を分類した。輝石安山岩製の石皿が1点出土している。

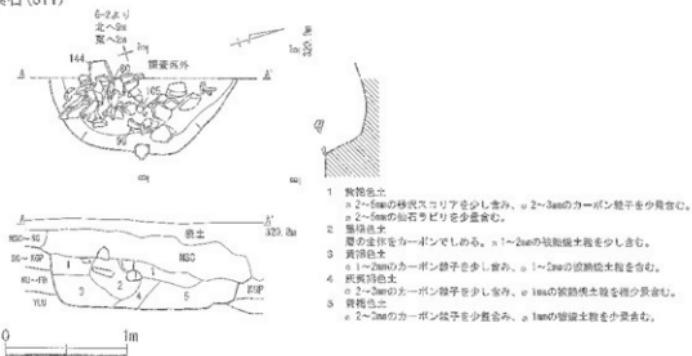
1は接合資料である。礫の比較的平坦な面に主に磨痕が認められるため、石皿と分類した。接合部分の他、一部が折損している。接合資料のうち144は集石内から出土しており、赤化が確認されている。

28は遺構外からの出土であり赤化も認められないため、折損後集石の砾として使用された可能性が考えられる。

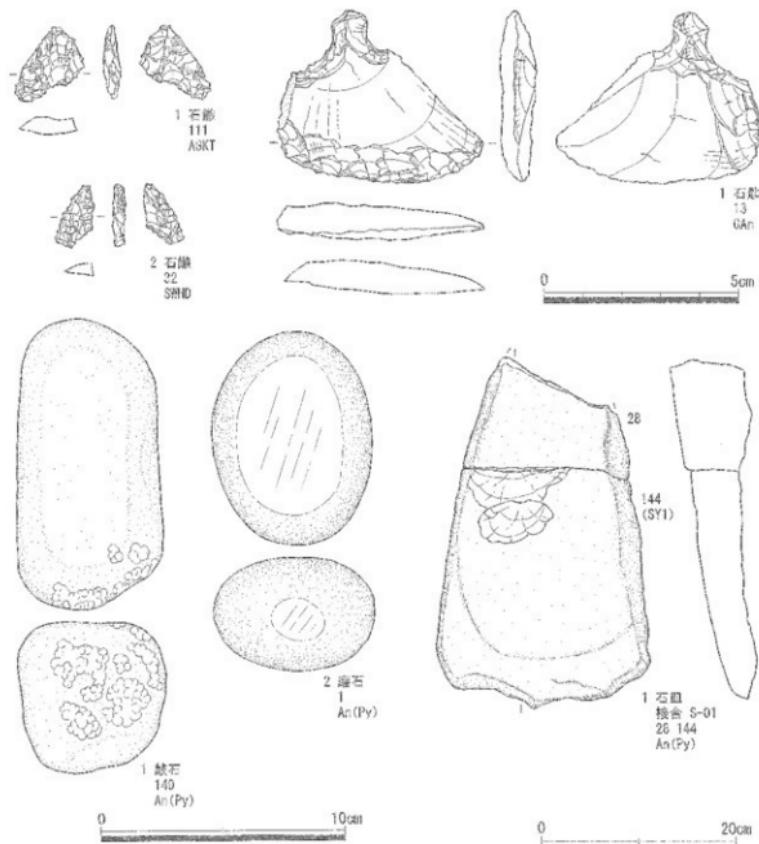


第106図 遺構配図及び遺物分布

1号集石(SY1)



第107図 1号集石



第108図 出土石器

第109表 石器観察資料

地番 番号	測定 番号	種類	層位	グリッド	石材	Ob 度数	遺構名	重量 (g)	大きさ (cm)	延距 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	基 準
108-1	111	石器	PB	G-002	Ob	AGKT		1.0	1.90	1.79	0.42	-87181.659	35447.549	320.295	
108-2	32	石器	KGP	II-002	Ob	SWHD		0.4	1.59	0.99	0.33	-87175.231	35447.433	319.335	
108-3	13	石器	SNZ	G-002		GAn		19.2	4.69	5.25	0.95	-87180.674	35445.680	320.417	
108-4	140	磨石	表面	-	An(Py)			734.0	11.88	6.12	5.18	-	-	-	
108-5	1	磨石	表面	E-005	An(Py)			383.0	8.70	5.66	4.08	-87206.435	35489.735	310.455	
108-6	144	石皿	101	G-002	An(Py)	SYI		4720.0	26.63	21.95	7.83	-87181.216	35442.057	320.436	S-1
108-6	22	石皿	KGP	G-002	An(Py)			2465.2	12.42	17.18	8.41	-87182.307	35442.502	320.389	S-1
	150	磨盤石	表面	-	An(Py)			616.0	11.02	7.41	5.22	-	-	-	

# 第V章 調査の成果とまとめ

## 第1節 棚返遺跡

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の包含層（休端層以下）から出土した石器は13点であり、遺物量も少なく、他の愛鷹山麓の遺跡と同様に遺物の上下動がみられた。そのため、文化層・石器製作時期についての言及はできなかった。

### 2. 繩文時代

遺物は栗色土層、富士風土層を中心に漸移層から表土まで出土している。出土土器から繩文時代草創期～後期の遺構・遺物であると考えられる。

竪穴住居跡については、出土土器が藤内式の土器と考えられる点、石圓いがを有する住居跡である点から、繩文時代中期に位置づけられると思われる。

なお、住居跡床面直上より出土した炭化物2点を含む9点の炭化物を（株）加速器分析研究所に<sup>14</sup>C年代測定依頼した。結果を附図分析2に掲載する。曆年較正年代値は、3376±4,352±37yrBP、3,371±4564±39yrBPの値を示した。住居の形態および出土土器と比較すると、およそ1,000年前後の開きがあると考えられる。試料は遺構覆土から採取したものでありサンプリング方法に誤差を残す結果となった。

また、<sup>14</sup>C年代測定に併せて樹齢同定も依頼した。結果を附図分析3に掲載する。出土した炭化材のうち8点は広葉樹であったが、較正年代値が他の8点に比べ極端に古い5014は針葉樹のヒノキであった。

土坑については107基検出されたことが特徴的であり、これほどまとまった数の土坑が検出されたのは愛鷹山麓では初めてである。土坑の性格上、出土した遺物が少なく時期の特定はできなかった。しかし、本遺跡においては繩文中期～後期には土坑の構築箇所が谷間の斜面や谷への落ち口から尾根筋に移行してゆくこと、土坑底部の形状も長方形～複円形から円形に変化し、尾根に沿って集中的かつ大量に構築されるようになったことが推察できる。特にII群a類の土坑はカワゴ平バミスを含む暗褐色土層を掘り込み形で構築されており、砂沢スコリアを含む層によって被覆されていた。更に、尾根沿いに集中的に構築されているにも関わらず切り合い関係が認められた土坑は1箇所（2基）だけであり、その2基の覆土も類似していた。カワゴ平バミスは今からおよそ2,800年前に噴出した火山砂礫であり、砂沢スコリアは今からおよそ1,700年前に噴出した火山砂礫である。通常、土坑構築時期の假定は難しいが、火山砂礫を含む層に挟まれることによって土坑の納築時期がある程度算定できる結果となった。このことからII群a類の尾根筋の土坑は同時期に集中して作られたことが推測できる。土坑の用法については諸説あり判然としない部分が多いが、本遺跡の資料は、検出された時期・規模・配列等貴重な資料となる。また、住居跡や石器集中部、集石や焼土跡、住居の周辺や石器集中部の周囲に存在することから、他の遺構と有機的な関わりを持っていた可能性がある。

剥片石器類については、無隙石はもちろん、スクレイパーや打製石斧等に使用されているガラス質黑色安山岩や粗粒安山岩、緑色斑状灰岩、頁岩、ホルンフェルス、角閃石片岩、珪質粘板岩、砂岩、緑色片岩等の石材も近隣の山腹や河原等で採取することはできない。丹沢系と考えられる硬質粗粒斑状灰岩の剥片も14点出土しているが、遺跡内で加工した痕跡は認められず、製品はスクレイパーの1点のみであった。黒曜石以外の石材は剥片類がほとんど出土していないことから、剥片石器類の多くは別の場所で加

工され持ち込まれたと考えられる。

木遺跡には多くの礫石器及び砾が撒入されている。なかには60kgを超える石皿も出土しており、礫石器564点の総重量は800kgを超える。遺跡から谷を北東に約300mの距離に佐野川が流れおり、河原は輝石安山岩・玄武岩等の大小様々な隕で占められ、手頃な隕が容易に手に入る環境にある。(写真図版30) 実際に近隣の河原から隕を撒入したのかは不明であるが、大量の隕が持ち込まれたのは、上記のように礫石器の石材採取地に恵まれているからだと推測できる。

今回、実際に近隣の河原を調査し隕を観察した。その結果、火薬物等が大きい輝石安山岩については、自然状態の隕面に鏈状、皿状ないしは敲打痕状の凹みを持つものが多数見受けられた。(写真図版30) そのため、今回石器や台石、礫石等に分類した輝石安山岩製の石器については、鑑定判定および磨痕・敲打痕観察の際に再考の余地があり、これからも課題となり得る。

## 第2節 今里遺跡

検出された遺構は集石1基で検出層位はカワゴ平バミスを含む暗褐色土層であったが、時期の特定の指標となる遺物が出土せず、遺物量も少なかったため時期の特定は困難であり、隣接する櫛田遺跡との比較も不可能であった。

また、集石土坑の検出地点及び遺物の出土状況から考えると、集石土坑の西側、調査区外の尾根上に遺跡が広がっている可能性が考えられる。

### 参考文献(未引出五十音順)

- |            |                                                                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 安藤千賀二      | 1988 「縄文式土器様式」『縄文土器大観2 中期I』小学館                                                                                                |
| 池谷信之・織田泰治  | 1998 「柏原延跡」沼津市教育委員会                                                                                                           |
| 今村喜蔵       | 2004 「箱根市西山麓先土器時代陶器の使用方法」『考古学研究 第51巻第1号(通巻201号)』                                                                              |
| 酒井真幸・池谷信之  | 1998 「静岡県における縄文式土器の地域的様式—県東部の勝坂式土器を中心にして—」『静岡県考古学会シンポジウム'97 第5回東海考古学フォーラム 縄文時代中期前半の東海系土器群について—北陸式土器の成立と展開—』静岡県考古学会シンポジウム実行委員会 |
| 大川清治編      | 1996 「日本土器事典 墓山編」                                                                                                             |
| 加藤青平他編     | 1983 「『縄文文化の研究5 縄文土器』『墓山』『堆山』」                                                                                                |
| 黒尾和久・小林謙一  | 1995 「多摩丘陵・武藏野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」                                                                                            |
| 鈴木義忠       | 2000 「豆原本遺跡群」(島市教育委員会)                                                                                                        |
| 裾野市史編さん委員会 | 1992 「裾野市史 第一巻 資料編 考古」                                                                                                        |
| 裾野市史編さん委員会 | 2000 「裾野市史 第八卷 遺史編」                                                                                                           |
| 中山真治       | 「シンポジウム 縄文中期集落研究の新地平 発表要旨・資料」縄文中期集落研究グループ<br>宇都宮市地区考古学研究会                                                                     |
| 沼津市史編さん委員会 | 2002 「沼津市史 資料編 考古」                                                                                                            |
| 沼津市史編さん委員会 | 2005 「沼津市史 遺史編」                                                                                                               |
| 野内秀明       | 2001 「縄文文化中期後半期の薪焼窯—茅山下層式・茅山上層式土器とその周辺の土器群—」『考古論叢 沖奈西 第9号』神奈川県考古学会                                                            |
| 日本愈一・上村洋一  | 1996 「西洞遺跡(ア区)・葛涼沢遺跡・堀越遺跡調査報告書」沼津市教育委員会                                                                                       |
| 山本英幸       | 1988 「五頭ヶ台式土器様式」『縄文土器大観3 中期II』小学館                                                                                             |

なお、静岡県埋蔵文化財調査研究所発行の参考報告書についても翻訳した。

## 附編 分析

## 分析 1

## 焼造遺跡（第二東名N153地点）無塵石産地分析

独立行政法人 沼津工業高等専門学校 霧月 明彦

## 产地推定法

得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標  $\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$  とする。

$$\text{Rb分率} = \text{Rb}/\text{Sum}$$

$$\text{Sr分率} = \text{Sr}/\text{Sum}$$

$$\text{Zr分率} = \text{Zr}/\text{Sum}$$

$$\text{Mn} * 100/\text{Fe}$$

$$\log (\text{Fe}/\text{K})$$

产地のシートに上げた黒曜石産地から、产地原石を探集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、产地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で产地推定を行う。

## ① 判別図法（判別図のシート参照）

用いる指標 圖1 横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe

圖2 横軸：Sr分率、縦軸： $\log (\text{Fe}/\text{K})$ 

特長 良好的な計算であり、誰にでも作成可能

直観的に確認でき、分かりやすい。

推定方法 遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。

指標を図面にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

## ② 判別分析（推定結果表参照）

用いる指標 算出された指標全て

各产地との類似度を距離で算出

特長 確知の产地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→ 不知の产地の判別はできない。

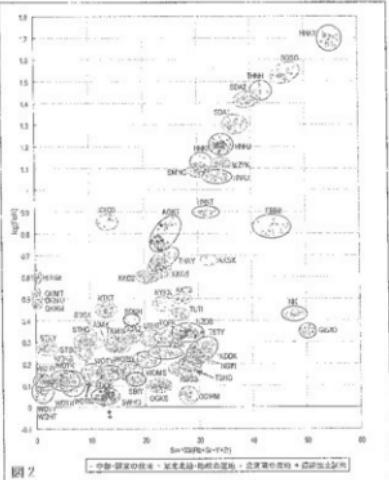
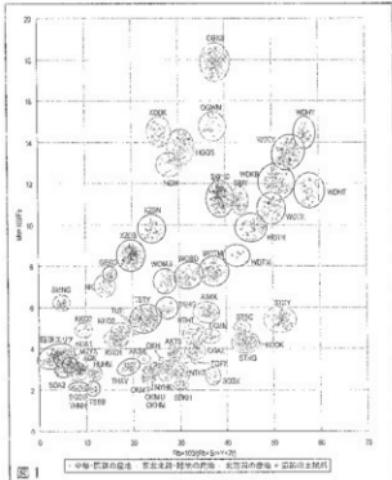
推定方法 判別図法では遺跡出土試料と重なっている产地を推定結果とする。

この产地は試料と2次元で最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数値的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い产地を推定結果とする。

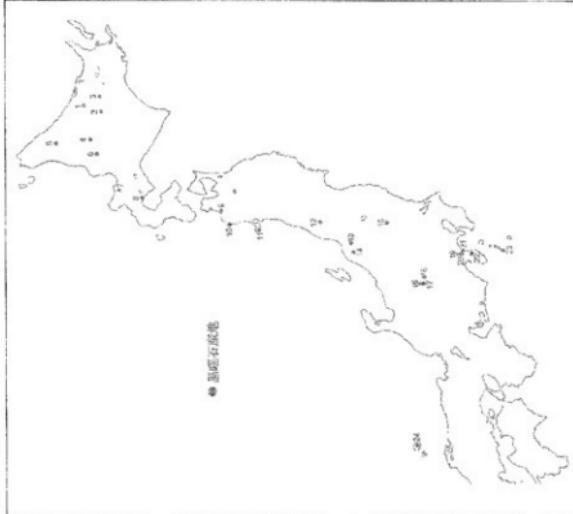
この距離から、各产地に属する確率を計算する。



差地質石英岩層 (SEIKO SEA-2110) 滲光 X 線分析結果による

佐々木謙吉氏著新井利洋 (まだ地図には入れていない)

番号 測量 区域	地図 No.	地名	新規測定 花崗岩	既報測定 花崗岩	葉石岩場 (分厚)		葉石岩 分布範囲 (分厚)
					エリゾ 分厚	サブエリゾ 分厚	
1 白瀬	八重山町 三瓶村	八重山町 三瓶村	STIG KSIG	STIG KSIG	葉石山頂 (19), 八重山郡 (5), 八重山の頂 (6), 鮎頭林道 (4)	葉石山頂 (20), 萩原日出ノ瀬 (22), 萩原日出ノ瀬 (22), 宮良川河谷 (8), 宮良川河谷 (22)	
2 上十郷	安佐村	安佐村	OZAZ AKS	OZAZ AKS	安佐 (25), 萩原ノ瀬 (5)	安佐 (25), 萩原ノ瀬 (5)	岩手 北上川 北上川所屬 3種 SAKO 2種 SAKO 3種 SAKO
3 鹿子	鳴子町	萬代村 鳴子町	AKSR	AKSR	萬代村 (5), 頭前内 (5), 喜光台 (5)	萬代村 (5), 頭前内 (5), 喜光台 (5)	岩手 喜光台 仙台 喜光台
4 鳥海山	鳴子町	鳴子町	NYIS	NYIS	鳴子町 (19)	鳴子町 (19)	喜光台 仙台 喜光台
5 志波瀬	山田町	山田町	SISD	SISD	山田 (6)	山田 (6)	喜光台 仙台 喜光台
6 七ヶ生瀬	生川町	生川町	ANIK	ANIK	生川 (25), 木本川 (5)	生川 (25), 木本川 (5)	喜光台 仙台 喜光台
7 七ヶ生瀬	生川町	生川町	YUTI	YUTI	生川 (15)	生川 (15)	喜光台 仙台 喜光台
8 鶴見町	鶴見町	鶴見町	KOJN	KOJN	山形6号 (34)	山形6号 (34)	喜光台 仙台 喜光台
9 小瀬	喜光町	喜光町	HOKM	HOKM	八重山郡 (5), 八重山 (5), 鶴見町 (4)	八重山郡 (5), 八重山 (5), 鶴見町 (4)	喜光台 仙台 喜光台
10 鶴見町	喜光町	喜光町	OCSM	OCSM	喜光町 (37), 鶴見町 (68)	喜光町 (37), 鶴見町 (68)	喜光台 仙台 喜光台
秋田 11 早瀬	喜光町	喜光町	OQWM	OQWM	喜光町 (6)	喜光町 (6)	喜光台 仙台 喜光台
山形 12 香取	今川町	今川町	FGJS	FGJS	月山山頂 (3), 月山町 (19), 鶴見町 (42)	月山山頂 (3), 月山町 (19), 鶴見町 (42)	喜光台 仙台 喜光台
新潟 13 阿賀野	金城町	金城町	FJIN	FJIN	金城 (25)	金城 (25)	喜光台 仙台 喜光台
新潟 14 阿賀野	阿賀野町	阿賀野町	SBY	SBY	阿賀野 (40)	阿賀野 (40)	喜光台 仙台 喜光台
新潟 15 高原山	七ヶ生瀬	七ヶ生瀬	THAT	THAT	高岡山 (50), 遠山 (25)	高岡山 (50), 遠山 (25)	喜光台 仙台 喜光台
福島 16 和田	和田町	和田町	WDTK	WDTK	和田町 (2), 頂峰 (2), 頂峰 (2)	和田町 (2), 頂峰 (2), 頂峰 (2)	喜光台 仙台 喜光台
福島 17 鶴	上郷村 (W)	上郷村 (W)	WDTK	WDTK	上郷村 (3), 頂峰 (4), 頂峰 (5), 土屋曲輪 (25), 土屋曲輪 (33), 土屋曲輪 (33)	上郷村 (3), 頂峰 (4), 頂峰 (5), 土屋曲輪 (25), 土屋曲輪 (33), 土屋曲輪 (33)	喜光台 仙台 喜光台
福島 18 鶴	鶴	鶴	WDTK	WDTK	鶴 (2), 鶴 (2), 鶴 (2)	鶴 (2), 鶴 (2), 鶴 (2)	喜光台 仙台 喜光台
福島 19 鶴	高子町 鶴町	高子町 鶴町	WDTK	WDTK	高子町 (2), 鶴町 (2)	高子町 (2), 鶴町 (2)	喜光台 仙台 喜光台
福島 20 鶴	鶴	鶴	WDTK	WDTK	鶴 (2), 鶴 (2)	鶴 (2), 鶴 (2)	喜光台 仙台 喜光台
福島 21 上各戸	上各戸	上各戸	WDTK	WDTK	上各戸 (2), 上各戸 (2)	上各戸 (2), 上各戸 (2)	喜光台 仙台 喜光台
福島 22 玄島	日御碕町	日御碕町	AGT	AGT	日御碕 (40)	日御碕 (40)	喜光台 仙台 喜光台
東京 23 清瀬	清瀬町	清瀬町	KZGZ	KZGZ	葛西 (100), 久留里 (8)	葛西 (100), 久留里 (8)	喜光台 仙台 喜光台
東京 24 会津	会津	会津	KZGZ	KZGZ	久留里 (100), 久留里 (8)	久留里 (100), 久留里 (8)	喜光台 仙台 喜光台
東京 25 会津	会津	会津	OKGI	OKGI	久留里 (20), 久留里 (8)	久留里 (20), 久留里 (8)	喜光台 仙台 喜光台
その他の 測量 区域	その他の 測量 区域	その他の 測量 区域	OKGI	OKGI	中央 G (6), 中央 G (6)	中央 G (6), 中央 G (6)	喜光台 仙台 喜光台
			NK	NK			喜光台 仙台 喜光台



分析費番号	遺物番号	施光度地	測量部	測量		測量員	距離1	距離2	測量員	距離1	距離2	測量員	
				標高計	距離計								
L153-1	29	測量員一白面	SWHD	SWHD	1.27	SEIY	78.39	0					
L153-2	549	測量員一白面	SWHD	SWHD	4.25	SEIY	85.65	0					
L153-3	647	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.54	WDTN	76.41	0					
L153-4	943	測量員一白面	KZOB	KZOB	6.18	KZSN	47.7	0					
L153-5	96	天城砂利	AGKT	AGKT	19.28	LINK	88.77	0					
L153-6	1026	測量員一白面	SWHD	SWHD	2.69	WDTN	61.35	0					
L153-7	1162	測量員一白面	SWHD	SWHD	10.44	SBIV	106.24	0					
L153-8	1507	測量員一白面	KZOB	KZOB	6.52	KZSN	52.92	0					
L153-9	1544	測量員一白面	SWHD	SWHD	2.72	SBIV	75.95	0					
L153-10	1659	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.27	SBIV	50.94	0					
L153-11	1588	天城砂利	AGKT	AGKT	5.43	ENKI	150.34	0					
L153-12	1589	天城砂利	AGKT	AGKT	6.07	HINK	145.64	0					
L153-13	1668	測量員一白面	KZOB	KZOB	14.05	KZSN	71.42	0					
L153-14	1766	測量員一白面	SWHD	SWHD	4.49	SBIV	83.38	0					
L153-15	1776	測量員一白面	SWHD	SWHD	6.55	SBIV	82.02	0					
L153-16	1771	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.92	SBIV	97.23	0					
L153-17	2045	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	13.43	LINK	62.62	0					
L153-18	2045	測量員一白面	SWHD	SWHD	4.16	SBIV	74.63	0					
L153-19	2277	測量員一白面	SWHD	SWHD	4.79	SBIV	85.93	0					
L153-20	2382	測量員一白面	KZOB	KZOB	1.83	KZSN	43.25	0					
L153-21	2382	天城砂利	AGKT	AGKT	1.63	LINK	131.95	0					
L153-22	2569	測量員一白面	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-23	2705	測量員一白面	KZOB	KZOB	3.66	KZSN	37.1	0					
L153-24	3083	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.81	SBIV	79.98	0					
L153-25	4081	測量員一白面	KZOB	KZOB	5.27	KZSN	44.18	0					
L153-26	4459	測量員一白面	SWHD	SWHD	2.2	SBIV	85.56	0					
L153-27	5611	天城砂利	AGKT	AGKT	6.15	HINK	155.92	0					
L153-28	5715	測量員一白面	KZOB	KZOB	9.3	KZSN	50.25	0					
L153-29	4717	測量員一白面	KZOB	KZOB	7.06	KZSN	49.77	0					
L153-30	4771	和田山羊	WDTY	WDTY	4.48	WDKB	28.69	0					
L153-31	5060	測量員一白面	KZOB	KZOB	5.98	KZSN	37.54	0					
L153-32	4991	測量員一白面	SWHD	SWHD	3.48	SBIV	71.06	0					
L153-33	5056	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-34	5552	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	2.11	HINK	92.22	0					
L153-35	5361	測量員一白面	SWHD	SWHD	1.85	SBIV	84.93	0					
L153-36	3356	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-37	5352	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-38	5427	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-39	5717	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-40	6006	天城砂利	AGKT	AGKT	4.81	LINK	116.35	0					
L153-41	6105	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	2.18	HINK	142.15	0					
L153-42	6114	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-43	6176	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	7.87	HINK	83.15	0					
L153-44	6201	測量員一白面	SWHD	SWHD	4.95	SBIV	84.99	0					
L153-45	6207	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	19.45	HINK	45.05	0					
L153-46	6285	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.14	SBIV	125.4	0					
L153-47	6369	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	4.77	HINK	136.8	0					
L153-48	6371	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	1.77	HINK	95.54	0					
L153-49	6384	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	5.68	HINK	117.78	0					
L153-50	6387	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	2.92	HINK	100.08	0					
L153-51	6388	天城砂利	AGKT	AGKT	4.15	LINK	133.47	0					
L153-52	6402	天城砂利	AGKT	AGKT	13.77	LINK	76.18	0					
L153-53	5615	新田村	WDTY	WDTY	11.18	0.9534	WDKB	20.54	0.0006				
L153-54	6700	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-55	6705	測量員一白面	KZOB	KZOB	5.21	KZSN	73.24	0					
L153-56	5769	測量員一白面	KZOB	KZOB	0.52	KZSN	92.58	0					
L153-57	5857	測量員一白面	SWHD	SWHD	5.9	SBIV	108.82	0					
L153-58	6876	測量員一白面	ENHJ	ENHJ	1.65	LINK	123.95	0					
L153-59	6878	天城砂利	AGKT	AGKT	1.98	HINK	199.81	0					
L153-60	5905	测定不可	测定不可	测定不可		测定不可							
L153-61	6977	測量員一白面	SWHD	SWHD	3.69	SBIV	93.2	0					
L153-62	6942	天城砂利	AGKT	AGKT	5.84	LINK	145.35	0					
L153-63	7047	測量員一白面	KZOB	KZOB	1.20	KZSN	45.68	0					
L153-64	7013	和田山羊	WDTY	WDTY	2.51	0.2993	WDKB	16.49	0.0007				
L153-65	7296	測量員一白面	SWHD	SWHD	19.6	SBIV	99.27	0					
L153-66	7203	測量員一白面	SWHD	SWHD	3.47	SBIV	97.27	0					
L153-67	7464	小城砂利	AGKT	AGKT	1.42	ENKI	115.72	0					
L153-68	35	測量員一白面	SWHD	SWHD	16.65	SBIV	64.93	0					
L153-69	11	云吸砂利	AGKT	AGKT	4.83	LINK	123.5	0					

出土伝眼石产地地図

エリア	軸系	記号	採集数	%
和田(WD)	WDTY	-	2	3.33
	SWHD	-	1	1.67
讃岐	SWHD	△	23	33
大坂	AGKT	△	12	20
西根	ENHJ	△	16	16.57
高津島	KZOB	△	12	20
		合計	60	100
			9	
			59	

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として選ぶ<sup>14</sup>C年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、<sup>14</sup>C検定を行った測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4)  $\delta^{14}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される<sup>13</sup>Cの値を用いることもある。

<sup>14</sup>C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰; パーミル)で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = \left[ \left( ^{14}\text{As} - ^{14}\text{Au} \right) / ^{14}\text{Au} \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{14}\text{C} = \left[ \left( ^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}_{\text{ref}} \right) / ^{14}\text{Ar}_{\text{ref}} \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、<sup>14</sup>As: 試料炭素の<sup>14</sup>C濃度: (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>s</sub>または(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>R</sub>

<sup>14</sup>Ar<sub>R</sub>: 標準現代炭素の<sup>14</sup>C濃度: (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>R</sub>または(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>R</sub>

<sup>14</sup>Cは、質量分析計を用いて試料炭素の<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>As = <sup>12</sup>C/<sup>14</sup>C)を測定し、PDB(白河紀のペレムナイト(矢石)中の石炭)の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した<sup>13</sup>Cを用いることもある。この場合には表中に「加速器」と記載する。

また、<sup>14</sup>Cは、試料炭素が $\delta^{14}\text{C} = -25.0$  (‰)であるとしたときの<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>As)に換算した上で計算した値である。(1)式の<sup>14</sup>C濃度、 $\delta^{14}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{As} = ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{14}\text{C}/1000)) \times 10^6 \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

只管などの海洋<sup>14</sup>C炭素起源となっている試料については、海浜中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない<sup>14</sup>Cに相当するBP年代値が比較的よくその員と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

<sup>14</sup>C濃度の弱代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、<sup>14</sup>Cとの関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 \quad (\%)$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この<sup>14</sup>CあるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

5) <sup>14</sup>C年代値と誤差は、1桁Hを4捨5入して10年単位で表示される。

6) 教正後の計算では、IntCal10データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv3.10校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

#### 測定結果

栗色上層(IU層)出土の炭化物(遺物番号2352:IAAA-70334)が4480±40yrBP、土坑54覆土出土の炭化物(遺物番号4098:IAAA-70335)が2260±40yrBP、墓土跡1覆土出土の炭化物(遺物番号5014:IAAA-70336)が8020±50yrBP、1号子居残土出土の炭化物(遺物番号3378:IAAA-70337)が4350±40yrBP、釜1:黒土層(FB層)出土の炭化物(遺物番号5748:IAAA-70338)が3790±40yrBP、1号子居残土出土の炭化物(遺物番号3371:IAAA-70339)が4560±40yrBP、焼土5覆土出土の炭化物(遺物番号6111:IAAA-70340)が3810±40yrBPの<sup>14</sup>C年代である。層年校正年代(1 σ = 68.2%)は、2852±3340~3690BC、4098±1110~940BC、5014±7150~6840BC、3378±3020~2910BC、5748±2290~2140BC、3371±3490~3120BC、6111±2340~2140BCの範囲に含まれる。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

#### 参考資料：層年校正年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)		
IAAA-70334	2852	4476	±	41
IAAA-70335	4098	2857	±	34
IAAA-70336	5014	8077	±	48
IAAA-70337	3378	4352	±	37
IAAA-70338	5748	3792	±	35
IAAA-70339	3371	4564	±	39
IAAA-70340	6111	3810	±	29

IAA Code No.	試 料 科	BP年代および炭素の同位体比		
#1745-1	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：2952	Libby Age (yrBP)	:	4,480 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-30.01 ± 0.75
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-427.2 ± 2.9
		pMC (%)	=	57.28 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-433.1 ± 2.8
		pMC (%)	=	56.69 ± 0.28
		Age (yrBP)	:	4,560 ± 40
#1745-2	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：4098	Libby Age (yrBP)	:	2,850 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-26.10 ± 0.57
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-299.3 ± 3.0
		pMC (%)	=	70.07 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-303.9 ± 2.9
		pMC (%)	=	69.91 ± 0.29
		Age (yrBP)	:	2,880 ± 30
#1745-3	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：5014	Libby Age (yrBP)	:	8,080 ± 50
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-25.74 ± 0.63
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-534.1 ± 2.2
		pMC (%)	=	36.59 ± 0.22
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-534.7 ± 2.2
		pMC (%)	=	36.53 ± 0.22
		Age (yrBP)	:	8,090 ± 50
#1745-4	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：3376	Libby Age (yrBP)	:	4,350 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-24.31 ± 0.54
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-418.3 ± 2.7
		pMC (%)	=	58.17 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-417.5 ± 2.6
		pMC (%)	=	58.25 ± 0.25
		Age (yrBP)	:	4,340 ± 40
#1745-5	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：5748	Libby Age (yrBP)	:	3,790 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-29.74 ± 0.52
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-376.3 ± 2.7
		pMC (%)	=	62.37 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-392.4 ± 2.5
		pMC (%)	=	61.76 ± 0.26
		Age (yrBP)	:	3,870 ± 30
#1745-6	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：3371	Libby Age (yrBP)	:	4,550 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-23.65 ± 0.54
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-433.5 ± 2.8
		pMC (%)	=	56.65 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-431.9 ± 2.7
		pMC (%)	=	56.81 ± 0.27
		Age (yrBP)	:	4,540 ± 40
#1745-7	試料採取場所：静岡県裾野市今里字幡遠699他 棚返道路（二東名No. 153） 試料形態：炭化物 試料名（番号）：6111	Libby Age (yrBP)	:	3,810 ± 40
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器)	=	-25.14 ± 0.70
		$\Delta^{14}\text{C}$ (‰)	=	-377.7 ± 2.9
		pMC (%)	=	62.93 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	=	-377.9 ± 2.8
		pMC (%)	=	62.21 ± 0.28
		Age (yrBP)	:	3,810 ± 40

## 分析 3

## 櫛返遺跡（第二實名No.153地點）樹種同定測定結果報告書

(株) 加速器分析研究所

## 1. 方法

櫛返遺跡より出土した炭化材 7 試料より剥刀で横断面、放射断面、後縫断面を割取り、プレパラートに固定したのち反射顕微鏡（反射顕微鏡用対物レンズ使用）の顕微鏡で観察・同定を行った。

## 2. 同定結果

櫛返遺跡の 7 試料の樹種同定結果を表 1 に示す。

7 試料の炭化材の樹種同定を行った結果、針葉樹のヒノキ、落葉広葉樹のコナラ属、クリ、クリーコナラ属、コナラ節、常緑広葉樹のアカガシ属であった。以下に同定された分類群の木材解剖学的記載を示す。

ヒノキ (*Camaecyparis obtusa* Endl.)：乾材部が極端に狭く、炭化しているため施脂細胞は確認できない。放射網織は放射柔細胞のみで、分野壁孔は典型的なヒノキ型が 1 分野に通常 2 個ある。材は緻密で堅く、建築材や薪などに利用する。現在は本州、四国、九州に分布する。

コナラ属アカガシ属 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*)：中盤から小型の管孔が放射方向に配列する放射孔材。横断面で広放射組織がめだつ。放射組織はほとんど並列があり、同性、道管の穿孔板は單一である。現在は本州宮城県以西に分布し、土木建築材や薪炭材などに利用される。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)：年輪のはじめに大きな道管が 2-3 列集合し、その後径が急減して次年炎に小管孔が配列する裸孔材。道管の穿孔板は單一で放射組織は單列で同性である。現在は北海道南部、本州、四国、九州に分布し、一般的には土木建築材に利用する。

クリーコナラ属コナラ節 (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc. or *Quercus sect. Prinus*)：遺物番号 4098 は木村の箇から 2 年輪しかない若い材で、管孔の配列が不安定である。初期の 1-2 年は広放射組織が形成されない場合があり、本試料では確認されないためクリとコナラ属コナラ節を区別することができない。

表 1 櫛返遺跡より出土した炭化材の樹種

遺跡	No.	遺物番号	層位	遺構名	試料	樹種
櫛返遺跡	3	2852	KU		#1745-1	コナラ属アカガシ属
櫛返遺跡	4	4098	覆土	SF54	#1745-2	クリーコナラ属コナラ節
櫛返遺跡	5	5014	覆土	FP 1	#1745-3	ヒノキ
櫛返遺跡	6	3376	覆土	SB 1	#1745-4	クリ
櫛返遺跡	7	5748	FB		#1745-5	コナラ属アカガシ属
櫛返遺跡	8	3371	覆土	SB 1	#1745-6	クリ
櫛返遺跡	9	6111	覆土	FP 5	#1745-7	コナラ属アカガシ属

※) 本測定は、当社協力会社・古代の森研究会にて実施した。

## 写真図版





愛鷹山麓遠景（東より）



棚返遺跡遠景（南東より）第Ⅰ期調査

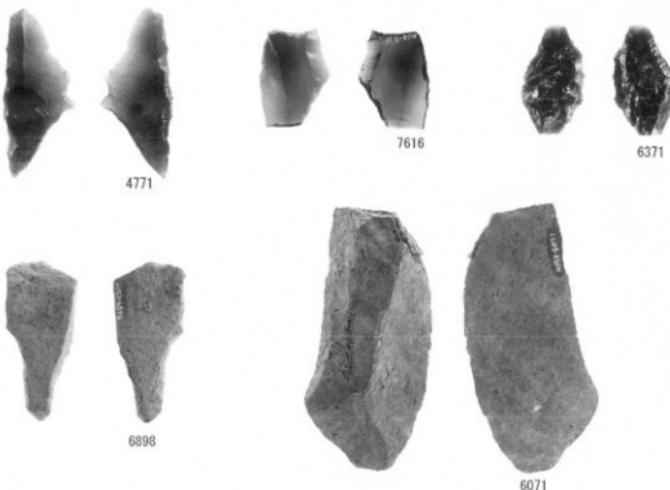
図版 2



棚返遺跡全景（合成）縄文時代遺構検出状況 休場層上面



1号 碓群



旧石器時代 石 器

図版 4



1号住居跡遺物出土状況



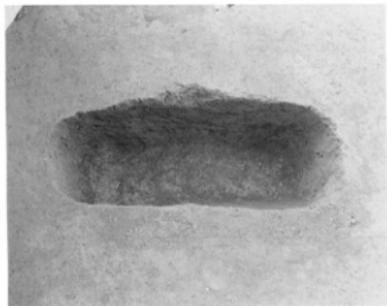
1号住居跡石囲い炉検出状況



1号住居跡掘方完掘状況



10号土坑



33号土坑



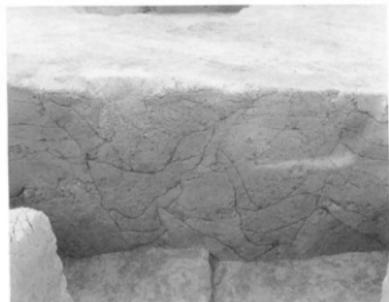
48号土坑



58号土坑



60号土坑



63・64号土坑

图版 6



70号土坑



2号集石



4号集石



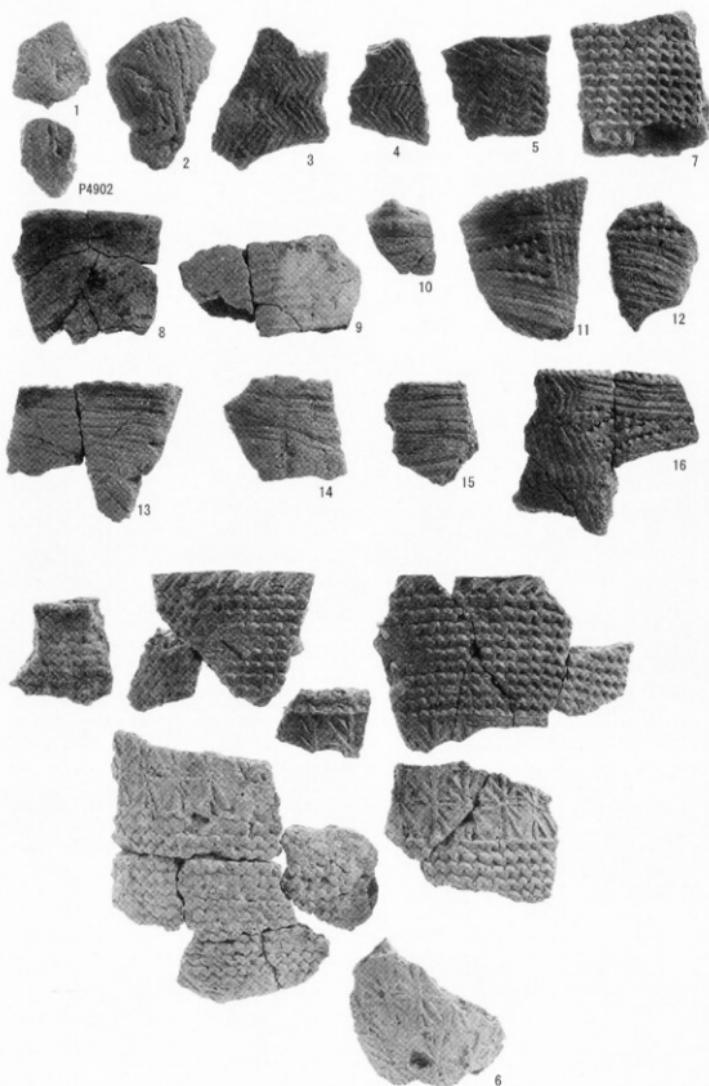
6号集石



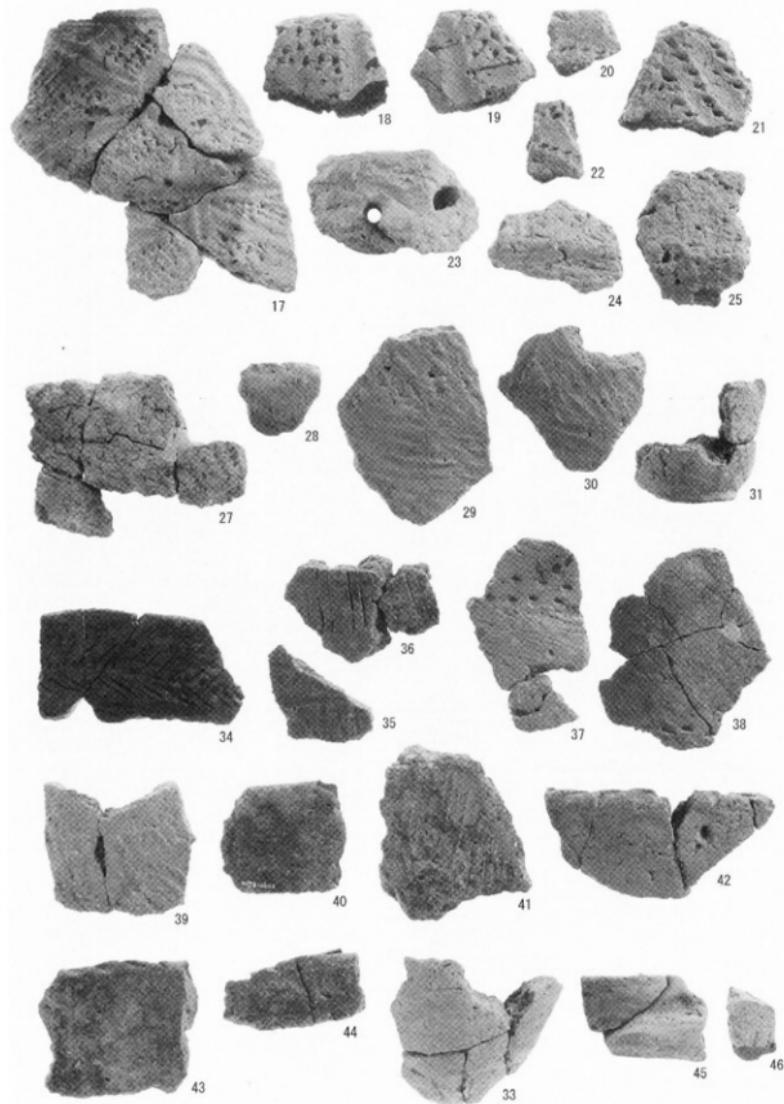
3号烧土



4·5号烧土



第1群土器（1）



第 I 群土器 (2)

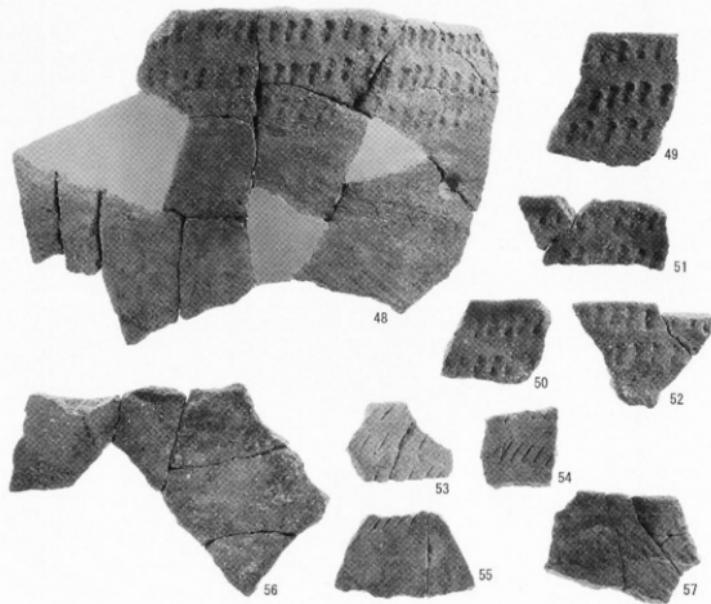
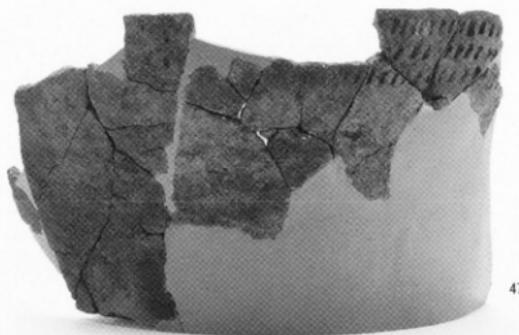


26

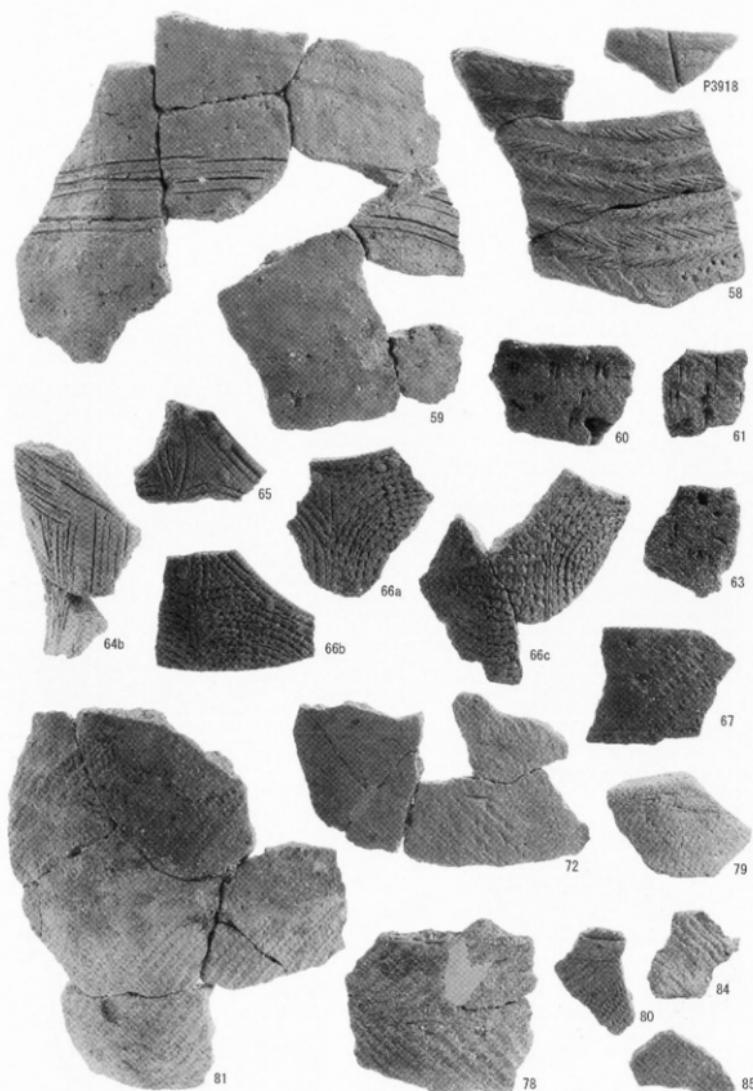


32

第 I 群土器（3）



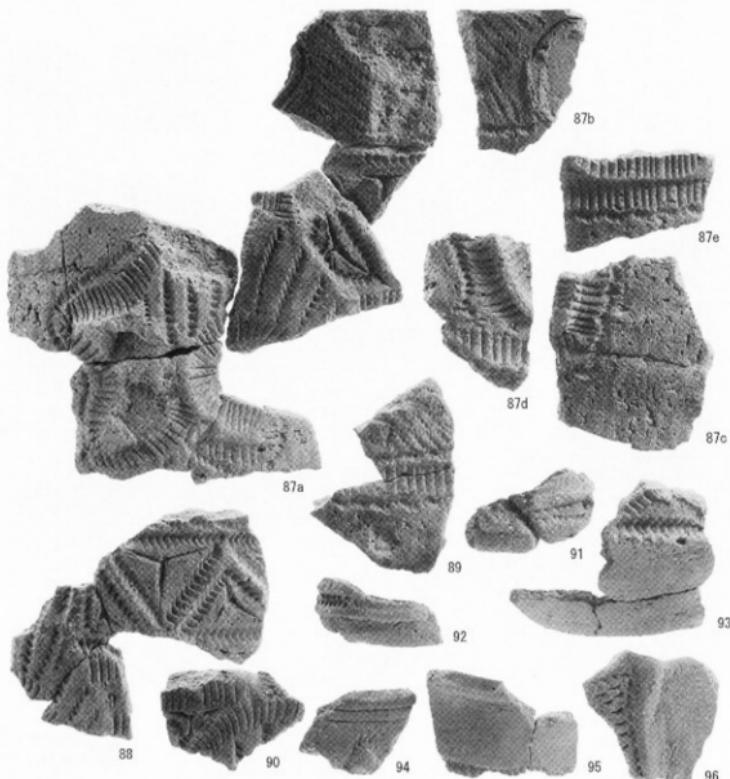
第II群土器（1）



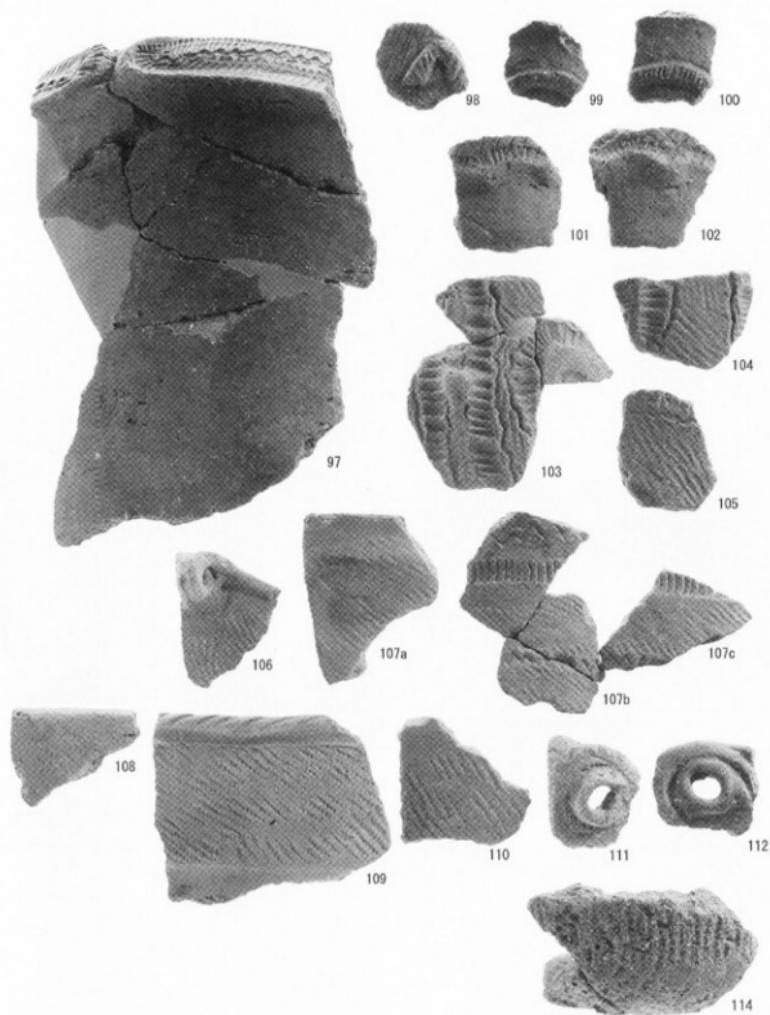
第II群土器(2)



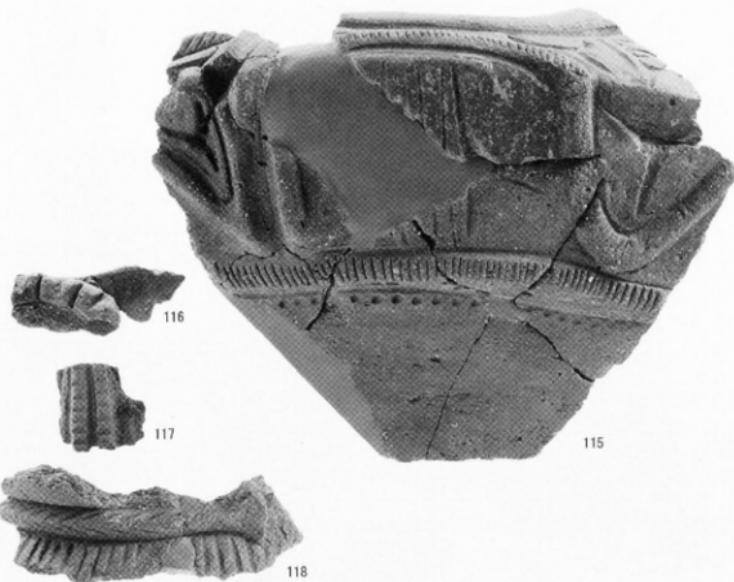
ミニチュア土器



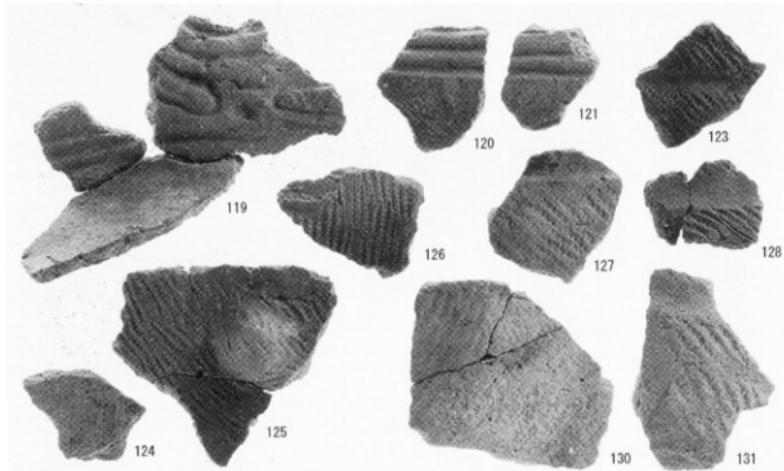
第三群土器（1）



第Ⅲ群土器（2）



第Ⅲ群土器（3）

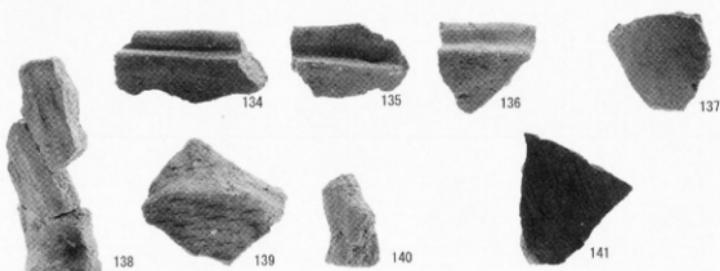


第Ⅲ群土器（4）



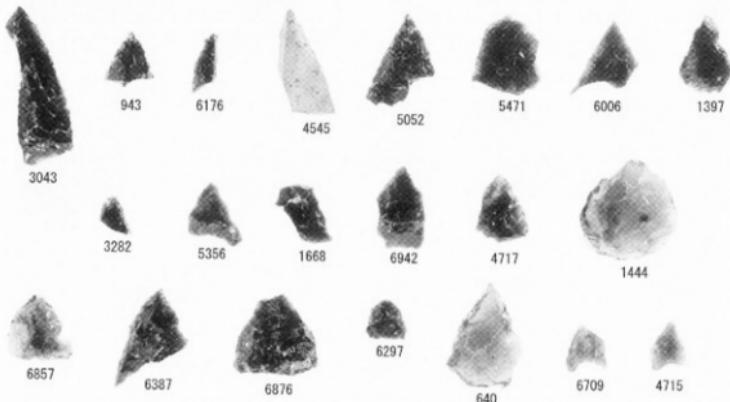
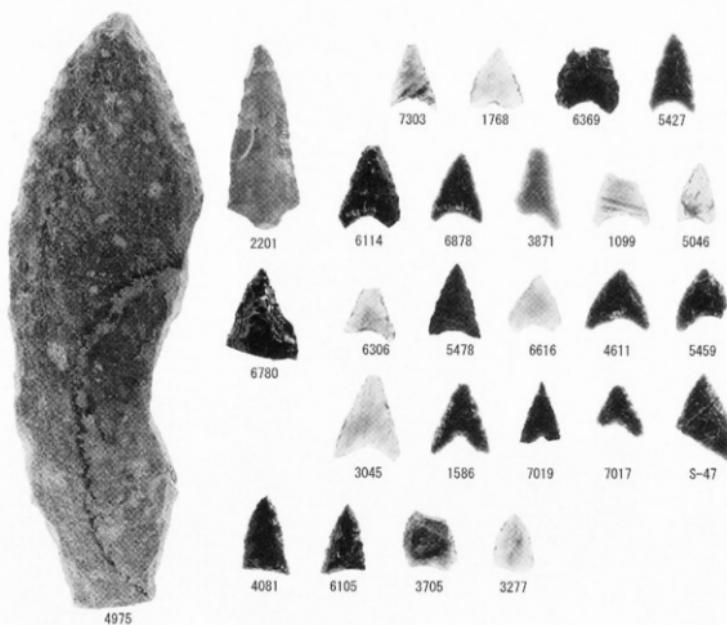
129

第III群土器（5）

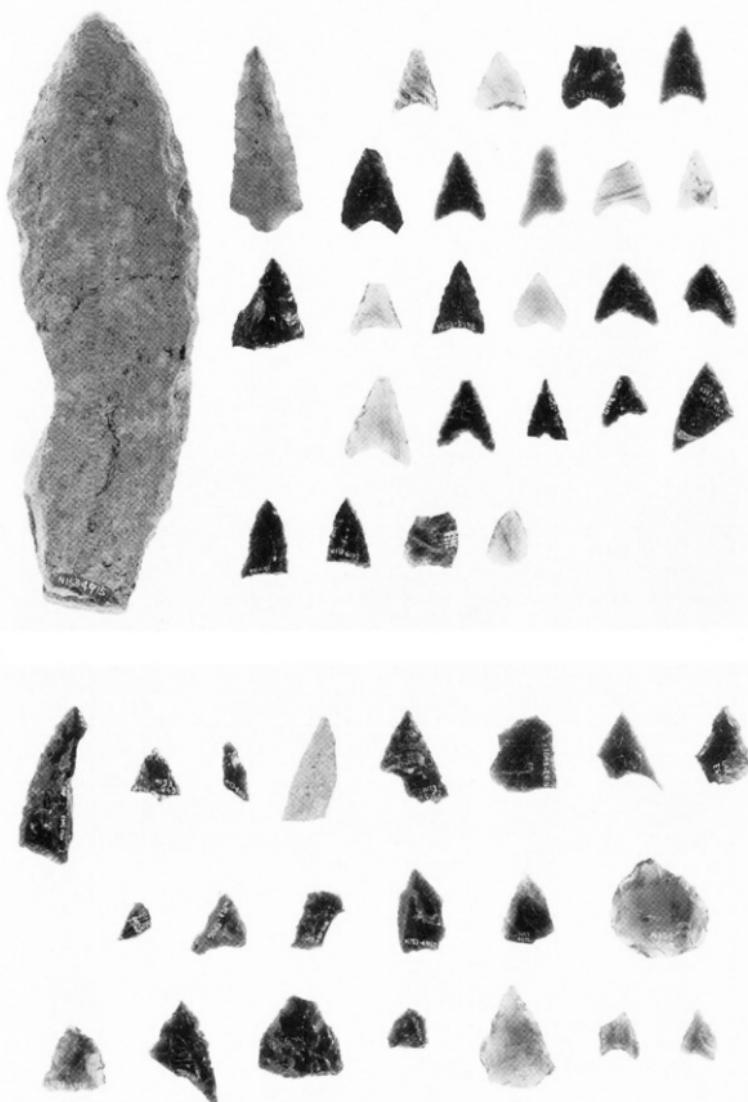


第IV・V群土器

図版16

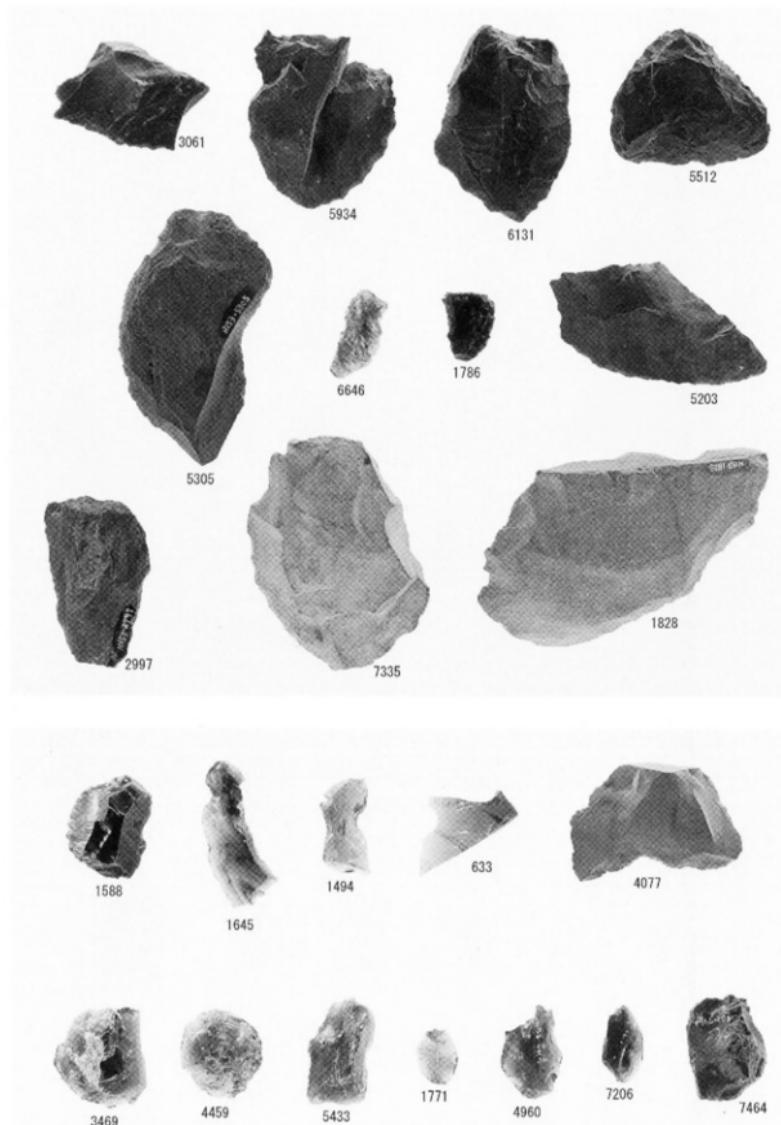


石 器 1 (正面)

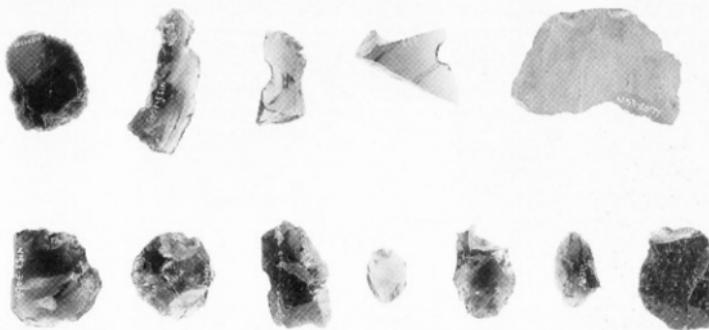
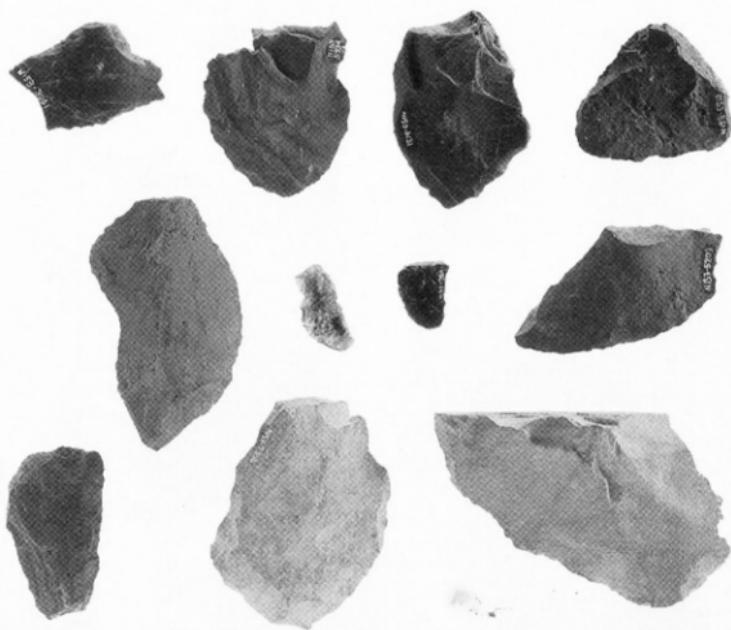


石器 1 (裏面)

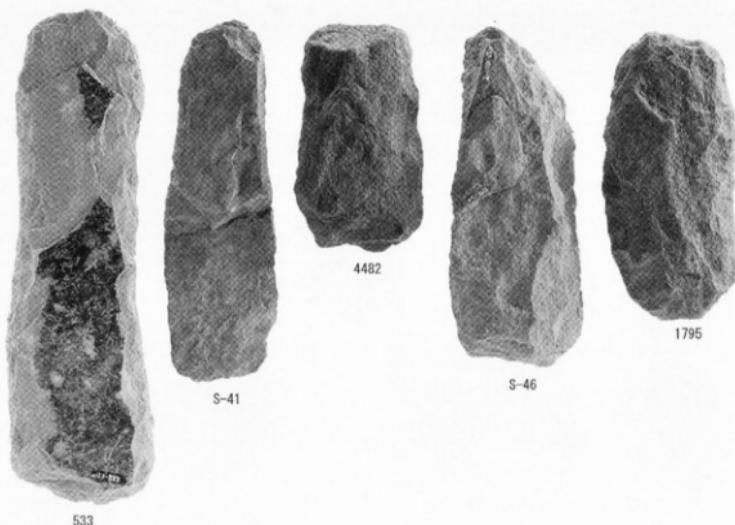
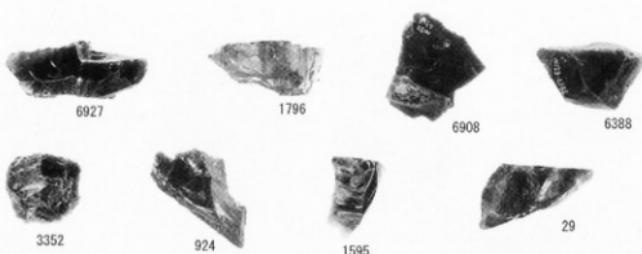
図版18



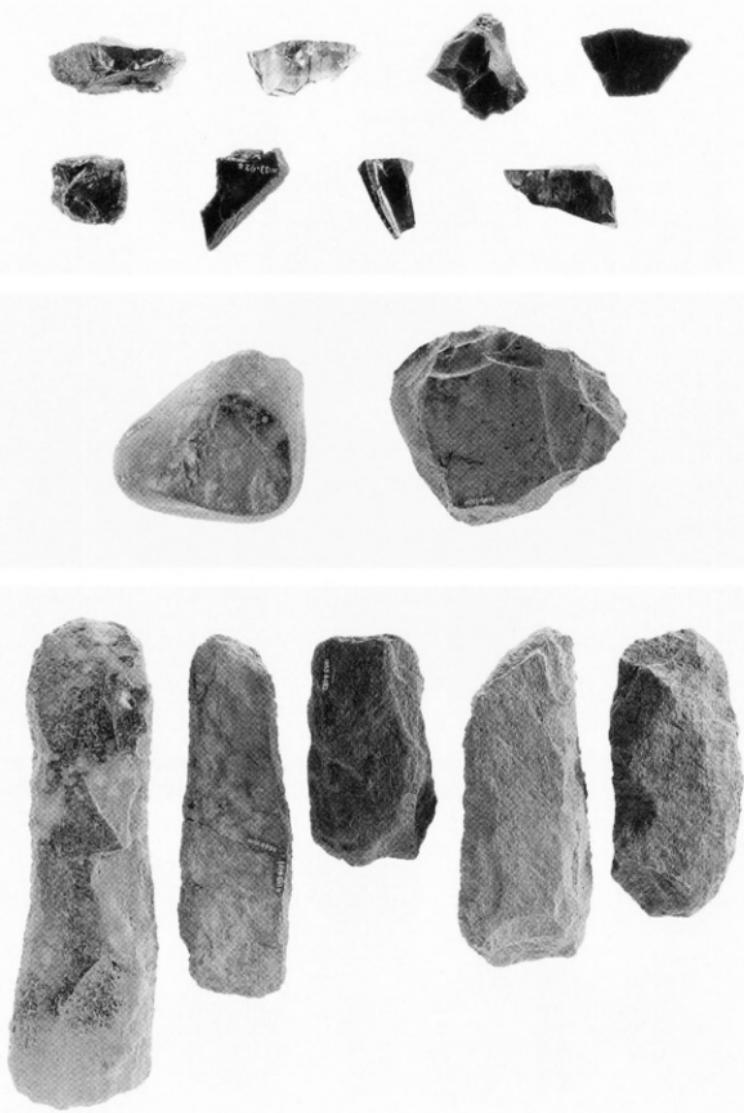
石 器 2 (正面)



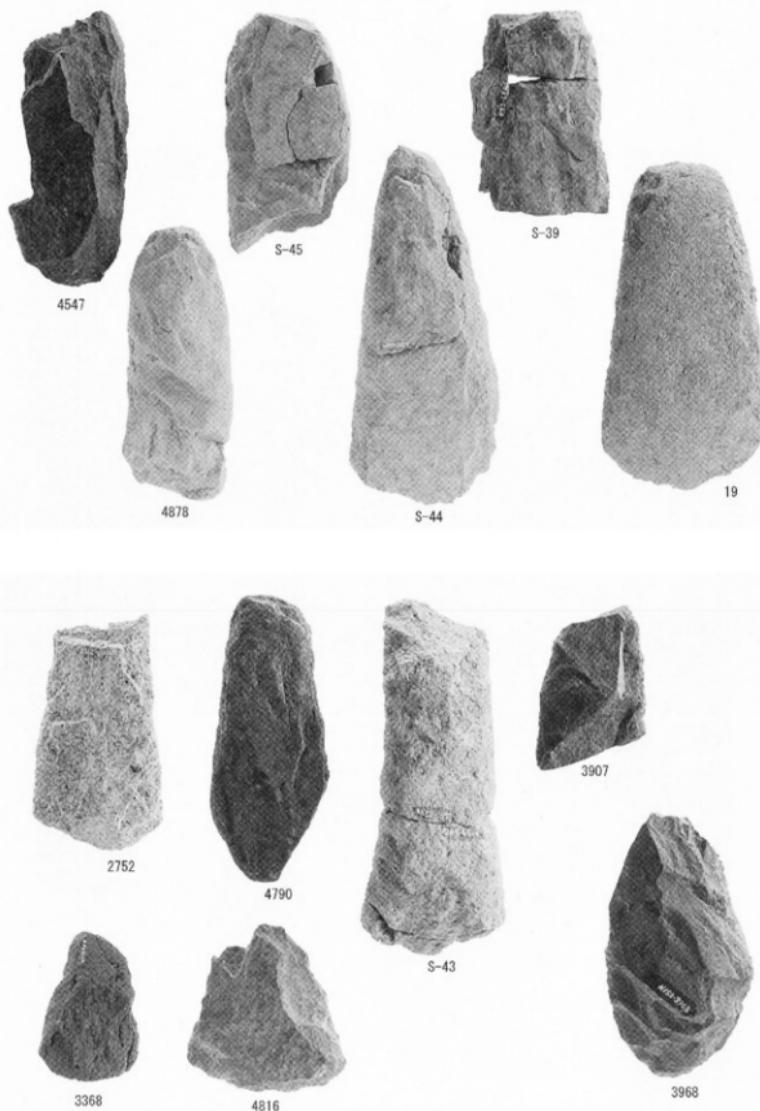
石器 2 (裏面)



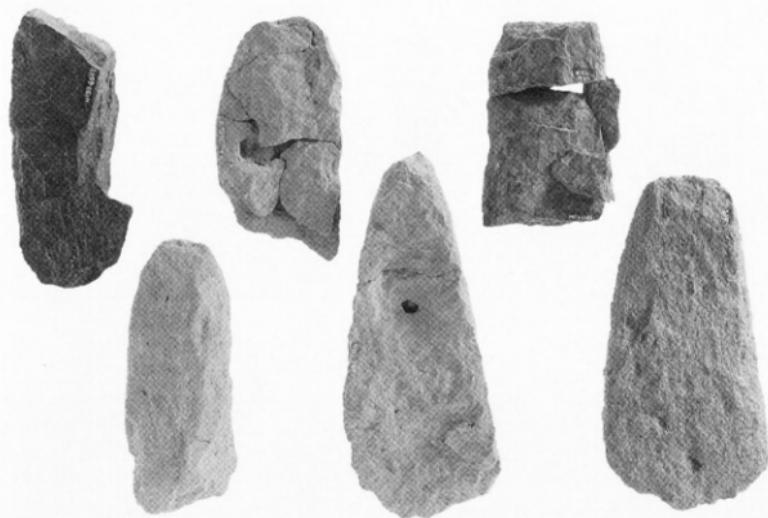
石 器 3 (正面)



石器 3 (裏面)

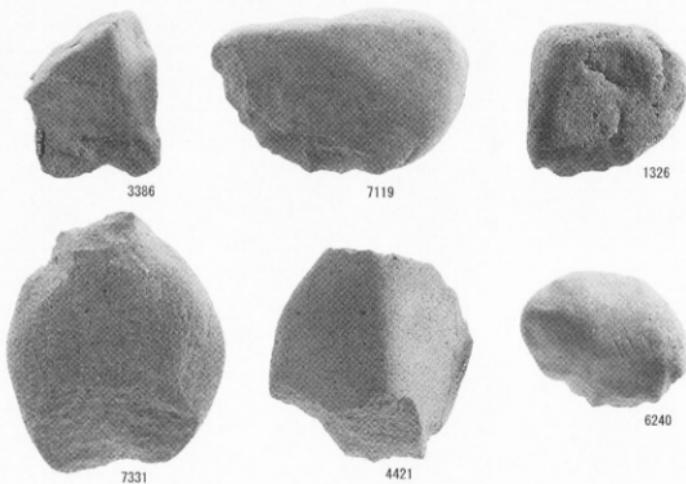
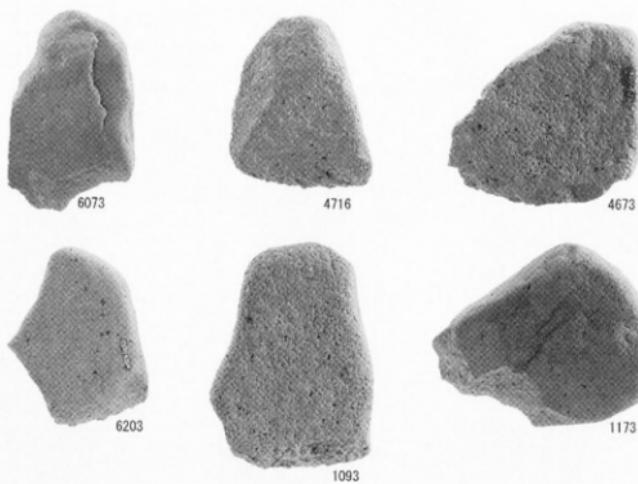


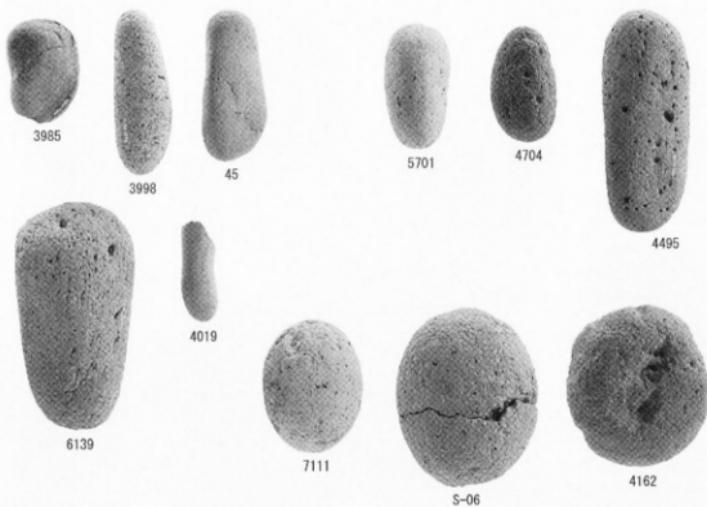
石 器 4 (正面)



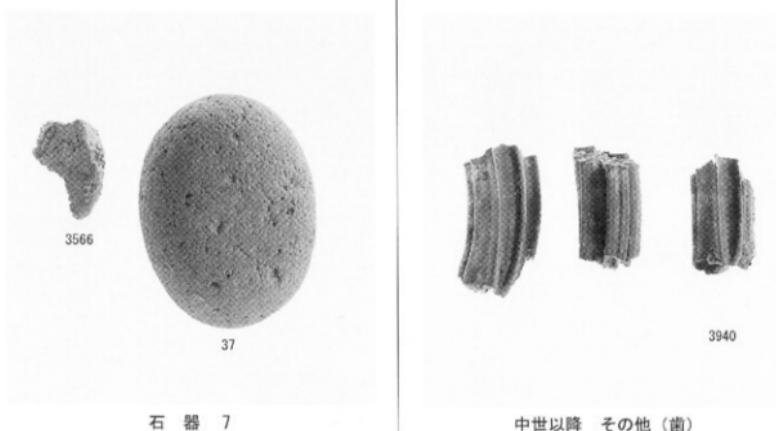
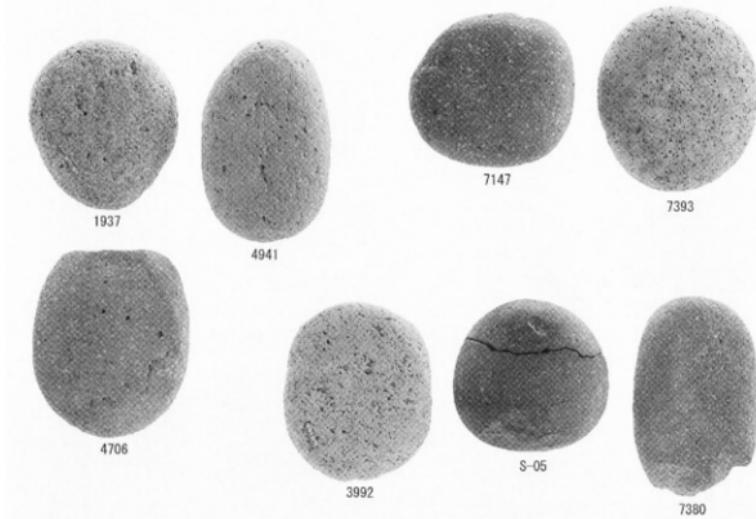
石器 4 (裏面)

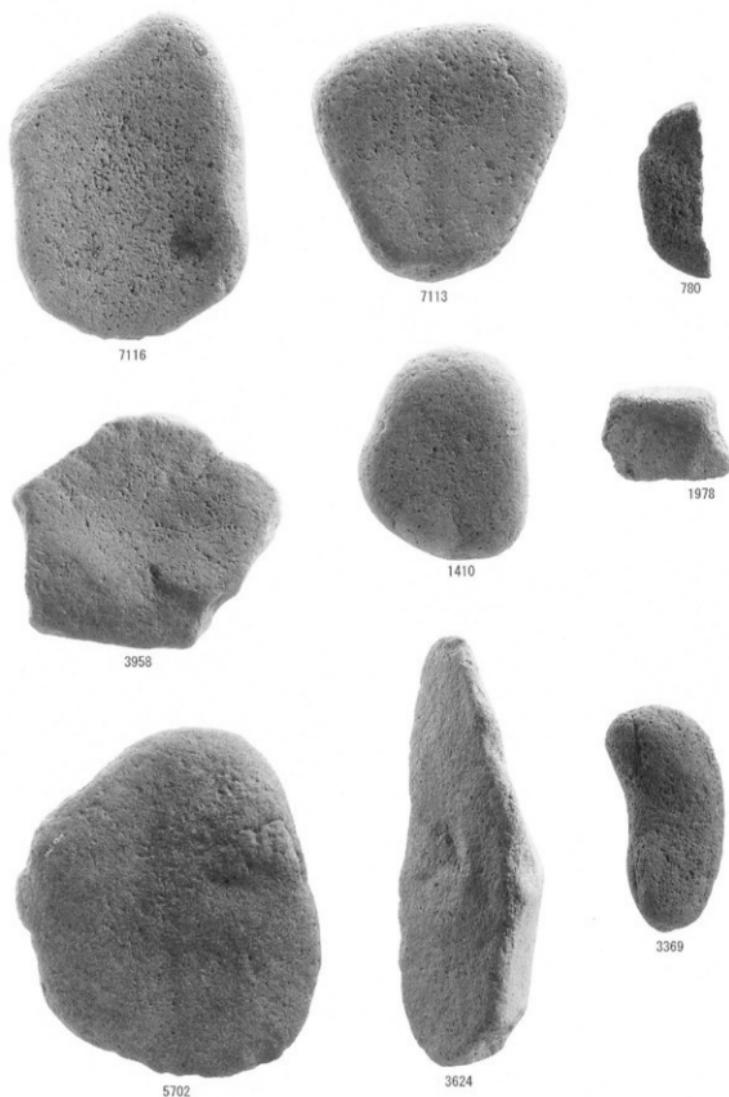
図版24





図版26







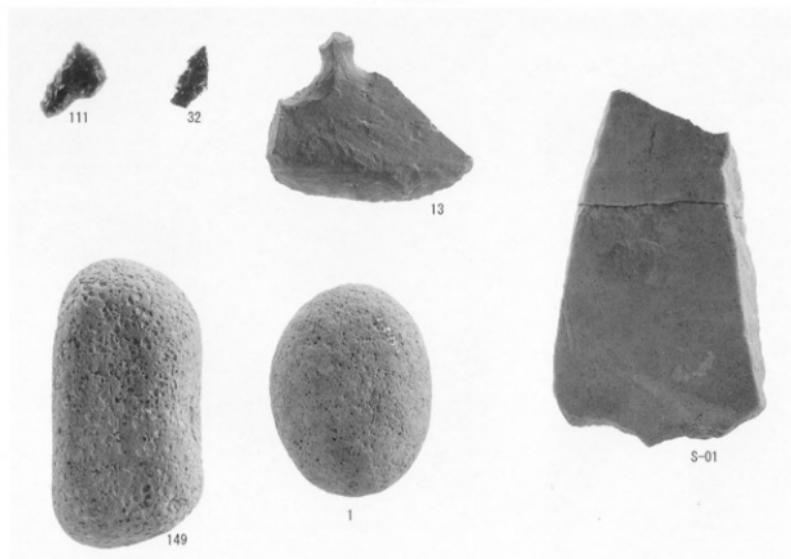
今里遺跡本調査範囲全景



1号集石



1号集石完掘状況

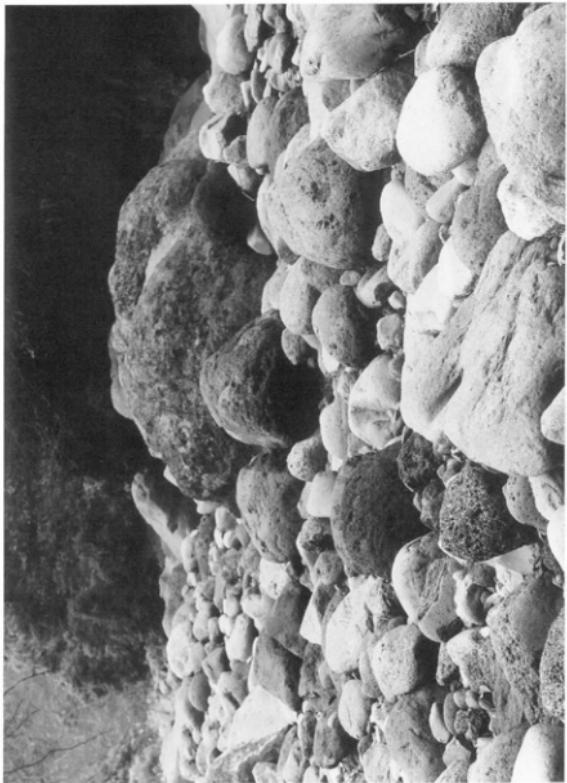


石 器

遺跡周辺河原疊状況 2



遺跡周辺河原疊状況 1



報告書抄録

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集

## 棚返遺跡・今里遺跡

第二京名Ma153地盤・No153-2地点

第二京名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年9月30日

編集・発行 販社法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

〒422-8902 静岡市葵区谷田23-20

TEL 054-262-4261㈹

FAX 054-262-4266

申 承 所 梶本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県練馬郡吉田町片岡2210

TEL 0548-32-0851㈹

